

日川キヨ^{フチ}媼の音楽伝承 (歌とムックリと心と)

千葉 伸彦

日川キヨ^{フチ}媼(1917-2012)は大正6年12月30日、釧路^{はるとり}春採に生まれた。母は舌辛^{したから}コイ、アイヌ名トゥットウルセ¹。父は猪狩^{いがりもすけ}茂助。生後、実際より早い日付に届けたために戸籍上では大正6年5月30日生まれになっている²。農業を営む両親の元で幼少期を過ごし、5～7歳頃からは^{てしべつ}徹別(釧路市阿寒町)に暮らした。18、19歳の頃、結婚を機に阿寒に移り、後に昭和50年頃から屈斜路湖畔に居を移した。歌の手ほどきを母、舌辛^{したから}コイ(春採)に受け、ついで母の親戚で育てのおばである^{てしべ}徹辺^{てしべつ}フヨ(徹別・布伏内^{ふぶしな})から多くを学んだ³。阿寒に来てからは秋辺カヨと舌辛音作姉弟の薫陶を受け、その他、釧路の年寄りたちをはじめ、まリモ祭りに来る各地の年寄りたちや、出かける機会があればまた各地の年寄りたちから、歌や歌の技術を覚えたという。以上はキヨ媼自身の証言および遺族の方々⁴の補足による(敬称は略させていただいた)。出生の日付に関しては11月5日⁵とされたものも

¹ 1992年5月15日【0:34:00】頃を参照。

² 1996年3月23日白老でのインタビューでは戸籍上では5月20日になっていると発言しているが、実際は5月30日が誕生日、5月31日受付である(日川清氏所有の戸籍謄本に依るほか、キヨ媼逝去時に届けた相続関係説明図でも5月30日になっている)。また戸籍上でキヨ媼はマキ、モヨ、キヨ、の3姉妹の三女で、母は猪狩カト、父の欄は空欄、カトの父母は猪狩茂六とイク、となっているが、キヨ媼自身は筆者に3姉妹の次女であると述べていた通り、実際にはツル、キヨ、スイ、の3姉妹のうちの次女であり、マキは茂助の姉の娘である(日川清氏調べ)。おそらく戸籍上の母の欄にある猪狩カトは、父茂助の姉の名であり、なんらかの事情によりそのように記載されることとなったものであり、猪狩茂六とイクは、猪狩茂助の父母でもあり、すなわちキヨ媼の父方の祖父母であろうと推測される。

³ ^{てしべ}徹辺フヨは明治29年(1896年)生まれ、本籍は白糠郡白糠村^{さしゅうし}字刺牛なので白糠の伝承である可能性もある。長命で103歳まで生き(死亡届記載による)、晩年は足が悪かったが元気で、キヨ媼が阿寒に来て以降も訪ねる機会があり、しばしば共に歌ったという。筆者はあるとき、キヨ媼から、自分よりもなんでも知っている、歌も良く知っているフチがいる、と告げられていた。いつか訪ねられると良いと思うが、和人嫌いな人であり、一度筆者のことを話題にしたが、良い顔をしなかつたので、またいつか機会を伺って話してみる、といった旨のことを、ボソッと告げられたことがあった。あの時代にキヨ媼がそこまで評価する人の存在に驚き、期待もあったが、ついにそのままになった。その人がフヨさんであったと、今回、日川清氏、キク子氏との綿密な面談の結果改めて理解するに至った。

⁴ キヨ媼の長女日川キク子氏、その弟で長男の日川清氏、孫(キク子氏の御令息)の平澤隆二氏と、2018年3月に3日間かけて面談の機会を持った。多くの資料を保有し、自らも調査を行っていたのは清氏であり、キク子氏の記憶も加え、多くの事実が明らかになった。

⁵ 公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構「平成11年度 アイヌ文化賞 日川 キ

あるが、その根拠は不明である。

屈斜路湖畔に暮らす媼が74歳になって間もない1991年の晩秋に、筆者は媼に出会った。媼は小柄な体ながら豊かな声量を持つ伝統的な歌の名人であった。独特な声と独特な節回しは当時から誰にもまねができなかったが、媼にとっては昔ながらの当たり前の歌声であったようだ(そうした媼自身の思いは本稿中で明らかになる)。筆者は古い伝統的な歌唱に関心を持っており、どのようにすれば媼のように歌えるようになるのかを知りたいと思い、媼のもとへ通うようになった。そして媼に歌を習い、インタビューし、メディア(DATとHi8ビデオ)に記録した。

聞き手である筆者は当時から音楽を生業とし、音楽に関してある意味では専門家であったが、アイヌ文化に対する知識はなく、音楽学を学んだ経験もなかった。何の準備もないままに、アイヌ音楽に関心を抱いていきなり現場に飛び込んだのだ。筆者は音楽ばかりでなく、アイヌ文化や、人としての物事の見方・考え方・生き方まで、実に多くのことを媼たちに学ばせていただいたが、当初のインタビューの中ではアイヌ文化の常識からすれば的外れな発言もあり、また音楽学的に見れば目的も方法も不明瞭で非効率的であるとの批判も免れない。

本報告書は研究者としても人間としても未熟な筆者が行なった媼たちへの聞き取りの記録である。専門的な研究書ではなく、初心者の体験記である。手際の悪い調査は、ときに媼たちとの語りを楽しむ^{レクリエーション} 娯楽のようですらあったが、ただひとつ救いがあるとすれば、最初の動機となった、昔ながらの音楽スタイルを学びたいという気持ちにおいては揺らぎがなかったことだろう。筆者は繰り返し同じことを聞いてなんとか歌を学ぼうとした。筆者のインタビューは拙いけれども、筆者と同じように媼たちのように歌いたいと希望する人がいた場合には、参考にはなるかもしれない。そして筆者と媼たちとの「緩い」時間はどれも、ウポポが好きである、という共通の気持ちの上に成り立っているものであり、ポジティブに考えれば、効率の悪さは案外、媼たちの音楽家としての心を引き出す役に立っていたのかもしれないとも思える。媼の語り口と演唱、伝承の底に流れる媼たちの心の一部まで、伝えられたなら幸いと思う。本稿が民族音楽文化の伝承のため資するところがあれば幸いである。

筆者は記録を整理して、^{ウポポ}歌に関心ある人たちが利用可能な資料の形にしたいと常々考えている。しかしこれらの作業は、誠にゆとりのない人生を歩んでいる筆者には、なかなかハードルが高く、効率よく進めることができない。それどころか実際のところ筆者自身、録音のほとんどは聞き返したことがない。これらのメディアは、媼たちの生きた思いが凝縮した記録である。時を経て媼たちはすでに世を去ったが、媼たちから受け取ったものをそのままにしてやがて筆者もこの世を去れば、生きた伝承を伝えるツールとするはずであ

ったメディアが、またただの記録に色あせてしまうように思えた。人から人へと伝わる生き様のヴァイブレーションが連綿と続く伝承を支えているのだと筆者は思っているが、通りすがりのアウトサイダーがその中継役を果たすためには、ただ資料を残すだけでは全く不十分である。音楽学の立場から、多角的に伝達のための方法を考えて行きたいと思う一方で、より深く伝承に関わるためには、アウトサイダーであれ、自らの生命も一つの重要なファクターとなって作用していくことを考え合わせる必要がある。

22～27年ぶりに自分の過去を改めて聞き返せば、記憶も鮮明に蘇るが、また客観的な視点も持てる。今でも大した進歩は無いとはいえ、人として、当時の筆者のなんとがさつなことかと、やたらと反省点が目につく。熱意ばかりが溢れて遠慮が足りず、しつこい質問に媼はさぞ息苦しかったことだろう。今更ではあるが媼に謝りたい気持ちである。そして、無理強いをする筆者に我慢して付き合ってくださり、色々残してくださったことに本当に頭が下がる。媼から大切な教えを受けていたことをもっと早くから自覚し、十分に活用すれば良かったと、これもまた反省が浮かぶ。まことに感謝と反省の記録である。

本稿でようやく着手したメディアの整理だが、近いうちに音声や動画も整理して、次世代の伝承に役立てる形にしたいと願う。筆者の責務というほど大げさには考えないが、少なくとも媼たちに最低限のお返しはしたいと思っている。媼たちの気持ちを伝える中継ぎ役は果たしたいと考えている。

今回、聞き起こしの対象としたのは、日川キヨ媼に関する収録のうち、媼個人への聞き取りを含むものであり、集団でイベントに参加するようなものは基本的に除外した。ただし新宿での公演は例外として、後日音声資料としてまとめる前提で聞き取り対象に加えた。記述に際して、プライバシーに関わる内容など、公表に不適切と思われる部分は割愛した。個人名は過去の著名人や現実との関連の薄い文献上の人名を除いてイニシャルに置き換えた。公表の適切性については遺族の方々の判断を仰いだが、結果として、割愛部分はとても少ないものとなった。本稿の文責はもちろん筆者にある。

本稿では以下の録音資料を取り上げた(収録日、ファイル名、トータル時間、掲載ページ)。

- 1 : 1991年11月18日 (ファイル名 : Kiy0911118) 1° 28' 46" (5-43)
- 2 : 1992年5月15日 (ファイル名 : Kiy0920515) 53' 37" (44-73)
- 3 : 1993年2月2日 (ファイル名 : Kiy0930202) 1° 24' 02" (74-113)
- 4 : 1993年5月19日 (ファイル名 : Kiy0930519) 1° 19' 09" (114-154)
- 5 : 1993年5月20日 (ファイル名 : Kiy0930520) 1° 4' 8" (155-183)
- 6 : 1993年9月27日 (ファイル名 : Kiy0930927) 1° 12' 52" (184-229)
- 7 : 1993年11月14日 (ファイル名 : 新宿三省堂 H_931114) 1° 5' 29" (230-231)
- 8 : 1994年5月18日 (ファイル名 : Kiy0940518) 1° 36' 16" (232-278)
- 9 : 1994年9月25日 (ファイル名 : Kiy0940925) 1° 22' 14" (279-326)

10 : 1994 年 10 月 26 日 (ファイル名 : Kiy941026) 36' 43" (327-349)

11 : 1995 年 11 月 18 日-1 (ファイル名 : Kiy951118) 1° 30' 13" (350-382)

12 : 1995 年 11 月 18 日-2 (ファイル名 : Kiy951118-2(2min)) 1' 55" (383-384)

合計 : 13°35'24"

凡例 :

() ……筆者の注釈など。

【 : : 】 ……インタビューにおける目安としての録音時間 (時:分:秒)

全体に 5 分ごとに目安として記したほか、主な演唱の開始時、および、そのうちのいくつかは終了時も記した(演唱が 5 分ごとの目安にまたがる場合はこれを省略した)。

- ° - ' - " ……時間の長さ (時、分、秒) 。

♪ ……歌、または楽器 (ムックリ) 演奏。

□□ ……不明箇所。

[] ……不確実な聞き取り内容。

歌詞の中で用いた声の技巧についての表記 :

○ °, å, ° ……裏声の挿入を「°」の記号をつけて表した箇所がある

○声門を断続的に閉じて行なう一種のヴィブラートあるいはトレモロ様の歌唱法を母音の区切りで表した箇所がある (例 : ホオオイ)

○リズムのサイクルの単位を字間を少し空けて表した箇所がある

(例 1 : アアアア アアアア / 例 2 : ウタア ロブン バアレ ワアア)

○アイヌ語は聞こえた音に近い音で記述したことがある

(例 : 鶴 sarurun kamuy < sarorun kamuy)

○同じ理由で、アイヌ語として区別しない音を発音通りに記した箇所がある

(例 : obunba < hopunpa)。

○音節末子音 (ラ、リ、ル、レ、ロ、など) は前の母音と異なる響きが聞き取れる場合は近いものを当てて書いた。(例 : シル、クシペ : ただし母音がはっきり聞き取れる場合は音節末子音とせずに シル のように書いた)

○歌詞の表記はローマ字とカナを併用した。厳密な使い分けではないが、それぞれ便利と思われる場合があるからである。ローマ字表記は発音を理解しやすいが、カナ表記はリズムが視覚的に理解しやすい場合がある (モーラ言語に適合した表記としての性質であろう)。

(例 : utari obunbarewa rimsere yan

ウタリ オープン バーレー ワーアア リムサー レーヤン)

1 : 1991年11月18日 (ファイル名 : Kiyo911118) 1°37' 9"

キヨ媼 : ムックリだけでしょ。

千葉 : いや、もう、なんでもいろいろ、教えていただきたいですけど。

キヨ媼 : 私も□□風邪引いてるもんだからさあ。

千葉 : ええ、いや、もう、疲れないように、あの、気の向いたやつだけで結構です。

キヨ媼 : そう、

千葉 : ああ、そんなにきちんと、きちんとされなくても。

キヨ媼 : ええ。

千葉 : やっぱり、それ、あれですか。あの、そういうの、あの、服を着たほうが、気持ちか、

キヨ媼 : そうでしょう、あんた。こんなおかしなの、い、し、ムックリでもなんでも入れるのにな、

千葉 : ええ。こないだの、え、NHKはどうでした、

キヨ媼 : おお、来ました、あれから。

千葉 : へえ。

キヨ媼 : うん。遅く来てね、

千葉 : ええ。

キヨ媼 : 日暮れまでかかってさ、

千葉 : ああ、そんなにかかったんですか。なんか、音楽っていうよりは、あの、番組の、あれだって
いってましたね。

キヨ媼 : うん。宣伝だべさ、早いとこ言えば。

千葉 : 宣伝？

キヨ媼 : 宣伝しながら、いろいろ、あの、あのー、そっち□し□って、わたしも、嫌なんだけども返
事しといと、やらなきゃなんないと思って、ムックリだけでもって思ってさ、

千葉 : ええ、ええ。

キヨ媼 : もう、あの、せいから、もう、部屋、掃除やったもんだから。【0:2:47】♪ (ムックリの音)

千葉 : ムックリは、だいたい、あの、どういう、どういったところで、つくってもらうんですか。

キヨ媼 : あの、こしらえる人いるんですよ、やっぱり、釧路でね。

千葉 : 釧路で、

キヨ媼 : うん。

千葉 : フチはもともと白糠のほうですか？

キヨ媼 : 私は釧路です。

千葉 : 釧路。

キヨ媼 : はい。

千葉 : ふーん。

キヨ媼 : サビタのムックリってね、これ、あるんですよ、私。サビタでこしらえたムックリね。

千葉：ああ、昔、

キヨ媼：はい。

千葉：昔ながらの。

キヨ媼：はい。これね、

千葉：ええ、

キヨ媼：やっぱり、あの、去年こしらえたばかりでね、

千葉：ええ。

キヨ媼：んー。大した、音（おと）は小さいけどね。サビタのムックリ、

キヨ媼：【0:03:51】♪（ムックリ演奏 4秒）なんだ、こん、なんだか、音が悪いんだ。【0:03:57】♪
（ムックリ演奏 22秒）これしか、でき、あの、音出ないね。

千葉：ああ。

キヨ媼：サビタの、

千葉：音が伸びないですね、あまり。

キヨ媼：ねえ、伸びないの、うん。これ、古いば古いほど良んだけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：去年ね、こしらえたばかりで、まだ、音（おん）ができ、うまくできないのね。

千葉：ああ。だんだんに、やっぱり、鳴るようになってくるんですね。

キヨ媼：【0:04:38】♪（ムックリ演奏 9秒：異なる個体のムックリ）これ、たくさんあるんだけど、
みんな、音（おん）が違うんですよ。

千葉：ええ。

キヨ媼：うん。

千葉：それ、その違いによって、

キヨ媼：【0:4:57】♪（ムックリ演奏 16秒）

キヨ媼：これ、みんな鳴らしてみただけどね、あの、NHKの人。これ、いいっていいって、これね、
鳴ら、あの、入れたけど。【0:05:24】♪（ムックリ演奏 5秒）これのほうで、□ったいんかな□、ち
っちゃいな。【0:05:37】♪（ムックリ演奏 15秒）これ、大きいほういいか、小さいほういいかな？

千葉：それ、あの、

キヨ媼：□

千葉：その違いによって、あれですか、やる、なんていうんだらう、節も違ってくる？

キヨ媼：音（おと）が違うの。

千葉：やることは？違ってくる、同じ、

キヨ媼：あの、同じね、音（おん）が違って思ってもね、音（おん）が違うの。

千葉：うん。

キヨ媼：鳴らし方ね。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：あの、音（おん）が、あの、鳴らすのにな、

千葉：ええ。

キヨ媼：こっちのムックリとこっちのムックリと、同じ、あの、あれでもね、違うの、あの、声が違うのね。

千葉：ええ。

キヨ媼：【0:06:26】 ♪ (ムックリ演奏 24 秒) これ、また違うでしょう。これ、また。 ♪ (ムックリ演奏 1分40秒)

千葉：これは、今のは舌でやってるんですか？

キヨ媼：いいえ、あの、

千葉：のど、

キヨ媼：息だけでやってる。

千葉：息だけで、

キヨ媼：はい。

千葉：いや、でも、すごいですね、その、

キヨ媼：私はね、長くできないのは、あのね、

千葉：いや、はい。

キヨ媼：うん。

千葉：短くていいですよ、その、あまり苦しい思いして、

キヨ媼：あのね、

千葉：はい。

キヨ媼：少しずつやりますからね。

千葉：はい。

キヨ媼：うん。

千葉：それで、いろいろとね、ちょっと待って、説明、説明してほしい、わがままばっか言ってすみませんけど。ちょ、ちょっと休んで。

キヨ媼：【0:9:22】 ♪ (ムックリ演奏 43 秒)

千葉：ちょっと、一つ、あの、実験をしたいんですが、

キヨ媼：はい、

千葉：実験をしたいんですが、いいでしょうか。

キヨ媼：いいです。

千葉：あの、

キヨ媼：私も若いときは長く吹けたけど、今、長く吹けないのね。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：だから、少しずつ、少しずつやらんと。歯がよくないもんだから。

千葉：ああ。

キヨ媼：うん。

千葉：いろいろね、その、僕もやってみたりはしてるんですけども、あの、息がね、分からないん

です。その、で、手がいろいろありますよね。

キヨ媼：うん。あのね、

千葉：ええ。

キヨ媼：息のしかたがあるの。あの、大きくすれば大きい息、

千葉：はい。

キヨ媼：小さくすれば小さくいくし、

千葉：はい、はい。

キヨ媼：ほいで、な、あの、要領があるんですよ。

千葉：はい。

キヨ媼：だから、あの、ただ、極端にフッカ、フッカ、フッカ、フッカっていうんだったら、

千葉：はい。

キヨ媼：あのー、あれですけど、うーん、吹きやすいけどね、なかなか、ここ、ここがこうしてやる、ああしてやるっていうか、なかなか、

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：吹き、吹くときに緩くないのね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、よっぽど、こうね、あれしなきゃ。あの、要領しなかったら、うまくならないのね。

千葉：はい、はい。

キヨ媼：【0:11:50】 ♪ (ムックリ演奏 1分37秒)

千葉：(演奏中に) これ、ちょっと当てさせてもらってもいいですか。

キヨ媼：こうやるね。

千葉：あまり、あまり、一遍にやなくていいですよ。

キヨ媼：はいよ。

千葉：はい、はい。ちょっと苦しいでしょう、今の、今ぐらい続けてやると。

キヨ媼：ああ、いや、あのね、うん、歯が緩く、んで、緩んできてね、

千葉：ええ。

キヨ媼：ああ、あそこ、閉め、外、お客さん、こないと思うけど。

千葉：反応が悪いな、こっちのほうがいいかな。

キヨ媼：みんな違うでしょう、ムックリの、

千葉：ええ。

キヨ媼：あの、音(ね)がね。

千葉：ええ。

キヨ媼：音(おと)が違うの。

千葉：いろいろ、あの手この手を考えて、やって、やってみたんですが。あの、手っていうのはいくつぐらいあるんですか。

キヨ媼：うん？

千葉：あの、そういうやり方っていうのは。

キヨ媼：やり方はいろいろあるよ。

千葉：も、もう、

キヨ媼：もうね、

千葉：決まってははいないんですか。

キヨ媼：はい、

千葉：あの、こういうやり方があるっていうのは、別に決まってははいないんですか。もう、その、

キヨ媼：決まっていないね。やっぱりね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、このなかで、こういう息すれば、こういうふうになるとか、

千葉：ええ。

キヨ媼：ああ、息のしかたでいろんな音（ね）が出るんですよ。

千葉：ええ。

キヨ媼：だから、金田一京助さんが、スキん、あの、研究したときにね、これは70種類があるんですって。

千葉：70種類、

キヨ媼：はい。

千葉：うん。

キヨ媼：ここでね、10人にまってるでしょう？

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：一人一人やらして皆さん、みんな、違うんです、音（おん）が。

千葉：うん、うん、ええ。

キヨ媼：息のしかたで。

千葉：ええ、ええ、ええ。

キヨ媼：ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：いろいろね、ただね、こうやって【0:14:47】♪（ムックリ演奏 10秒）こうやるのは誰でも、こう、呼吸で、

千葉：うん、うん、ええ、ええ、ええ。

【0:15:00】

キヨ媼：だけ、やるけど。なかなか、ここにね、

千葉：うん。

キヨ媼：オンを入れるっていったら難しいの。

千葉：オンってのは、どういう、

キヨ媼：オンっていうのはね、アイヌ、その、はやしも入れるとか、ね、

千葉：うん。

キヨ媼：歌も入るとか、トリの鳴き声、風の、な、吹く、あの、クマの鳴き声とかって、中に入れるの。

千葉：オン、オンっていうのは、日本語です、

キヨ媼：はい。日本語って、日本語、までいうけどさ、

千葉：アイ、アイヌイタク、アイヌイタク？

キヨ媼：うん。

千葉：なんですか。

キヨ媼：ほいでね、やるの。今度、これ、この、鳴らし方は、これ、こういうもんだとかね。

千葉：うん。

キヨ媼：ああいうもんだとかって、あの、入れるわけ。

千葉：うーん。

キヨ媼：昔、あの、昔の人ね。なかなか、あの、みんな、みんな吹いても違うからね。

千葉：うん。

キヨ媼：あんたも回って、あの、ムックリの吹き方、聞いてきたんだろうけど、違うからね、みんな、みんな、オンがね。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：鳴らし方がね。

千葉：あの、よくクマの鳴き声とかね、

キヨ媼：うん。

千葉：あ、あの、雨の音とか、そういうの、よくやりますよね。

キヨ媼：そうそうそう。

千葉：あれは、ど、あの、人、一人、一人一人によって違うわけでしょう、あれも。

キヨ媼：やっぱり、あの、違っていて、同じでしょう。クマの鳴き声が、ウエツウエツっていうのとね、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、あの、

千葉：じゃあ、誰がやっても、だいたい同じように、

キヨ媼：みんな、同じですよ、な、

千葉：誰かにそういうのは教わったりするんですか。

キヨ媼：教わったり、自分が、親がやっているのが、

千葉：ああ、

キヨ媼：これがこういうふうに鳴らすとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：ああいうふうにするんですよったとき、そのようにしてやるの。

千葉：へえ。

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、クマの鳴き声とか、どういう感じなんですか。

キヨ媼：【0:16:56】♪（ムックリ演奏 57秒）これ、クマの鳴き声。

千葉：ああ、そう聞こえてきますね、クマ。

キヨ媼：うん、これね。

千葉：クマの声、うん。

キヨ媼：バクバクね。うん。

千葉：ワウワウワウ。ふーん。クマの鳴き声っていうのは、もう1種類ですか、例えば、怒ったときとか、イヌがほえたときとか、そういうのは別に、

キヨ媼：うん、そうだ、まあ、わしらは一人でしかやらないからね。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、これをね、

千葉：うん。

キヨ媼：クマ、コグマを呼んでいるっていう意味なの。バークワウオー、オーっていえば、

千葉：今のやつは、うん。

キヨ媼：結局、うん、コグマを呼んでいるとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ、そんなようなんですね。

千葉：ああ。いろいろあるんですか、キツネとかシマフクロウ、

キヨ媼：キツネの鳴き声とか、私、やったことないけどね。

千葉：あと、ハクチョウとかいうのは？

キヨ媼：あのね、だから、あの、雨だれ、雨だれの音って、

千葉：うーん。

キヨ媼：バン、バン、バンって。あの、水をね、

千葉：うん。

キヨ媼：下、落ちる音とか、そんなのね、

千葉：うん。

キヨ媼：うん。あんだよね。

キヨ媼：【0:19:05】♪（ムックリ演奏 47秒）

千葉：これはあまり息は、うん。

キヨ媼：これは雨だれの音。

千葉：息はあまり使わないんですね。

キヨ媼：うん、そう、使わないの、これだとね

千葉：ああ。でも、そう聞こえますね。

キヨ媼：うん。

千葉：時計って、あれ、止めてはまずいですよね。

キヨ媼：はい、

千葉：時計、カチカチカチカチ入るかなと。

キヨ媼：ああ、入る。

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、止めて、止められない、

千葉：と、止めていいんですか。

【0:20:00】

キヨ媼：うん、止めて、あとでかけて。

千葉：じゃあ、一応、時計合わせて、

キヨ媼：うん。

千葉：あれ、どっちが合ってるだろう。

キヨ媼：あれね、

千葉：うん。遅れてるかな、ちょっと。

キヨ媼：うん、

千葉：ちょっと遅れてるかな。

キヨ媼：遅れてるんだ、それね、ちょっと、あの、開けて、ちょっといじれば止まるよ。

千葉：はい。□見ればわかる、これにね、時間が出るんですよ。そうですね、ちょっと、じゃあ、あとでまた合わせますから。

キヨ媼：はい。みんな入ったかい、みんな、時計。

千葉：え、

キヨ媼：また、新たにしたら、やらなきゃならないでしょ。

千葉：うん、

キヨ媼：みんな、入ってるでしょ。これ、したら、時計の音。

千葉：ああ、そうですね。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：うん。

キヨ媼：じゃあ、新たに、またやらなきゃならない。

千葉：いや、もう、いや、いいですよ。

キヨ媼：いいんですか。

千葉：疲れちゃうから。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。あの、録音して残すのもあれだけでも、教わるのが一番だから、

キヨ媼：うん、ああ、そう。

千葉：はい。

キヨ媼：もう、これでいい、うん。

千葉：はい。□□□□これ、気になります？ 大丈夫ですか。これ、Nさんのつくったやつですか。

キヨ媼：え、

千葉：それ。

キヨ媼：これね、

千葉：うん。

キヨ媼：これ、いろいろ、みんな、音が、また違うんですよ。

千葉：雨だれの音っていうのは、ちょっと高い音、細い音のやつを選ぶわけですね。

キヨ媼：そうだ。♪（試し鳴らし、1、2音）

千葉：うん。クマは太い音のやつを選ぶ。

キヨ媼：うん。これでね。♪（ムックリ演奏 2分1秒）はい。

千葉：はい。今のは、3種類やったんですか。

キヨ媼：2種類。

千葉：2種類。うん。

キヨ媼：さっきのはクマの鳴き声。3種類だね。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：真ん中のやつがね、アイヌの歌、入ってんの。

千葉：アイヌの歌、

キヨ媼：うん。2回目、2回目ね。3回目はね、

千葉：うん。

キヨ媼：山登っていくと、急いでいるときの歩き方。

千葉：歩く、

キヨ媼：バッタバッタバッタってからやっているでしょう。

千葉：人の、人の歩き方ですね。

キヨ媼：うん。歩き方。ああ、あの、

千葉：ふーん。

キヨ媼：慌てて歩いているところの、

千葉：ああ。

キヨ媼：そう。

千葉：なるほどね。アイヌの歌ってのは、今のは、なんか普通に歌でも歌える歌ですか。

キヨ媼：そうですよ。昔は、それに合わせて歌ったっていうね。

千葉：ああ、そう。どう、どういう歌ですか。歌は、

キヨ媼：歌はねえ。待っててくださいよ。風邪引いてるから声出んから。

千葉：いやいや、だいたい。

キヨ媼：だいたい、ちょっとね、入れるからね。いいかい。

千葉：はい。

キヨ媼：【0:24:38】 ♪hoyya hoyyo hoyya ho,

hoyya hoyyo hoyya ho

hoyya hoyyo hoyya ho,

hoyya

【0:25:00】

hoyyo hoyya ho

hoyya hoyyo hoyya ho,

hoyya hoyyo hoyya ho

hoyya hoyyo hoyya ho

hoyya hoyyo hoyya ho, ho ho

hoyya hoyyo hoyya ho

hoyya hoyyo hoyya ho

oyya hoyyo hoyya ho

hoy ho, nn hoyyo hoyya ho 【0:25:58】 はい。もう、い□□

千葉：今の、今の歌を、その、

キヨ媼：2番目に入ったのがこれ。

千葉：ああ。

キヨ媼：こういうふうにして入れてんの、これね。

千葉：ええ。

キヨ媼：あの、聞いてれば、そっち。昔の人はね、

千葉：ええ。

キヨ媼：いろいろ、その、あの、昔の先祖の歌を歌って、

千葉：ええ。

キヨ媼：このムックリも入れたもんでね。たら、あの、お祭りとかね、

千葉：ええ。

キヨ媼：お祝いのおときに、こうやって、あの、年寄りを、歌って、ムックリも入れたり、歌って、もう、こう、こういうふうにしたら、歌えるな、こういうふうにして歌ってるなって、そういえば、あの、ムックリ聞いて、自分も、その合わせて、声出したもんだ。

千葉：へえ。ふーん。

キヨ媼：あち□□□

千葉：今の歌は、これは、なんていうんですか。ヤイサマ、

キヨ媼：そう、そうですね。私らの先祖はね、一番大事な、昔のお祭りのとき、あの、うん、神様にささげる歌っていうの、

千葉：ええ。

キヨ媼：これがね。

千葉：ええ。

キヨ媼：ありがたいと、すい、こう、ああ、ありがとうございます、ああ、ありがとうございますって繰り返して、あの、やるの。

千葉：ええ。

キヨ媼：やったもんです。はい。

千葉：ああ。

キヨ媼：そういうこと。

千葉：まあ、先に、取りあえず、ムックリのことを聞いておきたいんですが。

キヨ媼：はい。

千葉：あの、クマの、僕もいろいろ持っているんです（笑）、実は（所持しているムックリを出す）。

あまり鳴るのがないんですけども。これは、こないだ阿寒の人にもらって、これが一番鳴る。

キヨ媼：うん。あそこの一番鳴るやつあったからね。

千葉：ええ。

キヨ媼：うん。分けてもらった？

千葉：ええ。これ、いや、普通の売っているムックリなんだけど、

キヨ媼：うんうんうん。

千葉：この、低い音っていうのは、あれ、どうやって出すんですか。あの、例えば、さっきクマの声で、やりましたよね。僕は下手ですけども。【0:28:00】 ♪（ムックリ演奏 5秒）

キヨ媼：【0:28:06】 ♪パア、パシパ、パシパってこう、速くこう声出すの。

千葉：【0:28:11】 ♪（ムックリ演奏 10秒）

キヨ媼：そうだ、そうそうそう。うんだ、そういうふうにしていく。上手にいく。

千葉：なんか、

キヨ媼：わしもお手洗いいってくる、はいはい、ゆるくねえな、こういって（笑）。

千葉：（笑）じゃあ、ちょっと練習してますから。

キヨ媼：うん。上手だと□□□。

千葉：あの、でも低い音って、ヴワッての出ないですもんね。なかなか。【0:28:36】 ♪（ムックリ演奏 1分25秒）

【0:30:00】

キヨ媼：上手に鳴らしてるわ。そうやっていくのね。はい。

千葉：口の中、口の中見えないですもんね。

キヨ媼：ええ？

千葉：口の中見えないから。【0:30:14】 ♪（ムックリ演奏 10秒）ふ、吹くんですか？

キヨ媼：え？

千葉：吹く、

キヨ媼：吹く。

千葉：♪（ムックリ演奏 12秒）

キヨ媼：そうだ、吹いて、そうやって吹くん〔です〕。【0:30:43】 ♪（ムックリ演奏 13秒）これは、あれ、違うでしょう？ 速く、

千葉：♪（ムックリ演奏 11秒）

キヨ媼：そうそう。うん。

千葉：いやあ、ちょっと。

キヨ媼：上手だ、上手だ。

千葉：♪（ムックリ演奏 5秒）も、たん、こんな単純じゃないですもんね。

キヨ媼：うんだ、こ、こうだ、だから、【0:31:20】♪（ムックリ演奏 30秒）こうやっていくんでしょ。ずいぶん、たくさんありますね。

千葉：え、

キヨ媼：（笑）

千葉：いや、もう、フチの、フチの3分の1ぐらいです。♪（ムックリ演奏 3秒）分かんないなあ、やっぱり。♪（ムックリ演奏 15秒）

キヨ媼：上手にいつてるよ、それでいいんだ。

千葉：ええ。

キヨ媼：うーん。

千葉：あ、吸ったり吐いたりってのが、

キヨ媼：そうだ、そうだ、そうだ。

千葉：やっぱりね、かなり。

キヨ媼：うん。

千葉：あと、あと、種類で言ったら、あと、ほかにも何かあるんですか？

キヨ媼：まあ、そんなもんだね。

千葉：今、雨だれ。

キヨ媼：うん、雨だれだとかね。

千葉：滝の、川の音とか、そういうのっていうのは、

キヨ媼：風の音とかね。

千葉：風の音ってのもあるんですか？

キヨ媼：うん、風の音とかね。フーフーフって、風の音とかね、いろいろあるけどね。

千葉：それは、あの、昔の人がやっていたんですか？

キヨ媼：そうですよ。みんな、これね、あの、昔の人のやっているの。

千葉：フチも、フチもやります？ その、

キヨ媼：ん？

千葉：風の音とか。

キヨ媼：風の音ね。

千葉：ちょっと休みましょうか。休憩して。

キヨ媼：あ、もう、いいですか？（笑）

千葉：ええ。

キヨ媼：休みますか。

千葉：休みましょうか。

キヨ媼：もう、いいんですか？（笑）

千葉：いや、よくないです。またあとで。大変ですもんね。

キヨ媼：うーんとね、あの。

千葉：体、きついでもんね。あの、普通、普通のお話の感じでいいですよ。あの、そんなにちゃんとした、NHKじゃないですから。

キヨ媼：うんうんうん。

千葉：うん、そんなにきちんとした。足もくずして。

キヨ媼：【0:33:46】 ♪ (ムックリ演奏 1分25秒) 【0:35:11】 はい。

千葉：ああ。今の、今のは？

キヨ媼：んー、だ [から] 風をこう、

千葉：風の、いろんな風の音。

キヨ媼：んん、いえ、風の音してるよ。

千葉：ああ。

キヨ媼：いろいろね。

千葉：ええ。必ず息使うわけじゃないんですね。使わないで、こうやって、こうして。

キヨ媼：うん。うん、できるだけね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、息の、あの、呼吸でもってやる。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：うん。

千葉：いや、ちょっとお疲れでしょう、

キヨ媼：あんたは、たばこものまないと、(小声で) あ、それ、入ってんでないの？ (録音のことを言っている)

千葉：あ、いや、いいです、いいです。これはいくらでもある (テープの予備はいくらでもある、という意)。なんか、お菓子かなんか買ってきましようか。

キヨ媼：いや、いらないの。

千葉：いらないですか。

キヨ媼：お菓子あの、たくさんあるもの、お菓子でも、じいちゃんにたくさんあっているから、んーでしょう、ひと口だけ飲みたいっていうのはね、たばこ悪いんだけどね、ちょっとね。疲れたとき□□。

千葉：ああ、□□つとね。

キヨ媼：ねえ。

千葉：たばこ持ってきてりゃよかったですね。

キヨ媼：うん？

千葉：たばこ持ってくればよかったですね。

キヨ媼：たばこね。

千葉：うん。

キヨ媼：じいちゃんといっつものむ、のむんですよ。じっちゃんにあげたりね。

千葉：ええ。お酒も飲むんですか？

キヨ媼：私、お酒、飲めない。

千葉：飲まない？

キヨ媼：お酒飲むんだったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、一遍に一升くらい飲んでなきや駄目だね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：(爆笑)

千葉：いっぺんに？ ふーん。(このくだりは千葉が「一升」を聞き取れず、媼の冗談を理解していないことによる反応)

キヨ媼：うん、うん。私はね、乳がんところとってからね、無理できないの。

千葉：ああ、ねえ。

キヨ媼：うん。だからねえ、疲れてね、

千葉：うん。

キヨ媼：無理できないの。

千葉：ええ。

キヨ媼：お酒は、あの、お酒も、のん、飲めない、ち、これとってから、やっぱり、あの、血圧低いからお酒飲みなさいって言ってね、お酒飲んだら、絶対眠れない。

千葉：ああ、グルグルして、ドキドキして、

キヨ媼：うん。グルグルじゃない、ここはなんともないの。頭いっぱいになって駄目。

千葉：頭痛くなって。

キヨ媼：うん。それで、1人だから、いろいろ考えるでしょ？ 頭いっぱいになってね、眠れない。

千葉：うん。

キヨ媼：お酒飲まない。まあ、飲めば、一升ぐらい飲んだら眠るかしらん。

千葉：(笑) うん、急に大酒飲みだ。

キヨ媼：あんたは、お酒はなんぼか飲むでしょう。

千葉：少しはね、飲みますけど。

キヨ媼：はい。

千葉：僕もね、あの、嫌いじゃないんですけどもね、あまり向いていないんですって。それで、一回、ちよ、具合を悪くしてね、お酒飲み過ぎて。それで、それから、あまり飲むなっていわれています。だから、今は全然飲んでないです。

キヨ媼：飲めない。心臓弱くなるからね。

千葉：うん。

キヨ媼：たばこだけ、1日に3本か、2本に決めてんの。疲れたとき、やっぱり、ひと口欲しいの。

千葉：それ、危なくないですか、その、マッチのなかに入れて。

キヨ媼：いや、なんともないし、みんな来てたんですから、はい。…パーあって！(笑)

千葉：(笑) 火ついたら、大変だ。んー。

キヨ媼：まあ、そういうことでね。1人でも、かまってるから。

千葉：やーでも静かでいいですね、ここは。

キヨ媼：ああ。

千葉：うちは、

キヨ媼：1人だから、まだ、もう、掃除もしないで、いっぱい、うん。

千葉：なんか、もの動かすとか、なんか、あつたら、今言つといてください。僕、やっつくから。できることだったら。

キヨ媼：結構ですよ。私は、もう、自分でぼっちら、ぼっちら掃除するぐらいです。ありがとうございます。

千葉：いえ。重いものとかね。

キヨ媼：うん。もう、これで、お、いいですか。

千葉：うーん、そうですね。もう、きつい？

キヨ媼：はい？

千葉：もう、きついですか。

キヨ媼：ええ、もういいんですか。ムックリも。

千葉：うん、できれば、うん。

キヨ媼：はい、

千葉：歌もね、本当は教わりたいですけども、

キヨ媼：うん。

千葉：大変だから。そうですね。あ、何かやる、やることありますか？

キヨ媼：なんもないです。もう、自分はね、もう、晩がたなつたら、あの、いらぬものやるとかね、そんなことだけ。あとね、もう、掃除、1人で、もう、2階から、なんから掃除、みんな、終わして、降りてきて、

千葉：うん。

キヨ媼：したから、こっちのほうの部屋の掃除、みんな、いらぬものを出してやったし、あとは、ぼっちら、ぼっちら焼くもの焼くの。

千葉：ええ。

キヨ媼：うん。それで、はい。

千葉：さっきの、あの、ヤイサマみたいなのは、ほかにもたくさんあるんですか。

キヨ媼：あります、あります。ああいうのだったら、たくさんあるよ。

千葉：さっきのはどういふときに歌うんですか。♪オイヤーオー、オイヤー

キヨ媼：これね、やっぱりねえ、お祭りのときとか、そんなの歌うの。

千葉：うん。その、ヤイサマっていうのは、

【0:40:00】

千葉：即興じゃないですよ？

キヨ媼：ヤ、ヤイサマではないんだよ、これはね。
千葉：ヤイサマじゃない、
キヨ媼：本当のね、先祖の、ウポ、ウポポってねえ、あの、ウポポっていうけどねえ、私らはね、
千葉：upopo、うん、うん。upopo ですね。
キヨ媼：うん。ヤイサマとは違うもん。
千葉：うん。
キヨ媼：ただヤイサマになっていうけど、これは♪huy ya ho っていくべき、違うの、これ。
千葉：うん。これ、あの、ukouk するんですか。
キヨ媼：うん、そうだ。
千葉：□□□□ (なんにんも、か？不明)。
キヨ媼：♪hoy yo、いや、だ、こっちで歌えば、そっちで答え、答え歌うのさ。
千葉：替わりばんこに、
キヨ媼：うん、替わりばんこ。
千葉：ず、ずれてじゃなくて、あの、全部歌ってからですか。
キヨ媼：うん。そうですよ。こっち歌って、そっち半分。こう、これね、
千葉：うん。
キヨ媼：たくさんアイヌの人いるでしょう？ 帯広もいるし、旭川いるでしょう？
千葉：うん。
キヨ媼：それから、釧路、
千葉：うん。
キヨ媼：阿寒湖、もう、あっちこち、アイヌの人らいるけどねえ、
千葉：うん。
キヨ媼：みんな違うの、ウポポでも。
千葉：ええ、ええ、ええ。
キヨ媼：あのね、オンが違ったりね、文句が違うの。
千葉：うん。
キヨ媼：わしらのほうの、と。
千葉：うーん。
キヨ媼：帯広も、違うの。
千葉：うん。こっこのほうには、たくさんありますよね、歌が、□□□が。
キヨ媼：あ、うん、あることはあるけど、みんな違うよ。
千葉：うん。
キヨ媼：釧路のウポポと、
千葉：うん。
キヨ媼：こっこのウポポと、また違うしね。うん。
千葉：うん。釧路にはたくさん残ってますか？

キヨ媼：釧路に、やっぱり、あの、年寄りいないからね。若い人ばかりだからさ。

千葉：釧路って、あの、フチの覚えているのは、釧路のものですか？

キヨ媼：そうなの。

千葉：うん。

キヨ媼：私は釧路出身だから。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：いくつぐらい覚えていますか？ 歌って。

キヨ媼：え？

千葉：いくつぐらい覚えているんですか？ 歌は。

キヨ媼：うーん、釧路のウポポだ、んん、ね。ウポポだとか、あの、ヤイサマだとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：たまにやるけどね。あの、なんか始まったときね。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり違うんですよ。その、その部落、部落によってねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、歌も違うし、踊りも違うの。日高もそうでしょう？

千葉：うん。ヤイサマっていったら、どんなのがありますか。

キヨ媼：うん、

千葉：ヤイサマ。

キヨ媼：ヤイサマっていったら、自分でしょう、自分が歌うっていう意味で、

千葉：ええ。

キヨ媼：あの、それをヤイサマって言って、あの、歌っていくべき。それさ、今度、文句いろいろな文句…。はい。

千葉：じゃあ、即興でつける、

キヨ媼：うん、つけ…、適当にね、自分が苦勞したら、あの、苦勞したとこ、とかね、

千葉：うん。

キヨ媼：また、これからの先がこうだとかって言って、みんな、今度ね、アイヌ語でつけて歌うわけ。

千葉：帯広で聞いたのは、あの、もう決まってるね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、必ず同じように歌うんですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：♪yaysamanena yaysamanena horena hore horena hore horena hore horena
hore

キヨ媼：や、こ、これ、これ、あの、踊りにかかるでしょう？

千葉：ええ。

キヨ媼：これ、帯広ち口、帯広でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：うん。わたしの歌はね、違う。やっぱり、あの、違うの。

千葉：違う、

キヨ媼：もう、この人ら、これか、踊りが、やってるからね。

千葉：うん。

キヨ媼：わたしら、まだね、一本調子にいくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：やるの。

千葉：例えば？どんな感じ、

キヨ媼：うん、うん。ただどね、あの、なんでも、その、文句とか、節とか、いろいろあるから、その人、その人の、あの、適当に節つけてやるんだ、

千葉：うん。

キヨ媼：でやるの。

千葉：うん。

キヨ媼：や、帯広は、これ、今、♪yaysamanena yaysamanena sorena sore sorenasore っていくでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：で、あの、そうやって、あの、お、あの、踊りに合わせてやる。

千葉：踊りに合わせて、あの、帯広のは即興じゃないですよね？

キヨ媼：うん、うん。帯広はこんなのね。

千葉：うん、昔は、やっぱりやったっていいですけどね。ただ、

キヨ媼：私の、うーん、小さいとき、私らのほうは、そんなにね、あれだけど。わたしの、いろいろ、その、文句もあるし、いろいろな節があるの。

同じヤイサマでもね。速くやるやつと、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、遅くやるやつ。

千葉：おど、踊りながらっていうのもあるんですか？

【0:45:00】

キヨ媼：ありますよ。

千葉：うん。

キヨ媼：その、歌に合わせてね、おど、踊るわけだから、こ、こういうふうにして踊ったら、こういうふうにして踊ったり、それでやるわけなの。やっぱり。

千葉：昔は、踊ったでしょう、フチもやっぱり。

キヨ媼：え、

千葉：昔はフチも踊ったでしょう。

キヨ媼：いや、私はね、足、あの、体弱いから踊ったことないけどね、

千葉：ああ、そうですか。

キヨ媼：歌専門さ。

千葉：ああ、そうですか。

キヨ媼：うん、歌ってね。

千葉：ふーん、そうか。

キヨ媼：うん。

千葉：フチも何曲か覚えてます？ そういう節を。

キヨ媼：分からないな、踊り。

千葉：いやいや、歌の、歌の、ふ、節。歌い、オンっていうんですか。

キヨ媼：(笑) そしたら、帯広の、帯広の歌、これさ入ってんでないべか、やった…

千葉：え、今、入れていますよ。

キヨ媼：嫌だねえ。

千葉：止めます、止めたらやる？ でも、止めたら分かんなくなっちゃう。

キヨ媼：あの、帯広はそれでいくね。わしらは違う、一本調子でね。【0:46:06】 ♪yaysamanena
yaysamanena horena hore horena hore yaysamanena yaysamanena horena hore hore
horennna yaysamanena hore horennna hore horennna、【0:46:36】 っていくの。

千葉：それ、みんなで踊る、

キヨ媼：うん、そう。

千葉：え、こう、

キヨ媼：□□□てみんな、

千葉：こうやって？ こうやってやる、

千葉：あれ、どうやんだっけかな。♪ヤイサーマネー、こうやってやる、

キヨ媼：そうそうそう、【0:46:46】 ♪horei horena horena hore yaysamanena yaysamanena
horena hore coy coy っ。これ、これ、これで、もうずっと踊るの。

千葉：ずっと、これ、決まっているわけじゃないです [よね]、もう、好きで、好き好きで、

キヨ媼：違う、違う、うん。

千葉：あ、いいなあ、それ。

キヨ媼：うん？ (笑)

千葉：いいですよ、それ。うん。

キヨ媼：あ、□□□な。

千葉：ふーん。

キヨ媼：いっつもなかないよね、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：もう、あの。

千葉：歌ってのは、全部1種類？

キヨ媼：たくさんあるよ。

千葉：たくさん、

キヨ媼：したけど、もう、やったことないから、もう、忘れてしまうもんね。

千葉：ああ。

キヨ媼：オンとか、あの、文句とかね、うん。ウポポとかね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、私、あの、あの、ざわね、あ、あれだよ、うん。【0:47:55】♪ku ani ana(k) ku ani ana(k)

aca ka ku sa(k) aca ka ku sa(k) hapo kay ku sa(k) hapo ka ku sa(k) yupo kay ku sa(k)

o sine menoko ku nakayki horehorena horehorena めんどうだなも 頼むでや

yupo utari hapo utari horehorena horehorennna hore hore horehorena

yaysamanena yaysamanena nenehoma omasetama

kamuy utar nukar yak aye horehore horehorennna horehorennna yaysamanena coy coy って。

千葉：うーん。

キヨ媼：こうやっていくの。みんな、あの、あ、あれですよ、あの、あんたも覚えているでしょう。

意味ね。

千葉：いや、僕は言葉はね、あまり分からないです。その、ku ani、ku ani っていうのは、か、私は、

キヨ媼：私は、あのね、

千葉：うん。

キヨ媼：わ、私は、親もいない、

千葉：ええ。

キヨ媼：父親も母親もいない。

千葉：ええ。

キヨ媼：うん、兄貴もいない。

千葉：ええ。

キヨ媼：たった一人の私です、皆さん、よろしく頼みます、yupo utari、hapo utari ったら、あの、よその兄貴たち、おばあさん方、よろしく頼むって、

千葉：うーん。

キヨ媼：歌ってるの。

千葉：ああ。ハポは、どっち、お母さん、

【0:50:00】

キヨ媼：うん、お母さん、ハポ。

千葉：お父さんは、

キヨ媼：ミチ。

千葉：ミチか。

キヨ媼：ハポ、

千葉：ミチ。

キヨ媼：♪hapo utari、…アチャ、アチャっていうの、わしらは。

千葉：おじさん、

キヨ媼：アチャっていえば父親。アチャ。

千葉：ああ。

キヨ媼：【0:50:14】♪acaka ku sa(k)、sak oka、これ、もう。

千葉：これは昔からある歌ですか。

キヨ媼：はい、はい、はい。こうやってやるの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：いうの、あの、もう、このごろもう、全然声、出なくなって駄目だな。風邪引いてね。

千葉：ああ、でも、ねえ、今、そういう、a a a（節回しを真似ている）っていうのできる人少ないから。

キヨ媼：□□□！（感嘆詞）

千葉：本当に、うん、感激しちゃいます、僕なんかは。

キヨ媼：いや、本当にね。でも、もう、このごろ、ずっと風邪ばかり引いてるの、なんかね、もう声も出なくなってね、あの、昔のウポポとかね、そんなのやりたいと思ってね、寝てても、どれだけの声が出るべとか、あのウポポはこうだったなと思って、寝ててね、考えて、声出してみるけどね、もう、若いときと全然違うんだよ、んん。年とってね、もう声も出なくなった。

千葉：いやいや、本当に、うーん。いやあ、やっぱり、

キヨ媼：あ、消したほういいね。（笑）

千葉：（笑）消さないで家宝にする。

キヨ媼：うん、ね。本当にね。

千葉：んー。そうですね。

キヨ媼：昔だったらや、皆さんと一緒にやったもんだけど、今だけで、できないや。

千葉：うーん。やっぱり一人じゃやりにくいでしょうね。今、一緒にやる人っていないでしょ？

キヨ媼：やも、こうやっているけどね、誰も、あんた、ああいや、あの、昔のウポ、歌、歌ってみましょうかとか、ウポポやってみましょうかっていう人いねえもん。わし一人ぼっちで、寝てて、声出してみたり。よしっ、この歌、どれだけの声出るかとかね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、和人の歌でもそうだしね。

千葉：うん。

キヨ媼：アイヌの歌でもどれだけの声、昔はやったもの、今できないことないって、まあ、頑張ってはやってみるけどね。まだまだしおれてられないと思ってやるの。

千葉：子守歌はこっちではなんていいます？ イフンケっていいますか？

キヨ媼：イフンケだべさ。

千葉：イフンケ。イヨンノッカっていうのはいわない、

キヨ媼：うん？

千葉：イヨンノッカ。

キヨ媼：イロンノッカ、

千葉：うん。いわないか。

キヨ媼：イフンケってばっかりいうよ。イ、イロンノッカとかパトロッカとか知らんなら。

千葉：ふーん。

キヨ媼：いやー、そうしてね、もう、あの、シコロの実、飲んでさ。

千葉：ん？

キヨ媼：シコロの実、飲むの。

千葉：シコロ…

キヨ媼：シコロ、あれ、かかっているでしょう。あれをね、飲んでると、風邪、まあ、ねまってない、煎じて飲むの。シコロの実を。

千葉：あの、黒いやつ？

キヨ媼：うん。

千葉：下にかかっているの、これイケマですよ、これ、

キヨ媼：うん、これはイケマ。日高ではイケマ。私らは、釧路は違うんだよ。

千葉：なんていうんですか。

キヨ媼：ペヌフ °っていうの。

千葉：ペヌ？

キヨ媼：うん。ペヌフ °。

千葉：ペヌ？

キヨ媼：うん。

千葉：ペヌ？

キヨ媼：うん。これはイケマっていうし、日高はイケマ

千葉：え、もう一回、もう一回、言って。ペヌ？

キヨ媼：ペヌツプ。

千葉：ペヌツプか。

キヨ媼：うん。

千葉：ペヌフ °。

キヨ媼：うん。ペヌフ °。

千葉：ふーん。釧路で。

キヨ媼：うん。日高はイケマっていう。

千葉：エカシは日高なんですよ、

キヨ媼：日高。

千葉：それは、別に飲むわけじゃないでしょう、ただの魔よけですか。

キヨ媼：そうです。さげるだけ、首からさげる、男も女もないんだよ。これ、さげとけば縁起物だからね。

千葉：ふーん、ああそうですか。

キヨ媼：はい。

千葉：毒も強いですよ。

キヨ媼：はい、

千葉：毒、

キヨ媼：うん、そうなの、これね。

千葉：うん。

キヨ媼：さげておくのね。

千葉：よく、よくかかっていますもんね、これ。うん。

キヨ媼：そう。

千葉：別にお祭りのときに使うとか、そういうんじゃないでしょう、これ。

キヨ媼：そうでない。や、あ、座布団、座布団敷いてください。

千葉：ええ。

キヨ媼：冷えるから、ここ、つめ、冷たいんだもん。

千葉：はい。

キヨ媼：敷きなさい、敷きなさい、せっかく出してあんだから。そこにあるやつ飲みなさい、どれでも好きなの。

千葉：はい。じゃあ、ああ、いただきます。

キヨ媼：お茶、え、飲む、私はシコロの実飲んでる。

【0:55:00】

千葉：イフンケって、なんか覚えてますか？

キヨ媼：私らのほうは、イフンケってね、わしらのほうは、イフンケっていうけど、そんなの、わしの、せん、あの、親たち、そんなイフンケやらなかったからね。

千葉：ああ

キヨ媼：分からんね。

千葉：ふーん。やっぱり、あんまり、あれなんですか、やっちゃいけないっていうか。

キヨ媼：いや、そうじゃないの。やらないのさ、親が。いけないじゃない、やらないの。うん。わしらのほうで、わしは自分の、うん、子どもも育てたけど、うん、親、分からないからね、あの、イフンケなんかね。ただ、泣けば、こういうふうにしてやるもんだって言って、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、教えただけでな、あと、詳しいことイフンケってないから。

千葉：ふーん。

キヨ媼：わしらの歌、ただ、あの、なんていうのかな、極端にいえば、極端だったからね、そんなくわしいことでね。あの、アイヌ語でもやったでないし、ただ、あの、おぶって、

【0:56:33】 ♪oro sa o, oro sa oyyo, ororo sa o, rrrrrrrrrrr (hororse : 巻き舌の音) ってこういってね、

千葉：うん。

キヨ媼：♪oro sa oyyo, oro sa o,
iteki cis(i) an na ho, mokor(o) an na hapo aca u
moniki e enna oro sa o oro sa oyyo oro sa o
rrrrrrrrr (hororse=巻き舌の音)、これだ、こういうふうにして歌った。

千葉：moniki っていうのはなんですか？

キヨ媼：ええ？

千葉：moniki っていうのはなんですか？

キヨ媼：moniki ったら、

千葉：働く…

キヨ媼：仕事、

千葉：働くって

キヨ媼：仕事、今、するんですから、あの、おとなしく寝てくださいって。

千葉：ああ。

キヨ媼：それだけだ。

千葉：ああ、ハポが仕事する、から、

キヨ媼：うん。

千葉：もう子どもは、

キヨ媼：ハポもアチャも仕事するから、iteki cis an na っていえば、

千葉：泣くなって、

キヨ媼：あの、泣かないで寝てくださいっていう意味。ただ、その、♪oro sa o oro sa oy って、こ
う、あの、ほれ、寝せるわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：寝せて、そして、親は、その何するか、そんなんだ、わしら、極端だ、わしら。アイヌ語つ
てゴタゴタゴタゴタ言わんの、

千葉：うん。いやあ、いいですね。

キヨ媼：はあ？

千葉：いい、いいですねって。

キヨ媼：□□□

千葉：ふーん、iteki cis no、なるほど。いろいろ知っていますね、フチは。(録音用マイクを触る様子)
嫌いですか？ こういうの。

キヨ媼：はい？

千葉：嫌いですか？ (笑)

キヨ媼：嫌いでもないけどねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：めったにやったことないからね。(笑)

千葉：そうか。今のイフンケっていうのはハポが歌っていたんですか？

キヨ媼：ハポね。ハポやったの。ハポのこと言って聞いて、自分が子ども育てるとき、うん、そうい、言ったことあるんだからね。

千葉：ああ、そう…

キヨ媼：自分だって仕事もしたし、

千葉：うん。

キヨ媼：だから。うちの娘^{むすめ}っていたでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：N、阿寒の、

キヨ媼：Nさんにね、

千葉：うん。

キヨ媼：あれね、赤ん坊のときに、あれ、あれ、一番大きいほう。

千葉：うん。

キヨ媼：大きいって2人しかいないけど。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：キヨシっていわれた人いたでしょう。

千葉：男？

キヨ媼：キヨシってやついるんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：一番、あの、大道具屋のこっちに草ぶきあったでしょう。

千葉：うん、でも、ちょっと分かんなかったけども。

【1:00:00】

キヨ媼：あそこで、むす、息子いるんだ。

千葉：ああ、そうですね。娘さん□ウポガだって、最初知らなかったの□、ヒカワさんて。

キヨ媼：うん。

千葉：名前聞かないで、ずっと話してて、

キヨ媼：うん。

千葉：ムックリ上手だったからね、

キヨ媼：上手、上手でもないよ。

千葉：(笑) いや、そのときは上手だと思ったんです。うん。で、まあ、ほら、フチの聞く前だし。うん。で、あのなかではね、ああ、上手だなと。歌も歌っているでしょう。

キヨ媼：歌っているからね。

千葉：うん。で、若い、若い人のなかでは、ねえ、ああいうやる人って少ないから、ああ、これ、まあ、ちょっとね、本当の昔のとは、またちょっと違うのかもしれないですけどね。

キヨ媼：うん。

千葉：あの、ああいう声出しているでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：うーん。だから、ああ、上手だなと思って話してたんですね。名前聞かなかったです。うん。こっち来てから、ヒカワさんっていたでしょうって言われて、うん。もうちょっと、よく話しくんだった

キヨ媼：もう、旅行にいていないんだ。今日出かけたね。

千葉：ああ、そう、ああ、そうですか。

キヨ媼：あの、イワ、ど、岩見沢だか、どこだか、ず、どこだか、なんとかっていうところ、ずっと回るんだって。2日間とか3日間ね、旅行に行くんだって。

千葉：うん、ふーん。

キヨ媼：Nさんの奥さんだとかね、

千葉：ああー。そうかそうか。

キヨ媼：で、いないの。3日間いないんだって、今日からね。

千葉：ああ、そう。いいですね。休みに。そっか。

キヨ媼：何時だ、まだ早いけどね。

千葉：うん。歌の種類で言ったら、あれですか、ヤイサマとかイフンケと、ウポポと、ほかにもなんかあるんですか。ユーカラみたいな、もう、分かんないですよ、今は。

キヨ媼：ユウカラって、わし、やったことないから分からないもんね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：シノ、シノッチャってというようなありますか？ シノッチャって。遊び？

キヨ媼：シノッチャっていえば、結局、あれでねえかい、あの、あ、極端に、こう、あの、調子、やる、だけ、シノッチャでしょう？

千葉：極端にやる？

キヨ媼：あの、シノッチャっていえば、あの、昔の戦場は、あの、なんちゅうのか、今では、あの、テレビにも出てる、あれ、あの、早いところいえば、あれだね、あの、神さん乗り移って、いろいろな仏さんのことだったり、

千葉：ああ。

キヨ媼：神さんのことだったりする、人、昔、大昔にいた、今いないけどね。

千葉：うん。トウス、トウスっていいました、

キヨ媼：うん、はい？

千葉：トウス、

キヨ媼：トウスやる人っていない。

千葉：うん。

キヨ媼：昔はいたけど、今はいない。

千葉：あ、そういう人がやるのがシノッチャ…

キヨ媼：うん、シノッチャ。そして、あの、あの、一生懸命になって、早いところいえば、あの、神

さんをお願いすると同じさ。

千葉：ああ。

キヨ媪：うん。

千葉：うーん。

キヨ媪：どうか、あの、まず、良いことも悪いことも、お話ししてくださいって、

千葉：うーん。

キヨ媪：うん、あの、わたらの先祖はなんでも火の神さんにやるからね。

千葉：うん。

キヨ媪：火の神さんに、あの、言ってお願いするの。やっぱりね。

千葉：うーん。

キヨ媪：その年やるときにシノッチャやるって。今、そういう人いない。

千葉：エカシがね、カムイノミやっていましたね。

キヨ媪：そうですよ、昔はいたの。

千葉：エカシのあとは、もういないでしょう。

キヨ媪：いたんですよ。

千葉：ねえ。

キヨ媪：でも、わたらのときは、もういなくなったから、もう分からんけどね。

千葉：うーん。そうか。タフ °カラなんてやった人います？

キヨ媪：タフ °カラやるのは、阿寒湖に、あれ、今吉（イマキチ）っていうやつ、やる。

千葉：イマキチ？

キヨ媪：イマキチってアイヌ。

千葉：アキベ、秋辺今吉さん、

キヨ媪：うん、アキベ、うん、あれ、タフ °カラやるんだよ。

千葉：ああ、今でもやってます？

キヨ媪：やるよ。お祭りには必ずやるから。

千葉：ああ、そうですか。まりも祭り、

キヨ媪：うん。

千葉：まりも祭り、こなきや駄目ですね。

キヨ媪：い、ああー、

千葉：来たことない、

キヨ媪：マリモ祭りに来たほういいよ。いろんな、

千葉：うーん。

キヨ媪：ウポポだとかね、

千葉：うん。

キヨ媪：ある、あの、コタンから、いろいろ来るからね。

千葉：うん。

キヨ媼：その人、まあ、この人はなにウポポやるとか、この人は何やるとかって、ちゃんと、あんた、聞いていくにからいいよ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：そうですね。

キヨ媼：方々から来るからね。

千葉：うん。来年は来ようと思っていますけど。

キヨ媼：うん。

千葉：なかなか。うん。

キヨ媼：あんた、どこ？ 札、どこって？ 東京、

千葉：東京のね、隣。ほとんど東京です。

キヨ媼：ああ。

千葉：神奈川県ってとこに。

【1:05:00】

千葉：うん。

キヨ媼：大変だね、回って歩くのね。

千葉：ねえ、大変です。

キヨ媼：お金も使うでしょう。

千葉：お金使いますね。

キヨ媼：ふーん。

千葉：だから仕事しちゃう、稼いだので交通費出して、こっち来て回って、

キヨ媼：うん、大変だよ。

千葉：お金、お金なくなると、帰って、また仕事してって感じ。

キヨ媼：ふーん、大変だねえ、本当。

千葉：でも、まあ、好きな、

キヨ媼：何をやるっても大変だ、お金なかったらできないしね。

千葉：うーん。そうだね。

キヨ媼：うん、極端に、あんた、あた□□□まさか、た□うわけにはいかないしね。

千葉：うん。

キヨ媼：大変だもんね。

千葉：うん。本当ですよ。うん。そうか。ウポポっていうのは、どれぐらいあるんですか、数でいうと。

キヨ媼：ウポポっていったら、大したものですよ、いろいろありますよ、昔のね、□□□ね。

千葉：んー。今、覚えているのってのは、いくつぐらいありますか。

キヨ媼：わしら、あの、覚えてっていうの、結局、あの、祭りに歌うとか、

千葉：うん。

キヨ媼：そんなのぐらいしか、鶴の舞とか、あの、それから、剣^{けん}の舞とか、

千葉：ええ。

キヨ媼：そんなもんだ、しか、わ、分からないわ、そういう歌しか。うん。

千葉：うん。うん。一番簡単なやつ、僕に教えてくれませんか？

キヨ媼：あの、

千葉：なんか、歌え、歌えそうなやつ。

キヨ媼：剣の舞とかね、

千葉：うん。

キヨ媼：弓の舞。弓の舞とか、それから、あの、みんな大勢で踊るやつとか、

千葉：うん。

キヨ媼：そんなの。

千葉：そういう、そういうウポポっていうのは、みんな女の人ばかりの歌ですか？

キヨ媼：そうだよ、へ、みんな、女歌って、男の人、あの、はね、あの、あれだ、踊ってもらうのさ。

千葉：男は踊る、

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そうなの。

千葉：ああ、そうか。

キヨ媼：それであの、女の踊りもあるし、けど、女の踊りは、フッタレチュイとか、

千葉：ん？

キヨ媼：あの、踊り比べとかね、

千葉：ああ。

キヨ媼：そんなのだけね。

千葉：ふーん。あ、女の方は、じゃあ、もともとは、あまり踊らない、

キヨ媼：うん、そう、いろいろね。

千葉：あの、弓、ほら、鶴の舞とかで、おど、踊るでしょ？

キヨ媼：そうだ、鶴の舞とか、み、見なかったかい、踊り。

千葉：あ、いや、見ました、見ました。

キヨ媼：見たね。

千葉：あれは、でも、最近、あの、やった、練習してやったやつでしょ？

キヨ媼：うんだ、うんだ、うんだ、うん。

千葉：昔からのとは、ちょっと違いますよね？ ふーん。そうか。一番簡単なウポポって、どうい
うのですか。

キヨ媼：簡単なウポポってねえ、

千葉：ない？ (笑)

キヨ媼：この、踊れ、あの、

千葉：歌が、歌が簡単なやつ。

キヨ媼：あの、踊り、男の踊りって、つる、^{つるぎ} 剣の舞と、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、あの、あれだ、弓、弓の舞でしょう？

千葉：弓の舞。うん。

キヨ媼：剣の舞と。2つしか、2つでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：ほんで、…ぐらいだからね。

千葉：歌は、

キヨ媼：なかなかね、

千葉：うん。

キヨ媼：これは極端だからおびましようって、まあ、やってみなさいって、なかなか、この、オンってできないもんだものね、このアイヌの歌ってね。

千葉：うん。うーん。

キヨ媼：この、あー、弓の舞の歌と、それから、剣（けん）の舞ね。

千葉：うん。

キヨ媼：剣（つるぎ）の舞。

千葉：うん。

キヨ媼：これ2つ、どっちやってたら、あの、弓、弓の舞より剣（つるぎ）の舞の、こう、

千葉：うん。

キヨ媼：言いやすいっていうことになる。

千葉：弓の舞より、つる、剣（つるぎ）の舞のほうが言いやすい、

キヨ媼：うん。あの、極端なの、

千葉：うん、極端？

キヨ媼：うん。極端でいくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、【1:08:52】♪he i he ha he i yo ho a he i ho ha he i yo ho a he i he ha he i yo ho a って、こうやってから、au ho ha au ho o ha, au ho ha au ho o って、こういくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。あ、あの、一番先の〔テカシ〕（？不明）と2番目は、あの、弓、ゆ、刀出したとき、au ho au ho、こうやって、

千葉：うん。

キヨ媼：これは極端だわ。

千葉：うん。

キヨ媼：今度は、剣（つるぎ）、あの、つる、剣だと、あの、弓の舞も、またね、

千葉：うん。

キヨ媼: また、あの、ゆ、緩くないんだからね。

千葉: うん。

キヨ媼: 先のやつ、こうやって、あとから、こう言ってって、こういかなきゃなんないからね。

千葉: うん。今は、^{つるぎ} 剣の舞のほう？

キヨ媼: 剣の舞。

千葉: 剣の舞。

キヨ媼: うん、ほれ。刀持ってやるときな。

千葉: ええ。

【1:10:00】

キヨ媼: 剣の舞だ。

千葉: うん。あの、今の♪au ho って、

キヨ媼: 【1:10:07】♪au ho ha au ho ha au ho っていうのは、

千葉: hau (裏声を出している) っていうのは、

キヨ媼: やっぱり、こうやっているところ。

千葉: ハアっていうのは、なんか、こう、声を、どうやってやるんですか、それ、ha°a、ha°a (これは節回しに裏声を挿入することについて聞いている: そのためここでは裏声の記号「°」を用いたが、本稿では基本的に裏声を表記しない)

キヨ媼: 【1:10:19】♪au ho ha°, auho、au ho ha、au ho、こ□な□

千葉: なんか、それやり方ってあるんですか? そういう裏声みたいな、アーア、アーアってありますよね。

キヨ媼: なかなか、これねえ、あの、極端に言えば、歌い、なかなかできないもんだよ、この節つけてやるっていうことがね。

千葉: うん。

キヨ媼: だって、あの弓の舞、【1:10:42】

♪niya ko ko nita ro(k) pon cika(p) niya ko ko kani kor okay ya(n)⁶,
niya ko ko ha nita ro(k) pon cika(p) niya ko ko kani kor okay ya(n),
niya ko ko ha nita ro(k) pon cika(p) niya ko ko kani kor okay ya(n) , ho ho,
niya ko ko ha nita ro(k) pon cika(p) niya ko ko kani kor okay ya(n) って、

千葉: うん。

キヨ媼: これもね、やっぱり、さっきの歌と、あとの歌の、んん、節、まあ、極端に言えば、またね、なんぼでも、【1:11:38】♪niya ko ko nita ro(k) pon cika(p) niya ko ko kane kor okay ya(n) って、こ
ういけばね (節をあまりつけずに急速調で歌っている)、

千葉: うん。うん。

キヨ媼: 極端にいくと、昔の人はね、やっぱり、そこで入れるわけ。【1:11:52】♪niya ko ko ha nita ro(k)

6 (カナ表記) ニヤコーコー ニーターロツポンチーカー ニヤコーコー カーニコローローカイヤン

pon cika(p) niya ko ko kani kor okay ya(n), niya ko ko ha nita ro(k) pon cika(p) niya ko ko kani kor okay ya(n) って。こう、あの、ころばしころばし、あんね、

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、歌によって、踊りの人も張り切ってやるしね、

千葉：うーん。

キヨ媼：ただ、極端に言って、より、やっぱりね、張り切って歌えば、張り切って踊るっていうこと。

千葉：それ、なんか練習のしかたっていうのはあるんですね。

キヨ媼：なんぼ、練習したってねえ、あの、やれない人はやれないんだ。

千葉：やらない。だ、誰かの聞いて、自分もまねするっていう感じ。

キヨ媼：そうだ、よし、この人の声はいいから、この人の歌で、

千葉：うん。

キヨ媼：やりましょう、やってみようって言ってやるのさ。

千葉：んん。

キヨ媼：だけどね、あれだよ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、今の人だら、あの、うーん、昔の人みたいなことはできないわ。

千葉：それ、入れる、節を入れるところっていうのはどこでもいいんですか。♪niya…niya ko ko、

キヨ媼：(笑) 【1:13:05】 ♪niya ko ko nita ro pon cika niya ko ko kani kor okay ya(n)

千葉：(途中からユニゾンで合わせる) ♪ko nita ro pon cika niya ko ko kani kor okay yan、これ、
 どういう意味ですか？ niya ko ko って。意味、意味分かんないんですか。

キヨ媼：【1:13:20】(♪) niya ko ko nita ro pon ci…、niya ko ko ったら、ni のあの弓でもって、いま、
 鳥 po あの、獲るっていう意味□□。

千葉：ああ。

キヨ媼：うん。

千葉：♪ni ta ro pon …nita ro pon cikap ですか？

キヨ媼：んだ。ポンチカ、pon cikap 今とるって、

千葉：pon cikap ね！

キヨ媼：に、

千葉：nitay ro pon cikap、♪pon cikap、niya ko ko kani kor okay yan、kay yan っていうたら？

キヨ媼：うん。♪カーンコーローカイヤン、っていくの。

千葉：♪カーンコーロカイヤン、

キヨ媼：うーん、上手だ、上手だ。

千葉：うん。なんとか、1個覚えて帰ろう、♪niya ko、(笑)

キヨ媼：(笑) □□□ん。

千葉：♪niya ko ko nita ro pon cika…ん？うん、も、

キヨ媼：うんだ。

千葉：♪ni... ko、ko o o o っていうのがね。♪ko ko nita ro pon cikap niya k、なんかオンが違いますね。

キヨ媼：ああ、いや、あつとから、♪niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kani kor okay yan っていうの、

千葉：♪niya ko ko nita roppon cikap niya ko ko kani kor okayan,

キヨ媼：♪ka, kayan

千葉：♪kani kor okay yan、

キヨ媼：うんだ、うんだ、うんだ。(笑)

千葉：いやあ、いいな、でも、これ、できたら気持ちいい(笑)、ねえ、できたら気持ちいいね。

【1:15:00】

キヨ媼：うんだ。

千葉：コー、そうか、もうじゃあ、練習のしかたっていうのはないんですね、もう聞いて覚えて、

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、黙ってね、3人いたら3人いて、こ、私が歌うでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：私のようにやっごらんって、こう言うべき、

千葉：うん。

キヨ媼：だ一人一人歌ったら、やっぱり、オンが違うわ、みんな。

千葉：うんうんうん。

キヨ媼：で、わしみたいな、あの、おかしな声する人いないんだ、みんな、今のあれだからね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：今の、どんな人でもね、うん、これって、うん、昔のアイヌのオン出す人っていないんだわ、本当。

千葉：うん。まあ、でも、それ、あまりやらないからでしょう。

キヨ媼：やらないからだ。

千葉：ねえ、毎日やれば、できるようになりますよね。うん。みんな。

キヨ媼：だから、鶴の舞でもそうでしょう。極端に言ったって、あれだから。

千葉：♪hundori っていうやつですか？

キヨ媼：私はフンドリっていかないの。

千葉：うん。

キヨ媼：私の歌は、やっぱり、あのね、釧路の人で、フンドリっていかないの。

千葉：なんていうんですか。

キヨ媼：サルルンカムイっていくんだ。

千葉：サルルンカムイ、ああ、サルルンカムイか。

キヨ媼：うん、□□□□風邪ひいてるもの

千葉：フンドリっていうのは、あれは、やっぱりツルのことをいっているんですか？ フン、

キヨ媼：フンドリったら、トリっていう意味だべさ、

千葉：トリですよ。

キヨ媼：フンドリったらトリでしょう？ あい。

千葉：うん。

キヨ媼：わしらはフンドリっていかないの、サルルンカムイっていくの。

千葉：うん。ツルですね、本当に。

キヨ媼：うん。サルルンカムイっていったら、あの、ヨシのなかによく入るっていう意味でだ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：【1:16:48】 ♪sarurun kamuy aho aho ho (ho はほとんど ko) ,

hopuni eto aho aho hoy ho, ene okay aho aho hoyho

sarurun kamuy aho aho hoyho, hopuni eto haho aho hoy ho, ene okay aho aho hoyho

sarurun kamuy aho aho hoyho, hopuni eto aho aho hoy ho, ene okay aho aho hoyho って、こう、

千葉：うーん。

キヨ媼：こういうふうにしていくの、わしらの先祖はね。

千葉：うん、うん、うん。それは一人で歌うんですか。

キヨ媼：うん、うん。それは一人で歌□□□。

千葉：一人で。

キヨ媼：いや、今なら、みんな交代交代で歌うけど、昔ったら、自分一人で歌って、踊らせるの。

千葉：うん、みんなが踊る、ああ。

キヨ媼：歌に合わせてやれば、今、やっぱり歌ったって、あの、フンドリもサルルンカムイも同じだから、この、あの、節でもって、踊るんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：だ、私はね、たまにいくと、私の歌で踊ってみれっていったっけ、やっぱり踊れるんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：したけど、今度、あの、フンドリ、フンドリって、いくから、

千葉：うん。

キヨ媼：その、フンドリのほう言いやすっていうの、むこう。

千葉：うーん。

キヨ媼：♪hundori huncikap a ho, a ho hoy ho って、こう、みんないくでしょう？

千葉：うん。うん。

キヨ媼：ただ、♪hundori huncikap a ho a ho hoy ho、これ、これでいくけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：私の、あの、歌は、また違うの。

千葉：うーん。

キヨ媼：うん。

千葉: サルルンカムイ、それ、あの、♪sarurun kamuy って、ha^{o-o-o-o} ってやりますよね。ウウウ
ウ、

キヨ媼: そうだ。

千葉: うん

キヨ媼: それがね、

千葉: うん。

キヨ媼: あの、その、踊りに合わせるために、

【1:20:00】

キヨ媼: その、こころ、あの、喉でもって、あの、こう、繰り返すのさ。【1:20:05】♪sarurunkamuy
aho a ho hoy ho, hopuni eto ha ho a ho hoy ho, ene okay a ho a ho hoyho 【1:20:40】ってこう、こう
やっていく。

千葉: 要するに、その拍子をとるために、♪オオオオ オオオオ オオオオって、

キヨ媼: そうだ、これでやっていくから、

千葉: うん。

キヨ媼: お、ほ、あの、そう、それで、踊っていくからね、

千葉: 適当にやっちゃあいけないわけですね。

キヨ媼: そうだ、ただ、ただ、

千葉: めちゃくちゃにやっちゃあ、

キヨ媼: あの、極端に、【1:20:55】♪hundori, huncikap って行ってやって、踊りに合わないの。

千葉: うん、うん、うん。

キヨ媼: だから、それを、今度、うん、

千葉: うん。

キヨ媼: 繰り返して、こう、し、うん、節入れなきゃね、踊りに合わないわけ。

千葉: うん、うん、うん。で、数は決まっていらないですよ。

キヨ媼: うん?

千葉: (手拍子を4母音ごとに打ちながら) 【1:21:10】♪アアアア アアアアって、こう、

キヨ媼: (笑)

千葉: 例えば、(手拍子を3母音ごとに打ちながら) 【1:21:14】アアア アアア アってやったらずれち
やいますもんね。

キヨ媼: うん。

千葉: うん、ちゃんと、ちゃんと、【1:21:20】♪アアアア アアアアって、

キヨ媼: だからね。

千葉: うん。

キヨ媼: ♪フ、フン、ド、リ、

千葉: うん? エー ♪サール

キヨ媼: □□□□□□、サルルンカムイだら、サ、フンドリ、だって、【1:21:31】♪hundori huncikap

a ho a ho hoy ho って、

千葉：うん。

キヨ媼：で、こういう、これ、節で、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：やって踊りに合わせていくとこ、

千葉：で、なんか拍子が少し分かるわけ、

キヨ媼：そうそうそうそうそう、そうやっていくの。

千葉：ああ、なるほどね。

キヨ媼：うん。だからね、

千葉：そうか。

キヨ媼：だからね、サルルンカムイ、あの、つていえば、^{よし}葦の、あの鳥の神さんだ。

千葉：ええ、ええ、ええ、ええ。

キヨ媼：ホプニエトったら、今、踊り、踊りに、お、んな、今ね、羽、ああ、羽置いて、飛びたいけど飛ばれないと。

千葉：ホプニ、

キヨ媼：子ッコが。

千葉：hopuni etu ?、え、hopuni、

キヨ媼：ホプニエト。

千葉：エトウ、

キヨ媼：うん、エト、

千葉：エト。うん。

キヨ媼：うん、今、飛ぶ、と、あの、飛んで、飛ぶ、前、前の歌だ、ね。

千葉：うん。

キヨ媼：【1:22:29】 ♪hopuni eto ha ho a ho、

千葉：それは、ア エ 「コ」って言ってるんですか？

キヨ媼：んだ。【1:22:39】 ♪アアアア ホオオオオオオ、

千葉：それ、

キヨ媼：♪アアアア ホオアア アアアン、ホオオイ、ホ って [けつのおと] □ (?)

千葉：それは、意味、意味ないですよ。そ□の、

キヨ媼：そうだ。ただ、その、

千葉：♪アアアア、コオオオオ、うん。

キヨ媼：ただ、その、あの節さ、節つけてやって、

千葉：節、節で、うん、うん。

キヨ媼：それでお□と□って。

千葉：うーん。そうか。エネオンカイヤっていうのは、

キヨ媼：ん？

千葉：エネオンカイ、

キヨ媼：♪ene okay ったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：おまえみたいな子っこが飛べるべか、っていう意味、

千葉：ああ。

キヨ媼：うん。エネオカイったら、おまえっていうわけ、

千葉：うん。オカイ□□

キヨ媼：ね、親がそういって、いっているところ、アイヌの人がつけた。

千葉：ふーん。

キヨ媼：エネオンカイやっていったら、おまえ、飛べるべかっていう、その、親のことだ。

千葉：ああ、じゃあ、まだ、その、子っこヅルの話だ。

キヨ媼：うんだ、そそそそ、そうだ。ああー、もう、コッコづるの (笑)

千葉：(笑) ふーん、そっか。いやあ、初めて聞いたな。この、

キヨ媼：サルルンカムイ、初めて聞いたでしょ？

千葉：うん。

キヨ媼：だから、私、それで、あの、はじ、あの、やれったけど、やれ、みんなやれないもん。

千葉：うん。

キヨ媼：やらない。面倒くさいってやらない。

千葉：じゃあ、今度、それ、はやらせましょうよ。(笑) はやらせて、みんなでやろう。

キヨ媼：だからね、私、

千葉：うん。

キヨ媼：今は、もう、もう声もくさ□□□□、声も出ないけど、ちゃんとね、これにとつてさ、

千葉：うん。

キヨ媼：それに合わせて歌ってごらんつつたつてね、嫌がる。みんな。面倒くさいってね。

千葉：踊りは決まっているんですか？ その、サルルン

キヨ媼：そうだ、決まって、決まってるよ、踊りは。

千葉：いや、今の、その、フンドリとは違うわけ、

キヨ媼：フンドリとね、サルルンカムイと同じ踊り。

千葉：おん、踊りは同じ、

キヨ媼：みな同じ、

千葉：うん。

キヨ媼：だ [から] もう、オン違うだけ。

千葉：ああ、そうか、そうか。

キヨ媼：うん。

千葉：じゃあ、なんか、拍子が、こう、違うから踊りにくい、慣れないから踊らない、

キヨ媼：そうそうそうそうそう。だからね、

千葉：やろうと思ったらできますもんね。

キヨ媼：やる、やる、やる、やれるよ。やれないことないもん。

千葉：その、あの、フンドリの場合は、そのあと、なんか、変わってくるでしょ？ フンドリのあとに、

□□□

キヨ媼：【1:24:38】 ♪hundori huncikap a ho a ho a hoy ho

千葉：なんか、

キヨ媼：で、それでいくんだもの。つり(?)があつて、

千葉：♪a ho、a ho、haka oi っつやつ、

キヨ媼：うん、したから、【1:24:55】 hundori huncika 【1:24:57】 ♪a ho、

【1:25:00】

キヨ媼：a ho hoyho a ho a ho っついくべき。それでもう繰り返して、【1:25:07】 ♪hundori huncikap a ho a ho hoy ho、こ、こ、これでいくんですよ。

千葉：それ、あの、

キヨ媼：繰り返していくんだ、それで。

千葉：親になっても歌変わんないんですか？ かん、

キヨ媼：んん、やってない、うん、ね、うん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：huncikap っつ、それでいくんだ。

千葉：ああ、そうか。

キヨ媼：うん。じゃあ、今度行って、き、あの、踊り見てごらん。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：まず、ほんで、

千葉：いや、見ましたけどね、踊り。でも、あれ、ほら、時間短いから。

キヨ媼：そうだ。

千葉：ん。ね。

キヨ媼：フンドリ、これ、また入ってんでないのかな。わし、もう、あの、喉渴くもんだから、水飲んでばっ、

千葉：ああ、なんか入れましょうか、

キヨ媼：はい？

千葉：僕、入れましょう。いや、いいです、いいです、座っててください。

キヨ媼：私、あのね、お手洗い行くの、

千葉：ああ、そうか。

キヨ媼：ね、お湯のみ、水飲んで、お手洗いいって、もう、そろそろ、

千葉：いやあ、いろんな話聞けて。うーん。♪サルルーンカーム、

(しばらく間)

キヨ媼：ほんとに日短いから、すぐ晩になるものねえ。これからどこまで行くの？

千葉：これからね、終わったらば、

キヨ媼：わっか？

千葉：くし、釧路のほうに行ってみようかなと思いますけど。

キヨ媼：ああ、そうですか。

千葉：はい。もう、じゃあ、今日はこのへんにしときましようか。もう、ね。

キヨ媼：ああ、そうですね。もう、あの、この、やってくだ、もう、それで、まだ回るときあったら、
なにか、また、

千葉：ええ、また、また来ます。こっちのほうに。

キヨ媼：うーん。私はずっといるけどね、ろくなことできないけどさ。

千葉：いやいやいや、もう、こんなに、いろんな、

キヨ媼：ねえ、はい、はい。

千葉：話。□□□□□□

キヨ媼：うーんさー。

千葉：(時計を戻している) どうか。懐かしいですよ、この時計。

キヨ媼：うーん。

千葉：昔うちにもあったな。

キヨ媼：まあまあ、これで休ませてもらいます、消してください。

千葉：はい、はい。

キヨ媼：どうもご苦労さまでした。

千葉：いやあ、本当に、貴重な、

キヨ媼：まりも祭りとかね、また来てください。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：ね。(終了)

【1:28:46】

以上 Kiy911118 日川キヨ媼宅にて収録

2 : 1992年5月15日 (ファイル名 : Kiy920515) 53' 50"

キヨ媼 : 時間になったらね、

千葉 : はい。

キヨ媼 : あの、わし、手挙げるから止めてね、いったんね。

千葉 : はい。

キヨ媼 : 映すんですか、顔も。

千葉 : はい。あ、まずいですか。

キヨ媼 : いいんですよ。

千葉 : はい。

キヨ媼 : だけど、わし、あの、アイヌの着物も着らない、

千葉 : ああ、いいです、いいです。

キヨ媼 : いや、いいですよ。わしも、ちょっと羽織るだけだから

千葉 : あ、こんにちは。

男性 : こんにちは。

千葉 : お邪魔してます。

キヨ媼 : あ、あ、あ。

男性 : これから何、録音するの？

千葉 : はい。

キヨ媼 : 録音するの。

男性 : 何を録音するの？

キヨ媼 : え？

男性 : ムックリ？

キヨ媼 : ムックリじゃ□、歌！

男性 : 歌？

キヨ媼 : ムックリ入れないの？ ムックリ、歌だけだ。

千葉 : はい。時間があれば。

キヨ媼 : 何分の時間なの。

千葉 : 今日は歌を中心にいきたいと思います。

キヨ媼 : ああ、おまえ、さ、それさ、やっしまわなかったら、カタカタした、歌入るから。

男性 : ああ。

キヨ媼 : ああ

千葉 : で、あの、テレビ局なんかのものとは違って、あんまり、そんなにいいもんじゃないですから、あの、気楽にやってください。あの、後で、いろいろ思い出したりするときのためのものなので。

キヨ媼 : (笑) たくさん、あの、歌、もう、たくさんあるんだけど、いろいろあるからね。

千葉：はい。いくつぐらいあるんですか、だいたい、歌は。お茶、いただきます。

キヨ媼：お茶飲んで。まあ、この運転手が外へ出るから。はな、あの、あるから。

男性：俺、俺、見てたら駄目なの？

キヨ媼：え？

男性：見てたら駄目なの？

キヨ媼：う、ええ、見たら口、やっぱり、いや、イベ(?)やないんだね。(笑) 恥ずかしいからなあ。

(笑) 本当はね、歌っても、なんでもねえ、

千葉：はい。

キヨ媼：あの一、はやしが入るんですよ。

千葉：はい。

キヨ媼：歌ってる、真ん中にね。

千葉：はい。

キヨ媼：だから、1人ならゆるくないんですよ。

千葉：はい。

キヨ媼：ゆるくないってば、あれだけど、はやし入れば、たいした違うの。歌もね。1人だらゆるくないの。2人ぐらいで組んでさ、

千葉：はい。

キヨ媼：ええ、これは何の歌とか、こんな歌とかって言いながらね、ほいで、歌、私が歌えば、そのなかに、はやし入るとかってね。そうい、そうやらないとね、あの、面白くないんですよ。

千葉：はやしも歌によって決まっているんですか。

【0:05:00】

キヨ媼：それは、でたらめに、あの、♪ホイホイホイホイ、ホイホイホイなんて、

千葉：はい。

キヨ媼：入れられないからね。やっぱり、歌のあいだに、どのぐらい、

千葉：うん。

キヨ媼：はやし、いるとか、

千葉：ええ。

キヨ媼：これだけいるとあってね、ちゃんと、あるんですよ。ニミンナ(?)、あの、あんた、持ってたんだから、向こうへ。

男性：持ってった。

キヨ媼：うん。したら、かたったからさあ、値段つけてな。

男性：うん。

千葉：これ、止めてもいいですか、ちょっと音が。(時計のこと)

キヨ媼：止めて、うん。

千葉：はい。

キヨ媼：前にも止めた口。

千葉：はい。こないだ来たときも、

キヨ媼：ええ。

千葉：止めた。後でまた合わせます。

キヨ媼：うん、止めといてちょうだい。あ、やればよかったな、ほんとに。

千葉：え、

キヨ媼：はい、いいです。

千葉：はい。

キヨ媼：いいかい？

千葉：はい。

キヨ媼：あのね、

千葉：はい。

キヨ媼：私、一番先に、あの、ウポポはね、皆さんと味わって、

千葉：はい。

キヨ媼：大いに踊りましょうという意味の歌を歌います。

千葉：はい。

キヨ媼：ね。

千葉：手拍子、あつたほうがいいですか。

キヨ媼：はい。あんまり、こうね、大きくたたかないでくださいね。静か、こう、

千葉：はい。

キヨ媼：【0:06:30】(手拍子)このぐらいだよね。【0:06:33】♪a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo、

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo, a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo,

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo, ho ho, utarebunbarewa rimsere yan a he enyo,

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo, a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo,

ho ho, utarebunbarewa rimsere yan a he enyo, hoy hoy ho ho,

utarebunbarewa rimsere yan a he enyo, a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo, ho hoy 【0:08:01】

はい、ちょっと、あの止めて、それで、

千葉：はい。

キヨ媼：別なウポポやるからね。あのね、今は、あの、utaribunbare からやりましたが、その、あの、後のみんなで大勢で踊って、また、あの、いろいろね、

千葉：はい。

キヨ媼：あの、い、ウポポもたくさんあるんですよ。

千葉：はい。

キヨ媼：ありますからね、いまの。また、その続きの、ウポポ、またやってみますけどね。

千葉：はい

キヨ媼：はい。【0:08:36】♪hoy hoy, iya hoy hoy yo, a iya hoy hoy yae, a iya hoy hoy yo, ha iya hoy hoy yae, a iya hoy hoy yo, ha iya hoy hoy yae, a iya hoy hoy yo, hoy hoy, iya hoy hoy yae, ha iya

hoy hoy yo, a iya hoy hoy yae, ha iya hoy hoy yo, ho hoy, he coy he coy hoy yae, a iya hoy hoy yae, a iya hoy hoy yo, a iya hoy hoy yae,

【0:10:00】

a iya hoy hoy yo, ho hoy, 【0:10:06】 はい。

千葉：はい。

キヨ媼：あの、はい。

千葉：あの、今の、

キヨ媼：これ、

千葉：今、iya koy koy yo っていうのは、

キヨ媼：そうそう、iya hoy hoy yo っていうのは、みんなで、また、[ちえんちに] (?)、あの、踊ってますっていう意味でやるの、ね。

千葉：あの、それを、なに、シャモ歌いっていうんですか、あの、

キヨ媼：アイヌのみんな、

千葉：いやいやいや、あの、シャモが歌うようにね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、ウウウウってつけないで、

キヨ媼：ああ、そうそうそうそうそう。

千葉：で、できますか、そういうの。

キヨ媼：うん、やりますよ、やれる□ったら、あんた、歌ってみる□ (笑)

千葉：はい。

キヨ媼：これ、かけてね (録音を再生して、の意味)、歌えばいいの、

千葉：はい。

キヨ媼：そしたら、私が歌ったの、ああ、そうか、

千葉：ええ。

キヨ媼：ああ、こういうふうに行っているなって、やってみればいいの。

千葉：はい。もし、

キヨ媼：それからね、

千葉：ええ。

キヨ媼：もう一つ、あの、あの、歌う、変わった歌、歌ってみるけどね、

千葉：はい。

キヨ媼：あの、風がね、

千葉：はい。

キヨ媼：あの、matta rera apaca osma、あの、uran nis ったらね、

千葉：はい。

キヨ媼：風がね、

千葉：はい。

キヨ媼：吹いてきて、うちの前、周りはブーンブーンと吹いて、

千葉：ええ。

キヨ媼：いますっていう意味。アイヌ、あの、風のウポポの、あの、これね。

千葉：はい。

キヨ媼：風吹いてきたっていう、いう、あの、アイヌ語。私ひと、やってみるからね。

【0:11:20】 ♪matta rera apaca osma uran nis kanto korikin

matta rera apaca osma uran nis kanto korikin, ho hoy

matta rera apaca osma uran nis kanto korikin, hoy hoy

matta rera apaca osma uran nis kanto korikin, hoy hoy

matta rera apaca osma uran nis kanto korikin, hoy hoy

matta rera apaca osma uran nis kanto korikin, hoy hoy hoy. 【0:12:36】

千葉：はい。

キヨ媼：も、も、

千葉：はい。大 [丈夫です]。

キヨ媼：いいの、これ、かけ、かけっぱなしで。

千葉：はい、大丈夫です。

キヨ媼：はい。それから、何をやったらいいかな。

千葉：今のは、

キヨ媼：matta rera, apaca osma ったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：上から、上から風を吹いてきて、うちの前をくるくる、戸をね、戸の間をくるくる風が吹いてきましたと。uranis ったら、その、そうして風吹いて、また天に昇って、う、か、風吹いていきましたっていう意味なの。

千葉：あの、これ、

キヨ媼：matta、

千葉：釧路の歌なんですか？

キヨ媼：はい。私の歌です。私は釧路ですから。

千葉：はい。白糖ですか、釧路、

キヨ媼：釧路です。

千葉：釧路ですか。

キヨ媼：はい。

千葉：いくつまで釧路にいらっしやったんですか。

キヨ媼：私、子ども時分、

千葉：ずっと。

キヨ媼：せ、先祖は、私の親は釧路だったからね。

千葉：釧路、

キヨ媼：だから、私の子ども時分、

千葉：ああ、そう。

キヨ媼：釧路に育って、育ってました。

千葉：はい。

キヨ媼：それで、こっちのほうへ、よ、嫁に、きま、来ました。

千葉：ええ。

キヨ媼：一人前になってから阿寒湖へ来まして、

千葉：はい。

キヨ媼：それで阿寒湖に暮らして、暮らしていて、ここまでまた来ました。

千葉：はい。

キヨ媼：はい。

千葉：utare、utareobunbarewa も、あれも、それは釧路の歌ですか？

キヨ媼：そうですね。utaribunbare っていうたら、みんな、まあ、私らの、utari のほう、みんな、集まって大いに踊りましようっていう意味で歌ってる。

千葉：iya koy koy も、

キヨ媼：ん？

千葉：♪iya koy koy yo っていうのも、

キヨ媼：♪niya ko ko ni… はあ？

千葉：さ、あの、2番目に歌った歌も、釧路の、

キヨ媼：はい、みんなそうです、

千葉：みんな釧路、

キヨ媼：釧路の歌ですよ。

千葉：ほかにもまだ、たくさんありますか。

キヨ媼：たくさんあります。うん。それから、あの、もう一つやるから。1つ、あと、1つだけね、やってみるから。まだ時間ある？

千葉：はい。まだあります。

キヨ媼：ありますね。

千葉：はい。

キヨ媼：♪ホイーホイ、もうね、あの、自分が、こう、一人で、でね、今までウポポもやったことないから、たくさんあるウポポでも忘れてしまうんですよ。

千葉：はい。

キヨ媼：ねえ。だから、本当に、

【0:15:00】

キヨ媼：いろんな歌、ウポポがあるけど忘れてね、まあ、自分で忘れないうちだけど、あの、歌ってみるからね。

千葉：はい。

千葉: 【0:18:45】 例えば、あの、iwa teksam っていうところは、あの、♪iwa tessam ってやったり、
♪iwa tēs sām って裏声使ってますよね。

キヨ媼: そうそうそうそうそう、そうなの。

千葉: はい、はい。

キヨ媼: 本当のアイヌのね、

千葉: はい。

キヨ媼: 歌はそうやっていかな、なんでもね、

千葉: ええ。

キヨ媼: 【0:18:59】 ♪aa eeee saa oooo ūū oiii saa oooi ii saa oooo ii iiiii 【0:19:08】 って、そのね、あ
のでたために [やんないの] 声でもってね、これはね、裏声って、あの、あの、クットモレットって
ね、

千葉: クットモレ?

キヨ媼: クットモレットってね、

千葉: ああ、クットモレット、

キヨ媼: うん。クットモレットったら、その、この喉の、の、

千葉: ええ。クットモってというのは、

キヨ媼: クットモってというのは、これね。その、

千葉: はい。

キヨ媼: レットってというのは、【0:19:27】 ♪aee eeee eiee eee een oooo heee eeei eehowa oooo o'oi ii
ee en 【0:19:39】 ってや、(咳き込む) はい。

千葉: それはやり方は決まっているんですか。

キヨ媼: はい、あの、でたために、やっぱりやらないんだわ。

千葉: いれる場所も、

キヨ媼: そうそう。うーんと、クットモレットってね、これね。これね、

千葉: クッテってというのは何の

キヨ媼: あの、クットモレットったら、

【0:20:00】

キヨ媼: 喉の、あの、

千葉: レットは鳴らすですよ。

キヨ媼: クッ、うん、クットモレットったら、喉の、

千葉: 喉の、

キヨ媼: だけで、あの、声出すっていう意味だ。

千葉: それ、どうやるんですか。

キヨ媼: そう、

千葉: オウウウウウウってやるんですか、

キヨ媼: うん。それでいくの。

千葉：はい。やり方は、何種類かあるんですか、それは。

キヨ媪：うーん、すぐ、男のやつもあるし、女のやつもあるしな、あるですよ。うん。

千葉：それをつけないで歌うってということもあるんですか？

キヨ媪：ん、

千葉：そのクットモレットをつけなくてやるってということもある、

キヨ媪：まあ、その人によってね、昔の人はね、あの、いろいろ声出したけどね、

千葉：ええ。例えば、子どもに最初教えるでしょ？ 歌を。

キヨ媪：うん。

千葉：そのときは子どもはできないですよ。

キヨ媪：ええ、そうそうそうそう。

千葉：そういうときは、

キヨ媪：子どもは、やっぱり、黙って聞いててね、やる子もいるしさ。やれる子もいるし、やれない子も、今だってそうでしょう？ アイヌで、アイヌであっても、ウポボやんなさいったら、やっぱり、うーん、文句だけならなんぼでも言うさ。

千葉：ええ。

キヨ媪：でも、やっぱり、この、ここで〔はじま〕(?)を、この喉でもって、どこで、こういうふうにして回して、どこでこうするっていう人、なん、めったにいないんだわ、大人でもね。ねえ、やる人っていないの。だけど、子どももみんな同じ。子どもからに〔やらしてみれば〕(やる人もいれば、か?)、その子どもによってやる子もいるし、やれない子もいる、って、そういう意味になる。声の良い、良い子もいるし、声が悪い子もいるし、そうなの。

千葉：すごく変な質問なんですけど、

キヨ媪：はい。

千葉：あの、クットモレットを使わない歌い方っていうのはできるんですか？⁷

キヨ媪：あー、んー、いや、そうだね。私らは、もう、なんでも、その、喉、歌でね、

千葉：ええ。

キヨ媪：歌で、のどでもってこなして、やるほうだからね、でたらめな、アットコ コットコ カツとかっていうことはできない。だから、やっぱり、そのね、喉でもって、あの、節回しだから。

千葉：うん。

キヨ媪：まあ、和人(わじん)としたら歌なんだね、これね。

千葉：ええ。

⁷「クットモレット」は歌のジャンルの一つであると考えられる。ここで媪は、節を回す歌の例として、クットモレットという歌のジャンルについて言及したと考えられるが、千葉はこの時点では「クットモレット」を「節回し」の意味で捉えており、会話には若干のズレが生じている。会話が進むにつれて、媪も千葉の意図を理解したためか、会話のズレは小さくなっているように思われるが、実際のところ、「クットモレット(喉の中を鳴らす)」は、節を回す技巧を言い表す語ではあるが、基本的にはジャンルの呼称以外の意味は持たようであることが、1993年5月19日の会話(16分頃)で確かめられている。

キヨ媼：だから節回し、ここでこういう節回しとか、ここでこうだとかって。

千葉：例えば、あの、こないだ来たときに、僕、あの、サルルンカムイの歌を、えー、聞かせていた
だいたんですけど、

キヨ媼：うん。(笑)

千葉：その元のかた、あの、まねができないんですよ。

キヨ媼：ああ。

千葉：あの、♪サルルンカムイってやりますよね。

キヨ媼：(笑) サルルンカムイかい？

千葉：はい。その、

キヨ媼：(笑)

千葉：これ、さ、全部声を震わせているでしょう？

キヨ媼：そうだ。

千葉：だから、その、

キヨ媼：そういうふうにしてやらないんきゃなんないと思ったら、なんにも、

千葉：ええ。

キヨ媼：【0:22:39】♪サルルンカムイって、♪アアアア ホオオア アアアンア アアアア
ホオオア アアアンア ホオオイ、こうゆ、していったでしょ、あ、あ、戸開けないで、ばあちゃん、
入らないで、ちょっと、あの、あの、言うわ、ちょっと待つて。あの、録音入れてるから入らないで
ちょうだい。ちょっと、さ、しま、すいません。あの、

千葉：すみません。

キヨ媼：はい、に、閉めといて。そとも閉めればよかった、向こうも閉めればよかったね。

千葉：すみません、[閉め忘れて]、録音しています。

キヨ媼：大きく言わなきゃ聞かないの。

千葉：あ、大丈夫で

キヨ媼：(笑)

女性：□□□

千葉：ここ閉め、ここ、閉めますけど、

女性：え？

千葉：閉めますけど、大丈夫ですか？

女性：はい。

千葉：なにか、置いときます？

キヨ媼：(笑) いいよ、閉めなさい、なんか野菜とってきた、うちのばあちゃん。

千葉：フキを、フキを置いてった。

キヨ媼：サルルンカムイのやっていた、あの、

千葉：ええ。

キヨ媼：それだっけね、やってやれないこともないし、やっどこ、やあ、あの、やってみたかい？ そ

のウボボ。

千葉：あの、だから、ふる、全部震わせてるんでね、その、元がどうかたちなのか、よく分からないんですね。例えば、あの、utari obunbarewa だったらね、

キヨ媼：うん。

千葉：その、あれは、ん、うまくないですけどもね、

キヨ媼：うん。(笑)

千葉：【0:24:12】 ♪utari obunbarewa rimse re yan aaa hooo hoyyooooo ってやりますね。

キヨ媼：そうそうそうそうそう。

千葉：それで、

キヨ媼：上手ですよ。

千葉：こない、こないだ教わったんですもん。

キヨ媼：うん。

千葉：それでね、

キヨ媼：うん。

千葉：うん。あの、これは、例えばね、なんにも知らないシャモが歌ったら、

キヨ媼：ああ。

千葉：♪ウータリオープンバーレワーアア リムセーレーヤン、アーホーホイヨーオーって歌、

キヨ媼：そう、そうだ。

千葉：歌いますよね？

キヨ媼：ん。みんな、結局ね、

千葉：ええ、

キヨ媼：あの、たくさん大勢アイヌ、メノコいてもね、

千葉：ええ。

キヨ媼：黙って聞いてれば、それでいってるんだよ。

千葉：はい。

キヨ媼：うん。

千葉：で、

キヨ媼：わしらの節と違ってやってる。

千葉：ええ。

キヨ媼：それでいいの、あんたたちは。

千葉：これ、これは、もう、全然違う歌になっちゃうんですか？

キヨ媼：いやあ、そんなことはないです。

【0:25:00】

千葉：そ、これは、

キヨ媼：それでいいの、文句が同じだから。

千葉：ええ。

キヨ媼：ね。

千葉：ええ。あ、文句が同じだったら、

キヨ媼：同じだったらねえ、

千葉：ええ。

キヨ媼：どんな節でも、文句とさあ、あの、やればそれでいいんだもの。うん。

千葉：ええ。これ、

キヨ媼：ウタレブンバレかい。

千葉：ああ、そ、

キヨ媼：【0:25:13】 ♪utarebunbarewa rimse [re y] an aaa heee enyoo っていってるべき、わしらはね。

千葉：ええ。

キヨ媼：ただ、【0:25:22】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a he iyoo (節を少なく歌っている) って、極端に、こういうわけ。

千葉：ええ、はい。

キヨ媼：それでもい、^{とお}通っていくの。

千葉：サル、

キヨ媼：文句が同じだから。

千葉：ああ。サル、

キヨ媼：節は入れなくてもいいから、文句は同じだから、

千葉：うん、うん。ええ。

キヨ媼：結局、それで通るんだ、うん。

千葉：サルルンカムイをそういう歌い方することができますか。

キヨ媼：やれる、う、やれるさ、やってやれないことはない、

千葉：た、試しに。

キヨ媼：うん。サ、ソ、サ、

千葉：サ、♪サールルンカムイーですよ。

キヨ媼：やってごらん、あんた。

千葉：いや、僕、ど、

キヨ媼：【0:25:52】 ♪sarurun kamuy a a ho oo a a ho oo hoy ho oo, hopuni etoo a ho a ho hoy ho, eneokay a a ho oo a a ho oo hoy ho oo oooo 【0:26:23】 (節を少なく歌っている) ってこれでいけばいいんじゃない。

千葉：(笑) でも、やっぱり入りますね。⁸

キヨ媼：ねえ。

⁸ こんにち改めて聞いてみると、明らかに普通の歌唱より節を減らして歌っていることが理解される(とくに各メロディーの冒頭部において)が、この時は、全く節の付かないストレートなメロディーを期待していたため、やはり節を完全に除去しては歌えないものという印象を持った。

千葉：なかなか難しい、

キヨ媼：それ、それでいくのさ。それでいいの。ね。

千葉：そうか。

キヨ媼：で、おらみたい、ん、自分でやれば、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり黙って聞いていると違うでしょ？ これは極端でいく、

千葉：ええ。

キヨ媼：こうやっていくの。んー、今度自分の、自分のあれで、先祖の、あ、や、うん、やったやつをやらんきゃなんないと思ったら、やっぱり、【0:26:45】♪sarurun kamuy aaaa hooa aaa (以下、節ごとの母音表記は省略) a ho a hoy ho a, hopuni eto a ho a ho a hoy ho, ene okay a ho a ho a hoy ho a 【0:27:21】 って、これで、こういくんだ、

千葉：はい。

キヨ媼：これ、わしの、い、やる、や、これで、や、やらんきゃなんないの。

千葉：みんな、みんな、その、やりやすいように、少しずつ変わっちゃってもいいわけですか？

キヨ媼：そうだ、変わっていいの、みんな、変わってやっているでしょ、阿寒湖行って聞いてごらん。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：私の娘もいるの、

千葉：ええ。

キヨ媼：阿寒湖で、

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：いつ、歌ってるけど、

千葉：ええ。上手ですよ。

キヨ媼：うん、あの、背の小さい女がいたべ。

千葉：はい。

キヨ媼：あれ、私の娘。

千葉：ええ、知ってます。

キヨ媼：うん。昔、

千葉：若い、若いなかでは一番上手ですね、歌。

キヨ媼：下手だか、上手だか知らんけど。(笑)

千葉：ええ。ああ、そうですか

キヨ媼：まずね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、やっぱりね、同じあれでもね、節とカッコと、やっぱり節が大事だんだからね。

千葉：節ってのは、

キヨ媼：んー、そうだ、【0:28:08】♪a ho a ho hoy ho a、これがいくのほんとなの。だけど、ただ、【0:28:19】♪アーホーイ、アーホーって、これはね、

千葉：うん。

キヨ媼：あんまり極端すぎてだめなの、うん。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：聞いても聞きづらいつてこと。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：うん。

千葉：そうですね。

キヨ媼：うん。

千葉：じゃあ、そっか、そっか。

キヨ媼：うん、そっか、そっか。(笑) はい、そういうこと。

千葉：分かりました。

キヨ媼：あんた、消してるの？ お、

千葉：え？ うーん、

キヨ媼：これでいいの？

千葉：はい。いやあ、ちょっと難しいな、でも。

キヨ媼：なに？ 何難しい？

千葉：難しい、とつても難しいですね。あの、元が、元がね、僕はやっぱりシャモだから、

キヨ媼：うん。

千葉：その元があるとね、やりやすいんですね。

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、【0:28:51】♪アー、アーってのがあればね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪アアアアってできますよね。

キヨ媼：うん、いや、

千葉：♪アー、アアアアってで、できるけども、できるけども、

キヨ媼：うん。

千葉：そのアーが、どっか、アーか、アーか、アーか (音程をつけて中、低、高、と歌っている) 分からないとね、⁹

キヨ媼：そうだよ、こう、下げたり、おろ、

千葉：うん。

キヨ媼：うーん、あ、上げたり下げたりするんだから、この、ね、この歌はね。

⁹ 発言の意図は、節をつける前のストレートなメロディーが分かれば、その各音に節をつけて行けば、すっかり節に包まれたような旋律も歌うことができるが、西洋音楽の感覚 (音程でメロディーを感知する習慣のある私たちの感覚) では、そのようなメロディーがわからないと、歌いだす手がかりがつかめずに、歌いづらいつので、節を外したメロディーがあるのならばそれを知りたい、ということを伝えようとしたもの。

千葉：うん。

キヨ媼：それで、あんた、いくんだから、いかなきゃなんないんだから、

千葉：ええ。

キヨ媼：でたらめに、【0:29:15】♪アー、ホウ、アー、ホウツ、ホーイホイッって、これでいったって、

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：聞きづらいでしょう。

千葉：サルルンカムイの場合はね、

キヨ媼：うん。

千葉：【0:29:23】♪サールルンカムイーでいいんですか？

キヨ媼：んだ、んだ。

千葉：♪ムー、ムーですか？（音程を変えて歌っている）

キヨ媼：うんだ。

千葉：サー、

キヨ媼：【0:29:28】♪サールルンカムイー、アーア、ホーウツ、

千葉：♪ホー、ホーオ、ホ、

キヨ媼：【0:29:34】♪アーアホーウッって、2回、こう繰り返して。

千葉：♪アーホー、

キヨ媼：それから2回、また、あの、ホーイホー、

千葉：ホー、

キヨ媼：ん、ああ、ホーイホーオオって、こういくの。

千葉：ホーオって下がる、

キヨ媼：うん、そうやっていくの、うん。

千葉：下がるんですか。

キヨ媼：はい。

千葉：誰か来た。

キヨ媼：うん。

千葉：じゃ、

キヨ媼：また、そのお客さん来た、どうも、来ないでくださいって、さっき断ったのに、くだ□（笑）

千葉：この歌を1曲覚えたら帰ります。

【0:30:00】

キヨ媼：うんうん、覚えた。

千葉：覚えたら帰る。

キヨ媼：うーん。

千葉：まあ、覚え、♪サールルンカムイーハアー、

キヨ媼：【0:30:08】♪アーア、ホーオオ、アーア、ホーオオオって、

千葉：(同時に) ♪アア、ホーオオ、アア、

キヨ媼：2回ずつ繰り返すの。

千葉：ホーオオ、はい。

キヨ媼：ねえ。

千葉：♪アア、ホーオーって下がる。

キヨ媼：うんだ。【0:30:18】 ♪アア、ホーオオオオオ、アア、ホーオオオオオ、ホーイホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、エーネーオーカーイーイ、アアアホオオオオ、アアアホーオオオオオンアアホーイホーアアアアってこれでいくの。(このあたりの歌は、音高を固定して引き延し気味に歌っている)

千葉：エネオカイのどこ、もう一回。

キヨ媼：え？

千葉：エネオカイのどこ。エ、♪エーネー、(音高を変えて) ♪エーネー、ん？(笑)

キヨ媼：(笑) ♪エーネーオーカーイーイ、アアアホオオオオ、アアアホーオオオオオンアアホーイホーオオオオオって、こういくの。

千葉：うん。

キヨ媼：うん、そう。

千葉：エネオは、じゃあ高いんですか。♪エーネーオー、

キヨ媼：(笑)

千葉：(笑) 難しいなあ。♪サールルンカムイイアアアホー(笑) だめ、難しい、

キヨ媼：(笑) 笑ったら駄目だよ。

千葉：そうか。

キヨ媼：そうか。

千葉：難しいですねえ。

キヨ媼：【0:31:23】 ♪サールルンカムイー、アアホーオオオオ、アアホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、エーネーオーカーイーイ、アアアホオオオオ、アアアホーオオオオオンアアホーイホーオオオオ、(節回しの少ない歌い方で)

千葉：(一緒に) ♪サールルンカムイー、アアホーオオオオ、アアホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、ホーイホーオオオオ、エーネーオーカーイーイ、アアアホオオオオ、アアアホーオオオオオンアアホーイホーオオオオ、

キヨ媼：ってこういう、これでしまいだもん。いんでしょ。

千葉：はい。

キヨ媼：なんも。

千葉：節でも全然違いますよね。

キヨ媼：ん？

千葉：節がちよっと違いますよね、僕は。

キヨ媼：節違ったって、みんな、同じ声だったらだれも困らない。

千葉：構わない、ああ、なるほど。

キヨ媼：ねえ。

千葉：そうですか。

キヨ媼：それでいいんだ。

千葉：はい。分かりました。

キヨ媼：うん。

千葉：そうですね。じゃあ、今日は時間がないから、

キヨ媼：うん。

千葉：はい、

キヨ媼：これでね、

千葉：ええ。

キヨ媼：まで、たいてい覚えたでしょう？

千葉：サルルンカムイですね？

キヨ媼：うん。

千葉：題名ってあるんですか？

キヨ媼：え？

千葉：題名、タイトル、タイトルっていうか、

キヨ媼：何、

千葉：うーん、レへ、

キヨ媼：え？

千葉：名〔ま〕、歌の、ウボポの、

キヨ媼：はやしかい？ ウボポの？

千葉：あ、はやしっていうのは、決まっているんですか、これ□、

キヨ媼：そうだね、あいだに、2つ歌ったら、3つ歌ったら、はやしする、4つ歌ったらはやしする
ってあるよ、やっぱり。

千葉：ちょうど、ちょうど区切れの〔組み合わせ〕、

キヨ媼：うんだ、組み合わせね。うん。そしたら、あの、阿寒湖さ行っても、みんな、踊ってるでし
ょう？

千葉：ええ。

キヨ媼：踊ってる聞いているべさ。

千葉：ええ。

キヨ媼：あれ、あんだって、やっぱり、はやし入ってるでしょう。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：男の踊りでもね。

千葉：ええ。

キヨ媼：そうなんだよ。

千葉：フチは、歌は誰に教わったんですか。

キヨ媼：私は、私の先祖が、あの、狩人だったから

千葉：ええ。

キヨ媼：熊祭りのときは必ずね、

千葉：ええ。

キヨ媼：クマとってくるでしょう。

千葉：ええ。

キヨ媼：そしたら、みんな、大勢集まってウポポやる。

千葉：ああ、じゃあ、そういうとっから【おぼえ】て、

キヨ媼：ええ、そうだ、いろいろなウポポやるの。

千葉：うん。

キヨ媼：それ、黙って聞いて覚えるの。

千葉：フチ、あの、ハポ、ハポ、ミチの名前はなんておっしゃるんですか。

キヨ媼：私のハポはね、あの、あー、んー、シタ、コイって名前なの、シタカラコイって。シタカラ
っていう名字を持って、コイっていったの。

千葉：シタカラコイ、

キヨ媼：はい。

千葉：なんか意味が、下から来いってみたいです。¹⁰

キヨ媼：ソイ、

千葉：ええ。

キヨ媼：シタカラっていうところにね、

千葉：シタ、シタカラ、

キヨ媼：生まれたからね、

千葉：はい。

キヨ媼：シタカラ、もう、昔ね、

千葉：はい。

キヨ媼：シタカラコイっていって。

千葉：コイさんっていう、

キヨ媼：うん、そうなの。

千葉：はい。それは、それは、あれ、あの、

キヨ媼：アイヌレも、やっぱり、あるんだよ。

千葉：アイヌ名もある、

キヨ媼：アイヌの名前って、

千葉：ああ。

¹⁰ 失礼を反省している。

キヨ媼：2つあるの。

千葉：はい。アイヌ名はなんとおっしゃるんですか。

キヨ媼：トゥットウルセ。

千葉：え、

キヨ媼：トゥットウリセ¹¹。

千葉：トゥットウリセ。

キヨ媼：うん、トゥットウリセって、わしの母親。トゥットウリセっていったら、ぱっと落ちることになるの、トゥットウリセったらね。

千葉：ぱっと落ちる、ええ。

キヨ媼：たら、うちの母親っていう人はね、

千葉：ええ。

キヨ媼：あの、なんでも、その速い人だったもんだから、

千葉：ええ。

キヨ媼：上から下落ちるようにね、

千葉：ええ。

キヨ媼：速い、速い、ある、あ、歩いて速いし、

千葉：ええ。

キヨ媼：歌で、歌っても、なんでもやる人だった。

千葉：うん。

キヨ媼：うん、トゥットウリセって。

千葉：あ、じゃあ、あの、お母さんにもいろいろ習ったんですか、歌を。

キヨ媼：そうじゃない、黙っててもやる気だったら、あの、親の歌ったの聞いたら、みんな、たくさん大勢集まった人は、この人は何々を歌ってるなどと思ったら、それに合わせて、ああ、こうだな、ああだなんてね、

【0:35:00】

キヨ媼：それ聞いてさ、

千葉：ええ。

キヨ媼：それで、あの、歌うの。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：うん。教わったって、自分で、なら、あの、覚える気だったら、覚えられるからね、なんでもね。うん。

千葉：うーん。そうですか。お父さんの名前は何とおっしゃる、

キヨ媼：お、私の父親の名前はね、うーんと、いがり、いが、い、いぬがり、いが、い、いがり、

千葉：あ、あ、イ、イノシシの猪ですね。

¹¹ ときどきこのようにも発音している。

キヨ媼：ええ、イノ、イ、イノ、イ、イガリ、モスケっていうの。

千葉：モシケ、

キヨ媼：モスケって、そ、そういう名前だったんだよ。たら、あの、あの、アイヌ名前はなかった、わしの父親。

千葉：うーん。

キヨ媼：うん。

千葉：モシケっていうのは、アイヌ、

キヨ媼：え、

千葉：アイヌ（語）の名前じゃないんですか？ アイヌ語の名前じゃ

キヨ媼：何、

千葉：モシケっていうのは、

キヨ媼：モ、モモシ、モスケ？ なに、

千葉：モスケ、ああ、モスケ、

キヨ媼：モスケだわな、アイヌじゃない、それは。

千葉：あ、そうか、そうか。ふーん、そうですか。分かりました。いやあ、難しいな、できるようになりますかね。

キヨ媼：え、ええ？ ええ？

千葉：練習してできるようになるかなあ。

キヨ媼：なるよ。

千葉：うん。

キヨ媼：おや、温かいお茶やるかい、もう一回、

千葉：ん、

キヨ媼：お茶あげるかい、いい、

千葉：ええ、あ、大丈夫です。

キヨ媼：うん。

千葉：あ、□□

キヨ媼：飲みなさい。お茶でも。私の父親、母親も、まだ、そこに写真あるんだよ。あれ、ここね、ここは、こっち、

千葉：あ、左の、

キヨ媼：うん、こっち。

千葉：あ、

キヨ媼：父親と母親。

千葉：ああ、ああ、そうですか。

キヨ媼：うん。

千葉：若いころですね。ふーん。立派な方ですね。ムックリも、やっぱり釧路で覚えたんですか？

キヨ媼：そうですね。

千葉:あの、こないだ、そのクマの鳴き声とか、ああいうのを、えー、やってもらったんですけども、あれも、やっぱり教わるもんなんですか。

キヨ媼:自分で、あの、聞いては、こういうふうにした、ああいうふうにしたってね、

千葉:うん、うん。

キヨ媼:まねするんだよ。うん。

千葉:ふーん。

キヨ媼:結構ね、あの、なら、あの、な、鳴らすにいいんですよ。

千葉:ふーん。

キヨ媼:そのようにね。

千葉:自分の聞いたクマの声をまねするっていうことですね。

キヨ媼:そうそうそうそうそう。

千葉:ふーん。昔の人が、その、例えば、川の流れる音とかね、そういうのを歌にしてやったってことは聞いたことないですか。

キヨ媼:そう、うん。

千葉:そういうのは聞いたことありますか。

キヨ媼:うーん、さあ。

千葉:ムックリ□□□□

キヨ媼:川の流れを歌、の歌にしたっていうことは、わし、分からんなあ。

千葉:うん。

キヨ媼:あ、うん。そういうこと、わし、やったことないしな。

千葉:うん。

キヨ媼:お茶飲んで。

千葉:はい。また、これで、少し練習して、

キヨ媼:や、やっごらんさい。なんでもいいから、そこに書いてあるの、全部やってみなさい。

千葉:はい。

キヨ媼:どんなんだか、

千葉:ええ。

キヨ媼:あの、うー、その、サルルンカムイからやって、それから、マッタレラからやって、

千葉:ええ。

キヨ媼:それから、なんでもいいから、あの、

千葉:チュフ °カワやって、

キヨ媼:(笑) 笑ってやらないで、真面目にやらんきゃ駄目だ。

千葉:はい。(笑) うん。いや、真面目にやってるんですけど。

キヨ媼:(笑) やっても、

千葉:フチもだって、フチもおかしそうだった。

キヨ媼:ん、

千葉：フチも笑ってましたよ、さっき。

キヨ媼：いや、笑ってるって、あんたの、ほら、笑ってるんだ。やっでごらん、そこで、あの、マッターレー、アバチャオ〔シマ〕、

千葉：マッターレーは、ちょっと難しくてできない。

キヨ媼：うん、何、や、どこにできる、

千葉：え？

キヨ媼：あの、

千葉：サルルンカムイ、覚えたいんですけどね。

キヨ媼：うん、やっでごらんなさって。

千葉：これが、な、難しくて、ちょっと。

キヨ媼：やっでやれないことないべき。

千葉：【0:39:15】♪サルルンカムイ、アアアア、ホオオオオオ、アアアア、ホオオオオオオオ、アアアアホオオオオオ、ホオオイ、ホオオオオオ、ホーブーニーエートオオ、アアア、オオオオオオ、アアア、ホオオオオオ、ホオオイホオオオオオ、エエネエオオカ
イイイ、アアア、ホオオオオオ、アアア、ホオオオオオ、ホオオイホオオオオオ、サ
ール、ちょっと、む、

キヨ媼：いや、そ、それでいけばいいんですよ。

千葉：〔上手に〕、節がでも、全然できないですね。

キヨ媼：節、なん、そ、それでいけばね、満足なんだよ。

【0:40:00】

キヨ媼：なんでも文句だけ、い、あの、間違いなくこうやって、ズンズン、ズンズン、こうやって、

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：踏んでいけば、

千葉：ええ。

キヨ媼：いいですよ。

千葉：ええ。でも、フチのやるように歌いたいですね。

キヨ媼：うん。うん、うん、そうだ。うん。

千葉：言葉だけじゃなくてね。

キヨ媼：そうだ、その、サルルンカムイ、一番大事な、あの、ウポポだか、歌だからさ、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：それを今度、あの、〔縁起いいから〕鶴の歌のあれだから、

千葉：うん。

キヨ媼：それを、

千葉：うん。

キヨ媼：ずっと習ったほうがいいよ、

千葉：うん。

ウンンンンって、こういうでしょ？ それから、

千葉：うん。□□□のが1回？

キヨ媼：うんだ。うんだ。♪アアーアアオウウウーアウアウイエエエーアウウンンン、ホウウウ、
イイアイエ、こうしてみんな、こう、繰り返し、繰り返し。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：不思議だ、どうなってる、喉が違うんでしょね、きつとね、違うんですね、なんか。

キヨ媼：やっごらん、□□□□

千葉：♪ウウ、アアア、アアアオウウウウ、□□□

キヨ媼：笑ってたらなんもできないんだよ。

千葉：♪アアアア、ウウ、アアアア、ウウ、ん、ちょっと一緒に、や、やってもらえますか。

キヨ媼：♪アーウン、アアーエーエエエエイヤウンンン、ハアーウンナアーオオオオオ、アー
ウン、アイ、

千葉：♪アーウン、アアーエーエエエエイヤウンンン、ハアーウンナアーオオオオオ、アーウ
ン、

キヨ媼：こうやって2つずつ切って、また、繰り返してまた、♪アーウウウウウオハアア、ウオオ
オオオ、ハアイイイイアウって、こう、くり、1つずつ、きつ、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：2つなったら切って、また繰り返してやるの、

千葉：うん。

キヨ媼：このクットモレットっていうもんね。

千葉：クットモレッツ…、要するに、それ、長い節を2つやるんですね。

キヨ媼：そうそうそう。

千葉：はい。

キヨ媼：そうやって長く、こう、い、あの、言いながら、こう、く、

千葉：こう、震わせるのは数は決まっていらないでしょう。

キヨ媼：え、

千葉：震わせる、

キヨ媼：ん、

千葉：例えば、アアアっていうのは、

キヨ媼：うん。

千葉：アアアって、今、3回、

キヨ媼：そうそうそうそうそう、そうやって2つ、3つずつ、こういって、

千葉：ええ。

キヨ媼：そこで切って、

千葉：ええ。

キヨ媼：それで、また繰り返して、またやって、

千葉：はい。

キヨ媼：そうやっていくのさ、ずっと、同じことの、同じこと、

千葉：うん。

キヨ媼：クットモレットっていうの。

千葉：クットモレット。

キヨ媼：クットモレットっていえばね、本当に、これ、神さんのね、まあ、神さんったら内側の神だろか、わしらは、先祖は、火の神様でしょ？そして、なんかのお祭りのあるときに、あの、今日はありがとうございますっていう、その、クットモレットやるの。これは神さんは一番喜ばれるの。

千葉：あ、これをやると神様が喜ぶ、

キヨ媼：はい、喜ばれるっていう、その意味でやるの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：クットモレット。

千葉：ああ、そう。

キヨ媼：なかなかね、あの、でたらめにやる人もいないし、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、ここだら、まあ、ここの、まあ、この部落で1人だら1人しかいないと、ね。

千葉：うん。

キヨ媼：その人にやってもらうわけ。そうして、今度、こうやってはねるんだ、こうやってね。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、こうやってはねるんでない。こうやって歌で合わせて、こういうふうにして、

千葉：うん。

キヨ媼：やるの、こう、こう、

千葉：うん。

キヨ媼：ね。こうやってね。それで、これ

【0:45:00】

キヨ媼：クットモレットの、あの、ハオサンケ、クットモレットの、あの、踊りでやるの。ただ、こうやってや、やんでない、こうやって、こういうふうにして、神さん、ありがとうございます。今日は、あり、ありがとうございます、今日は無事に終わしてもらい、今、お祭り、終わしてもらいましたって、この次、またよろしく願いますって、心で信じて、その、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、シノッチャやるわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：クットモレットってね。たら、神さん喜んでくれる。

千葉：うん。

キヨ媼：これ、女の人やる。

千葉：カットモレットは、なんのときでもやりますよね、ウポポのときでも、

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：やる。やる人もいるしね、やらない、

千葉：ハウ、ハウサンケっていうのは、声を、

キヨ媼：パウサンケっていうのは日高の人だなあ、おれ、知らんな、あっちの、

千葉：ああ、いや、今、今、フチが、

キヨ媼：パウサンケっていうのは、なんかあったときに、ウホホホーとかなんとかっていうんでないの。わしらが、その、その、パウサンケってやらないもの、なにも、うん。

千葉：ああ、そうですか。

キヨ媼：そう。

千葉：ウホホ、ウホホホホホホーっていうやつ、

キヨ媼：それは、やるけど、なんか変わったことあるとか、クマとったときは、そうやるけどな。

千葉：ええ。

キヨ媼：普段やらない。

千葉：ハウサンケっていうのは、日高のほうでやるって聞いたんですか。

キヨ媼：うん、うんだ、あっちの人の、人だ。

千葉：どんなもんなんですか。

キヨ媼：日高も違うし、踊り違うしね、

千葉：ええ。

キヨ媼：言葉も違うし、それから、あの、旭川町のウポポも違うし。それから、なんでも違うんだ。だ釧路は釧路でまた違うしね。ウポポも違うし。なんでも違うんだ。うん。

千葉：ハウサン、ハウサンケっていうのは、ハウ、ハウサン、

キヨ媼：ハウタンケとか、ハウタン、ハグタンケとかってものは知らんもの。

千葉：ああ、ペウタンケですか。

キヨ媼：いいや、

千葉：ペウタンケ、

キヨ媼：うん。ペウタンケだか、パウタンケだか、それ、やったことない、わしら、や、のほうでやらないもん。

千葉：あの、危ないときに、オーイってやるやつですか。

キヨ媼：オホホホーっていうのはやるさ。

千葉：うん。

キヨ媼：やるけど、その、

千葉：どういう、踊りのときの、

キヨ媼：うん。

千葉：オホホホホホホーっていうやつ、

キヨ媼：うんだ。

千葉：ねえ、そうか、そうか。うーん。

キヨ媼：はい、はい、はい、はい、はい。もし、また、一生懸命稽古して、

千葉：はい。

キヨ媼：また冬になったら回ってきなさい。

千葉：はい。

キヨ媼：今、誰も忙しいからね。

千葉：そうですね。冬あたり、冬は寒くて駄目なんじゃないかと思って、

キヨ媼：え、

千葉：冬は寒くて駄目なんじゃないかと思って、夏来たんですけど、忙しかったですね。

キヨ媼：うわあ。冬は冬で薪いっぱいあるんだもん、どんどん火たいたり温かくて、いいあんばいだ。

千葉：ええ。

キヨ媼：わしら、冬1人でいるから。

千葉：ああ、そうですか。

キヨ媼：うん。

千葉：冬って何月ぐらいの話ですか。

キヨ媼：そうだねえ、まあ、10月、11月、12月、1月、2月、いいわ、ちょうど。

千葉：1月、2月、ああ、そうですか。

キヨ媼：うん、1月、2月。

千葉：ああ、そうですか。じゃあ、1月、2月また来ます、また。

キヨ媼：一生懸命ウポポを覚えてさ、

千葉：はい、はい。

キヨ媼：そして、来なさい。

千葉：ええ。

キヨ媼：ほいたら、うん、うん。

千葉：そ、その前に、

キヨ媼：これだけは覚え、覚えまして、

千葉：はい。

キヨ媼：ねえ。来ればいいでしょう。

千葉：はい。

キヨ媼：ああー、ばあちゃんの半、のウポポは半分も覚えたってやってくればいいんだ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。(笑)

千葉：どうもありがとうございました。

キヨ媼：はい。

千葉：イヤイライケレ。

キヨ媼：かか、うまくかかってたかい、どこだ、やってみなさい。かけてみて。

千葉：かかっていると思いますけど、ちょっと見てみましょうか。

キヨ媼：うん。

(ビデオカメラを操作している様子)

千葉：音聞けないけど映ってますから。

キヨ媼：はい。うん、見えてる？

千葉：見えています、

キヨ媼：うん。見えていますね。

千葉：ね、はい。□□□□

キヨ媼：うん。

千葉：ちっちゃいですから。

キヨ媼：声だけないわ。

千葉：え、

キヨ媼：声はそっちかい、

千葉：そうです。

キヨ媼：うん。

千葉：声はね、声、だ、出せないんです、これ。

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：はい。こういうので聞かないと。

キヨ媼：ああ、

千葉：聞きますか？

キヨ媼：いや、聞かなくてもいいや。

千葉：はい。いやあ、今日は勉強になった。

キヨ媼：うん。そして、今度、それをとって、あの、ち、一生懸命になって、何、商売やってんの。

あんたは。

千葉：商売は、

キヨ媼：おつ、お勤めは、

千葉：え？

キヨ媼：勤めは何。

千葉：あの、勤めは、僕はギターを弾いたりするのが、

キヨ媼：ああ、ほうか、ほうか。

千葉：はい、仕事なんです。

キヨ媼：したから、こんなの、やっぱり、

千葉：うん、まあ、これは、

キヨ媼：東京でやってんだ。

千葉：そう、これは商売と関係ないです。

キヨ媼：ああ、そうね。

千葉：はい。

キヨ媼：だから、

千葉：本当に、その、

キヨ媼：道楽だ。

千葉：ええ。フチの歌とかね、まあ、ウポポ、そういうのを、あの、だんだん、みんな、できなくなっちゃうのね。

キヨ媼：そうそうそうそう。

千葉：もったいないでしょ？

【0:50:00】

千葉：今だって、屈斜路だって、できるのフチぐらいじゃないですか？

キヨ媼：やってやれないこと、ないんだろうけどね。

千葉：あんまり若い人たちも遠慮して、あんまりやらないでしょ？

キヨ媼：やらないね。

千葉：うん。そしたら、もう、ちっちゃい子どもたちは聞いたことないんですもんね、あんまり。

キヨ媼：そうそうそう。うん。…はあ。

千葉：うん？

(ビデオを操作している様子)

千葉：今、急いで片づけますんで。

キヨ媼：ああ、いや、いいよ、ゆっくりして。

千葉：ゆっくりしてって、また戻らないといけない、でしょ？

キヨ媼：はい。

千葉：フチだって仕事に戻らないと。

キヨ媼：うんうんうん。仕事ね、うん。今、今んとこで、大して、今、お客さん入ってないからね。

千葉：はい。忙しくなるのは6月ぐらいですか。

キヨ媼：6月からずっと忙しいの。9月いっぱい、8月、9月ね。

千葉：難しいな、でも。難しい。♪オオオオオー、

キヨ媼：やっぱりね、本当にね、なかなかゆるくないんだわ、このウポポだって。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。上手にやれないんだわ、本当。阿寒湖さ行って、踊り見たかい？

千葉：あの、こないだ来たときに帰りに見ました。

キヨ媼：見たの。

千葉：はい。

キヨ媼：ムックリもやってだべさ。

千葉：ムックリ、ムックリはヒカワさんがやってた。あの、娘さんが、確か。

キヨ媼：うん。

2: 1992年5月15日

千葉：歌も歌ってましたよ。

キヨ媼：ふーん。上手にやってくださいって言えばよかったですでしょう？

千葉：〔誰がですか？〕

キヨ媼：(笑) □□□

千葉：(笑)

キヨ媼：下手ですね、私より、って言えばよかったのに。

千葉：そんなことないん。

キヨ媼：僕は上手ですよって。

千葉：そんなことないですもん。

キヨ媼：そうそう言えば良かったのに。そしたら、

？：□□□

キヨ媼：ああ。そういうこと言ってきたべなと思って。(笑)

千葉：あれ、箱がどっかいつちやった。(終了)

【0:53:37】

以上 Kiy920515 日川キヨ媼宅にて収録

3 : 1993年2月2日 (ファイル名 : Kiy930202) 1°24' 17"

千葉：うん。ちょっと、なんか気難しそうな感じしますけどね。

キヨ媪：え？

千葉：気難しそうな感じもする。

キヨ媪：気、なかなかのね、人でしょう？

千葉：うん。

キヨ媪：頭いい人だった。あーあ。

千葉：こないだ来たときも、ウポポを教わったでしょう。

キヨ媪：うん。

千葉：少し。

キヨ媪：うん。

千葉：何回も来て何回も習ってれば、少し分かるかと思って何回も来てんだ。

キヨ媪：あれ、何々やった、

千葉：こないだ、サル、サルルンカムイばかりやった。

キヨ媪：うん、それだけ。

千葉：うん。こないだ、

キヨ媪：あと、

千葉：こないだ、だって短かったもんね。

キヨ媪：え、

千葉：こないだ時間短かった。

キヨ媪：うん。

千葉：ね。忙しかったから。

キヨ媪：あと、何の歌、歌うの。

千葉：僕ね、フチがどういう歌、歌っているのか、あまり知らないですよ。

キヨ媪：うん。

千葉：だって、ほら、何知ってるか分かんないでしょ？

キヨ媪：うん。

千葉：ゆ、弓の舞だとか、

キヨ媪：その、あの、聞きたいの、歌いたい、うん、そんなの、弓の舞の？

千葉：うん。

キヨ媪：弓の舞と、それから、エムシテルケ、男の踊り。

千葉：うん。

キヨ媪：じゃあ、これ2つ入れるかい？

千葉：うん。あと、あれは？ お酒つくるときの歌っていうのは、いろいろあるんですか？

キヨ媼：お酒の、つくる歌ありますよ。あの、こしこ、こすときね。

千葉：うん。

キヨ媼：酒をね、

千葉：うん。

キヨ媼：できてから、

千葉：そういうのって、じゅ、じゅ、

キヨ媼：できてから、今度はこしたりなんかするときの歌あんだよ。

千葉：うん。順番に歌うの？そういうのってのは。

キヨ媼：うんだよ。それを今度ね、

千葉：うん。

キヨ媼：それも、聞きたいの？

千葉：うん。それはいろいろ聞きたいわ。

キヨ媼：ん、

千葉：いろいろ聞きたいけど、いろいろ、た、あんまりたくさん知っているから、全部聞いていると、また夜になってしまうでしょ？

キヨ媼：酒こしの歌、歌おうかい？ したら。

千葉：うん。

キヨ媼：酒こしのと、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、弓の舞と、

千葉：うん。

キヨ媼：男のね、踊り。

千葉：これいい、いい模様ですね、それ。

キヨ媼：これ、いいかい？

千葉：うん。なんか、ちょっとモレウみたい、な模様だよな。

キヨ媼：そうね。

千葉：ねえ。

キヨ媼：まあ、なんでもわくても□□□□□□。酒こしの歌、歌って、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度は、あの、弓、

千葉：うん。

キヨ媼：弓の舞で、2つか。

千葉：うん。酒こしの歌ってのはいくつ、いくつあるの？ 酒つくる歌、つ、つくる歌ってのもあるんですか？

キヨ媼：酒をね、

千葉：うん。

キヨ媼：酒できた、できてしまって、

千葉：うん。

キヨ媼：こし、こすときのね、

千葉：うん。

キヨ媼：歌。

千葉：うん。

キヨ媼：こしながらやるの、こう、こうやって。あの、あれを、シラリとるでしょう。

千葉：うん。♪アーمامサケソロパってやつ？

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、やんの。

千葉：うん。

キヨ媼：あんた、覚えとるでしょう、アマサケソロマ〔ス〕、

千葉：少しはね。

キヨ媼：(笑)、それやる〔わけ〕さ。

千葉：うーん。

キヨ媼：あ、

千葉：そ、それは、順番にやって、その前に何かやるってことはない、ないんですか？

キヨ媼：そうですね。あの、今、お祝いやるとき、酒、先にこしらえ、あの、作るで、作、作った後、あの、こすでしょう？

千葉：うん。

【0:05:00】

キヨ媼：あ、こして、こしてから、今度、カムイノミやるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：カムイノミやってから、今度、ウポボやるべき。

千葉：うん。カムイノミやって、カムイノミやって、そのときタフ °カラやったりします？

キヨ媼：タフ °カルは、もう、あの、真ん中ごろやるべき。

千葉：真ん中ごろ、

キヨ媼：うん。

千葉：酒、酒つくるのって、だって時間かかる、

キヨ媼：酒、うん、酒のほう先にやるのさ。

千葉：酒を先に、

キヨ媼：やっぱり、カムイノミしなきゃなんないからね。お酒を、あの、できてしまった、今度こすの。

千葉：こすときに、

キヨ媼：ウポポやる。

千葉：やるんだ、

キヨ媼：そうだ。

千葉：ああ、そうか、そうか。

キヨ媼：そいで、今度終わってから、今度、カムイノミに入って、それから今度ウポポに入るの。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：なるほど。それで、タフ°カル っていうのは、そのウポポの真ん中へんでやる。

キヨ媼：そうだ、真ん中がケツだ、まあ、自分の、やる人の気向いたときやるべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：□□

千葉：ウポポっていうのは、いろんなウポポやるわけでしょう？

キヨ媼：そうだ。

千葉：別に酒、酒つくるときのウポポだけじゃなくて、

キヨ媼：そらあ、いっぱいあるさ。うん。一番先にやるのは、やっぱり、あの、ウタレブンバレからやるべさ、ウタレブンバレ、あの、みんなで、

千葉：うん。

キヨ媼：踊りましようっていう意味でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：だって、あれ歌ったら、みんな、こう、立つんじゃないの？

キヨ媼：んだ、んだ、んだ、んだ、うん。

千葉：最初は座ってやるんでしょ？

キヨ媼：みんな、立ってやってもいい、やるんだ。そして、やって、それから、今度、いろんな踊りに入るわけさ。

千葉：あれは、その、酒つくりの歌ってのは、も、もっと前？ ウタレブンバレの、

キヨ媼：前、先、先、一番先にやる。

千葉：一番先にやる。

キヨ媼：うん、酒、こさなかつたら、カムイノミもできないでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：ほいで、それをこしらえて、しま、あの、酒こしてしまってから、今度、カムイノミやって、終わってから、カムイノミ終わってから、みんな、ウポポに入るんだから。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：それ、イオマンテのときだけ？ 別に決まってないの？

キヨ媼：決まってない、私はね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、春、春と秋やるの。

千葉：うん。

キヨ媼：うちのチセで。

千葉：ふーん。

キヨ媼：必ず、甘酒はこしらえるわけ。あの、

千葉：ふーん。

キヨ媼：甘酒はこしらえて、今度、カムイノミやってもらうの。

千葉：うん。なんか、何かあったときじゃあ、別にないわけですね。

キヨ媼：違う。

千葉：うん。

キヨ媼：熊送りだとか〔キジノベ〕（不明）それでばかりでないの。

千葉：うん。

キヨ媼：わしらね、必ず秋やるか、春やるか、うちのチセでカムイノミやって、みんなに来てもらうの。そして、まあ、自分、自分のチセだから、

千葉：うん。

キヨ媼：みんな集まった人にはごちそうするわけ。今度そんなときおいで、あんた。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。

千葉：いつごろ？ それ、

キヨ媼：え？

千葉：いつごろ？

キヨ媼：え？

千葉：いつごろ？

キヨ媼：10月、

千葉：10月、

キヨ媼：うん、

千葉：うん。

キヨ媼：必ず、10月にやるの。うん。

千葉：ああ、そうか。あ、こないだのやつだね。チセノミ、

キヨ媼：チセノミ。

千葉：こないだ、ほら、そうだよ、おいでって言われたけど、

キヨ媼：来れなかった。

千葉：〔□□フチ〕具合が悪くて、延ば、延ばして、11月になっちゃったでしょ？

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：ね。

キヨ媼：うん。

千葉：11月、僕、内地で仕事しなきゃいけないから□□□□ね。うん。

キヨ媼：10月にやるのね、まりも祭り終わったら、すぐやるの。

千葉：ふーん。(間)それで、これ、止めてもいいですか？ これ。(時計のこと)

キヨ媼：え？

千葉：カチカチいう [の]。

キヨ媼：もう、消しなさい、止めなさい。

千葉：これ33日になってるよ。

キヨ媼：にや、もう、ええ、止まる、止まる。うん。

千葉：昔の時計は、地震があると地震のあった時間分かるもんね、

キヨ媼：そうだね。

千葉：止まるからね。

キヨ媼：うん。

千葉：じゃあ、その、最初に、じゃあ、その、甘酒の歌をちょっと、

キヨ媼：うん、ちょっとね、やって。それから、今度、ウポポに入って、

千葉：うん。食べてすぐで、

キヨ媼：ん？

千葉：食べてすぐできつくない？

キヨ媼：なんともないよ。うん。

【0:10:00】

キヨ媼：それから甘酒こす歌と、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度、すぐ、ウポポね、あの、ウタレブンバレ、

千葉：うん。

キヨ媼：みんなで立ちあがって踊りましょうっていう意味と、それから弓の舞、で、3つにするかい、

千葉：うん。

キヨ媼：ね。

千葉：そうですね、はい。

キヨ媼：待てよ、[待っている前で前] (録音する前、の意と思われる)、声出るか、出ないかね。

千葉：うん。

キヨ媼：試しに、□□□□、あの、

千葉：いいよ、きつかったら、すぐやめてもいいわ。うん。

キヨ媼：い、あの、待ってよ。【0:10:47】 ♪amasake so、ね、

【0:10:51】 ♪amasake soroma sirari siko numba

amasake soroma sirari siko numba

amasake soroma sirari siko numba

amasake soroma sirari siko numba
 amasake soroma sirari siko numba
 amasake soroma sirari siko numba
 amasake soroma sirari siko numba
 amasake soroma sirari siko numba
 amasake soroma sirari siko numba
 amasake soroma sirari siko numba
 tonoto menoko sirarika isam a ho hoyyo
 tonoto menoko sirarika isam a ho hoyya
 ha icariko terekere ha icariko terekere
 ha icariko terekere
 ha icariko tereke yan
 ha icariko tereke
 ha icariko tereke
 ha icariko tereke
 ha icariko tereke yan
 ha icariko terekere
 ha icariko tereke yan
 ha icariko terekere hoy hoy 【0:13:53】

千葉：うん。

キヨ媼：いいかい？

千葉：うん。

キヨ媼：□□□□

千葉：こっちの方がいいかもしれない。イチャリコテレケレって、どういう、

キヨ媼：イチャリコテレケレったらね、もうね、終わりました、

千葉：うん。

キヨ媼：おま、終わりましたから、あの、チャリあるでしょ、

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、今度、こうやって、こうやって歩く、こうやったりして。やるわけ。ホロコワケ¹²、

¹² このように聞こえるが不明。北海道方言で服に付いた雪などを「払う・払い落とす」ことを「ほろう」と言い、その用例はキヨ媼の続く会話にあらわれているが、ザルの中で sirari (酒粕) を跳ね転がせながら丸く固めていく様子から、あるいは sirari をホロコと呼ぶのか、sirari を配ることを「ホ

て、こうやってね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、甘酒をこうね、すいたやつを、こうやったり、こうやったりしてほろって、

千葉：うん。

キヨ媼：それ、テレケって、あの、はねながら、これ、あの、片づけるのよ、^{まろ}、

千葉：ああ。

キヨ媼：あの、甘酒こした、ざるをね。

千葉：テレ、テレケレは誰がはねる？ 誰がはねる？

キヨ媼：□□すと、それが、それが、

千葉：ザル？ イチャリ？

キヨ媼：こした人がやるわけさ。

千葉：チャリがはねるっていう意味？

キヨ媼：うん、そう。その人が、今度、持ってやるわけさ。

千葉：うん。持っている人が、

キヨ媼：も、も、うん、うん。

千葉：テレケレ？

キヨ媼：そうだぞ。甘酒こした人やるの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：そうか、そうか。

キヨ媼：ほえてる [みたい]。

千葉：ん？

キヨ媼：[へん] でしょう、もう、[風けたかなー] □□□。

千葉：□□□

キヨ媼：うまく入った□□か、

【0:15:00】

キヨ媼：なんだかしらん。

千葉：うん。

キヨ媼：[はってよまだ]、わしがこうやった。今度、それから、ウタレブンバレから入る [ね]。

千葉：うん。

キヨ媼：**【0:15:22】** ♪utarebunbarewa rimse、まったく風邪声だな。うまく入る [かな]。

千葉：うん、まあ、無理しなくてもいいわ、□。別に。

キヨ媼：**【0:15:40】** ♪a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

「ロコ分け」というものか、不明。この語を知る人がいらしたら教えていただきたい。

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

入れているの？ これでいいの？

千葉：うん。[入ってる。]

キヨ媼：【0:16:20】 ♪a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo hoy hoy

utarebunbarewa rimsere yan a he enyo hoy hoy

utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

a utarebunbarewa rimsere yan a he enyo hoy hoy

utarebunbarewa rimsere yan a he enyo hoy hoy

utarebunbarewa rimsere yan a he enyo hoy hoy

utarebunbarewa rimsere yan a he enyo 【0:17:52】

キヨ媼：なんだか^{かぜけ}風邪気だ。はい、次、弓の舞ね。

千葉：うん。

キヨ媼：弓の舞。

千葉：弓の舞ってのは、その、さ、酒をつくったときに、や、やるのは、ずっと後のほうでやるんでしょう？

キヨ媼：そうだ、後だ。いろいろな、あの、ウボボやった後ね。別に、一番後からやんのエムシテケさ。

千葉：ん？

キヨ媼：しまい、emustereke。

千葉：emustereke っていうのは？

キヨ媼：□□刀のまやるべさ、こうやって、

千葉：うん。

キヨ媼：あれよ。

千葉：♪アンホー ホイ ってやつ、

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：うーん。

キヨ媼：弓の舞入れるか？ 1つ。

千葉：うん。

キヨ媼：どっち入れる？

千葉：うーん、エムシテレケも聞きたいけど、

キヨ媼：うん。

千葉：じゃあ、エムシテレケやる？ どっちかだけだったら、エムシテレケだな。

キヨ媼：エムシテレケけ？

千葉：ん？

キヨ媼：エムシテレケかい？

千葉：うん。

キヨ媼：先にエムシテレケだけ入れるかい、

千葉：うん、うん、そうしよう。

キヨ媼：待ってれ、待って、声出るかな。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:18:54】 ♪hey ho ha hey yo ha,

hey ho ha hey yo hoa

hey he ha hey yo hoa

hey he ha hey yo hoo

hey he ha hey yo hoo

hey he ha hey yo hoo

hey ho ha hey yo hoa

hey he ha hey yo hoo

hey he ha hey yo hoo

hey he ha hey o hoo

hey he ha hey yo hoo 【0:20:10】

auho ha auho

auho ha auho ho

ho ha auho

auho ha auho ho

ho ha auho 【0:21:24】

千葉：うん。(拍手しながら) 素晴らしい。

キヨ媼：これ、エムシね、

千葉：うん。

キヨ媼：エムシ、出、出して、今、これ、たたか、一番ケツに戦っているところ。♪アウホーホーアウホーっていうとき、これ戦って、

千葉：カチャン [つてね]、うん。

キヨ媼：一番先には、今度、hey ho、っていうときは、こ、これがやってるの。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：それから戦ったとき、アウホッ、アウホッ、アウホ ってやる。

千葉：うん。

キヨ媼：うまく入ったかい。これでええかい？

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：niya ko ko やるかい？

千葉：ん？

キヨ媼：niya ko ko、いいかい、弓の舞、

千葉：弓の舞、

キヨ媼：なんだか風邪っ気

千葉：きつ、きつくない？

キヨ媼：え？

千葉：きつくないの？ 大丈夫？

キヨ媼：ん？ 何？

千葉：一遍にやってきつくないですか？

キヨ媼：なんともないよ。

千葉：なんともない？

キヨ媼：いいかい？

千葉：うん。

キヨ媼：いや、これは^{かぜけ}風邪気だから、うまく声も出ないしね、

千葉：うん。

キヨ媼：うまくいかないけどさ、やってみるかね、あの、弓の舞。

千葉：うん。

キヨ媼：いいかい？

千葉：はい。

キヨ媼：【0:22:23】 ♪niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan ho hoy
 niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kani koroka yan
 niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kan kuni ki yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kan kuni ki yan
 niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kan kuni ki yan
 niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kan kuni ki yan
 niya ko ko nita roppon cika niya ko ko kan kuni ki yan
 niya ko ko ha nita roppon cika niya ko ko kan kuni ki yan 【0:24:41】

…いいかい？

千葉：はい。

キヨ媼：止めた？

千葉：ええ。

キヨ媼：は [い]、は [い]、これで、

千葉：うん、入ってます。きのうの晩、

千葉：ヤイサマってのを歌ってたでしょ？

キヨ媼：(笑) やったよ。

千葉：うん。あれ、あれは、どこの歌？

キヨ媼：わしらの歌だ、これは。

千葉：あの、

【0:25:00】

千葉：阿寒の歌？

キヨ媼：うん。

千葉：屈斜路？

キヨ媼：私らの歌。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。阿寒でもやるし、ここでもやる。わし、ここへ来たから、ここでもやるよ。

千葉：うん。どういう、♪ヤイサーマネナーっていうんだっけ。

キヨ媼：(笑) うん、やんなさい、それ。

千葉：いやいや、僕分かんないもの。きのう、ちょっと聞いて、ああ、面白いなって。

キヨ媼：やるよ。2時前、[しまむ]、までは、そこ□□□から□ね、ヤイサーマ一つ入れてやるな。

千葉：ああ。ヤイサマって、たくさんあるんですか？

キヨ媼：ん、

千葉：たくさんある？種類、そういう、そういうヤイサマって。

キヨ媼：ヤイサマ、いろいろな、あの、これ、アイヌ語のいろんな奴あるよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ヤイサマもね。結局、その、黙ってきていて、み、たら、いろんな、その、あ、自分の、その、苦労したときと、自分の、

千葉：ああ。

キヨ媼：あれしたこと、全部アイヌ語さ入れてやるわけさ、これ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。自分がね、

千葉：うん。

キヨ媼：親もいない、きょうだいもないとか、

千葉：うん。

キヨ媼：それを今度つけて歌うわけ。

黙って聞いて、わし、1回やってみるからね。も、しばらくやんないから忘れたかき、文句な。入れるんでないね、まだ。

千葉：うん。

キヨ媼：わし、やってみる。

【0:26:24】

♪yaysamanena yaysamanena horehorena horehorena,

ku ani anak ku ani ana(k) acaka kusu habo ka kusu yuboka kusu yuboka kusu

sine menoko ku nakayki 頼むて言う horehorena yubo utari habo utari horehore horehorena
ehorehorena horekorena **【0:27:22】** こうやっていうんだ。

千葉：うん。それ、

キヨ媼：入ってるの？ あんた。

千葉：入ってる、入ってる。

キヨ媼：嫌だねえ (笑)。まだ。こういうやつが、こういうウポポ…ヤイサマもあるんだ。

【0:27:34】 ♪yaysamanena yaysamanena horehorena horehorena horehorena kabocaruruka

anean kane anka rope tani ankoro oroka inkara oroka tereke oroka inkara

kaboca ruruka ruruka anean kani ankarope tane ankoro

oroka inkara oroka tereke oroka nukara hoyhoy

horehorena horehorena horehorena yaysamanena yaysamanena coy coy **【0:28:42】**

千葉：うん。カボ、カボチャルルカってなんですか？

キヨ媼：(笑) 待ってよ、待ってね、あのね、

千葉：うん。

キヨ媼：一番先に、あの、コロコロツキのあったべさ？

千葉：コロ、ん？

キヨ媼：【0:28:59】 ♪コロコーロツケーナー アーミアンカーミー

アンカーローパー ターネーアンコーロ 【0:29:08】 ったらね、あの、昔は、ほれ、今でも、あれ、フキのおしんこ、こしらえて食べらして、

千葉：うん。

キヨ媼：カボチャのね、おかゆ炊いて、カボチャルルったらね、

千葉：(笑) カボチャ、(kaboca がアイヌ語だと思っていたので思わず笑う)

キヨ媼：カボチャが、カボチャのおかゆ、あの、た、食べて、

千葉：うん、それ、うん、うん。

キヨ媼：ながら、子ども育てて、

千葉：うん。

キヨ媼：しまった子どもはね、もう、一人前になったら、そのね、

千葉：うん。

キヨ媼：オロカインカラ、オロカテレケと、オロカインカラって、わきさ親を見ないで、わきさ見てるって、それが、

千葉：ああ。

キヨ媼：意味で、やったわけよ。

千葉：ああー、そうか、そうか。

キヨ媼：うん、そう、そういうウポポ、ヤイサマもあったの。

千葉：ふーん。こう、こういうヤイサマっていうのは、昔の人が歌ってたやつの、

キヨ媼：昔の人がた歌うの、自分が、やっぱり、昔、今でも、昔でも親孝行するやつもいれば、親孝行しないやつもいるべさ。

千葉：うん。これ、

キヨ媼：□

千葉：うん。誰かが歌ってたのを、どっかで覚えたんですか、そういうのっていうのは、

【0:30:00】

キヨ媼：いやあ、黙って聞いて分かるんだ。(笑)

千葉：ふーん。いろんな人が歌って、

キヨ媼：うん、そうだ。そういう、そうい、やっ、そんなの聞いてね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：いろいろな文句あるんだわ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：ヤイサマのなかでね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：おとうは、おとうはどこ行った、山さ、行ったってね。何しに行ったっていったら、まき切

りにいったとかさ、

千葉：昔話みたい。

キヨ媼：うん。まき、切りにいったってね。

千葉：うん。

キヨ媼：そして、なにの弁当ってね、ゴシヨ芋の弁当だとか、□□のおさ□とからね、

千葉：うん。

キヨ媼：油一升とかってね、油つけて、昔の人、なんでも食べたから、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：それの、とって歌った、う、う、歌もあるんだ。ウポポ□□。

千葉：それ、そういう歌もフチ歌、歌ったりするの？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。節はどんな節？

キヨ媼：今みたいにやるのさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：もう、やったことないから、もう、節も文句も忘れてしまったな。

千葉：うん。

キヨ媼：また、ま、わしの、やってみるから。

千葉：うん。

キヨ媼：(キヨ媼の釧路の先祖が歌ったヤイサマネナ)

【0:31:05】 ♪yaysamanena yaysamanena お父は父は どこさ行った
 なににするに なににするに 薪^{まき}切りに 薪切りに 行ったものだ 薪切りに
 何^{なに}の弁当 コソ芋弁当 何の [おとい] (おそい、か?) 油一升 油一升
 horehoreнна horehoreнна お父は父は どこさ行った
 山さ行った 何しるに 薪切りに 行ったものだ
 何^{なに}の弁当 何^{なに}の弁当 [わんど] 何だ コソ芋弁当 コソ芋弁当
 何のおそい なにのおそい 油一升 油一升

horehoreнна horehoreнна horehoreнна horehoreнна

yaysamanena yaysamanena yaysamanena yaysamanena hoy hoy hoy hoy 【0:32:56】

これやった。

千葉：ふーん。それ、そういうのは踊りはつかないんですか？

キヨ媼：やるよ、これで、

千葉：□□

キヨ媼：(ゆったり手拍子を打ちながら) こうやって踊るんだ。これ歌に合わせて。

千葉：へえ。

キヨ媼：[ほら]、こうやっっているやる。

千葉：うん。日川さん

キヨ媼：思いついたことを、

千葉：日川さんの、おじ、おじさんもやってたんですか？ 善次郎^{ぜんじろう}さんも。

キヨ媼：善次郎さんは、若いときずっと（笑）

千葉：え？

キヨ媼：私の先祖だ。この人の先祖、この歌、歌わないもん。わしらの先祖、これ歌った。

千葉：ああ、そう。うん。

キヨ媼：わしの父親っていう人はね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、やっぱり、狩人であってねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、チセ持ってた人で、

千葉：シタ、シタカラ、

キヨ媼：クマとったりなんかした。

千葉：シタカラ オトサク¹³さんでしたっけ。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：うん。

キヨ媼：そしてね、あの、みんな集まって、そこのカムイノミやったりなんか、クマとったら踊りやったり、

千葉：うん。

キヨ媼：やる、やってたの。

千葉：うん。うん

キヨ媼：そんなときに、みんなして、あの、歌って、いろんな、その、歌って、踊ってもらったり、

千葉：うん。うん。

キヨ媼：私の父親、酒飲まない人だったけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：狩りの人だったの。

千葉：うーん。そうか、そうか。っていうことは、あれ、くし、釧路のほうの、

キヨ媼：うん、釧路の、うちの、私の先祖は釧路。

千葉：ふーん。

キヨ媼：この人は日高だから。

千葉：ん？ うーん。今のは、

キヨ媼：日川善次郎^{ひかわぜんじろう}は日高の人だもの。

千葉：今のは、今のはじゃあ節でいうとどっちかっていうと、釧路のヤイサマになるのかな。

キヨ媼：そうだよ。

¹³ これは千葉の勘違い。続く媼の返事は生返事であって、舌辛音作氏は父ではない。注 23 参照。

千葉：うん。ふーん。そうか、そうか。

キヨ媼：はい。

千葉：いや、向きが、

キヨ媼：これでいいですね？

千葉：はい。

キヨ媼：はい。どういうふうになりました？（笑）

千葉：え？〔これでね〕

キヨ媼：うまく入りました〔か〕。

千葉：あ、あと、

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：クットモレットのこと聞いていい？

キヨ媼：え？

千葉：クットモレットのこと聞いていいですか？

キヨ媼：何、

千葉：クットモレット。

キヨ媼：クットモレットね。（女のクットモレット）【0:34:58】 ♪hau u hauu u ru ~（以下、歌詞略）
~ 【0:35:19】 って、わしら、やるのは女の、これ、あの、クットモレットってね。

千葉：うん。

キヨ媼：男は、あれ、あの、なんだ、あれ、やるけど、わしらはこれ、これでやる、

（クットモレットのシノッチャ）【0:35:29】 ♪ha e oe ~（以下、歌詞略）~ coy coy 【0:36:28】 と。

千葉：それは1人、1人じゃなくて、みんなでやるもの？

キヨ媼：これ、あの、大勢でやらない、やっぱりね、年寄りの人、1人でやるんだ。こうやって。

千葉：これは、踊り、踊りながら、

キヨ媼：そうだ、こうやって。これはね、早いところ、シノッチャっていうからね、クットモレット
ってのシノッチャ。火の神さんに、今日はありがとうございます、よく、何事もなく、おわり、終わ
りましたって、その、一番年寄り、これでやって、

千葉：ふーん。

キヨ媼：喜ぶの。

千葉：女の人が？

キヨ媼：女の人。

千葉：女の人が1人で、た、立ってやるんですか？

キヨ媼：そうだ、そうやってやるの。

千葉：じゃあ、男の人のタフ °カルみたいなもんだ。

キヨ媼：タ、あ、タッカルは、今吉やるべさ。あれやったべさ。

千葉：だから、

キヨ媼：（男の tapkar）【0:37:10】 ♪へーへーイへーへーへーイエーへーへーへーイ、これは男だけ

ど、女のやつは女のやることだ。

千葉：ふーん。それは、なんか、要するに、神様にお祈りしながら、こうやって、

キヨ媼：そやってんだか、うん、男も。うん。わしらは、先祖、女はそれ、それで行くの。

千葉：何のときやるんですか？

キヨ媼：お祭りに、やっぱり、[やる]

千葉：お祭りの、最後？

キヨ媼：最後にやる。

千葉：ふーん。へえ、そうか、そうか。で、周りの人は何やってんですか？

キヨ媼：周り、向こうは、終わったらいろんなの、みんな、勝手にやるないろんな踊り。

千葉：ふーん。周りは、じゃあ、ただ聞いている。

キヨ媼：うん。で、なんでもいいよ。

千葉：はやし入れたり。へえ。それ、節は決まっているんですか？ その、

キヨ媼：やっぱり、節決まってるよ。でたらめの節も言えないのさ。

千葉：その人によって全然違ふとかいうんじゃないで、だいたいおんなじような、

キヨ媼：だいたい、そういうふうに行くんだよ。うん。

千葉：ふーん。言葉は入らない、

キヨ媼：え？

千葉：言葉は入らない、

キヨ媼：入らない、ただ、【0:38:10】♪へーいへーいへー、男の人は、い□□、わしらの、おらが、ただ、その、クットモで、その、声でだけやるわけさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：文句を入れないの。

千葉：ふーん。あの、何人かで、こう、替わりばんこにやったりっていうことはないんですか？

キヨ媼：やらないね。

千葉：そういうのはない、

キヨ媼：1人だら、1人ね。

千葉：へえ。

キヨ媼：あの、フチね、やるの。

千葉：ふーん。このへんだったら、昔はどんな、

キヨ媼：やらない、ここなんだか、そんな、人やんないべや。

千葉：ああ、そうなの。

キヨ媼：知らないもん。わしの先祖 [が] やったの、聞いたっきり、自分で、あの、覚えてたから、それやっただけで。今じゃ、やる人ない。

千葉：き□、うん、キヨフチが聞いたことがあるのは、どんな人がやっていたんですか、例えば。

キヨ媼：年寄り、一番の年寄り。

千葉：例えば？

キヨ媼：うん。

千葉：な、名前でいったらどんな人？

キヨ媼：うーん、もう、もう、死んでいない [くらい]、早くの人だ。昔、昔の人。

千葉：ああ。名前はもう、

キヨ媼：もう分かんなくなったわ、そのフチあたりね。

千葉：釧路の人、

キヨ媼：釧路の人でね。

千葉：へえ。そうか。阿寒ではやらなかったのかな。

キヨ媼：やらない [の]、[私ね]、やったの見たことない。おらもやったことないもん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：やらないもん。やっぱりね、おうちのなか入るとね、でたらめに、おらはこれやります、おらはこれ知ってるって言えないからね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、その場所に来たらね、その人らのやるとき、こうしてやればったら、そういうふうにやりますかって、ただだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：そう、昔はこうだよ、ああ、だからって、自分から、あんた、分かったふりできないからね。言わない。

千葉：うん。ふーん。そうか、そうか。シタク、前の、ほら、シタク、ヤエさんとか、そのへんの人にはやってたんだろうか。

キヨ媼：やってたんでないか？ あの人らの聞いたことないもん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あの人らは白糠でしょう？

千葉：ああ、そうか。

キヨ媼：うん、わしらは違うからね。うん。

千葉：うん。

キヨ媼：ん [で] あの人らは集まったところもめった、見たことないしね、

【0:40:00】

千葉：うん。

キヨ媼：分からない。

千葉：ふーん。そうか、そうか。あんまり、でもあっちこっちでは聞かないですよ？

キヨ媼：聞かない、聞かない。

千葉：帯広にも、でもあったみたいだけでも、ほか、日高とかには、あまり聞いたことないですもんね？ そういうの。

キヨ媼：うん、やらない。

千葉：うん。

キヨ媼：自分がね、私なんか、そういうこと嫌いだから、自分ができ、できるふりして、おら、昔はこうだ、ああだって言えないからね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：言ったことないん□□。

千葉：ふーん。ちょっと、トイレ借りていいですか？

キヨ媼：いいですよ。汚いけど、

千葉：どこだっけ。

キヨ媼：入ってください。

千葉：これだっけ。

キヨ媼：いや、そんなじゃあ、そこ、開け、開けて。

千葉：外だっけ。

キヨ媼：そこ。

千葉：右だっけ。…書いてある。(間) フチはシャモの歌も歌うんですか？

キヨ媼：シャモの歌も、昔、歌ったよ、なんでも。

千葉：例えば、どんな歌？ 民謡みた^{おい}…追わ(け)。

キヨ媼：民謡みたいなやつも、盆踊りの歌も歌ったしね。

千葉：うん。

キヨ媼：盆踊りったら、音頭とりにいったもんだ、昔ね。

千葉：うん。

キヨ媼：今はなんもや [れないけどね] (笑)

千葉：ふーん。(間) [僕も]、僕もでもそうだ、僕も、あれですもんね、シャモの歌より、やっぱりウポポのほうがよく知っているぐらいだから、(笑)

キヨ媼：(笑) [から]

千葉：□□全然知らないもんね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん、そうか。

キヨ媼：うまく入ったか見てごらん。

千葉：うん。

キヨ媼：もしあれだったら、消してさ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、また元気なとき、また来たとき入れてもいいし、あら、新たにな。

千葉：うん、うん。ね。

キヨ媼：風邪気^{かぜけ}だから、うまく入らないべ？

千葉：うん、いや、大丈夫、たくさんやってたら、いいの、

キヨ媼：ん？

千葉：たくさんやってたら、いろいろ、ほら、

キヨ媼：どの、どっかにね、いいとこね、

千葉：そうそうそう。

キヨ媼：取ってってって□□

千葉：[どっかいのある。] うん。□□ね。シャモの歌って、なんか1つ歌ってみてもらえませんか？

キヨ媼：いや、いや、いや、シャモの歌も忘れたな、文句。

千葉：うん。どんな歌、歌ってた、釧路へんだ（ったら）漁師の歌とか、

キヨ媼：漁師の歌でもない、いろいろ、安来節^{やすきぶし}歌ったりね、いろいろ、その、ああ、この歌、歌ってみるか、歌ったこともあるけど、今たら、文句も忘れ、歌ったこともないから忘れちゃうわ。

千葉：安来節ってどんな節でしたっけ。

キヨ媼：【0:43:21】 ♪タターカーリー、イーイイーイーエイーっていくのさ。

千葉：ああ。

キヨ媼：【0:43:28】 ♪ナガーアンアンラーアンアン、アアンモー っていくんだ。

千葉：(笑) うまいね。うまいんでないかい。

キヨ媼：うまくないで [しょ]、まあ、言ってみるったらいつてみるべ。

千葉：いやいやいや。

キヨ媼：(笑) □□□□□□、そ(笑)、うまい、うまいつつたから、なかなか、いられないわ。(笑)

千葉：余計なこと言ってしまった。(もっとやって欲しかったのでこの発言をしている) (笑) ふーん。

キヨ媼：そう、その歌も、若いとき歌ったけど、今たら、うーん、あの、歌ったこともないし、文句も忘れたわ。

千葉：うん、もう、あれだね、ウポボ専門だね。

キヨ媼：うん。そのね、あの、苦労してたたかれながらも、その□□に^{すが}続いて、

千葉：うん。

キヨ媼：そうして、あんた、暮らして、今、この年になって生きてきているんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：クッターラカル、クッターラカルな。だから、その歌、まあ、それは、あんた、みんな、やる歌だけど、今ね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん、たたかれながら。

千葉：うん。

キヨ媼：タコに骨なしとか、ナマコに身なしとかってね、そういう歌もあったんだよね。(笑)

千葉：へえ。そうか、そうか。

キヨ媼：歌も忘れてしまっただ目だんだって。

千葉：うん。そ、ウェペケレ、あ、え、うん、なんだ、トウイタクとか、そういうのはやらないでしょ？

キヨ媼：何？

千葉：トウイタクとか、そういう、

キヨ媼：トウイタク？

千葉：うん。

キヨ媼：いやあ、やる気になったら、やる、やってやらないけど、やっぱり、

千葉：昔はよくやってた？

キヨ媼：やったことない。

千葉：やったことない。

キヨ媼：あのトウイタクな口、サコロベだとかな。

千葉：うん。

【0:45:00】

キヨ媼：あの一、やる気はないし、頭さ、はい、入らないもん、そんなの。やる気なんないから。

千葉：トウイタクとサコロベって、どう違うの？

キヨ媼：違うの、

千葉：どう違う、

キヨ媼：トウイタクったら、昔話だべさ。

千葉：節がつかない、

キヨ媼：サコロベったら、結局、あの、シャモだったら浪花節さ。

千葉：ああ、ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：うん。あの、あ、トウイタクたら、【0:45:23】 ♪ene aoki kani nekon kane itaka って、こ
ういくべさ。その、トウイタクったらね。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたらサコロベったら、今度、【0:45:32】 ♪kayorope ee keyoromaw ee pe e okay an koro
a nekon te ko sa aa roko、こうやっていくの。

千葉：うん。

キヨ媼：この節、結構、これ、さ、さ、あの、あの、浪花節 [ふしとってさ] (不明)、

千葉：うん。

キヨ媼：そうやってずっと、こう、いくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：それで、今度、なかに、今度、やっぱり話しながらいって、今度、こう、あの、浪花節みた
い、ずっといく。

千葉：うん。

キヨ媼：その、はな、そ、そうやるのを、今だかできないで、おら。

千葉：うん。

キヨ媼：そう、そうやるの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：トウイタクとサコロベと違うんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：今のサコロベは、

キヨ媼：今のサコロベ、だから、そうやっていくのさ、このサコロベさ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、一番先にいったのは、【0:46:25】♪okaankusu n pon hekaci utara u okkayutara tey
 こういうふうにしていくべさ、トウイタクとだらね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：それだけど、その、サコロベだったら、こうやっていくんだ、こうやって、この、浪花節と
 ひとつだから、節つけて、こう、行くわけさ。

千葉：□□□□□□

キヨ媼：先に今度、【0:46:44】♪kayororepeiii kayoropei enekonnekayiiisoymai kotan kor oo sonki、
 結局、こんど、ほら、その、苦勞した話、喜んだ話、

千葉：うん。

キヨ媼：その、アイヌ語で全部入れるわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：そのあいだ中、こう、こう、あの、これ、節つけてやるの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：これ、サコロベさ。

千葉：うん。

キヨ媼：2つとも、あの、和人としたら、結局、浪花節と一緒に。

千葉：うん、うん、うん、そうだね。

キヨ媼：私、やったこともないけどね、あ、こうしてやるんだなって。

千葉：うん。今でも、なんか、そういう感じだよ。やったことないにしては、サコロベ、

キヨ媼：やったことないけど、そういうふうにして聞いてた。

千葉：ふーん。今、今のは誰が歌ってたようなやつ、

キヨ媼：だからね、

千葉：釧路の、

キヨ媼：もう、年寄りたちが集まったらね、女も男もやる人いるんだわ。

千葉：ふーん。釧路のほうで。

キヨ媼：うん。釧路の人らね。今なんかやる人いない。

千葉：うん、そうだね。

キヨ媼：日高でも、どこもやる人いないわ。

千葉：うん。

キヨ媼：サコロベのやる人は、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：トウイタクだかどうだか知らんけど。

千葉：うん。

キヨ媼：なんだかやる人いないよ。自分生きてるうちはね、自分で生きているうち、自分が苦勞したことと、喜んだとこ、あいだ入れてね、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、あの、サコロベにして、あの、テープにとって死にたいなと思うとき、あるよ。やっぱり、

千葉：うん。

キヨ媼：考えるからね。自分が、ほれ、苦勞したときもあるし、喜んだときもあるからね。

千葉：うん。

キヨ媼：そのあいだに入れてさ、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、あの、とっておきたいなと思って、そして死にたい、死ぬときに子どもに残していききたいなと思うときある、やっぱり。

千葉：うん。

キヨ媼：いや、考えるときある。寝ててね。

千葉：うん。

キヨ媼：よし、こうだな、ああだなんて。

千葉：うーん。

キヨ媼：したから [まね] ぐらい、まあ、先とかあとの、あの、文句ぐらいできるけど、あと何やるんだか分からん。(笑)

千葉：ふーん。

キヨ媼：お茶、やるか？ もう終わったぞ。

千葉：うん。うん。そうか、そうか。

キヨ媼：そうか、そうか、そう。温かいの飲みな。

千葉：うん。

キヨ媼：はい。どっこいさーどっこいさ。本当、なかなかアイヌの歌も、あの、なんの歌も、これってね、

千葉：うん。

キヨ媼：これってね、やる人いないから。

千葉：うん。

キヨ媼：本当にやれる人いないんだ、本当に。

千葉：うん。

キヨ媼：おらみたいなの、もう終わり。できなくなったもん、なんも。

千葉：うん。

キヨ媼：いやあ、私なんか、こんど風邪引いて、もう、10日ぐらい風邪ひいてた。

千葉：ふーん。

キヨ媼：シケレベ、あの、煎じて飲んだりね。

千葉：うん。

キヨ媼：声出なくなったんだもの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ほいでも、行くとき、やっと思ったんだもん、声出るか、出ないか、声出るか、出ないかって、心配〔しつ〕ね。

キヨ媼：ほれで行って、どうやら、こうやら、少しでもやれたけどね。いやあ、本当に。

千葉：まあ、でもね、下で聞いていたらちゃんと、声出てたから、全然分からなかったね。

キヨ媼：いや、いや、あのね、もう、本当、

【0:50:00】

キヨ媼：あんときは切なかったよ。

千葉：うん。

キヨ媼：心配で心配でね。私も、今度ムックリやったべさ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ムックリが全然、歌やって、や、あ、すぐムックリってやってや、こんどね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、情けないことにね、うん、歯がこれ、歯が、

千葉：うんうんうん、うんうんうん。

キヨ媼：こうやって口開けるでしょう？ ここ使うんでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：したら今度ね〔だんだん〕下がってきて全然駄目なの。それで、ちょっとしかできなかった。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：やるやるったって、もうできないわ。

千葉：ああ、入れ歯が下がっちゃうんだ。

キヨ媼：はあ、はあ。これねえ、ほんとはね、つけていけば良かったの。

千葉：うん。

キヨ媼：薬ね。

千葉：ああ、こういうネチャっとしたやつね。

キヨ媼：うん、びたっとね。

千葉：うん、びたっと。

キヨ媼：それがつけていかなかったべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：したら、こんど、だんだん吹いているうち、こんど、下がるわけ。

千葉：うーん。

キヨ媼：□□□恥かいたでや。もうやらないど、ああいうとこ行って、ムックリ。

千葉：へえ、そういうことが、

キヨ媼：いや、あれんつければね、なんともなかったんだけどね。

千葉：うん、うん、そうか、そうか。そういうこともあるんだね。

キヨ媼：ねえ。だからね、あの、このムックリだら、余計に下がらないんだわ。わし、あの、これ持っていくから、私、もったのよ、このムックリな。ムックリ [ふたいろ] 持ってるね、あの。あのねえ、あ、□□□□□ □□□□□。ムックリね、あの、本当に、ムックリは、あの、な、や、きのうだかおととい□□したんどうしたの。こうやって鳴るやつあったべ？こうこうこう。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：あれならね、余計にある。これこれこれ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：これ、持っているんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：これだら、あんまり口開けなくていいでしょう？

千葉：(笑) ちょっとずるいけどね、なんか、それ□。

キヨ媼：【0:51:46】♪ (紐なしムックリ演奏 11秒) これだ、持っていけば [いい]、

千葉：ああ、うん、うん、うん。

キヨ媼：[あれは、か] 【0:52:00】♪ (ムックリ演奏 2秒) □□□□□□□ (これだけ開けな、か、不明) あ、[どンドン] 下がるべ。(ムックリを加えながら話しているので不明瞭) (笑)

千葉：なんか、あっちのほうが、やっぱ、口が開くのかな？

キヨ媼：ええ？

千葉：あっちの、こう、ひものほうが、口開く、

キヨ媼：開くんだ、か、

千葉：なんでだろうね。

キヨ媼：あ、開くんだ、これは小さいからあれだけど、あれなんか [から、これが] 【0:52:17】♪ (ムックリ演奏 1秒)

千葉：うん。

キヨ媼：こうやってカンカンカン、

千葉：うん。

キヨ媼：口をこうやるべさ、だ、これから、こういうふうにするから、だんだん、歯がゆるかんで、おりてきて、おりるでしょう、

千葉：うん

キヨ媼：だから、駄目なの。こうやってやるの、こうやって。【0:52:28】♪ (ムックリ演奏 5秒) こうやってやるべさ、ねえ。

千葉：ふーん。うーん。

キヨ媼：いい音でしょ？

千葉：うん。

キヨ媼：〔フミ鳴り〕（笑）

千葉：うん、触ったことある、うん。

キヨ媼：ねえ。これはいい〔おと〕♪（ムックリ演奏 12秒）はいー。これ持ってけばよかった。

千葉：（笑）

キヨ媼：（笑）おかしいなあ。

千葉：おかしいね。ふーん。〔いや〕、

キヨ媼：いやあ、恥かいたぞ。あの、大勢のなか、前に立ってな。な一口、もうやらんぞ、どこ行って。来年は札幌。

千葉：ああ。

キヨ媼：ら、札幌行く□□。

千葉：うん。まあ、みんな、キヨフチがムックリうまいの知っているから、みんな、シーンとして聞くもんね。（笑）余計だわ。

キヨ媼：シーンとしたら、だんだん、音なかったもの。ちょっとしか鳴らせなかった。だんだん下がってくるのに、どうしようもない〔べさ〕。

千葉：そうか、そうか。

キヨ媼：おらは、もう、こんなどこ行っても、ムックリ鳴らさんど、おら。

千葉：（笑）今度、それ持っていけばいいでしょう。うん。

キヨ媼：いや、今度やればね、

千葉：うん、ああ、これつける。

キヨ媼：これつける。これねえ、あの、36年になるか。つけて。

千葉：ふーん。

キヨ媼：これねえ、あの、東京で入れたの、

千葉：ふーん。

キヨ媼：この歯。違うでしょう？ まあ、あの、いい歯入れたんだけどね、だんだんね、痩せてしまつてね、ここね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：^{とし}歳とつたらね。

千葉：自分の歯を、そのまま、こうやってつくるわけ？ そういうのって。

キヨ媼：自分の歯も、みんな抜いてしまう、全部抜いてしまつて。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そうしたから総入れ、総入れ歯さ。ね。

千葉：うん。

キヨ媼：下もね。

千葉：あ、下もそうなの？

キヨ媼：そうなの。みーんなそう。

千葉：へえ。ああ、そうなんだ。

キヨ媼：うん。

千葉：全然分からなかった。うん。

キヨ媼：はい、私の歯ですよ。言ってしまったからじゃ、ばか言ってる。(笑)

千葉：ふーん、そうか、そうか。

キヨ媼：こんど、一生懸命、なにかまだ入れるか。今度来たときな、また、今度な。

千葉：うーん。

キヨ媼：今度、今度、あの、ほれ、札幌行くときも来れば、来年の今ごろだ。ね。

千葉：うん。

キヨ媼：今度、札幌だと。札幌行ったら、ムックリ、これ、持っていくど。(笑)

【0:55:00】

キヨ媼：いや、そんなときにはね、もう、ぴたっとしてやるの。[だいち]ムックリ鳴らさないっていうんだわ。

千葉：うん、そうか、そうか。

キヨ媼：歌ばかりでいま精一杯だわ。

千葉：うん。

キヨ媼：3つ踊ったからね。

千葉：うん。

キヨ媼：キツネの踊りと、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、ほら、サランベニ、アランベとき。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：それから、あの、サルキウシナイとやったでしょ？

千葉：うん。

キヨ媼：3つ歌って、そのあと、あんた、ムックリやるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：いや、2つ歌って、今度ムックリいったべさ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：行って、今度、カラカ□□□□たん□□□下がってくるべ、はああ、嫌だ。もうやらんぞ。
(笑)

千葉：うん。まあ、できる人がいっぱいいればいいけどね。うん。

キヨ媼：交代交代やってくれればな。

千葉：ねえ。うん。

キヨ媼：うん。今度、今年は誰それやるとか、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：来年は誰それやるとかっていえば、やれるけど。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：やれんやなあ。

千葉：若い人がね。

キヨ媼：やってやれないことないんだけど、やる気しないんだ、みんな。若い人らはな。

千葉：うん。

キヨ媼：ウポポだっってそうだべさ。

千葉：うん、まあ、難しいもんね。サルルンカイも、カムイも練習しても、なかなか、やっぱり似ないもんね。

キヨ媼：(笑)

千葉：うん。

キヨ媼：やってはそんなことないでや。

千葉：うん。だいぶ似てきたよ、でも、きっと。サー、ん、【0:56:32】♪サールールンカムイイ、ハーアア、ホオオオオオオ、ハーアア、ホーオオオオオア、ホオオイ、ホオオオオオ、エーネエオーカアイイイ、ハーアアア、ホオオオオオオ、アアア、ホオオオオオオア、ホオオイ、ホオオオオオオ、ホオプウニーエエトオオ、ハーアアア、ホオオオオオオオ、

キヨ媼：上手だわ、それだけ。

千葉：♪ハーアア、ホオオオオオオア、ホオオイホオオオオ、っても

キヨ媼：上手だよね、

千葉：ぜんぜん

キヨ媼：よく文句までずっと覚えたね。

千葉：ん？ うん。

キヨ媼：よその人らに、これやれったって、やれないんだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：分からないって。

千葉：うん、難しいよ、これ。

キヨ媼：ただ、ただね、あの、♪フンドーリーってばかり言ってるべさ、

千葉：うん。

キヨ媼：阿寒湖の人もここだっってそうでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたら、サルルンカムイっていう人いないの、

千葉：うん。

キヨ媼：それで、やんなさい、これ本当だからってったね、面倒くさいって。面倒くさいから、(電話が鳴る)あ、あ、□、誰だべ。ああ、どっこいしょ。(通話中 00:57:31~00:58:05)はい、もしもし、はい、ええ、なんもないですけど、ええ、あの一、果物でね、あれ、買ってきて、あれ、バナナだけ。ああ、そうかい。したらい、今ね、あの一、うーん、に、じ、お客さん来てるんだわ、うん、来ても遅く来て。あの、NHKの人来てるもんで。はい、あ、そういうことです。待ってます。ば、晩に、

遅く来てください、はい。(笑)(電話終わり) □です。

千葉: NHK じゃないじゃない。(笑)

キヨ媼: ええ、□□□□□□□□□□□□。ああ、そうですか。

千葉: NHK の腕章つくんなきゃ。

キヨ媼: NHK の人と、ヤホイ、アビョウシ。

千葉: え?

キヨ媼: まきひとつ。

千葉: ああ、ああ。大きいほうがいい?

キヨ媼: [ちよい、やほ、こまき、まえさつ、やほとうけつ] しかないの。割れたやつひと、ちょうだい、割ったやつ。

千葉: 割れたやつ。これでいいの、この大きいやつで。

キヨ媼: うん、その大きいやつも□□。

千葉: 下の小ぢやいやつ、

キヨ媼: はい。

千葉: おおお。

キヨ媼: (笑) あ、NHK の方ですから、

千葉: はい。

キヨ媼: ゆっくりしてくださいって。いったん。もうひとつ。

千葉: こっちは? これは?

キヨ媼: うん、うん、それでいい。小さいの燃えるからね。□割ってるから。

千葉: □NHK になってしまった。

キヨ媼: NHK の、おきや、あの、お客さん。(笑) 割ったやつのほう、いいな、一つ。

千葉: これ?

キヨ媼: うん。それ、腐ってるんでねえべか。

千葉: でかいね、腐ってても燃えるでしょ。

キヨ媼: ああそっち。いい、いい、それでもいい。

千葉: この細いのにする?

キヨ媼: うん、どっちな細いのちょうだい。

千葉: □で? これは?

キヨ媼: ううん、それぞれ。

千葉: こういのは?

キヨ媼: んん、そのほういい。あれもういいよ、はいはい、すみません。年末に一生懸命、NHK の人使ってな。まあ、そういったら [ねんど] 釧路の人なんだ。

千葉: うん。

キヨ媼: あの、ほら、あの、買いものして、

千葉: ああ。

キヨ媼：来てもらってね。

千葉：へえ。

キヨ媼：ム、ムックリだとか、なんかねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：仕入れてくるんだ。

千葉：へえ。

キヨ媼：だから、その人だ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：はあはあはあ、一服、飲みたいな、おら。もう、これでおしまいね、今日はね。

千葉：うん。

千葉：ありがとうございました。

キヨ媼：どうもご苦労さまでした。

千葉：放送はしませんけど。

【1:00:00】

キヨ媼：NHK のお客さん。□□□□□□□□□□一生懸命やっつけられるんだ。あーあ、本当にね、なんもないんだ、1人でいてぼさーっといって考えてね、

千葉：うん。

キヨ媼：□□□□□□□□□□。だから考えるよ、[私、次から] 次へ、やっぱりね。

千葉：うん。

キヨ媼：□□できないないことだとかさ、そんな、あんた今度はこれやらんきゃならんと、あれやらんきゃならんと、

千葉：うん。

キヨ媼：せめて、もう1年、2年か、2年ぐらい、2年、2～3年、[そうば] やりたいなと思ってね。

千葉：うん。

キヨ媼：自分の店だからな、大いばりしてやれるんだからね。だけど、そのね、続くか続かないかって。

千葉：うん。

キヨ媼：2人店員頼んでいるからね。

千葉：うん。また、ふぶいてきたね。

キヨ媼：うん。

千葉：外、

キヨ媼：[こな]、だよ。まあ、これ、お茶でも飲んでゆっくりして、

千葉：うん。

キヨ媼：食べるとこ食べて、してきなさいよ。頑張って。

千葉：はい。

キヨ媼：それ、か、あれ、電気ついてるんじゃないの、もう。

千葉：うん、大丈夫。

キヨ媼：いいかい、なんともないかい。

千葉：うん。

キヨ媼：ほいで、あの、入れてごらん、うまく、入っているか、入っていないか。

千葉：うん。

キヨ媼：NHKさん、NHKさんの若い人さん、頑張ってくださいよ。今度来るんだわ、また来るとき電話よこすから、NHK。

千葉：ああ。よく来るでしょう、NHKは。

キヨ媼：うん、

千葉：よく来るんでない？

キヨ媼：くるばり3人ぐらい来るもの。

千葉：うん。

キヨ媼：なんぼ少なくとも。

千葉：うん。ね、例えば、その、サルルンカムイで、この、♪オオオオってやるときって、これ、なきゃ、やっぱり、いけないんだろうね。

キヨ媼：そうしなかったら、踊りに合わないんだ、やっぱり。

千葉：踊れない、うん。で、そのウポポ覚えるときも、もう最初から、そうやって覚えるもんなの？

キヨ媼：そう。

千葉：うん。

キヨ媼：黙って聞いてやるのさ。

千葉：ん？

キヨ媼：黙ってきいてて、そのようにいうんだ。

千葉：うーん。例えば、最初は、その、(ストレートに)♪サールールンカムイって歌っていて、だんだん、(節をつけて)♪サアルウルンカムイってやるわけじゃないんでしょ？最初から、もう、

キヨ媼：そうさ。

千葉：最初から、

キヨ媼：最初から、その、節つけないんだったら、踊りに合わないもん。

千葉：うん。

キヨ媼：♪サールン、いやあ、今、たばこ持ってる [からなあ]。これ、やんなさいって、全然やる人いなかった、

千葉：うん。

キヨ媼：やれないって。

千葉：元の節って決まってるの、その、♪サールー、シャモみたいに歌って、♪サールールンカムイって、そういう節決まってるんだろうか。

キヨ媼：それがね、

千葉：うん。

キヨ媼：踊りに合わないんだわ。【1:02:42】♪サールルンカムイ、ハア、ホーホー、ホーブーニーエート、ホーホ（節をつけないストレートな歌い方）っていても合わないもん。

千葉：うん。

キヨ媼：それは節つけなかったら合わないもん、踊りに。

千葉：♪サールルンカムイー（音程をつけて歌っている）っていうの？

キヨ媼：うん。

千葉：元は。

キヨ媼：うん。

千葉：元があるんだ、一応。

キヨ媼：それだから、先にサルルンカムイっていった。

千葉：♪サールルンカー（音程に節をつけて試している）、なんか、ちょっと違わない、それ。

キヨ媼：（笑）

千葉：（笑）音が違う。適当に言ったな。うーん。

キヨ媼：【1:03:13】♪サールルンカムイー、アアアア、ホオオオオオオン、アアアンアホオオアアアンア、ホオオイホオオンン、ホーブーニーエートオオ、アアアアンア、ホオオンアアアア、アアアンア、ホオオンア、アアアンア、ホオ、【1:03:32】これ踊りに合うわけ【なの】。

千葉：踊りは一緒でしょ？

キヨ媼：うん、踊りは一緒。

千葉：うん。

キヨ媼：えっと、文句が違う。おら、おらの文句と向こうの人はね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、【1:03:42】♪フンドオリイ、フンチイカフ °、アアアンアホオオオオオオ、アアアンア、ホウウアアアアンア、ホオオイホオオオオっていくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：そいで、また、そういつてから、また【1:03:57】♪フンドオリイ、フンチイカフ °、アアアンアホオオオオオオ、アアアンアホオンアアアンア、ホオオイホオオオっていくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：これは、あの、やっぱり、節つけていかんかったら、踊りに合わないんだもん。ただ、文句だけ違うだけ。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：したら、今度、ゆっくりいって、今度、見てごらん。あの、娘歌うから。

千葉：うん、うん、き、聞いた、聞いた。

キヨ媼：娘のが。

千葉：□□□□□。サルルンカムイは、本当、だって、きヨフチしか歌っているの聞いたことないもん。

キヨ媼：そうだ。やってないもん。わし内地まわりったらそればかり歌ってるもんね。サルルンカムイ [って言うてばね]

千葉：ふーん。

キヨ媼：これが本当なんだけど、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、フンドーリーったら、鳥っていうべさ？

千葉：うん。

キヨ媼：フンチーカフ °っていったら、フンチーカフ °ったら、

キヨ媼：フンドリ、鳥と鳥っていう意味でしょう。

千葉：うん、うん、鳥だよ、うん。

キヨ媼：それでみんな知っているんだから。

千葉：うん。

キヨ媼：おれはサルルンカムイっていうべさ、

千葉：うん。

キヨ媼：そうやってずっと繰り返して知っているんだけどね、[それはね]

千葉：うん。

キヨ媼：さあ、このね、

【1:05:00】

キヨ媼：NHK さ行ってね、はあ、言いなさい。俺、詳しいんだって聞いたんだけど、ど、どうだべって、もう、その文句、こうやっていってるだけで、その文句とって、サルルンカムイってなんて意味ですかってね、

千葉：うん。

キヨ媼：ホプニエトつつたら、なんていうもんですかって。エネオカイっていったら、なんていうもんですかって、3つあるんだからね。【1:05:21】♪サールルンカムイイイ、アアアンア、ホオオオオオ、アアアンアホウアンアアアンア、ホオオオオオオオオオオオ、ホーピーニーエトオオ、アアアンア、ホオオオオオオ、アアアンア、ホオオンア、アアアンア、ホオオオ、ホオオオオオ、エーネーオーカアイイイ、アアアンア、ホオオオオオオ、アアアンア、ホオオンアアアアンア、ホオオオオオオオオオ ってこういくの。

千葉：うん。

キヨ媼：一番けつにね、エネオカイっていったら、おまえみたいなものをね、あの、今、踊り、あの、飛ばれるか、と、と、飛べるか、飛べないか、親が言っているわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：その意味で言っているの。

千葉：うん、うん、うん、うん。

キヨ媼：サルルンカムイって、先にいくは、お、あの、お、大きい鳥の話、

千葉：うーん。

キヨ媼：親鳥な。

千葉：あ、そうか、ホブニエトが先か。

キヨ媼：そうだ。一番先に、したからさ。

千葉：僕、さっ

キヨ媼：【1:06:20】 ♪サルルンカムイイイ、アアアア、ホオオオオンオオ、アアアア、ホオオンアアアアンア、ホオオイホウウウウウ、ホーポーニーエトオオ、アアアンア、ホオオオオオオ、アアアンア、ホオオンアアアアンア、ホオオイホオオオオオオ、エーネーオーカアイイイ、アアアア、ホオオオオオオ、アアアンアホオオアアアアンア、ほおおいほオオオオオオ って、これ一番けつにね、おまえみたいな、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、親言うんだね、これね、意味はね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：親言うわけ、おまえみたいなもの、今、踊れるか、踊れないかって、けつにいつているわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：言うの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：そして、今度、節つけていくわけ。それに踊りが、あわ、あの合わせるのね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それで、NHKの、あの、お客さん、NHK行ったら、言ってごらん。俺には、こうやって、あのばばあに聞いたけど、サルルンカムイってな、

千葉：うん。

キヨ媼：なんだ、もんだべってな、

千葉：うん。

キヨ媼：こうやって歌うもんだっていうことを、サルルンカムイって何ですかって聞いてごらん、

千葉：うーん。

キヨ媼：そしたら、NHKの人、みんな覚えてるから、アイヌ語ね。

千葉：うーん。ふーん。

キヨ媼：それでない、阿寒湖行ったら、♪フンドーリー、フンチーカフ ° っていくべき、♪アーア、ホオオオオオ、アーア、ホー っていくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：♪ホーイホーってまた、繰り返して、♪フンドーリー、フンチーカフ °、アーア、ホオオオオオオ、アーア ホオオアアアアンア ホオオイホオオオオ、っていくべき。(咳) このほう、言いやすいんだよ。早く言えば。くりかえして言うからね。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、NHKさん、いつてね、俺、あの、ばばに、サルルンカムイっていう歌って聞いたんだけど、どんなもんだべっていったら、あんた、知ってるべ歌ってごらんって、歌って聞かして

ごらん? うん。(笑) んな、負けるから。(笑)

千葉: (笑)

キヨ媼: んーん。笑ったり、ほんと、おかげさんで。[やほいくらしてこようと] おもってた。(間)
いろんな歌はあるんだわ。

千葉: うん。

キヨ媼: いっぱいね。その、みんなね、うーん、ヤイサマに今度文句つけるんだわ。いろいろな、に、あの、文句を入れるわけ。

千葉: うん、うん、うん。

キヨ媼: 【1:09:14】 ♪ いっぱい飲めば、2杯となる、2杯飲めば、3ばいとなる、3ばい飲めば、しーは一、いや、【1:09:31】 ♪ yaysamanena yaysamanena、horehorennna horehorennna、kuani ana kuani ana いっぱい飲めば、2杯となる、2杯飲めば、3ばいとなる。3ばい ku ku ku ku

【1:10:00】

キヨ媼: ♪ ^{しはい}4杯となる、4杯飲めば、^{ごんごう}五合となる、^{ごんごう}五合飲めば、acakorare、kocakorore、めんどうだなも、yuboutarie、hapoutari、めんどうだなも、たのむでや、horehorennna horehorennna、horehorennna yaysamanena、yaysamanena coy coy と、こうやっていく。

千葉: いろんなウポポ聞いてると、その、昔の、あの、上手な人はね、

キヨ媼: うん。

千葉: フチもそうだけど、フチみたいに、その、上手な人はみんな、その、なんていうの、

キヨ媼: いろいろな文句でね、

千葉: うん。文句もあれだけど、節がさ、

キヨ媼: うん。

千葉: 裏声みたいな出すでしょう?

キヨ媼: うんうん。

千葉: うん。ウウウウっていうの、それが、なんかあれだね、

キヨ媼: (笑) あんた、上手だもん。

千葉: うん、いや、だから、例えば、よそのとこのね、子守歌だけどさ、その、♪アー、アーターハウウウってのがあるわけ。

キヨ媼: うんだ。

千葉: ♪アーターハウウウ、

キヨ媼: 【1:14:41】 ♪ ha ta hata hata kute sanna ho hou hou って。これも、あの、子守歌な、そうやっていくんだ、やっぱりね、

千葉: うん。

キヨ媼: その、早いところいえば、節つけていくんだね、あれね。

千葉: うんうん、それ、今のは?

【1:15:00】

千葉: 釧路の? 子守歌?

キヨ媼：わしらね、釧路のやつだら簡単なんだわ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：【1:15:05】♪oro sa hoyya, orosa ho ho, a oro sa ho ho, a oro sa hoy yo って、先に、これいくんだ。それから、じ、【1:15:24】♪ ee een e, eteke ho cisie anna hata hata hata hata hata hata kute sanna cisi anna kikoro ho ho mokoro anna ho ko ho ho tara hrrrrrr (巻き舌の音) これを入れるのさ、そうやっていく。

千葉：ん、その、最後は、それも節、節やるわけ？

キヨ媼：そうだ、そうやっていくのさ。♪hata hata、先にね、わしはね、オロッサホイっていくの。

千葉：うん。

キヨ媼：オー、早いこと言えば、その、はやしみたいなものだ。【1:16:22】♪orosa ho ho, orosa hoyyo ha, orosa hoho, eteke cisi anna ho ho, hata ha ta hata hata hata kutesanna horrrrrrr hrrrr hrrrr … (巻き舌の音) これでいくんだ。

千葉：その最後は、その、ラーララララララーララ (巻き舌の音) って、(巻き舌トライ音) これでやるわけ？

キヨ媼：うんだ。

千葉：trr, trr (巻き舌をトライする音) できないな。

キヨ媼：(笑) おろろろろ。

千葉：trrr, trrr, trrr, (巻き舌をトライする音) できないわ。(笑)

キヨ媼：だ [から] そうやっていくの、わしらの子守歌。

千葉：うん、節を、節をこれでやるわけだ。

キヨ媼：そうだ。

千葉：ふーん。へえ。そうか、そうか。いろんなのがあるんだね。

キヨ媼：うん、いろいろあるよ。

千葉：うん。

キヨ媼：だってね、ここでは、あの、釧路のウポポとき、

千葉：うん。

キヨ媼：白糠のな、旭川のウポポだった口、日高のウポポ全然違うんだから。

千葉：うん。

キヨ媼：ウポポは違うでしょう？

千葉：うん、うん、違うね。

キヨ媼：違うよ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、釧路のウポポま□ウポポと違う。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：今度、あの、こういうその子守歌だって、やっぱり違うのさ。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：なんとか、かんとか、かんとかっていうけどね、わしらは、そういうふうにしていくの。

千葉：んー、そうかそうか。やっぱり、昔の人は、節が回るもんね、そういう、ねえ。

キヨ媼：□□、節、節まわるんだ。今の人も節まわる（笑）

千葉：だから、その、どこだかのウポポで、その、例えば、♪hauo sa o っるのが、追っかけて、♪hauo ho hauo sa a a っっていうのがあるんだけど、

キヨ媼：【1:18:09】♪o sa o ho o sa っってウポポはあるしね。あれ、あれやってたべさ、向こうの人らな。

千葉：こないだね。だから、あれも、ほら、若い人がやると、最初の、♪hauo sa o っっていうのがね、♪hauo sa o っってなるのさ、（節と音階の旋律）

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：ね。

キヨ媼：旭川は、これね、【1:18:28】♪o, o sa ho o, o o sa ho, ho o っってやって、全然違うもの、あっちのウポポと。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：おらなんかできないわ、あっちのそんなウポポ。うちのほのほう、簡単でないのかい？

千葉：簡単でないわ。（笑）ここのが一番難しいわ。サルルンカムイなんか、誰もできないもんね。この人だっってできないもんね。

キヨ媼：うん、やるんじゃない、なんだか知らんけどさ。

千葉：うーん。

キヨ媼：やあやあやあ、笑ったね。はああーあー、おかげさんで、これは大して降らないわ。

千葉：うん。

キヨ媼：阿寒湖、回ってかい？

千葉：うん。

キヨ媼：晩にでないこ踊りやんないと。今、

千葉：うん、いや、だから、ほら、車返さなか、いかないからね。だから、な、何やってんの。

キヨ媼：やっぱりイチジのね、こう、下がってくるから、緩くなってね。

千葉：病気して痩せたんじゃないかい？少し。

キヨ媼：痩せたのね。

千葉：やっぱり緩くなるでしょ？

キヨ媼：緩くなる、したからね。これが痩せたから、こんど緩くなってね。

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、そんなね、とってやるさ、もう、

千葉：うん。

キヨ媼：入れ歯ももうなんもいらぬや。

これも、やっぱり、歯あるとないと違うよ。声も。

千葉：声？

【1:20:00】

キヨ媼：うん、声も違う

千葉：ふーん、なんでだろう。

キヨ媼：声違うよ、やっぱり、お、お、歯ないから埋もれちゃうの

千葉：埋もれちゃう？

キヨ媼：よそへ出てしまって、うまく入らないの。これ。

千葉：ふーん、

キヨ媼：ねえ、ウポポが入らない。ええー、(笑) かけてごらん、いったん、どんなんなってる、

千葉：これね、

キヨ媼：うん。

千葉：どうやったらいいんだろう。このまんまだと聞けないんだわ、これ。

キヨ媼：うん。

千葉：どっかにね、つながないと聞けない

キヨ媼：あのね、差し込みはたくさんあるよ、そっちのものもあるし。

千葉：じゃあね、

キヨ媼：こっから、こういってごらん。あそこに差し込みある、ちょっとつか下に。

千葉：これに入れてみようかな、ちょっと。

キヨ媼：ここにもあるし、あれあれ、

千葉：ん、

キヨ媼：あそこにも差し込みある。

千葉：何、差し込みって。

キヨ媼：あの、電気の差し込み、

千葉：ああ、電気じゃなくて、

キヨ媼：うん。あるし。

千葉：これね、聞く、聞くやつがないんだわ。

キヨ媼：うん。

千葉：ちょっと貸して、

キヨ媼：それね、電気、電気つけなかったら、電気弱い、た□□ん。

千葉：えーっと、

キヨ媼：差し込みあればいいけど、電気弱くなってるでしょ？ きっと。差し込みのほうへ、うまく、つ、つくでしょう。電気入れるから。

千葉：うん。

キヨ媼：それ、もう電気なくなってな□□□□。

千葉：それら□□□□□□□□。♪ソーラーホーオー

キヨ媼：これは、差し込みだから、これに、は、入れてごらん。どっちか。

千葉：あ、そっちのほうがいいかもしれないな。

キヨ媼：これ、この、こい、こ、こっちな、どっちな、はしっこに

千葉：ああ、同じかな、同じかな、

キヨ媼：同じか、だけど、

千葉：こっちのほうが、こっちほうが、

キヨ媼：ああ、そっちのほうええかな。

千葉：いや、

キヨ媼：差し込み、わしのまだ差し込みないの、これの、

千葉：あるある。

キヨ媼：小ちゃいの。

千葉：んで、こう入れて、□□ト□ン□

キヨ媼：んー。(終了)

【1:24:02】

以上 Kiy930202 日川キヨ媼宅にて収録

4 : 1993 年 5 月 19 日 (ファイル名 : Kiy930519) 1°19' 50"

【0:00:00】

千葉 : あ、あ。あ、あ、あ。あ、あ。(レコーダーのマイクの入力テストをしている)

【0:01:00】

これ、例によって止めていいですか。

キヨ媼 : はい。はい、止めていいよ。

千葉 : また、あとで。

キヨ媼 : みんな止めてください。あっちの時計は、それだけだね。

千葉 : うん。

キヨ媼 : [と] ちいちゃいのは

千葉 : 音がしないから。

キヨ媼 : うん。〈かんかん〉鳴るんだからね。

千葉 : うん。カチカチカチってなるんですね。えーと。だいぶ、だいぶ慣れてきたでしょう、この、

キヨ媼 : ああ、そうかい。

千葉 : ええ。また面倒くさいこと、いろいろ聞きますけど。クットモレット、

キヨ媼 : え。

千葉 : クットモレットって、

キヨ媼 : クットモレットしたらねえ、

千葉 : うん。

キヨ媼 : あの、こ、あの、喉でね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : だけで、あの、声出すのさ。

千葉 : うん。

【0:02:00】

キヨ媼 : それがあるの。それはね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : 神さんに、あの、早くいえば、おつとめやなんかするときのね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : あの、声なんだね。

千葉 : あ、カム、カムイノミのとき、

キヨ媼 : カムイノミの声というの、女の、女、男は男、女は女の、やっぱり、あるわけさね。声ね。

千葉 : ふーん。クットモレットっていうのは、お、

キヨ媼 : ク、クットモってったら喉でしょう。

千葉 : うん。

キヨ媼：喉でもって、あの、声、声出すわけさ。

千葉：声を出すと。それは、男の人も女の人もやるんですか。

キヨ媼：いや、女だ、女クットモレットってやるの。

千葉：うん。

キヨ媼：男は男で、別な、歌は歌うんだろうけど、女は女で、そのクットモレットってあるんですよ。

千葉：うん。男は、そ、そういうとき、何、何やるっていうのは、

キヨ媼：男は、あの、あれでしょう、あの、タップ°カラってやるんでしょう。タップ°カラってね。

千葉：あ、ああ、そう。

【0:03:00】

キヨ媼：女がクットモレット。

千葉：うん。そうか、そうか。

キヨ媼：聞いたでしょう、あの、聞かなかったかい、タップ°カラって。

千葉：タップ°カラは、うん。今吉さんのやるやつでしょう？

キヨ媼：ああ、あれ、あれ、タップ°カラっていう、男のタップ°カラ、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：女はクットモレットって。

千葉：ふーん。そうか。じゃあ、なに、あの、

キヨ媼：お茶とってください。

千葉：はい。

キヨ媼：ぬるいかな、少し。

千葉：いや。そうか、じゃあ、なに、その、熊送りのときとか、そういうときにやってたんですか？
昔は。

キヨ媼：そうですね。

千葉：うん。なんでも、熊送りでなくても、なんか、その、大事なことがあるときとか、

キヨ媼：そうだ、そうだ、お祭りとかね、なんかのときに、その、やる、やるんだね。

千葉：うちの中でやるんでしょう？

キヨ媼：うちの中だよ。外でやらないね。うちの中でやる。

千葉：でも、例えば、ほら、踊りとかがあるときは、もうずっと、あとでやるんでしょう、そういうの。

【0:04:00】

キヨ媼：そうだ。

千葉：最初に、

キヨ媼：一番あとだね。

千葉：一番あと。

キヨ媼：男は男、女は女ってね、やるんですよ。

千葉：クットモレットは昔の女の人は、みんな、やってたんですか？

キヨ媼: そりゃあ、やる人、決まっているわあ、あんなに、そんなに、そんなに、皆さんやらないわ。

一番年頭^{としがしら}がやる、そういうこと。

千葉 : ああ。それが、

キヨ媼: うん。

千葉 : あの、できるとか、できないじゃなくて、もう、やらないんだ。

キヨ媼: あんだ、そうだよ。

千葉 : うん。

キヨ媼: うん、い、あの、一番年頭の人やることだから。

千葉 : ああ。1人だけで。

キヨ媼: うん、1人だけでね。

千葉 : ふーん。そうか。お婆さん、前、来たとき、ちょっと歌ってくれたでしょう？

キヨ媼: うん。何の歌、歌った？

千葉 : クットモレッテ。

キヨ媼: クットモレッテね。

千葉 : うん。

キヨ媼: うん。

千葉 : あれは、誰かから習ったりするもの？

キヨ媼: 習わないね、

【0:05:00】

キヨ媼: 聞いて自分で覚える、はい。

千葉 : だ、誰の、みんな、節違うもんなんですか？人によって。

キヨ媼: その人によって声も違うし、

千葉 : うん。

キヨ媼: ね。節はみんな同じですよ。

千葉 : 節は同じ。

キヨ媼: 声、声はやっぱり、声、出す人と、

千葉 : うん。

キヨ媼: 早いところいえばね、声いい人と悪い人っているでしょう、その声によって。

千葉 : うん。

キヨ媼: ねえ、その人によってね。

千葉 : ふーん。このへんだと誰がやっていたんですか？昔は□□

キヨ媼: 昔はね、あの、私の小さいときですよ。

千葉 : うん。

キヨ媼: 今の人はやらないけどね、昔、一番年寄りね、やって、私、聞いたことがあるんですよ、それね。

千葉 : それ、何ていう人ですか？昔の

キヨ媪：もう、亡くなっていないけどさ、早くの人だ。うん。

千葉：このへんだと誰なんだろう。

キヨ媪：もう、早い、早い、早い。

千葉：名前、覚えてます？

キヨ媪：うん、

千葉：名前、覚えてます？

キヨ媪：いやあ、あれはね、名前忘れたなあ、私、もう、あの人の。テシベ、テシベっていう人だったな、あの、アキベじゃない、テシベだ。テシベね、あの、アヤ、アヤっていう人だったね、アヤさんっていう人でね、その人はなんでもやる人だった。もう何十年の先だもの。

千葉：ああ。

キヨ媪：私の子ども時分、子どもだもん。

千葉：それは阿寒の人、

キヨ媪：阿寒の人でないの、テシベっていつて、テシ、あの、阿寒町、

千葉：阿寒町

キヨ媪：阿寒町。

千葉：ふーん。

千葉：^{したく}四宅ヤエさんもやっていたんですか？

キヨ媪：ええ、

千葉：四宅ヤエさんも、そういうのをやったりすることあったんですか。

キヨ媪：シタクノヤエ？

千葉：四宅さんも、

キヨ媪：おっかさん、あの、ハボかい？

千葉：うん。

キヨ媪：あの、なんでもやった人だったんだね、うん。

千葉：うん。あの、あの、やったことはな、ないんですか、そういう、

キヨ媪：そんなの聞いたことないね。

千葉：ああ。

キヨ媪：私も、まだ、あの、つき合いしてなかったから、わからんもの。うん。自分は自分で、昔のこと聞いたりしたけど、あの人の、あの、いろんな、えー、知っているの、は、自分はこうだ、ああだって聞いたことないね。

千葉：うん。帯広の人たちが来てやったりってことは、

キヨ媪：帯広ね。帯広の方は、その、クットモレットやったことないわ、聞いたことない。

千葉：ああ。

キヨ媪：うん。

千葉：そうか、じゃあ、遊びにきて、あまり、やるようなもんじゃない、ないんですね。

キヨ媪：そうですね。

千葉 : うん。

キヨ媼 : お祝いするときとか、

千葉 : ああ。

キヨ媼 : ねえ。そんなときやることでね。うん。

千葉 : ふーん。なるほど。(間)

キヨ媼 : ウポポもたくさんあって、入れたべ？わたし、

千葉 : うん。

キヨ媼 : 声出ないけど。

千葉 : いや、出てますよ。

キヨ媼 : 入っていたでしょう。^{なになに}何々やってた？そこで。

千葉 : 種類はね、そんなに、たくさんやってないですけど。

キヨ媼 : ねえ。

千葉 : 一つ一つ、細かく聞いている□□。

キヨ媼 : うん。

千葉 : うん。前にも、クットモレットも、一回やってくれたんですよ。

キヨ媼 : うん。

千葉 : あの、ねえ、練習していたんだけど、あまりうまくできないですね。

キヨ媼 : ああ。初めから、先生、ならないですよ。

千葉 : ♪アア、オーオ、イイエー、エーエエエーンーンーっていうやつ。

キヨ媼 : ああ、だな、ああ、はい、はい。

千葉 : ♪アア、ウー、アア、ウン、アアアアアーンーンーアーンーンーン、ウン、

キヨ媼 : エー、

千葉 : ♪アア、アア、アア、アアウン、とか、すみません。

キヨ媼 : いえ、なんでもなあ、でも、[おうでも]上手にいらいますけど、

千葉 : うん、でも、

キヨ媼 : やっぱり、やる気ないからやるけどね、今の人は面倒くさいこと、そんなこと、やらないですよ。

千葉 : ああ。

キヨ媼 : うん。

千葉 : でも、やっぱり、全然違うんでしょ？ その、細かいことを言ったら。

キヨ媼 : ええ、

千葉 : 全然、やっぱり違うわけでしょう？

キヨ媼 : うん。

千葉 : 昔のやり方とは、

キヨ媼 : [ええそう]。うん。

千葉 : だから、こ、聞いていたら、こういうのって、どこが一番違うんですか？ 昔。

キヨ媼：声とかね、

千葉：うん。

キヨ媼：文句は同じ、文句は同じくいくさ、いっても、その、節でどっか違うとかある。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:09:30】♪アアアア～（カットモレット：以下、歌詞略）～【0:10:06】って、言っているでしょ？ね。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうふうにしていくわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：そして、いろいろ、【0:10:11】♪アウアアウオーウ～（カットモレット：以下、歌詞略）～【0:10:33】、で早いところいえばね、こういうふうにして、その、あの、節回しでずーっと、こういうわけ。それで、あの、手と足を、こうしてね、もう、あの、極端にいえばね、今日はありがたい日だったって、お祭りにね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：まあ、火の神様、ありがとうございます、って言って、そのね、その、その、火のフチがね、そうやって火の神さんに、こうやって喜びの声を出してやるわけ。ただ、その、この、この、声、カットモレットで行くわけ、喜ば、喜んでもらうわけ。自分も喜ぶ、火の神さんも、あの、神さん、[ウチワカ]の神さんも、みんな、喜んでもら、もらうために、そういうふうにした、ウポボな、これね、1人でね、これやって、年寄り。

千葉：これ、立ってやるんですか。

キヨ媼：ああ、

千葉：立ってやる、

キヨ媼：ええ、立ってやるだよ、やるの、ここやって。

千葉：踊りながら、踊りっていうか、こうやって、

キヨ媼：うん、そうなの。ただ、こういうふうにして。

千葉：ああ、じゃあ、本当にタフ °カラみたいな、

キヨ媼：そうなの。女の、早いこといえば、タフ °カラみたいなもんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：で、その、も、節は違うけど、女は女の、□□、□□□□□

千葉：ああ。

キヨ媼：男は、♪ヘーイイイイ、ヘエー、イイっていくべき。

千葉：ああ、じゃあ、同じようなものだ、ね。

キヨ媼：へえ、はい、早いこといえばね。

千葉：早くいえば、うん。

キヨ媼：ちょっと、節が違うけど、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、ちょっと違うわけ。男と女。

千葉：ちょっと違う、その節が違うっていうのは、その、人によって違うくらいの違い、

キヨ媼：違うの、やっぱ違う。

千葉：も、もっと違うの？

キヨ媼：うん。

千葉：やっぱり、

キヨ媼：女のやり方と男のやり方違うっていうことだ。

千葉：ああ。一番違うの、どこが違うんですか。

キヨ媼：一番違うというのは、あの、男の、女の節は、ふ、節は、こういうふうにしてやる、男の節はこうやって、やって、それだけの違いあるわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：絶対、みんな、男と女と同じくやれないんだからね。

千葉：それは、ほら、男と女って、最初から、声の高さ、違うでしょう。

キヨ媼：うん、違う。

千葉：だ、それだから、か、違うっていうことじゃなくて、

キヨ媼：そうだ。女のやり方と、

千葉：うん。

キヨ媼：その、節が違うでしょう。

千葉：節が違う、節が、

キヨ媼：男も違うでしょう、

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：そういう具合にしていくわけさ。うん。

千葉：うん。なるほどね。そ、あの、その、火の神様に、な、こう、言ったりするっていうのは、それは心のなかで言うんですか。

キヨ媼：心で。

千葉：心のなかで。

キヨ媼：うん、心で。

千葉：心のなかで。

キヨ媼：うん、心。

千葉：で、言葉は、もう、ああとかうー、

キヨ媼：うん、そうそうそうそうそう。心でいくわけ。

千葉：その、♪アー、アーアー、オーとか、言い方は決まっているんですか？

キヨ媼：そうですよ。やっぱり、でたらめに、♪へーへーとやれないさ。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、そういうふうにして決まって、や、やることになっているんでしょ？

千葉：で少しづつは、

キヨ媼：でたらめに、わわわわっていけない。

千葉：少しづつは違うわけですね。

キヨ媼：違う。そいで、繰り返してやるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：繰り返したときに、やっぱり、ちょっと違うところがあるし。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。そういうふうにしていくの。

千葉：なるほど。

キヨ媼：私は、よく分かりませんが、ちょっと、聞いただけですから。私は自分でね、なにかを間違ったら、自分で、あの、喜びの、あの、喜んで、その、か、あの、神さんにありがとうございますってね、自分でやって。1人ででもやってね。

千葉：ああ。

キヨ媼：自分が喜んで聞いてもらおうと。

千葉：うん。

キヨ媼：ん。ああ、[人]^{ひと}いたら、神さんが見ていて、ああ、ばあちゃん、ありがたいなあって、今日が一生懸命言ってくれてるって、そういうふうにして、あの、神さんは思ってくれるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうわけ、自分1人ででもやるの。

千葉：うん。

キヨ媼：き、きなっ□□、きな、その日によってね、

千葉：うん。

キヨ媼：自分で気が向いたとき、なんでも。夜でもね、結局、夜でも眠れないとか、夢見悪いとかっていうすれば、ああ、これが、こういうふうにやったらいいんでないか、ああいうふうにやったらいいんでないかって、自分が、すこ、少し声出したら、自然と眠れることになる、[はい] そうです。

千葉：うん。じゃあ、おばさんも夜中にやってんですか？ 1人で。(笑)

キヨ媼：そうですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ、自分がさびしいでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：自分1人でいるからね。もう、次から次ね、商売も持ってるし、

千葉：うん。

キヨ媼：こうやって1人で暮らしているでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：だから、良いことも頭に入れば、悪いことも頭に入るでしょう。それで、良い頭ならいいけど、悪い頭で暮らしてるんだから、自分で、ああ、んー、この、なり、自分が、あの、悪いことばかり考えていたら、もう、長生きもしないと、ねえ。

千葉 : うん。

キヨ媼 : 皆さんにも喜んでもらえないと。それより、大きな気持ちを持って、

【0:15:00】

キヨ媼 : まあ、こうしたら、良いんでねえか、ああしたら良いんでねえかって、そういう、その、昔のことを思い出したら声出してね。

千葉 : うん。

キヨ媼 : それなら、私の親戚の人をね、おばちゃんと、

千葉 : うん。

キヨ媼 : 1人でこうやって暮らしててね、夜なんて、あの、さびしいでしょう、ときあるって、はい、毎晩さみしいで、さみしいけど、さみしくないようにしますよと。そうしたら、夜でも夜中でも、歌っていますよって言ったの。

千葉 : うん。

キヨ媼 : そうしたら、隣近所の人らは、びっくりして。まさか、そんな大きい声、しはしません。

千葉 : ええ。

キヨ媼 : ねえ。やっぱり、そういつてくれるの。

千葉 : うん。

キヨ媼 : 1人で暮らしているからね。

千葉 : ふーん、そうか。前に、あの、ちょっと聞いたときに、あの、クットモレットやるとね、カムイが喜ぶって、

キヨ媼 : うん。

千葉 : 言っていましたね。

キヨ媼 : はい、ええ、ええ。

千葉 : そのとき、ほら、よく分かんなくてね、

キヨ媼 : うん。

千葉 : あの、ク、クットモレットって、なんだか、その、普通の、

キヨ媼 : 心の、心から出す声だから、

千葉 : ウポポでも、ほら、

キヨ媼 : うん。

千葉 : ウウウウーって、やるでしょう？

キヨ媼 : うん。

千葉 : あの、な、なんでもいいけども、♪フンドリーって、

キヨ媼 : そうだ。

千葉 : ウウってやるでしょう。あ、あれが、カムイが喜ぶっていうわけじゃないですか？

キヨ媼 : そうでないの。その歌が、また違うの、

千葉 : 違うんだ。

キヨ媼 : はい、違います、はい。

千葉 : ああ、なるほど。

キヨ媼 : はい。フンドリは違うし、あれはトリの踊りの歌ですからね。

千葉 : そうですよ、うん。

キヨ媼 : これは神さんの供養の歌だから、喜びの歌だから、違うの。

千葉 : うん、クットモレット、

キヨ媼 : [こういうの] (声の、か?)、クットモレットね。

千葉 : うん。ん、と、とりのクットモレット?

キヨ媼 : はい?

千葉 : ん?

キヨ媼 : クットモレット。

千葉 : クットモレットね、うん。そうか。で、それ、あの、声を、ほら、裏声みたいに、こうやって返すでしょう、アア、アア、アアって。

キヨ媼 : そう、うん。

千葉 : あれは、その、たか、

キヨ媼 : そうやっていく、いくのさ、そういうふうにして節回ししていくわけ。

千葉 : こうやってね、よく聞いているとね、おばさんも、ほら、自分でそういうこと、考えてやっているのか、自然にやっているのか分からないけどね、

キヨ媼 : うん。

千葉 : ア・ア・アって、高いほうにいくとことね、

キヨ媼 : うん。

千葉 : ア・ア・アっていくときと、

キヨ媼 : し

千葉 : アア、アア、アア (低域へのヴィブラート) って低いほうからいくときと、ある

キヨ媼 : それは、そういうふうに行くわけ。早いところいえば、歌と同じさ。ねえ。

千葉 : それは、それ、決まっているもんなんですか、その、

キヨ媼 : そうですね、でたらめに、アアアア、アアアアって、アアって、こう [いうようにいかな]、やっぱり決まっているのさ。

千葉 : うん。

キヨ媼 : ここがこうで、ああで。でたらめにやれないんだもん。でたらめにやったら、神様喜んで [ほんで]、何だこのバッコ、でたらめにやって、き、何喜ぶんだ、っていうぐらい、そうでなく、あ、ここがこうして、ここがああして、っていうような気持ちで、思っでやる、やらんきゃなんないのね。はい。

千葉 : うん。さっきの、クットモレットだと、こないだの、ずっと聞いているとね、

キヨ媼 : うん。

千葉 : その、さ、一番最初に、アアアアって高いほうに行っで、

キヨ媼 : シク、えー、シクシク、

千葉 :あと、その、アーアオー、イイエー、エー、そのあと、エエエエーっていうのは低いほうで、
こうやって、

キヨ媼: そうそうそうそうそうやっていくの。

千葉 : そういう順番っていうのは、あまり崩さない、

キヨ媼: うん。そのま、そのままいくべさ。うん。

千葉 : でも、毎回少しずつ違うんですよね？

キヨ媼: うん。

千葉 : まい、何回もやると、少しずつ違う、

キヨ媼: そう、ちが、違うところもある、同じばかりでいかないさ、

千葉 : うん。

キヨ媼: やっぱりね、この節のあれでもって、その、止めるところ、上げるところ下げるところ、また違うんだよ。

千葉 : それは、少しずつ、その、自分の気持ちで変えて、

キヨ媼: はい、はい、はい、はい、はい。

千葉 : うん。で、こないだ、あんた、その、帰ったら2回ずつ練習しなさいって言った、言ったんですよね、おば

キヨ媼: うん。

千葉 : 2回ずつ覚えてます？ それ言ったの。

キヨ媼: うん。うん。

千葉 : なんでも2回ずつやると、

キヨ媼: そう。

千葉 : うん、いいんだって。それは、あの、節を2回ずつやるってこと、

キヨ媼: そう、1回、こういうふうにし、1回ね、あの、この節でいって、2回はこの節っていけばいいんですよ。

千葉 : うんうんうん。

キヨ媼: そうやっていけばいいっていうのでき。

千葉 : ああ。

キヨ媼: あと、帯広あたりのアイヌ、あのアイヌの人らは行って寄って歌、聞いたことある？ 聞いてるでしょ？

千葉 : うん、うん、うん。

キヨ媼: で、みんな違うんですよ？

千葉 : 違います。はい。

キヨ媼: 節も違うし、文句も違うでしょう。

千葉 : うん。

キヨ媼: 奥尻も違う、旭川も違うんです。私らのほうの先祖も違う。

千葉 : うん。

キヨ媼：みんな違うんだよ、歌、うぼぼ。違っているでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：なかでも、一番、その、分かんないのがクットモレットだったんですよね。

キヨ媼：うん。これは、ちょっと、あの、できないもの。やってない。

千葉：ねえ、うん。

キヨ媼：やってないもの、よその人ら。

千葉：そう、や、あんまり聞いたことないですよ。

キヨ媼：うん。そう。

千葉：ふーん、そうか、そうか。

キヨ媼：あさ、あの、帯広の人ら、何を、ウポポやっていた？ 聞いた？

千葉：帯広の、あの、

キヨ媼：あ、座布団、引っ張ってきて、

千葉：うん。大丈夫、大丈夫、うん。

キヨ媼：そこから、たくさんあります。はい。

千葉：よく、ほら、かけ合いでやったりするの、多いですよ。ハウオー、サオーとか、そういう

キヨ媼：そうだ、そうだ。ねえ、帯広もそうだし、

千葉：うん。

キヨ媼：旭川もそうだね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。[かき]をこえて、あの次から次ね、声出す。

千葉：うん。まあ、そ、それぞれ少しずつ違うけども、帯広は、あの、

【0:20:00】

千葉：阿寒、阿寒から、そのいったものもたくさんあるって言ってましたね。帯広の人が。

キヨ媼：ああ、うん。

千葉：こないだ、ほら、まりも祭りで来たときに、帯広のおばあさんが、やっぱり本場は違うなっ
言って喜んでた。

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：ほら、昔、なんですか、ヤマモト、タスケさんの奥さんが、ほら、帯広の、

キヨ媼：帯広の人だったからね。

千葉：ねえ、だから、ずいぶん、いろいろ、

キヨ媼：あの人、声もいい人だったしね。

千葉：うん。

キヨ媼：アイヌの歌も歌うし、シャモの歌も歌うしね。座布団敷いてちょうだい。

千葉：ああ。

キヨ媼：私は、ざ、座布団、とりにきたの。

千葉 : なんだ、わざわざ、いいのに。

キヨ媼 : いい。ここ、す、座ってちょうだい。

千葉 : そんな、ほら、そんな、いい暮らしして、

キヨ媼 : せっかく、

千葉 : いい暮らししていないからさ。座布団 [しくような]

キヨ媼 : これね、あの悪い、

千葉 : ずいぶん立派な座布団だね。

キヨ媼 : 立派じゃない、自分でね、ボロをついでやっているんですよ。

千葉 : これと、

キヨ媼 : いいものこしらえないからね。

千葉 : うん。大きいもんね。

キヨ媼 : うん。

千葉 : うん。

キヨ媼 : もう、あと、私ら、もう、それ、□□ウポポったら、もう帯広の、のウポポだか旭川のウポポとかさ、

千葉 : うん。

キヨ媼 : あ、釧路のウポポも聞いたでしょ？

千葉 : うん。釧路は、でも、あんまり、あんまり、その、誰やるんですかね？ 釧路で。ちゃんとやったの、あんまり聞いたことがないですけど。

キヨ媼 : うん。釧路、行ったことない？

千葉 : ありますけども。あんまり、でも、そんなに声出す人っていないんじゃないですか？

キヨ媼 : うん、そうですか。よくよ、分かりますね。

千葉 : うん。

キヨ媼 : うん。(笑)

千葉 : まあ、分かりませんがね。

キヨ媼 : うん。

千葉 : 例えば、あの、なんでもいいんですけども、♪uta obunbarewa、ってあるでしょ？

キヨ媼 : うん。

千葉 : ♪uta、あの、こう、なんですか、アアアってやるの、拍子に合わせてやるでしょう？

キヨ媼 : うん。

千葉 : あれって、どうやって歌います？ 普通は。

キヨ媼 : あれねえ、あの、あの、だまって聞いていると、釧路と私ら、全然合わないですね、あのウポポもね。

千葉 : ああ。

キヨ媼 : 【0:22:00】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a he enyo って、こういくでしょう？

千葉 : ちょ、ちょっと繰り返してやってみて□□

キヨ媼：うん。【0:22:00】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a he enyo ～（以下、歌詞略） hoy hoy ～
【0:23:04】

千葉：うん。

キヨ媼：こうやっていくでしょ。全然違うでしょ。うし、あの、釧路の人らの、ウポポ、あの、同じ文句でも、その音^{おん}がやっぱり、ち、違っていつて

千葉：うん。

キヨ媼：節ね。

千葉：釧路の人ったら、どういう、どうやって歌います？

キヨ媼：釧路でも、ちょっと、あの、

千葉：まねできない？

キヨ媼：あの、文句は言ってもね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、節でもの、早いとこいけば、なっていないっていうわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：あ、あっていないっていうの、

千葉：ああ。

キヨ媼：私らのものと。あっていないって申し訳ないけど、違うんだよ。【0:23:39】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a heyyo ～（以下、歌詞略） hoy hoy ～ 【0:23:51】 って、こう、極端に、こういくでしょ？ 私らの節と、また違うの。

千葉：それ、その、踊る人によってね、テンポ、遅くなったり速くなったりすることあるでしょ？

キヨ媼：そうそう。

千葉：で、

キヨ媼：あれで合わせていくんでしょう。だから、全然、私らの歌とね、

千葉：うん。

キヨ媼：向こうの歌と合わないの。

千葉：その、今、お婆さんの歌ったのは、それは、どこの、屈斜路？阿寒？

キヨ媼：私のほう、私は、釧路の出身だけど、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、音^{おん}が違うの、節が、あの、節が違うの、向こうの節と、私の歌う節とまた違うの。

千葉：うん。

キヨ媼：その人、その人によって。

千葉：それは、

キヨ媼：極端に出す人もいるし、節を、今度、こういうふうにしてやる人もいるし、いろいろなの、その人によって。

千葉：お婆さんの歌っているのは、釧路の歌とは違うんでしょう？

キヨ媼：同じ歌でも、お、同じ文句でも節が違うっていうの。

千葉 : □□□□、その節は、おばさんの節？、

キヨ媼 : 本当の、本当の先祖の、

千葉 : ああ。

キヨ媼 : 親からの節でいっているわけ。

千葉 : 要するに、おばさんの先祖っていうと、釧路の、

キヨ媼 : 釧路。

千葉 : だから、要するに、本当の釧路の歌だよな。

キヨ媼 : はい。

千葉 : うん、うん。

キヨ媼 : だけど、極端にいくっていうの、

【0:25:00】

キヨ媼 : やっぱり、その人、その人の得手でもって、[や] □□□□

千葉 : うん。前、その、帯広だかどこだかだね、聞いたこと、やっぱり、やるんですよ。

キヨ媼 : うん。

千葉 : それね、あの、なんていうの、それは、♪utareobunbarewa rimsere yan a he hey yoy yo あ、ちょっと節、言葉違っちゃったけど、うん

キヨ媼 : はい。

千葉 : ♪aeiyo とかね

キヨ媼 : うん。

千葉 : そうやってやるの。

キヨ媼 : うん。

千葉 : で、なんか、ほら、なんか、なんていうんだろう、拍子がなんとなく違うでしょう？

キヨ媼 : 違う、違う、みんな違う。

千葉 : うん。

キヨ媼 : その人、その人の得手でもって違うの。

千葉 : うん。

キヨ媼 : [こえ] でね。

千葉 : これは、その、例えば、ほら、今、こうやって、アアアっていうのね、

キヨ媼 : うん。

千葉 : 数、^{かず}細かい話だけどね、

キヨ媼 : うん。

千葉 : 数えるとね、その、帯広の人たちは、♪utari obun ba、4つずつ入ってるんだ。

キヨ媼 : うん、うん。

千葉 : アアアア、アアアアって。

キヨ媼 : ああ。

千葉 : アアアア、で、おばさんの歌っている釧路の歌っての、3つずつでしょ？

キヨ媼：うん。

千葉：(手で膝を打ちながら) ♪ウター、レブン、バーレ、ワアア、って。

キヨ媼：うん、うん、そうやっていくの。

千葉：うん。

キヨ媼：私の得手でやってんだから、自分の気持ちで。

千葉：うん。それは、

キヨ媼：先祖の、自分の親の歌と同じく、合わせていくからね。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうふうにしていくの。

千葉：うん。

キヨ媼：みんな、違うんだわ。

千葉：それは、その、歌が、ほら、あの、ゆっくりになったら、

キヨ媼：(ため息)

千葉：そういうのが増えてくってことはあるんですか？

キヨ媼：そんなことないさ

千葉：そういうことはない、

キヨ媼：やっぱり、そのようにしていくの。

千葉：あ、決まりで。

キヨ媼：うん。ずーっと、これでいく。それと踊り合わせて。

千葉：うん。そうか、そうか、そうか。

キヨ媼：したからね、歌でもって踊りが合わせていかんきゃならないでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：だから、歌をしっかりしなきゃなんない。

千葉：ああ。じゃあ、やっぱり、その、歌い方が違うと、踊りも、踊りにくくなっちゃうわけだ。

キヨ媼：そうなの。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、全然ね、私、ここで、こう、さっきの声出すでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：隣の人、ほれ、繰り返してやるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたら、全然合わないのよ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：合わないんだ。

千葉：今、そうですね。

キヨ媼：うん、踊りでもね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、私、先に、こう、こういうふうにして声出すと、むこうにも、極端に【0:27:01】♪
utarebunbarewa rimsere yan a he iyo, utarebunbarewa rimsere yan a he iyo ってこういくでしょ
う。

千葉：うん。

キヨ媼：それと、そればかりでいけばいいけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：先に、わ、私、音頭とるでしょう。先に声出したらね、

千葉：うん。

キヨ媼：踊る人も違ってくるの。

千葉：うん。

キヨ媼：したから、なるべくなら、1人で声出したほういいの。

千葉：うん。

キヨ媼：向こうの人ら向こうの人で。

千葉：うん。でも、ちょっと2人でやると重なって、やるよね。

キヨ媼：そうなの。重なっていくでしょう。したら、こっちの歌と、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、こっちの歌違うから、同じ文句でもね、節が違うから、踊りも合わないっっちゃうこと。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、わ黙って、こう見ている□□□□。

千葉：うん。1人じゃあ、息吸えなくなっちゃうもんね。ずーっと歌っていたらね。

キヨ媼：うん。[ちぐはるに] (ちぐはるに、か?) なっちゃうの。

千葉：うん。

キヨ媼：鶴の舞の踊りだって、そん□いしょう？

千葉：うん。なるほどね。

キヨ媼：阿寒湖の踊り、歌も、聞いた、聞いてあるでしょう？あんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：踊りね。

千葉：うん。

キヨ媼：全然違うでしょう。こっちの人の文句と、こっちの人の音頭違うし。

千葉：うん。そうですね。

キヨ媼：そう、そういうふうになってる。同じく[出す] 人いないんだから。

千葉：うん。でも、娘さん、いい声出してますよね。

キヨ媼：ええ、いいんだか、悪いんだか。知らない。

千葉：厳しいですね、ずいぶん。ふーん。そうか。

キヨ媼：私とね、娘が声出すでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：そうしとるとね、私、まだね、声が、あの、なんていうか、こう、あの、ああ、黄色い声でやるでしょう。

千葉：黄色い声？

キヨ媼：黄色く、声がね、

千葉：うん。

キヨ媼：黄色く声出すでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：娘はね、太い声で声出すの。

千葉：ああ。

キヨ媼：うん。

千葉：それ、どっちがいいとか、そういうのはあるんですか。それは、それぞれで、

キヨ媼：いや、だからゆ、黙ってね、あの、こないだも録音にも録^とったけどね、うち、今は、むす、息子が、今の部落へ入ったから、息子 emusterke だの、弓の舞もやるの、やっているの。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、そのときにね、あの k 私とね、2人で声出してね、交代交代声出して踊り教え、やってた、やらしたの。

千葉：うん。

キヨ媼：稽古したから。

千葉：うん。

キヨ媼：たら、全然ね、文句同じでも声が違うわけ。ふと、か、娘は太い声出すでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：私は、また黄色い声出すよ。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、こっち、娘のほうは男で、私は女みたいな声を出す。まあ、そしてね、あの、フィルムに撮ったの。それ聞いたら、まあ、大笑いした。男と女と声□□□。

千葉：へえ。

キヨ媼：ってなるんだよ。おかしいもんだねって。

千葉：でも、歌い方は、あの、ちょっと、やっぱり、似たところがありますけどね。

キヨ媼：ああ、そうかい。

千葉：やっぱり、うん。

キヨ媼：声がね、違うの、太い声なの。あっちは。

千葉：うん。そうですね。

キヨ媼：うん。太い。

千葉：□□□やっぱり、いつも、ほら、大勢の前でやっているから、大きい声、出す□□

キヨ媼：大きい声、だけ、だから、男みたいな声出してんだ。

千葉：うん。

【0:30:00】

キヨ媼：だから、女と男だって行って大笑いしたけどね、ほんと、あれは、また、太い声出すもんね。私は、もう、あんた、歌も歌ったこと、こういうときに、さあ、あれやってくださいってば、ああそうですかってやって、ちが、毎日やると違うからね、たまにやるとね、声がね。

千葉：うん、それはそうですね。

キヨ媼：うん、違いますね、[そう]。

千葉：ねえ。こないだ、ほら、みんなで屈斜路の人たちで踊りを踊ってやったでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：あのとき、ほら、おばさん、病院行ってたから、

キヨ媼：うん。

千葉：歌い手さん、[今日] いなくて大変だったですもんね。

キヨ媼：ああ、ほうかね。

千葉：うん。

キヨ媼：わかんなかった。(笑)

千葉：そのとき、ずいぶん、たくさんやったんですよ。二十、

キヨ媼：うん。

千葉：二十、はっ、や、

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：うん。

キヨ媼：結構やったでしょう、若い人も出たからね。うん。

千葉：うん。そうですね。若い人たくさんいるから、

キヨ媼：ねえ。

千葉：ねえ、楽しい。

キヨ媼：あの、若い人だったら声も立つしさ、

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、みんな、あの、ちねんとね、やれば、みんな、できることだからさ。

千葉：うん。お、おばさんがいたら、でも、おばさんも歌うわけでしょ？

キヨ媼：そう、私がいればね。

千葉：ねえ。

キヨ媼：うん。

千葉：うーん。サランペニって、あれ、

キヨ媼：サランベっていったら、アラ、アランベったべさ。

千葉：アランベ、

キヨ媼：うん。

千葉：アランベニってというのが本当、

キヨ媼：ア、アランベっていう人もいれば、サランベっていう人もい、わしらは、あの、サランベッ

てやったけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：で、やっぱり、アランベっていう人もいようだかね、いろいろだね。まあ、同じだべさ、アランベも。

千葉：うん。あれって、どういう歌なんですか。

キヨ媼：え？

千葉：あれはどういう歌なんですか？

キヨ媼：アランベかい、【0:31:58】♪aranbeni, nis koturi, a, aranbenise a hpwahowaho、あんね、あの、あれだ、木の皮のおってるとこさ、こう。

千葉：川、

キヨ媼：木の皮をねえ、あの、えー、キノカワねえ、早いとこ言えば、したら atus 織りやつとるとこの。atus ったらね、木の皮でもって、着物、あの、こしらえたりなんかしてるでしょう、こう。

千葉：あ、saranip とか

キヨ媼：ん、saran、でもなんでも。あれをアランベっていうの。アーランニ、ニ、ニ、の、その、ニっていったら木でしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：木の皮でもって、今、何こしらえてるっていう意味。

千葉：ああ、ああ、そうか。♪ni niskoturi っていうんでしたっけ。

キヨ媼：niskoturi っていうたら、こう、広げてるっていう意味さ、

千葉：うん。

キヨ媼：こういうふうだね。

千葉：うん。

キヨ媼：そして、今、こうやっているっていう意味になるでしょう。

千葉：ん、なんか、ちょっと3回ぐらい、繰り返してやってもえませんか。

キヨ媼：え？

千葉：節、節を。ちょっと、くり、2回か3回繰り返して

キヨ媼：アランベのやつでかい？

千葉：うん。

キヨ媼：【0:32:59】♪aranbeni ni niskoturi a aranbe nise a howa howa ho ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:33:42】、こうやって、こういく。

千葉：うん。踊りながらなんです。なるほど。イヨジソロマっていうのは？

キヨ媼：iyoci sorma

♪イーヨージー、ソロマ、とかいうやつ。

キヨ媼：(呟く) iyoci sor(o)ma、iso, iyorussan kote sor(o)ma, sor(o)ma、それね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ソロマったら、あれでしょう。あの、野草のこというんでしょう、野草。

千葉：うん、

キヨ媼：野草ったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ソロマったらね、コゴミとか、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、あれでしょう、ワラビとかとりにいくとこの歌でしょう。

千葉：ああ。

キヨ媼：iyoci sorma。iyorussian kote [sorma]

千葉：これも、さっきのも、これも、みんな屈斜路にあった歌、

キヨ媼：屈斜路でないよ、釧路の人のやるっしょ。

千葉：うん？

キヨ媼：釧路の人のやるよ。

千葉：あ、釧路。

キヨ媼：iyoci sorma。

千葉：うん。サランベも？

キヨ媼：サランベもやるし。

千葉：うん。まあ、じゃあ、これは、どこの歌ってということなくて、あっちこっちでやる、

キヨ媼：そうだよ。たいてい、もう、それ、その土地、土地ででなく、やっぱり、こっち、こっち、

ちよっと音が違うけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、同じさ。

【0:35:00】

まあ、機織りの歌だとか、ハランベ、あの、イヨチったら、まあ、コゴミとりにいくとか、野草だね、早いとこ言えばね。とりにいくとか、いくとこの歌とか。そうやっていくわ□□。たいてい、みんな、どこの部落でもやることだからね、とるでしょう？

千葉：それ、節、節、ちよっと聞かせてもらえますか、ど、どういう、

キヨ媼：イヨジソノマ？

千葉：うん。

キヨ媼：【0:35:27】♪iyoci sorma iyorussian kote sorma～（以下、歌詞略）ho hoy～【0:36:07】、つと、こう、

千葉：iyo、iyorussian っつのは、

キヨ媼：そ、そ、iyorussian ったらね、結局、あの、今、終わったって、いうそんな、意味なんだべさ、囃しとの意味だべさ。iyo、soroma、iyo russa kote soroma っつていくべさ。

千葉：ん、コテー、コテーっつていうのは？

キヨ媼：うん。コ、一緒。

千葉：意味、わかん、□□□

キヨ媼：うん。iyo russen kote sorma って、□□、や、囃しと、あの、そ、ソロマ ったら野草なんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：それさ、こう、繰り返して、その、あ、あい、囃し入れてるんでないですか。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：文句言って。

千葉：なるほど、なるほど。

キヨ媼：ええ、そういうことですね 私って、よく分からないですけど。

千葉：いやいやいや、おばさんほど分かる人いないですもん。おばさん分かんなかったら、誰も分かんないんだもん。

キヨ媼：□□□□

千葉：ほんと、ほんと。そうか、そうか。あれは、♪urarasue ってやつは、

キヨ媼：mattarera かい。

千葉：mattarera って歌でしたっけ。

キヨ媼：わしらはね、さ、その、urara、su、sue から、行っているの？ マッタラレラからいくんでないの？

千葉：ああ、そうでしたっけ。あ。

キヨ媼：【0:37:24】

♪mattarera abaca osma (a)uranisi kandokorekin ～（以下、歌詞略）～ 【0:38:23】、と。

千葉：それ、それと別かな。

キヨ媼：それ、

千葉：♪ウラーラスーエー、

キヨ媼：ikkamuy sinta、ていう、言う歌か？

千葉：□□□□□□？。

キヨ媼：そう、そうやってやった人もいた、

千葉：うん。

キヨ媼：違うわ、これ。

千葉：ねえ。違う。

キヨ媼：うん、これはね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、か、風吹いてきて、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、ま、上からね、マッタったら、上から風吹いてきて、まあ、うちの前さ、風、ふーつとき、きてね、apaca osima uranis ったら、上さ、上がって行って、風をくるっと回って上へ上^{あが}がってきましたって、アイヌ語で。

千葉：ウラ、ウラ、それ、なんていっているんですか、ウラ、

キヨ媼: mattarera abaca osm, osma でしょう? abaca が来たら、戸口さ来て、まだ、uranis、kanto korikin ったら上さ上がったって意味。風がね。

千葉: ああ、ああ、ああ、うん、うん。

キヨ媼: はい。

千葉: なるほどね。そうか。じゃあ、そのウララスエっていう節のほうは、お婆さんは歌わない、

キヨ媼: 【0:39:25】

♪urarasu(w)e ikamuy sinta a tus tusna etununpae ってこのウポポもあるけどね。

千葉: ああ、そうですね。

キヨ媼: うん。それでしょ、きっと。

千葉: そうです、そうですね。それ、ちょっと2、2回ぐらい繰り返して。

キヨ媼: ♪ウラーラスー、あ、また間違えた。うう、同じくらいね。ア、

千葉: もう忘れてし□□□、

キヨ媼: そっちはどういうふうに書いてる?

【0:40:00】

キヨ媼: その、ウラ、

千葉: いや、こ、これには、書いてない。

キヨ媼: ♪ウラーラ、あ、マッタラレラアバチャーオシマと、

千葉: 一緒になっちゃうん□□ね。

キヨ媼: 違う、うん、同じくに行くの。だけど、それね、い、い、や、まだ、いっぱいあるんだけど、わ、い、

千葉: (笑) イカムッカサン

キヨ媼: ちょっと、ちょっとの〔加減〕だもんね、これね。

千葉: うん。

キヨ媼: 【0:40:21】 ♪urarasue、urarasue、a tus tusna etununpaye、urarasue ikamuy sinta a tus tusna etununpaye ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:40:40】 これはなんと、何を歌ったかな、めったに、これ歌ったことないから、この文句を考えてみなきゃ。

千葉: うん。

キヨ媼: ちょっと、ウララスエ、ちょっと音が違うでしょ? このウポポね。

千葉: うん。

キヨ媼: さっきのウポポと、またちょっと違う、

千葉: うん、そうですね。

キヨ媼: うん。

千葉: ♪hetunun tunun hetunun tunun、

キヨ媼: ♪tus、tusna、etunun、

千葉: うん。なんか、そういう言葉のウポポ、なんか、あったですよ、ほかに。

キヨ媼: あったんだ、あった、あったんだよ、

千葉：ねえ。

キヨ媼：私、しばらくやったことないから忘れてしまうけど、文句も忘れたけどね。ツ、

千葉：♪イトウヌンチャリーとかいうのがありました？

キヨ媼：うん。チャリ、イ、

千葉：♪イトウヌンチャリ、

キヨ媼：いや、それから、

千葉：♪エトウヌン、

キヨ媼：それ、うーんと、このウポポを、書いて、うん、聞いた？ あの、カントーカラカムイへ、や
ってたかい？そこへ。

千葉：うん、

キヨ媼：カントーカラカムイ、

千葉：♪kanto korekin っていうやつですか？

キヨ媼：うん。いや、【0:42:53】♪kanto ka kamuy ran iwa tessam oran iwa tessen konkani maynu
cinu、ha kanto ka kamuy ran iwa tessam ore iwa tessen konkani maynu cinu、kanto kara、
cupkawa kamuy ran iwa tessam oran iwa tessen konkani maynu cinu、cupkawa kamuy ran ~

(以下、歌詞略) hoy hoy ~ 【0:44:30】これ、聞いたべさ？これ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：いや、ねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：これは、やったかい？私、前に、とり、

千葉：うん、ちょっとやったと思いますね、うん。

キヨ媼：ちょっとやったと、うん。

千葉：それ、cup、cup、た、cup

キヨ媼：cupka 上、上から、

千葉：cup って、あ、上、あの、お月さんか、お日さまか、

キヨ媼：うん、うんだ、そうだ、♪チュッカワ、

千葉：チュップっていうんです、

キヨ媼：チュッペ、

千葉：チュフ、

キヨ媼：♪cupka wa kamuy ran った、上から、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、神さん降りてきて、

千葉：うん。

キヨ媼：iwa tessam ったら、岩の、くるわ、休んだと。ね。

【0:45:00】

キヨ媼：そ、あの、その、ウポポあんだよね。

千葉：うん、これは前にもやってもらったことがありますね。なるほど。そうか。スッチョチョイっていうのは？ □□□□

キヨ媼：スッチョチョイ、チョイナ、これは、あれ、種まきのウポポだべさ。

千葉：え？

キヨ媼：種まき。春なって、あの、種まいて、えー、畑まいて、え、とりあげて、お祝いしたときのウポポだ。スッチョチョイっていうのはな。

千葉：なんでスッチョチョイっていうんですかね。

キヨ媼：スッチョチョイ、なんでか知らんけど、スッチョチョイと、これ、あの、わしらのほうのウポポでない、帯広の、□□帯広から来たんだな、これね。

千葉：ああ、そうなんですか？

キヨ媼：種まいてね、お祝いしてるって、だんごこしらえて、お祝いするときのまねかたやって踊ったもんだ。【0:45:57】 ♪スッチョチョイ、チョイナー、イホレアーイーホホー、イホーレアーホー、ウン、アイーホレー、イーホホホホー、イホーレアーホー、ハイーホレワーイーホホホホー、イホーレアーホー、アー、スッチョチョイ、チョイナー～（以下、歌詞略）～【0:46:35】 って、こういうの。

千葉：これ、なんか、普通のウポポと雰囲気違いますよね。

キヨ媼：違うかい？

千葉：なんか、民謡みたいな感じしますよね、ちょっとね。

キヨ媼：そうだ。これ、民謡、み、の、だからね、和人（わじん）の人、これ、民謡にとったんでしょ。歌ってたんでしょ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：出る分出たけどね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：この、これをとって、今度は民謡にして歌ったんでしょ。

千葉：ああ、そうか、そうなの。

キヨ媼：シャモの、あの、和人の歌にしたの。

千葉：へえ。そうか。そうか。♪sarki us nay kotan、つてのは覚えてます？ ♪ko o tuyma rewke っ

キヨ媼：はい。上手ですねえ。

千葉：とんでもないです。おばさんに褒められた [ら]。(笑)

キヨ媼：そりゃあ、それ、それでいい、いけばばいいんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：お茶飲むかい？ のど。

千葉：はい。

キヨ媼：ちょっとね、こういう、う、歌やる人いないんだわ、やる気のある人ね。面倒くさがってね、先と後と違うからね。

千葉：うん？

キヨ媼：先の声と後の声と違うからね、音^{おん}がね。だから、面倒くさがるんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：今の若い人はね。

千葉：うん。[でも] みんな仕事で忙しいしね。

キヨ媼：うーん。

千葉：うん。

キヨ媼：帯広のウポポもたくさん入れたでしょ。

千葉：うんー。

キヨ媼：ヤイサマだとか入ったかい？

千葉：ヤイサマ、ヤイサマは、もう、でも、なんか、あの、昔の人みたいに、その、言葉入れてやるっていうのは、今、もうやんない、みたい。

キヨ媼：ああ、そうですか。

千葉：うん。やっぱり、その、スチョチョイみたいに、あの、そういう感じの節になってる。

キヨ媼：そうやっていくのね。

千葉：【0:48:40】 ♪ヤイサーマーネーナ、ヤイサーマーネーナ、

キヨ媼：(千葉に合わせて) 【0:48:46】 ♪ソーレーナーソレ、ソーレーナーソレ、

千葉：(やや遠慮しながら) ♪ソー、

キヨ媼：【0:48:53】 ♪ヤイサーマーネーナ、ヤイサー、これ、踊りと合わせるんでしょ？ 歌とね。

千葉：うん。

キヨ媼：私らのと(ころ)これないもん、うた。これは、帯広の、だね。

千葉：うん。sarkiusnay って、ちょっとお婆さんの節で一回、□□□□□。

キヨ媼：はい。□□□□しないですね？

千葉：(笑) 面倒くさいなあと思っているでしょう。

キヨ媼：あのねえ、しばらく歌ったこともないですから、あのねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：もう、忘れてますけど、あの、声も立たないしねえ、□□□□ (笑)

千葉：いや、でも、声出てるよ。

キヨ媼：うん？

千葉：声は出てるよ。

キヨ媼：こ、このぐらいだと、なんぼか出るさ。(笑) まるきり出なかつたら大変ですけどねえ。やだよ、こんなとこ入、【0:49:56】 ♪aa sarki us nay kotan ko tuyma rewke ho hoy ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:50:51】、ってこういって。

千葉：ああ

キヨ媼：皆さんのとウポポと同じ□□□□□ (だそのsarkius nay、か?)

千葉：うん。

キヨ媼：はい。

千葉：はい。

キヨ媼：よく録りましたかい。

千葉：ええ。たくさんあるんですよね？（笑）

キヨ媼：うん？

千葉：たくさんあるんですよね。

キヨ媼：うんー。

千葉：あれは？ あの、♪amamsake soropa、

キヨ媼：何、

千葉：♪amamsake soropa、 sakesikonumpa、

キヨ媼：アーバサ、アマサケソロマ？

千葉：うん。

キヨ媼：♪トーノトー、わしら、あまさけっていかないもの。【0:51:56】♪tonoto soroma sirari siko numba, a tonoto ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:51:54】、

千葉：なんか、あの、♪トーノトーメノーコーっていうのは？

キヨ媼：それ一番、真ん中さいくの。

千葉：真、

キヨ媼：【0:51:59】♪tonoto menoko sirarika isam a ho hoyyo, a tonoto menoko sirarika isam a ho hoyya, ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:52:33】 ha icariko ter(e)ke, a icariko tereke yan, ha icariko tereke ho ha icariko tereke hoy, ~ (以下、歌詞略) ~ ho ho 【0:53:04】、って。一番しまい icariko っていうばいんだもんね。

千葉：それは、あの、交代交代でやるんですよね？

キヨ媼：うんうん。

千葉：♪dicariko terekere, icariko terekere って、こうやって、

キヨ媼：い、そうそうそうそう。

千葉：代わり番こにこうやってやるっていったんですね？

キヨ媼：はい、はい、そうですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：よく分かりますね。私よりよく分かっていますね。

千葉：いやいや□□□□。こないだ、ほら、やって、やってくれたのも、あるから、その、こないだ、その、みんなでやったときはね、

キヨ媼：うん。

千葉：それ、一番最初が、♪アーマサーケーソ、ん、なんだっけ？

キヨ媼：アマサケでないべさ、トノトソノマやったべさ。

千葉：トノ、トノトなん。

キヨ媼：トノトっていうの。アマサケっていったら、日本の言葉でしょ？

千葉：ほら、昔は、なんか、ほら、amam sake、amam、

キヨ媼：ああ、あまさけ、あまさけっていったけどわ、あの、トノトソノマっていくんだわ、して、

千葉：うん。

キヨ媼：トノトったら、あの、ソノマって、その、さっきの踊りやんだけどね、どういうふうにか
たか知らんけど。

千葉：うん。なるほど。

キヨ媼：どこでやった？これ。

千葉：これ、ほら、あそこの、

キヨ媼：はい。

千葉：公民館でしたっけ？

キヨ媼：はい、はい、はい。

千葉：屈斜路の、みんなで。Iさんと。

キヨ媼：たいしてやったでしょう、そのときね。

千葉：うん。

キヨ媼：ウポポね。

千葉：2日、2日ばかりでやったですもんね。

キヨ媼：うん。それ、全部入れましたですか、録音に入っていました？

千葉：はい。

キヨ媼：ああ、そうですか。それ聞きたいですねえ。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：若い人の声ばかりでしたから。

千葉：そうですね。

キヨ媼：ねえ。

千葉：まあ、いろいろ、あの、やっぱり、その、おばさんもないし、あの、Tさんもいなかったで
しょ？ Tさん、踊り、いろいろ教えていたんですって？

キヨ媼：うん。

千葉：だから、年、年寄りっていうか、その、先生方がいないから、若い人ばかりで。昔とは、ち
よっと違う、違うのかもしれないって [言ってたけども]

キヨ媼：先生も、た、若い先生方 [とか] やったらね、声も立つしさ。

千葉：あの、キツネの踊りなんてかわいかったですね、ちっちゃい子がみんな、こんなやって、

キヨ媼：あれもね、面白いんだよね。

千葉：ねえ。

【0:55:00】

千葉：あれ、昔からあった踊りじゃないでしょ？ ああいうのっていうのは。最近…

キヨ媼：昔から、わしらのほう、そういうキツネ踊りもやらなかったけどね。

千葉：歌は？

キヨ媼：うん？

千葉：歌はあったんですか？

キヨ媼：やっぱり、歌もあつたけど踊りもある、いや、ただ、【0:55:19】♪soraenyo soraenyoyosa soraenyo sora eponsara suwe soraenyo, ha enyo haenyo～（以下、歌詞略）～ho ho 【0:55:48】、あの、これ、よく分からんけど、バツタ踊りってあつたんだわ。

千葉：バツタ踊りってのは、こうやって、

キヨ媼：うん、そうだ。そうだ。

千葉：帯広の人たちで、

キヨ媼：あれは、わし、子どもん時期、聞いたよね。

千葉：うん、うん。なんだっけ。えー、あれ、違った、♪トカチエソーロ、ハエーハエーっていうんですよね。

キヨ媼：うんだ。あ、私、分かんないんだけど、やっぱり、先生はなんでも覚えてますねー（笑）

千葉：（笑）□□だよ。ふーん。

キヨ媼：【0:56:17】♪ha, hai haei peturasi haei haei, nekonna 分からんじゃ、それ、[きんたいわ] 私らに、分からないわ、わし、やったことないから分からない。

千葉：あれ、じゃ、その、キツネの踊りとそれって、昔は親戚だったんですかね？ 歌として、ウポポとしては。

キヨ媼：ねえ。

千葉：ハーエ、どっちもハーエーイとか、ハーエンヨとか、

キヨ媼：うんだんなね。ソラエンヨ、ってね、いくんだもんね。

千葉：ねえ。ふーん。そうか。あれでも、今は、今は屈斜路でもやるんでしたっけ？

キヨ媼：何、

千葉：バツタ踊り。

キヨ媼：いや、やってらね。

千葉：向こうでは、♪トカチエソーロっていうけど、こっちのほうでは♪クシルエソーロって、

キヨ媼：あの、と、トカチエソーロと十勝の人らやっています。

千葉：ねえ、うん。

キヨ媼：旭川の人もや、□□旭川に、旭川はやらんわ。あの、帯広。

千葉：帯広と釧路で、

キヨ媼：やってた。白糠。

千葉：釧路でやりますね。うん。

キヨ媼：うん。白糠、ああ、釧路やらんね。

千葉：やらないですか。

キヨ媼：うん、やらっていない。

千葉：うん。

キヨ媼：見たことないって。

千葉：向こうのほうでは、なんか、クシル、クシルエソロっていうらしいですよ、トカチエソロのところ。

キヨ媼：【0:57:35】 ペ、ペットウラシ、♪isoro eae ae kuraru peturasi ae ea って、やっぱり、それ〔それが〕、その文句をいろいろ入れてやんだわ、あれ。

千葉：うん。

キヨ媼：ほんで、歌に合わせて踊るんだべさ、あれ。

千葉：うん。まあ、遊びみたいなものでしょうね、あれはね。

キヨ媼：そうだ、そうだ、要するにそうだ、キツネだって、そのとおりでしょ？ キツネ踊りだってね。

千葉：うん。あ、う、遊びといえば、ほら、♪オッカイカーイチーサクってあるでしょう。

キヨ媼：あっこけ（笑）

千葉：あれって、あれですか？ ここの人が始めたんですか？ あれ。

キヨ媼：あれ、色男舞^{いろおとこまい}ね。

千葉：うん。

キヨ媼：色男舞はね、あの、やっぱり釧路もやってたね。

千葉：釧路もやってた。

キヨ媼：うん。

千葉：や、ヤマナカさんが始めたっていう話も聞いたけど、それ、ちよつ、

キヨ媼：ヤマナカさんて？

千葉：トリ、トリゾウさん？

キヨ媼：いやーあ□□、なんか知らんけどね、釧路の人もやってたよ、いろいろと〔こまい〕。【0:58:28】

♪アソーラソーレソーレ、アオッカイカーイ、文句も違うんだわ。

千葉：ああ。

キヨ媼：やっぱり、その土地によって。♪アーオ、わし、私やなんか、【0:58:39】 ♪アーオッカイカーヌーカラ、アーオッカイカーヌーカラ、ハア、オッカイカーヌーカラ、ハア、オッカイカーヌーカラ、ハア、～（以下、歌詞略）～ 【0:59:05】 a sore, a sore sore sore, ～（以下、歌詞略）～

【0:59:25】、やっぱり、阿寒湖の人はまた違うわ。文句。

千葉：うん？ 今のは？ どの？ どの okaykay

キヨ媼：私やったウポポだもん。自分で、や、あの、つくったウポポだもん。

千葉：ああ。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。それは昔からあったんですか？ その、

キヨ媼：あったのよ、これ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：私の、あの、子ども時分ってね、私の、あれしたときやったもの、これ。

千葉：ああ、そう。

キヨ媼：なんかの、お祭、あれんとき、して、歌に合わせて。

千葉：なんか、ヤマナカトリゾウさんがつくったんだとか、その、ヤマモトタスケさんが始めたんだとか、いろんな話があるけど、じゃあ、もっと前から、

キヨ媼：あったよ、わしらの子どもの、うん。

千葉：ふーん。

【1:00:00】

キヨ媼：いろおとこまい、ってね。

千葉：ああ、そうなんですか。へえ。あの、踊りはおんなじような感じですか？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。へえ。面白いですよね。ふーん。

キヨ媼：okkay ci、〔要するに〕、釧路の人らの文句、また違うんだわ、あれ。聞いたかい？ 釧路の人の、あの、

千葉：釧路はね、

キヨ媼：阿寒湖の踊りの前のウポポも、ウポ、ウポポ違うべさ？

千葉：あれ、どっちかがないんじゃないかなかったですっけ。

キヨ媼：え？

千葉：オッカイカイがないんだか、ソーレ、アソーレだけやるとか、そういうんじゃないかなかったです？

キヨ媼：ソーレソーレって、や、だけやる人もいるしね。

千葉：ねえ、うん。

キヨ媼：ええ。

千葉：そういうの□□。

キヨ媼：釧路の人はそれだけやってるわ。♪ア、ソーレソーレソーレって。で、私は、オッカイっていったら男でしょう？

千葉：うん

キヨ媼：それで、こんど繰り返して一番、あの、もう、引っ張ってるとき、こんど、♪アソーレ、アソーレソーレソーレ、アソーレ、アソーレソーレソーっていく□□と、それね、釧路、あ、阿寒湖の、あの、舞台にやるの、また違ってたな、歌。あれは、なんだ、シヨ、♪オシヨーロシヨーロ、オッカイ、ソーレソーレ、オッカイカイソーレったか。オッカイカーイ、ソーレ、オッカイカーイ、ソーレって行って、き、いったと思ったなあ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：お、ソーレ っていったんだわ。わしは、♪オッカイカーイヌーカラってこういくけど、あの人は、♪オッカイカーイソーレ、オッカイカーイソーレっていったわ。釧路の人、あ、いや、阿寒湖の人ら。

千葉：うん。十勝ではチーサクっていうんですね？

キヨ媼：うん？

千葉：いな、いない、だからチーサク。

キヨ媼：チーサク？

千葉：♪オッカイカーイ、チーサク。

キヨ媼：♪オッカイカーイ、チサク。いろいろだわ、やっぱり。

千葉：ねえ。うん。面白いですね。

キヨ媼：♪オッカイカーイ、チーサーク。オッカイカーイ、チーサク。っていっても [いっしょも□]

♪オッカイカ、チサっていうけど、わしは、また、オッカイカーイ、ヌーカラって見れっていう、

千葉：こっち向、こっち見れっていう、

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：オッカイ見たっていう意味でやるんだ、私は、あの、自分の心でつくった歌だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：ほいで、いい加減になったら、【1:02:11】♪アソーレ、アソーレソーレソーレ、アソーレ、アソーレ、アソーレソーレソーレっていうふうになる。

千葉：お婆さんが、その、子どものころ見た人たちも、ヌーカラって言っていたんですか。

キヨ媼：うん？

千葉：それは何ていったか覚えていない、それは、やっぱり、ヌ、

キヨ媼：私は、自分でね、あの、聞いたの、そういうふう聞いた、わしらのほうでは。

千葉：ヌーカラ、

キヨ媼：【1:02:33】♪オッカイカーイヌーカラ、ハー、オッカイカーイヌーカラって、男、見た、見たっていうように、先にいく、いく、いくわけさ。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：いろいろ真ん中までいったら、♪アソーレ、

千葉：うん。

キヨ媼：♪アソーレ、アソーレソーレソーレ、アソーレ、アソーレソーレソーレってよくいった。

千葉：ふーん。

キヨ媼：□□□なあ。

千葉：いやいや、いろいろ出ますねえ。イタサンカタっていうのは、やりました？ 昔。

キヨ媼：イタサンカタね。

千葉：うん。♪カニボント、なんかシントコだっけ？

キヨ媼：これも、やっぱり、みんな違うよ。私のが、やっぱり、ちょっと音がま^{おん}違^わうかさなあ。あの、♪イーターソ、イタソーカタっていう人も、イタサンっていう人も、イタソーカタっていう人もいるしね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：イタサンって、サン、私はイタサンカタ、よその人らはイタソーカタって人もいるし。

千葉：うん。

キヨ媼：これ違うんだね、みんな、みんな、文句がね。イーターソーカタ、イーターサンって、私は

イタサンカタっていったな。

千葉：うん。

キヨ媼：でも、よその人らがイタソーカタって。同じさ、ソーカタとイタサンカタと、サンったら^{した}下でしょう？ ソーカタったら、そ、^{した}下って、みんな同じさ、ちょっとの。

千葉：両方いうってことはないんですか？

キヨ媼：え？

千葉：両方代わり番こにいうってことはない？

キヨ媼：両方なんか、そうやって、さきの文句と、文句が違うこと、あってるわけさ。イタサンと、イタサン、サンったら下でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：イタソーとか、ソーカタったら、この、

千葉：うん、上。

キヨ媼：ね、それと音^{おん}がやっぱり違う、言い方が違う。

千葉：うん。

キヨ媼：私はイタサンカタっていくんだ、サンカタってね。

千葉：どんな節ですか？

キヨ媼：どーなん、

千葉：♪カニボン、

キヨ媼：【1:04:23】♪ita sankata kani pon kuto sintoko heretun retun heretun cari, hoy hoy, ~ (以下、歌詞略) ~hoy hoy 【1:05:56】と。

千葉：それ、あの、

キヨ媼：繰り返して、

千葉：なん、こう、ずれてう、ukouk っていうんですか？

キヨ媼：ん、そう。

千葉：やる？ □□□□□□□

キヨ媼：そうだね。そうってやるわけ。みんな座って、あの、やるんだ。イーターサーシーカータって、まで行けば、次は、クトシントコとか、真ん中いけばこうだとかああとか。わしら、もう、ぼ、あの、そんなの、いら、あの、

千葉：やらなかった、

キヨ媼：面倒くさいことしないもん。一遍に〔自分が〕いっちまうの。

千葉：うん。

キヨ媼：イタサンカタ、ずっとしまいまで。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたら、こんど、そのうちに今度、こっちのほうもみ、ね、その、次から次に、そのイタサンカタったら、カニボンとかクトシンとかって、そんな面倒くさいことは、私やらない、やらないの。

千葉：うん。[じゃ] もう、あれだ、じゃあ、お婆さんたちのときは、みんなで一緒にこうやって□□□□

キヨ媪：そうだ。うん。こうやってね、みんなシントコな、

千葉：うん、うん。シントコたたいて。

キヨ媪：うんうん。シントコのふた。

千葉：うん、うん。あ、シントコのふた。シントコ□□□、□□□ (笑)

キヨ媪：ハウカウエン。

千葉：そんなことないでしょ。

キヨ媪：はい？ハウカウエン。

千葉：ピリカだ。

キヨ媪：(笑) ハウカウエンて。

千葉：ピリカハウエ。ピリカハウエアンナ。

キヨ媪：やっぱり [びがんーあれあな] (不明)。あそこのばあちゃんのこと、あ [んた]、聞いたね。

千葉：誰？

キヨ媪：T さんでないし、あの、S さんのばあちゃんね。

千葉：ああ、ああ、ああ。あれ？こないだ、どこでしたっけ。どっかで一緒だったですね。

キヨ媪：え？

千葉：札、ん？札幌でしたっけ。

キヨ媪：うん、うん。札幌で行きあった。

千葉：うん、うん、そうだ、そうだ。

キヨ媪：あと、ウポポって、これっていうこと、もうないね。みんな、ウポポも昔のウポポ、みんな消れてしまっきてね。

千葉：うん。

キヨ媪：なくなっちゃうの、なくなる。

千葉：やる人がね、どんどん増えてくれば、いいんでしょうけどねえ。

キヨ媪：うん？

千葉：♪カムイ、カムイアサンケナーっていうのと、♪カムイホープニナーっていうのと、ありますよね？

キヨ媪：私ら、カムイホープニナっていくね。

千葉：あの、アサンケナのほうは、また全然、別なんですか。それとも、

キヨ媪：アサンケナってね、アサンケナっていうのは、うちの、うちでやったがね、熊送りにね、【1:08:41】

♪kamuy asankena ko, a, kamuy asankena ~ (以下、歌詞略) ~hou 【1:09:01】、これ、あの、私の、あの、主人が言ったの。うちの、主人ね。

千葉：うん。

キヨ媪：これ、^{くままつり}熊祭のときにね、

千葉：うん。

キヨ媼：クマ、今ね、

千葉：うん。

キヨ媼：おりから出すから、これ、ウポポやってくれっていうので、やったんだ、

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：うちのじいさんのウポポだ、これ。【1:09:16】♪kamuy asankena ho ho ~ (以下、歌詞略)
~ 【1:09:41】、って、こうい、い、い、繰り返してやったの。

千葉：もともとは、じゃあなに、ホープニナーのほうが歌、みんなが□□□、

キヨ媼：ホープニナーったらね、い、あの、やっぱり、カムイホープニナーったら、カムイも、ホープニと、おさめるっていう意味でしょう？

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：アサンケナ、ったり、いまカムイ、クマ、今、おりから出すねっていう意味なの。

【1:10:00】

千葉：うん。で、何、あの、日川のエカシが、

キヨ媼：これ、アサンケナってやったの。一番、クマ待ってるときに。

千葉：エカシが始めたんですか？

キヨ媼：うん、自分でやったわ。

千葉：よ、要するに、昔、その、ホープニナっていう歌があったから、

キヨ媼：ホープニナーはあったわけさ。

千葉：うん。それを、

キヨ媼：だけど、アサンケナはうちの主人つけたもんだ。

千葉：ああ、そうなの。

キヨ媼：アサンケナったら、今、おりからクマ出すっていう意味だから、やれよっていわれて、おれが、ここで2回ぐらい熊祭やったからね、そんときに、わし、

千葉：節、節は？

キヨ媼：え？

千葉：節は同じなんですか？ホープニナと、

キヨ媼：そうだ、同じだ。【1:10:31】♪kamuy asankena ho ho、って、kamuy hopunina ho ho, kamuy hopunina ho ho って、

千葉：あ、あれは？ その、♪kamuy hopunina hopu tunke he cu、ホプトウンケー、

キヨ媼：や、hopu、 hoputunke he cu っていう人もいるしね、

千葉：いれない人もいる？

キヨ媼：うん、みんな違うんだわ。【1:10:55】♪カムイホープニナー、ホープトウンケーヘーチュイ、っていう人もいれば、あ、あの、ホークトウンケーヘーチュ、いる、もう、ふ、あっちゃこっちゃだ。[これ□□このクマ]。

千葉：ホー、ホーだけいう人もいる？

キヨ媼：うん？

千葉：♪カームイホーブニナー、

キヨ媼：♪ホークントウ、ホープトウンケーヘーチュイっていうしね、いうだ。釧路の人ら言うてる、これね。

千葉：うん。こっちは？ こっちでは、い□□□、

キヨ媼：うん、こっちはな、やっぱり、わしらは、あの、オイ、秋なったら、うちでチセでお祭りやるときには、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、みんな、来てもらうんだわ。そしたら、みんなで合わせるウポポやんなかったら合わないでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：つたら、ホーブニナーって、そうだ、クマ、今、出ないんだ、今、あの、あれだもの、ヌサのお祭りだから。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：クマ、送りでないんだから、ホーブニナーっていくさ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ね。そうやって歌ってるよ。やってるけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：アサンケナでないの。今度、クマ祭りでないから、

千葉：うん。

キヨ媼：お祭りだから、クマを、あ、く、あの、ホーブニナー、ホープトウンケーヘーチュって、ホーブニナーつたら、まあ、は、神さんを今出て、行くっていう意味だべさ、ホーブニナーつたら、寝まったとこ立っていくっていう意味。

千葉：うん。それ、チュイ、ヘーチュイですか、ヘー、

キヨ媼：ヘーチュイつたら、要するに、ヘッチュイつたら、あの、あれでしょう、なんていうの、囃しみたいなものだべさ。【1:12:22】♪ホープトウンケーヘートウイーッっていくべさ。

千葉：トウイ。

キヨ媼：ねえ、チョイ。(笑)

千葉：チョイ、チョイ？ チョイ？

キヨ媼：チョイっていう、

千葉：チョイ？

キヨ媼：チョイっていうの。

千葉：チュイ。

キヨ媼：♪ホープトウンケーヘーチョイー っていくんでしょ。

千葉：チョイ、チュイ、

キヨ媼：チョーイ、チョイってわしら言うの。

千葉：チョイ、チョイか。

キヨ媼：チュイでない、チョイ。

千葉：チョイか。(笑)

キヨ媼：(笑) やーほいたな。(笑)

千葉：ふーん、なるほど。

キヨ媼：なるほど [はた]。

千葉：そっか。まあ、

キヨ媼：これで、終わりにしましょう、何時だ。

千葉：もう、かかっちゃいますもんね。いや、本当はもっとね、聞きたいこと、たくさんあるんですけどね。

キヨ媼：はい。

千葉：一遍にやると、ねえ。

キヨ媼：うん、お互いにね。

千葉：うん。

キヨ媼：今度ね、あ、秋においで、秋だから、もう、あの、えー、し、10月だね。

千葉：そうですね。

キヨ媼：10月か11月に来て。

千葉：うん。

キヨ媼：10月、もう、10月いっぱいだから、うちが、店。

千葉：ああ。

キヨ媼：ほいで、もう、11月ったら、もう店、閉めてるからね。こ、ここも10月いっぱいだから。

千葉：あした、また来たら駄目ですか。あした、

キヨ媼：あしたかい？

千葉：うん。

キヨ媼：うーん。それ、何、また聞くんですか。

千葉：続き。だって聞きたい曲、いっぱいあんだもん。

キヨ媼：ふーん。

千葉：ロホンナとか、ほら、

キヨ媼：え？

千葉：コンカニルイカとかね。

キヨ媼：【1:13:30】 ♪コンカニルイカー、ホールイカ、ソレカニルイカー、ホールイ、

千葉：いやー [あれだよ]。(笑)

キヨ媼：まあ、いろいろある。

千葉：だって、あれだよ。二十、は、28もあんだもん。くし、釧路が。

キヨ媼：ねえ。

千葉：(笑) [ら]。

キヨ媼：【1:13:41】 ♪コンカニルイカ、コー、これね、いろいろあるね。

千葉：うん。

キヨ媼：コンカニルイカったらね、あの一、釧路の人は、そのね、あの一、今、新しい橋こしらえて、今、それを渡っていくところのウポポだっというけど、ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：私らはまた違うの。

千葉：うん。

キヨ媼：また、あの、歌あるわけさ。別のやつね。どうしてってばね、あの、昔、ほれ、あの、道の悪いとき、川に橋、こしらえたの、一本橋ね。

千葉：うん。

キヨ媼：一本橋をね、こしらえてて、向こうから、あー、おやじさんが来て、その、今、渡るとき、酔っ払って渡るとき、今度、こっちで、今度、あの、危ないから、え、あれだ、気をつけて、わ、あの、渡ってきてくれって、女は言うわけさ、こっちで。男は、そっちから、今、渡る気になってるの。それをウポポに、あの、あの、歌、歌、歌に合わせて、今度ね、踊ったわけ。

千葉：ふーん。う、お？

キヨ媼：か、やそ、

千葉：う、歌は、ウポポは一緒にでしょ？

キヨ媼：そうなの。

千葉：♪コンカニルイカー、ホールイカ、

キヨ媼：うんだ。

千葉：[っという]

キヨ媼：そうそう、それで、今度合わせて、わ、渡れ、

千葉：なんか、つえ、ついたりする、

キヨ媼：それ、つえ、ついたのは、したから、新しい橋できたときの、コンカニルイカ、ホール(イ)カ、コンカ、

【1:15:00】

千葉：そ [れ]、釧路の？

キヨ媼：ん、釧路だね。

千葉：うん。

キヨ媼：【1:15:02】 ♪コンカニルイカー、ホールイカ、シロカニルイカー、ホールイカ、コンカニルイカー、ホールイカ、シロカニルイカー、ホールっというやつだけどね。

千葉：うん。で、つえ、つかないで、おど、お、どういう踊り？

キヨ媼：え？

千葉：つえつかない踊り？ なんですか？

キヨ媼：したら、つえのつかないやつは、その、あの、今、一本橋渡ってるときの歌さ。

千葉：うん。踊りはどういう踊りなんです？

キヨ媼：ど、おさ、酔っ払って、おやじさん、そこに来てるでしょ？

千葉：フラフラ□□

キヨ媼：橋のどこね。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたら、まあ渡るとき、今度、あの、一升瓶担いで、

千葉：ああー。

キヨ媼：そして、今度、今、渡るときの歌、お、踊りさ。

千葉：へえ。

キヨ媼：ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：渡って、ここ、やっつつくべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：つたら、おやじ、おか、あの、奥さんがここにいる、あの、川へ落ちないで、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、あの、渡ってきてくださいって、ここにいるわけさ、歌ってるわけ。

千葉：ふーん、ふーん。

キヨ媼：そしたら、向こうにいて、ま、やっど渡ってくる時のウポポ。それはあった。

千葉：おか、そのお母さんの役の人が歌うの？

キヨ媼：はい？

千葉：お母さん役の人が歌って、

キヨ媼：はい、はい、はい。

千葉：で、旦那さん役の人は、ただ踊るんだ。

キヨ媼：ええ、そう、そういって、今度、酔っ払ったふりして、こうやってやるんだ。

千葉：へえ。

キヨ媼：それを、ウポポ、私は、どうしてってばね、自分でやった、この、やっぱり、いろいろなね、あの、内地回りしたから、若いとき。

千葉：ああ。

キヨ媼：そのときにね、あのー、この踊り良^いんでないかったらお客さん、喜んでくれるでしょ。

千葉：そういうのって誰かが考えるもんなんですか？

キヨ媼：ん、考え□□、考えながらできないでしょう。

千葉：そうだね、(笑) それは。

キヨ媼：(笑)

千葉：別に昔っから、やっていたわけじゃないよね。

キヨ媼：昔からはやってない、やってたウポポでないんだけど。

千葉：そうだよ。昔は橋ってないもんね。(笑)

キヨ媼：うん。はい、

千葉：その、

キヨ媼：(笑) したってあの、橋ってあったべさ。コガワさんた、こう、大きな丸太だ、あの、こう、

千葉：ダダンとやっても、

キヨ媼：それ橋だべさ。

千葉：ああ、そうか、そうか。

キヨ媼：うんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうやつあったべさ。昔はね、昔はあったべさ。

千葉：うん、そうだね。

キヨ媼：だから、それと同じくしてやったんだ。そういう内地回りで一回やった、やったことある。

それ思い出してか言った。

千葉：うん。分かりました、ありがとうございました。

キヨ媼：はい、どうも。ご苦労さまでした。

千葉：いえいえ。

キヨ媼：今度、また来年来てください。今年か。

千葉：うん。

キヨ媼：いつ帰るの。

千葉：いや、だから、いつでもいいんですけど。もし、だから、あした、できたら、あした、やっ
てから帰ってもいいんだけど。大変だったら、いや。や、どっちにしても、秋来んだよね。

キヨ媼：うん。

千葉：でも、ほら、秋は秋で、また、練習してくるから。

キヨ媼：これだけ、できましたってね。

千葉：そう。

キヨ媼：うん。

千葉：だから、今、今聞いとけば、ほら、また、いろいろ練習することができる。

キヨ媼：うん、そうね。

千葉：うん。

キヨ媼：したら、あした、あさって帰るの、あんたは。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ふーん。あらー、なんか、しゃっこいもん飲むか？

千葉：いや、いいです、いいです。

キヨ媼：お茶も飲まないの、チョコなら、なんかつまみなさい。

千葉：ああ、はい。

キヨ媼：お茶飲んで。

千葉：うん。

キヨ媼：コーヒーもあるよ。

千葉：いや、いいです、いいです。

キヨ媼：いいです、いいです、出さないもの食われないのも□□□□□□

千葉：お茶で、お茶がいい。お茶がいい。

キヨ媼：お茶がいいかい？

千葉：うん。コーヒーもね、飲み過ぎるとね、

キヨ媼：眠れないってね。

千葉：そうそう。ドキドキしてくるんですよ。

キヨ媼：やあやあ、本当に。あとは何、あるのよ、なんもないべさ。

千葉：え？

キヨ媼：あと、聞くやつ。

千葉：たっくさんありますよ。

キヨ媼：え？

千葉：たっくさんある。

キヨ媼：たっくさんないの、オラは。

千葉：あるある。

キヨ媼：□□□

千葉：だって、言うと思い出すじゃないですか。映ってたかな。映ってたかな。

キヨ媼：入ってたかい？あれすぐ聞くわけにいかないんだ。

千葉：これ？

キヨ媼：すぐ聞くわけにはいかないんだ、これね、入ってない。

千葉：うーんとね。

キヨ媼：うん。

千葉：いや、できるのかな。

キヨ媼：やってみるか。

千葉：やってみようかい？あまりいい音しないよ。

キヨ媼：あん、(終了)

【1:19:09】

5 : 1993年5月20日 (ファイル名 : Kiy930520) 1'4' 8"

千葉 : まず、じゃあお茶をごちそうになって。

キヨ媼 : どうぞ、飲んでください。

千葉 : このあたりの、あの、歌をね、ひととおりに聞きたいと思っているんですけど、きのう、途中までいろいろ聞いたけど、

キヨ媼 : はい。

千葉 : 例えば、ハウオーイウタニとかね。馬追いの、なんか、ホレンナホレンナとか、

キヨ媼 : (笑) ホレンナホレンナね、ここの歌、うん。

千葉 : あれは、このへんの歌？

キヨ媼 : え？

千葉 : ホレンナホレンナっていうのは。

キヨ媼 : あれ、あの、ウマ踊りでしょう。

千葉 : うん。これは屈斜路の、

キヨ媼 : 屈斜路でなく、ほうぼうやりますよ、これは。阿寒湖でもやるしね。

千葉 : どこでもやるっていう歌なんですか？

キヨ媼 : はい。

千葉 : これは、おばさんも歌ったりしたんですか、ほ、そういう、

キヨ媼 : この歌ですか？

千葉 : うん。

キヨ媼 : 歌ったことあるんですけどね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : もう、なにかにも忘れてしまつて。

千葉 : ああ。

キヨ媼 : 【0:01:19】 ♪ hore horeнна hore horeнна hore horeнна hay sikiki sikiki, hore horeнна ~ (以下、歌詞略) ~ hay sikiki sikiki 【0:02:55】 って、これウマ踊り、歌。

千葉 : ウマ踊り？

キヨ媼 : うん。ウマ追う、のウポポで、ウマ踊りだね、ウマになって、昔、ほれ、炭鉱つきのウマがね、そいでほれ、ウマたくさんいたもんでね。

千葉 : うん。

キヨ媼 : ウマ、ウマなって、ウマ踊りってね、やったもんですよ、昔ね。

千葉 : うん。sikiki sikiki ってのは、

キヨ媼 : ♪ハイ、シキキーシキキ ったら、結局、あの、あの、囃しさ。ハイ、ハイ、ハイって、こう、ウマを、ウマを追って、いく、いく、いってるべさ。

千葉 : うん。

キヨ媼：ウマさね。

千葉：ウマを追いかける人がこうやって、

キヨ媼：うん、それ。ウマ追いが、う、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、声かけるのさ。はい。

千葉：ウマの声じゃないですよ？

キヨ媼：はい。ま□（笑）

千葉：（笑）なるほど。キツネの踊りは？

キヨ媼：ん？

千葉：♪ハアエンヨーってやつ。

キヨ媼：ハアエイヨ？

千葉：♪ハアエンヨー、ソラエンヨーっていうふうな歌、あった？ キツネの、キツネの踊りのときにやる、

キヨ媼：【0:04:17】♪ハアエンヨー、これ、キツネの踊りでしょう。

千葉：そうそう。

キヨ媼：♪ソーライヨー、やったでしょ、それ。

千葉：前ね。

キヨ媼：やってなかったか？ それ。

千葉：若い人たちがね。

キヨ媼：うん。

千葉：♪サラエンヨーオ、サラエンヨイサ、って、そんなような

キヨ媼：【0:04:39】ソ、サー、【0:04:40】♪ha enyo soraenyoysa soraenyoysa soraenyo ara epon hara suwe saraenyo ~（以下、歌詞略）~ 【0:06:20】、

千葉：はい。うーうん。きのう、あの、ほら、カムイホープニナってや、やりましたね？

キヨ媼：うん。

千葉：カムイソーカワカムイランていうのもあるんですか？

キヨ媼：カムイソー、カタ、カムイ、カムイシ、カムイホープニナと、違うべさ、そのウポポ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：と違うんですよ。

キヨ媼：違いますよ。

千葉：カムイソーカワカムイラン。

キヨ媼：【0:06:52】♪kamuy so kata kamuy si kawa kamuy ran koro kamuy siso、ま、これ、【0:07:09】♪tomari kawa tuyma rankoro tomasiso kurukuru karakara , tomari kawa tuyma rankoro tomasiso kurukuru karakara ~（以下、歌詞略）~ 【0:07:57】、このウポポはね、あれ、あの、雷さんのウポポ。

千葉：雷さん？

キヨ媼：うん。遠いところね、あの、雷さんが来てさ、

千葉：うん。

キヨ媼：それで、あの、クルクルカラカラっていうような音してるでしょう、カラカラカラって。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：あれがね、の、ウポポなんだよ。

千葉：へえ、初めて聞いた。

キヨ媼：うん。

千葉：へえ。

キヨ媼：【0:08:21】♪tomari kara tuyma rankoro tumasiso kurukuru karakara ~ (以下、歌詞略)
~ 【0:08:45】 って、これ、あの、雷さんの。

千葉：これ、何、どういうときに歌うんですか？ これ、雷、

キヨ媼：それはね、あの、やっぱり、みんな、大勢集まってお祭りのとき、それ、やるわけさ、みんな。

千葉：あ、じゃあ、遊びで、

キヨ媼：そう、遊びに、あのさ、それ、雷さんのウポポさ。だ、トイマったら、ほれ、遠いところから、

千葉：遠くから、うん。

キヨ媼：え、あの、雷さんを、

千葉：うん。

キヨ媼：コロコロ、カラカラって、く、来たべき。

千葉：うん。

キヨ媼：それで、トマリ、トイ〔シ〕リって、それ入ってるでしょう。

千葉：うん。〔トマシーソ〕

キヨ媼：で、今、雷さんの音して、今、来たわっていう、そのアイヌ語の意味でウポポやったもんだの。

千葉：トイマリカワ、トウイマランコロ、トウマシソって言ったの？

キヨ媼：え？

千葉：トウマ、トウマシソって言ったの？ 2回目。トウマ

キヨ媼：トウイマーリーでしょ？

千葉：トウマ、

キヨ媼：【0:09:33】♪tuymari kawa tuyma kotan tuymasiso kurukuru karakara, so kawa tuyma rankoro tuymasiso kurukuru karakara って、これ、あの、雷さんのウポポさ。

千葉：これ、みんなと一緒に歌うんですか？

キヨ媼：ううん、そう、あの、ほれ、交代、交代、声出すの。

千葉：ああ、ああ。

キヨ媼：うん。

千葉：フンドリとか、ああいうのと [同じ]。

キヨ媼：ああいうふうには、なんでもね、アイヌはの、あの、

【0:10:00】

千葉：踊りはつかないんですか？ これは。

キヨ媼：みんな、一緒に手をたたいてやるの。

千葉：ああ、座って。

キヨ媼：はい。

千葉：へえ。初めて聞きましたね、これは。

キヨ媼：そうかい。

千葉：これは、どう、あの、釧路？ 屈斜路？

キヨ媼：私らのほうだ、釧路。

千葉：釧路のほう？

キヨ媼：うん。初めに聞きましたかい？

千葉：うん。

キヨ媼：それだけ、わし、ちょっと、あの、心に残ってたからさ。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：昔ね、年寄りたちは、これね、このウボポやったみたい。

千葉：ふーん。釧路だったら、みんなで、みんなやってた [やつかな]、

キヨ媼：みんなで作るんです、交代交代。

千葉：ふーん。なるほど。オサノサノっての、

キヨ媼：オサノサノって、いや、誰やった？ それ。

千葉：昔やったらしいんですけどね。

キヨ媼：うん。どこで聞きました、

千葉：いや、あの、この、このあたりで。

キヨ媼：え？

千葉：このあたりで。

キヨ媼：このあたりで聞いたかい？

千葉：うん。

キヨ媼：私やんないべさ、それ。

千葉：誰だろう、クドウさんか。

キヨ媼：え？

千葉：クドウさんっているかな。

キヨ媼：クドウ？ ク (笑)

千葉：クドウさんっていう人が、前に、なん、昭和の 63 年ぐらいに、なんか、やったんですって、僕知らないんだけど。

キヨ媼：そう、聞きました？

千葉：うん。

キヨ媼：【0:11:16】 ♪オサー、オサーノーサノー、アーエーワエ、オソーローサノーって、これは、なんていう意味で歌ってるって、い、き、聞きました？

千葉：なんか、安産の、なんか、

キヨ媼：(笑) 安産がや、私、これは嫌いなウポポでね、

千葉：ああ、そうなんですか。

キヨ媼：やったことないですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：お産のね、の、

千葉：あ、お産の、お産の、って行ってんだ。

キヨ媼：いや、お、お、あの、お産するときのウポポだっていう、あの、お産してる、今、ほれ、今、お産して苦しんでいるとこのやつをとってウポポにしたんだね。(やつを取って、か、やつ音取って、か)

千葉：ふーん。昔からあるウポポ？

キヨ媼：む、昔からあったんじゃないかい？ わし、めったにやったことないもん、それ。

千葉：ああ、へえ。まあ、いろいろあれですね、レパートリーも、いろいろあるんですもんね。

キヨ媼：そこに書いてる？

千葉：題名だけね。

キヨ媼：え？

千葉：題名だけね。

キヨ媼：うん。言ってごらん。

千葉：いや、だから、オサノサノってだけだ [から]。

キヨ媼：【0:12:55:12】 ♪オサーノーサノー、アー、オサーノーサー [ン]、オソーラソラー、コーイワイ、オソーラーソラー、

千葉：♪inyukes ankorokay っていうのは？

キヨ媼：え？

千葉：♪inyukes ankorokay って。

キヨ媼：これはわしらのほうでやんない。♪イーニューケ、ハンクルカイ って、これ旭川のウポポだべさ、これ。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：旭川、♪イーニューケ、ハンコロカイ、ホーカホカったか、いったい私分らない

千葉：これは男の人のやつでしょう？

キヨ媼：うん、でも、男も女もやってやるんでないかい。

千葉：ふーん。こないだ、まりも祭りのときに、みんなで集まって、

キヨ媼：うん、大勢でやるんだね。あんた、まりも祭り見たんですか？

千葉：はい。

キヨ媪：何年前に見ました？

千葉：こないだです、こないだ。

キヨ媪：え？

千葉：こないだ、つい、こないだ。

キヨ媪：(笑) こない、

千葉：つい、こないだって半年ぐらい前？

キヨ媪：え？ え？

千葉：去年のやつ。

キヨ媪：ああ、そうかい。見た？

千葉：うん。

キヨ媪：私、去年いなかったからね。

千葉：ねえ、そうですよね。そのときは、なんか、みんな、こう、輪になって、

キヨ媪：うん。

千葉：あの、なんですか。懇親会って、

キヨ媪：ああ、そうですか。

千葉：みんなで酔っ払って、

キヨ媪：ああ、私、分からないですね。(笑)

千葉：かけ声だけだったですけどね。

キヨ媪：うん。

千葉：ふーん。そうか、そうか。(間) イウタニウポポっていうのは、あるんですか？

キヨ媪：イウタニウポポ、【0:13:46】 ♪エッサッホーエイヤーホーエッサーホーっていうんですよ。

千葉：ほう。

キヨ媪：うん。もう、あの、こうやって [はんの] 【0:13:54】 ♪ア、エッサーホー、

千葉：♪エッサッホー、

キヨ媪：♪ア、イヤーホー

千葉：♪イヤーホー

キヨ媪：♪エッサッホー

千葉：♪エッサッホー

キヨ媪：♪イヤホー

千葉：♪イヤホー

キヨ媪：♪エッサーホー

千葉：♪エッサーホー

キヨ媪：♪イヤホー

千葉：♪イヤホー

キヨ媪：♪エッサーホー

千葉：♪エッサーホー

キヨ媼：♪イヤホー

千葉：♪イヤホー

キヨ媼：♪エッサーホー

千葉：♪エッサーホー

キヨ媼：♪イヤホー

千葉：♪イヤホー

キヨ媼：♪エッサーホー

千葉：♪エッサーホー

キヨ媼：♪イヤホー

千葉：♪イヤホー

キヨ媼：♪エッサーホー

千葉：♪エッサーホー

キヨ媼：♪イヤホー、私らはこうやってやるよ、あの、イウタニやるとき。♪エッサ、エッサ、これ、囃しさこの。囃しさえ、結局、♪エッサ、って、エッサで、これ、8回でね、

千葉：うん。

キヨ媼：【0:14:42】 ♪エッサーホー、アーインヤーホイーハッ、ハア、エッサーホー、アーイーヤーホイーってこうやって、こうやって、ゆ、こうやって、あの、搦いたもんだもん。

千葉：うん。

キヨ媼：とう。

千葉：それ、釧路ですか？ やっぱり。

【0:15:00】

キヨ媼：ううん、みんな、やるよ。これ、あの、イウタウポポってやるね。

千葉：どこでもやる、

キヨ媼：やるね、うん。

千葉：うん。

キヨ媼：同じだわ、このウポポ。うん。

千葉：ハウオーイウタニっていうのは、

キヨ媼：え？

千葉：ハウオ、ハウオーイウタニっていうのはありますか？

キヨ媼：ハイヨー、イウタニ、わし、その♪エッサーホーとしか分から（ない）。

千葉：ああ、ああ。日高のほうにもありますもんね？

キヨ媼：ねえ、それ、やるでしょう。日高も。

千葉：なるほど。イカムッカーサンケっていうのは、

キヨ媼：【0:15:45】 ♪イカヌカサンケーイエサンケーイーエーサンナー、これ、やるよ、ここでもやるね。それ、どこから聞いた？ 【0:15:54】 ♪イカヌッカサンケーイエサンケーイーエーサンナー、イーカーヌーカーサンケーエサンケーイーエーサン、

千葉：それも、やっぱり、く、あの、屈斜路でやったって。

キヨ媼：ああ、やってみましたね、これ、イカヌカサン。

千葉：うん。

キヨ媼：ペサク（ピシヤク）¹⁴の踊りある？ペサクのウポポ入ったかい？そこに。ペサク、

千葉：ペサク？

キヨ媼：うん。

千葉：いや、知らない。

キヨ媼：ペサク、入ってないね。それね。

千葉：うん。

キヨ媼：ペサクって、あんた知ってる？ペサクったら、あの、しゃもじのことペサク。

千葉：ああ、ああ、ああ、うんうん。

キヨ媼：あれ、

千葉：うん。

キヨ媼：持って踊るやつあるんだよ。

千葉：へえ。ど、どんな歌なんですか、それ。

キヨ媼：これね、あの、みんなね、

千葉：うん。

キヨ媼：2人いたら2人だってペサク持ってる、うちにもある、あそこにあるけど、ペサク持ってね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、やるんだよ、こう。こうやって、こうやって、3回やってから、今度、これ歌に合わせやるの、こう。でね、早いとよ言えばあのなんていうのか、ケンていうようなもんだ、負けたら、落としたら負けるでしょう。したら、やめると。それから、また代わり来てしてやるわけよ。その、

千葉：あの、よく、ほらお皿でやったりする、ああいうような、ヘックリ

キヨ媼：そうだ。ヘクリサラリと同じことさ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。ヘクリサラリの書いてるの？そこで。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：〔ヘクリサラ〕あるよ。ピシヤクの、

キヨ媼：ペサク、なんて聞いたことないでしょ？

千葉：ない。ないですね。

キヨ媼：これ、ペサクはね、釧路もやらないしさ。ほいでね、ここへ来て、私、やったの、このペサクに、ペサク踊るって。

¹⁴ 媼は齒が少し緩いために若干発音に訛りが生じる傾向にあり、少し付度して補って聞く必要がある。ここで「ペサク」としたものはすべて「ピシヤク」である可能性がある。

千葉：うん。

キヨ媼：ペサクったら、アマサケやなんか、ほれ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、かますやつあるでしょう？ ほいだら、お祝いのときにね、こんど、必ずね、

千葉：うん。

キヨ媼：ありがとうございました、今日はアマサケも、まあ、おいしくできましたっていう、今度、それもって今度踊るわけ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：ウポポは、どういうウポポなんですか？

キヨ媼：【0:17:55】 ♪ア、ペサークーエポウータン、ア、ペサークーポウータ、ハア

～（以下、歌詞略）～ 【0:18:04】 アーペサークーテーレケーレー ～（以下、歌詞略）～ 【0:18:21】
 アーペサークーポウータ ～（以下、歌詞略）～ 【0:18:45】 アーペサークーテーレケーレー ～（以
 下、歌詞略）～ 【0:19:19】 って、このペサクの、あと、今度ね、etunip、etunip って知ってますで
 しょ。

千葉：こういう□□□□つ。

キヨ媼：etu、そう、etunip ったら、こう、酒つんどくやつ。それもやるの。わしら、こう持ってや
 らせるの。

千葉：ええ、ええ。それもウポポが、

キヨ媼：それもウポポあんの。【0:19:36】 ♪ハア、ナ、【0:19:37】 ♪a etunip pouta ha etunip pouta
 ～（以下、歌詞略）～ ha etunip terekere ～ 【0:20:44】 ってこういくの。

千葉：へえ。それ、あの、あれですか、ひしや、ひしやく、

キヨ媼：みんな、こう、持ってやるのさ。etuni(p) たら、etuni。やって、今度ね、

千葉：これ、何、1つの etunip を持って、こう、とったり渡したりするの？

キヨ媼：そうだの、渡すの。

千葉：2人で？

キヨ媼：ええ、それでね、etu、etunip ったってね、そら、もう、こんなして、こうやってるわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：今、投げるか、と、とるかってね。

千葉：うん。

キヨ媼：で、とん、投げれば、シュッととって、はあ、こ、こういうふうには、【0:21:11】 ♪a etunip pouta
 ～（以下、歌詞略）～ 【0:21:18】 っていくの。ペサクと etunip と同じさ。

千葉：同じ文句、

キヨ媼：同じだ、テレケレ。

千葉：うん。

キヨ媼：同じ文句、ただ、ペサクっていえば、あの、しゃもじでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：で、エトウニフ^フっていったら今度、つき、注^ツぐやつでしょう。

千葉：それ、あれで、あの、続けてやるわけじゃないでしょ？

キヨ媼：続けてやらないの。今度^フは etunip の踊り。今度^フは、あの、ペサク踊りってやる。

千葉：これ同じ、同じことやる、

キヨ媼：はい、同じことやるの、あい。

千葉：なんでもいってわけじゃないんですか？これは

キヨ媼：はい。

千葉：例えば、その、皿、皿でも、その、箸でも、

キヨ媼：落とす、

千葉：うん。

キヨ媼：落とさないように、落とさないようにね、

千葉：うん。

キヨ媼：ぱっと投げたら、あんた、ぱっととるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、今度、とったひょうしにすぐこう、歌に合わせて、こう、いくわけさ。こう、こうね。したら、3回、こうやってから、今度、

千葉：も、持ったまま、

キヨ媼：うん、そうだ。そいでから、今度、なんでもいいから、とったひょうしにね、

千葉：うん。

キヨ媼：とった人はね、左から、こういくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：それから右から行って真ん中。

千葉：うん。

キヨ媼：あとね、真ん中いったら、今度、こうやるわけだ。

千葉：うん。

キヨ媼：こうして投げるわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：投げて今度ね、とったらいいいけど、落とした人負けたら、もうやめる。

千葉：でも、ピシヤクぐらいただたらいいけど、エトニップだたら落としたら割れちゃうでしょう。

キヨ媼：割れないようにしてるんだべや。割れ□□□□□□ (笑)

千葉：プラスチックのやつか、なんかで

キヨ媼：(笑) そうやるの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：早いとこいえばケンだね。負けるか勝つかっていうこのケンだね。

千葉：ああ。

キヨ媪：和人としたらさ、

千葉：うん。

キヨ媪：まあ、なんでも、こうね、面白く、まあ、やるってことですよ。

千葉：その、テレケレっていうの分かる、ポ、ポーターっていうのは何なんですか。その、ピシヤクポータ、とか、

キヨ媪：【0:22:54】♪アー、ペサークーポータって、ポッターポッタっていえば、結局、囃しさ。

千葉：うん。

キヨ媪：ねえ。etuni etuni ってまだやれないから、

千葉：うーん。

キヨ媪：ポッタポタってこういくわけさ。

千葉：ふーん。

キヨ媪：それ、[囃しや拍子] にな。そうして、やるの。

千葉：それは、その、ポータって先に言ってから、途中からテレケレになるわけじゃないの。

キヨ媪：そうでないの。

千葉：順番がある

キヨ媪：先にこうね、【0:23:19】♪a etunip pou ta ha etunip pou ta って、こういくでしょ？

千葉：うん。

キヨ媪：それから、今度、あの、先に、etuni ったら etuni って、ペサクならペサクって先に言って、

千葉：うん、うん。

キヨ媪：それから、こんど囃し、こう入れるわけ。

千葉：□□□

キヨ媪：それから今度、あの、テレケレって入れるわけ。

千葉：それは、踊りとは関係なしにやってるの？

キヨ媪：はい？

千葉：踊りとは関係なしにやるんですか？

キヨ媪：はい。踊りと同じ、まあ、ケ、早いとこいえば、ケンだね。あの、和人としたら。

千葉：うん、例え、例えば、ほら、

キヨ媪：うん。

千葉：その、ポータ っていうったときに、こう、オンカミみたいにして、

キヨ媪：そうだ、そうだ。

千葉：テレケレのときに投げるとか、そういう区別はないんでしょう？

キヨ媪：そ、ないの。

千葉：うん。

キヨ媪：それ終わってから、3回、あの、オンカミして、3回こうやってから、今度、あの、投げるんだから、こっちから。

千葉：うん。

キヨ媼：もう、終わったなっていうとき、こ、こうやんの。そんだけ、今度、そっちから、今度、あの、オンカミしたい人、今度、

千葉：うん。

キヨ媼：こうやるわけさ。オンカミしてから、こうやって。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：とるか、とらないかって、

千葉：うん。

キヨ媼：手で、手やるの、たら、その、そのように、こっちからもペサク持ってるものも、こういうふうにして、こういくわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：こうやって。

千葉：あ、その、投げて、受けとった人は、こうやって左から、こうやって□□□□□□？

キヨ媼：ああ、そうやる、そうやる。

千葉：そのあいだ、投げた人は何をやっているんですか？

キヨ媼：ん、投げた人は結局、投げた人、今度、こ、これ、これ、これやってるわけ。

千葉：ああ、ああ。

キヨ媼：手たたいてる。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それからうまくいか、いかないか、見ながら手をたたいている。歌に合わせて手をたたくの、はい、そういうことでございます。(笑)

千葉：ふーん、ふーん、なるほど。

キヨ媼：うん。

千葉：面白いっすね。そうか。あれ？コンカニルイカって、きのう、話だけ？ コン、

キヨ媼：コンカニルイカやったべさ、きのう。

千葉：うん、話聞いて、もう一回、ちょっと歌ってもらえますか。コンカニルイカ。

キヨ媼：コンカニルイカですか、はい。

【0:25:00】

キヨ媼：【0:25:06】 ♪ha konkani ruyka ho ruyka ~ (以下、歌詞略) ~ sirokani ruyka ho ruyka ~ (以下、歌詞略、2つの歌詞をそれぞれ数回ずつ繰り返しながら、何度か交代して行く) ~ 【0:26:32】。

千葉：なるほど。それ、別に代わり番こじゃなくていいんですか。

キヨ媼：そりゃ□□

千葉：コンカニルイカ、シロカニルイカは。

キヨ媼：まあ、それ、そ、それでいく、あの、やっていくんでしょう？ うん。

千葉：ふーん。そうですか、そうですか。あの、フッタレチュイとかアラフクンとか、あれは阿寒とか、こっちにも両方あるけども、あれ、みんな、阿寒のものなんですか？ もともとは。

キヨ媼：うんだ。阿寒の人ら、やってきましたよ、これ、早くからね。

千葉：うん、うん。屈斜路、屈斜路でもやる、のは向こうから覚えてきたってことなのかな。

キヨ媼：そうなんだね、ええ。

千葉：ふーん。ロホンナロホンっていうのは、その

キヨ媼：ロホンナロホンねえ、あの、私、あ、釧路でもやったよ。

千葉：やってた？

キヨ媼：うん。私はね、あの、昔、それで踊ってもらった。

千葉：ふーん。

キヨ媼：ロホンナロホン。

千葉：棒もってね。

キヨ媼：うん。

千葉：難しそうだね、あれ。

キヨ媼：うんだ。あれね、なかなかね、できないんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：やる人いないんだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:27:39】 ♪ha rohonna rohon ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:29:15】、これでいく。

千葉：うん。なるほど。

キヨ媼：なるほどね。私、昔ね、

千葉：うん。

キヨ媼：女の子を4人、5人、つき、あの、や、あの、やってもらったんだけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：これ、これはね、あの、喜ぶんですよ、お客さん。

千葉：ああ。

キヨ媼：はい。棒もってね。

千葉：うん。面白いですもんね

キヨ媼：うん、喜ぶですよ。ただ手たたいてるよりね。

千葉：ああ。

キヨ媼：声が、あの、これね、結局、これ、これやって、今度、早いとこ、ここ、くず、あの、くぐらせるからね。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：くぐらして、うまくいけばいいけど、シッタン、シッタン、シッタンって、こう、あの、飛んでいくでしょう？ こうやって、こ、こういうふうにして、こっからこを通るでしょう、こうね。

千葉：うん。

キヨ媼：た、落とした人、今度、結局、負けるわけ。

千葉：うん。

【0:30:00】

キヨ媼：[負けたいやね]。

千葉：ふーん。そうか。続けてやったらきついですよ。

キヨ媼：はい、

千葉：続けてやったら苦しくなるでしょう。休みますか、少し。

キヨ媼：なんでもない、休んだら、なおさら声が、お、出ないでしょう。

千葉：ああ、そうか。ふーん。

キヨ媼：いや、あのね、そうやってやってあげたら、あの、それから、あの、私、やってもらった、若いもんにやってもらったの、あの、♪アラトー [イワ] ホーホーイワイトーイワホーフーって踊りあるんでしょ。あれ、見た？

千葉：ん、ど、どういうやつ、

キヨ媼：これね。

千葉：もう一回歌って。どういの。

キヨ媼：【0:30:50】 ♪aratuywa ho hoywa iitoywa ho hoy ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:31:46】、って、これ、いや、歌に合わせて、こう、やるんだ、こう。一番先、一番、声を、あの、こういうふうはや、やるとか、2はこういうふうやるとかって踊りあんの、これ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：ねえ。

千葉：今でもやっています？ その踊り。

キヨ媼：これ、やる人いない。

千葉：いな、いないですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：踊り、誰か覚えてる、覚えています？

キヨ媼：やる人いないんでないか。やってないもの。

千葉：ふーん。それはどこの、

キヨ媼：ん、

千葉：あの、屈斜路の、釧路、

キヨ媼：釧路の人やとんだ、これね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：【0:32:16】 ♪アラト、アラトイワホーホイワイトイワホー、これね、あの、あの、昔の人の話ではね、やっぱり、あの、船乗ってたとか、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、海と、沼とかね、

千葉：うん。

キヨ媼：あるく、歩くときに、^{かい}櫓、かいてね、やるときのウポポだつてさ。まあ、やったとき、^{かい}櫓、かけて、あの、^{あり}歩ったとこのをとって、あの、ウポポにして踊りにしたもんだつて。

千葉：ふーん。じゃあ、まあ釧路のほうですよ。

キヨ媼：うん、そう。

千葉：海の、

キヨ媼：そうだ、海のほうのね。

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：これね、えー、はあ、そうだ、白糠でやってたわ、これ。

千葉：ああ。

キヨ媼：あんた、み、白糠の踊り見たことない、

千葉：ないですね。

キヨ媼：白糠の、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：それやったわ。なにかのとき、集まったときやったわ。

千葉：ふーん。今でもやっているかな。

キヨ媼：やるよ。なにかのときに、やっぱり、言うもん。言って踊ってたもんね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：私、あの、歌のほう応援してるけど踊りなんか見ないけどさ、やってたよ。私らの、また踊りね、あの、あの、先に、こういうふうにしてって、2番目、こういうふうにして、3番目こういうふうにして、4番目こういうふうにして、5番目こういうふうにしてって踊りあるんだわ、これ。

千葉：ふーん。でも、ぜ、

キヨ媼：5番まである。

千葉：全部決まってる、歌はずっと、

キヨ媼：そうだ。それで繰り返して。

千葉：うん。ふーん。みんな、なに、お、1列に並ぶやつ？ 横に。

キヨ媼：そうそうそう。

千葉：あの、シチョチョイとか、あんなような感じで、

キヨ媼：この、あの、

千葉：横に、こう並んで、

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。輪になる踊りじゃない、ないんですね。

キヨ媼：そうだ。

千葉：こう、櫂、持ったりするんですか。

キヨ媼：え、いや、そんなのは。もう、女ばかりが目いくの。

千葉：うん。

キヨ媼：こうしていくんだ、これ、一番に、【0:34:12】 ♪aratuywa ho hoywa iituywa ho ho ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:35:00】 って、こういくの。

千葉：ふーん、なるほど。いろいろあるんですね。

キヨ媼：あるんですよ。ただでたらめにね、一ひととこ所に立って手たたきだけの、あの、格好があるんだよ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：こっちのほう、こっちとか、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：あっちの格好とかってね、ウポポに合わせ〔て〕□。

千葉：お婆さん、ヤイサマっていうのも、なんか、やります、

キヨ媼：ヤイサマって、やっぱり、やったね。もう日高のヤイサマ、あの、聞いたことある？

千葉：こん、こんななって踊るやつ？ こうやって、こうやって。(ホリツパをやっているか?)

キヨ媼：あの、日高のヤイサマとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：釧路のヤイサマとか、旭川、でない、旭川だとかね、いろいろ、その、あるんですよ、ヤイサマね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：やっぱり、それぞれ、それぞれね、あの、文句が違うんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：節も同じの、節もって言ってもね、文句が違うの。うん。ヤイサマってね、

千葉：うん。

キヨ媼：いろいろ、そのね、あの、苦労したときのことをね、自分で苦労したことを、そのアイヌ語でとって、

千葉：うん。

キヨ媼：それを、今度、あの、ヤイサマに入れるわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：その苦労したね、やつを今度、あの、アイヌ語で入れるの、のもある。

千葉：うん。昔の人は、なんか、よく、その、ねえ、あの、**cikap ta kune rera ta kune** とかね、そんなの、

キヨ媼：え？

千葉：**cikap ta kune rera ta kune** とか、そんなような

キヨ媼：チカツパカンレー、(笑) しらっぱくれる、(笑)

千葉：なんか、ほら、自分の思いを、なんか、いったのを、ね、やってみたいだけでも、最近では、あんまり、その、アイヌ語、こう、織り交ぜて話すってのは、あまり聞かないですもんね。

キヨ媼：うん、そうね。

千葉：日高でも、こ、こんななって踊りながらやるヤイサマとかね。

キヨ媼：ああ。

千葉：♪ヤイサマネナアアア、ホーレーーホレンナアアとかね、そんなような、

キヨ媼：あのね、そのね、それやったんだね。わたしのほうなら、そう、もう、こ、これでやったんだね。や、これ、う、う、歌に合わずとかってね、同じこと1つ、こうやって、こう、今度、こうやって繰り返してやったもんだもね。

千葉：みんなで、こう、

キヨ媼：そうだ、輪になって。

千葉：□□□、うん。

キヨ媼：で、日高もそうでしょ。輪になってね。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：で、速いんだわ、それ、ウポポ、歌がね。

千葉：速いですね。日高の、

キヨ媼：わし、

千葉：日高のは速いですよね。

キヨ媼：早いさ□□やね。

千葉：うん、

キヨ媼：あの、

千葉：釧路のは？

キヨ媼：え？

千葉：釧路の、にも、そういうのあった、

キヨ媼：わしらのヤイサマもあるけど、あの、そんなにね、あの、速くやらない。

千葉：踊らない、ですか。

キヨ媼：踊るよ、踊るけどねえ、そんなに、あ、やら、あの、速く踊らない。

千葉：ふーん。

キヨ媼：もう、優しく、こう、あの、歌も優しくいくし、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、踊りも優しくで。だから、日高の人、【0:37:47】 ♪yaysamanena yaysamanena
horehoreнна horehoreннаaaa sorehoreнна horehoreнна yaysamanena hore hore horehoreнна
horehoreнна yaysamanena coy coy って 【0:38:11】、これ、日高のヤイサマね。わし、聞いてね。

千葉：上手でしょ。日高の（笑）。

キヨ媼：私は、どうしてっていえばね、主人が、

千葉：うん。

キヨ媼：日高だからね、行ったの。〔あねこんどってね〕

千葉：うん。

キヨ媼：若いときね。

千葉：ああ、そうか。

キヨ媼：うん。うちの今、あんた、50になる娘、赤ん坊のとき、行ったことあんの、日高へね。

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、みんな、そう、やるんだねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：はあ、みんながやるほどできないわけでないしね、やってみるさなと思ってね、で、やった

ことあるの。

千葉：ああ。

キヨ媼：歌ったことあるの。

千葉：へえ。

キヨ媼：で、そだからね、ああ、こういうふうにしてやるんだなあと思っ、□□□ね。

千葉：うん。

キヨ媼：イカツカラヤイサマとかね。

千葉：イカツカラ、

キヨ媼：イカツカラヤイサマったらね、アイヌ語でイカツカラったらね、日高の人らの話、私らのほうやらんけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、なんていうか、そのね、早いとこいえば、あの、思い出のヤイサマなんだね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：思い出ったらさあ、ね、私はあんたに思い出するでしょう、

千葉：うん。

キヨ媼：申し訳ないことだけどね。思ってるでしょう。そして、あんたはこっち思ってくれないの、ねえ。

千葉：うーん、うん。

キヨ媼：そして、向こ、それを、今度ね、これだけを、あの、持ってもね、この人は思ってくれないと。

千葉：うん。

キヨ媼：それを今度、ウポポ、ヤイサマにやったわけだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そのものを私聞いたことある。

千葉：うん。それは、ど、どんなようなものですか。

キヨ媼：どんなもんって、

千葉：むず、難しいやつ、うん。

キヨ媼：それ、やっぱりね、違うんだわ、この、も、も、文句も違うし、節が違うんだ。【0:39:55】

♪yaysaaeeiin anenani ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:41:29】、こうやっていく。

千葉：イカツカラっていうのは、

キヨ媼：イカツカラって言って、それ、そういうふうにして歌ってた。

千葉：うん。

キヨ媼：私、

千葉：よく、ほら、向こうで iyohay'ocis とか、そんな、

キヨ媼：イヨハイったら、なんていうの、あんた、イオハイっていったら、嫌だなんていう意味だ。

千葉：うーん。

キヨ媼：したら、そ、こ、こっちで思ってるほど、あんた、思ってくれないなって、このヤイサマでやって、

千葉：うーん。

キヨ媼：今度ね、冬になったら、ゆっくり来なさい。私、あの、日高のヤイサマも、いろいろそこにとってあるだろ、おつきな、あれにとって、あれ、あれ、あるんだ。

千葉：ああ。うん。

キヨ媼：ほいで、そのイカツカラヤイサマだとかさ、いろんな、そのね、ウポポも入ったやつあるんだ、日高の人のね。

千葉：うん。

キヨ媼：主人が日高だったから、

千葉：うん。

キヨ媼：ある、ある、あの、あるよ。

千葉：釧路のヤイサマっていうのは、あ、あるんですか、やっぱり。あ、お茶飲んでからで。

キヨ媼：はい。見たくないんです、そっち。(小声で) いやこれさ入ってる。

千葉：(笑)

キヨ媼：釧路のヤイサマだら、まだ、ま、優しいですよ、優しく歌うの、ウポポやヤイサマやるけどね。日高のヤイサマみたいに速くやんないもん。【0:42:43】 ♪ヤイサーマネナーアー、ヤイサーマーネナーエー、～(以下、歌詞略)～【0:44:59】、

【0:45:00】

千葉：カボチャルルカって何ですか？

キヨ媼：ああ？

千葉：カボチャルルカって、今、言いました？

キヨ媼：あんた、カボチャルルカって知ってる？

千葉：知らない。

キヨ媼：カボチャったらねえ、

千葉：カボチャって、あのカボチャ？

キヨ媼：ああ、カボチャねえ、ルルったらねえ、

千葉：□□

キヨ媼：カボチャねえ、の、おかゆ食べながらねえ、

千葉：ああ。

キヨ媼：子ども預かったんだって。そしたら、大きくなったらね、オロカインカラ、オロカテレケッたい、もう、親不幸しちまうの、

千葉：ふーん。

キヨ媼：ね、あんたね。はあ、でね、そしてね、コロコロっていったべや、このコロコノチキナって、

千葉：うん。

キヨ媼：コロコノって、あんた聞いてない？きらい？

千葉：コロコロ？

キヨ媼：コロコロチキナって。コロコロってフキ、

千葉：ふーん、ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：フキのお香こを食べながら昔はね、

千葉：うん。

キヨ媼：フクの、フキの御香こを食べながら、まあ、子ども育てたと。大きくなったら、親不幸しまして、もうっていう、その、漬け元もとのヤイサマ、聞いたことあるから、言わしてもらいました。

千葉：ふーん。素晴らしい。モシネメノコっていいました？モシ、

キヨ媼：【0:46:04】♪オシ、オシネメノコーオー、クーネアツカイキワ、っていったけどね、osine p ってたら、わしは独りぼっち、

千葉：ああ、ああ、o sinep か、

キヨ媼：親もいない、きょうだいもいない、

千葉：うん。

キヨ媼：親、うーん、ハ、ハボったら、アチャだったら、acaka kusa ったら、お父ちゃんもおっかさんもいない、osine menoko kuni akkaiki ってこういくわけ。だけど、皆さん、よろしく頼むって、

千葉：ふーん。

キヨ媼：いうウポポなんだ。

千葉：□□□□、□□□□□□。とぼ、たのむ、たのみで、って言ったのは？

キヨ媼：え？

千葉：たの、たのもう、

キヨ媼：頼みますって、皆さん、よろしく頼むっていう、

千葉：あ、あれは、あ、日本語だ。

キヨ媼：そう、日本語さあ。日本です。

千葉：あ、そうか、ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：なるほど、なるほど。これは、あれ、子守歌みたいな、あれじゃないんですよね？

キヨ媼：違うよ。

千葉：ヤイサマで、

キヨ媼：ヤイサマにとったもんだ、それね。クドキのヤイサマね。

千葉：ふーん。これ、誰かから習ったとか、そういうことなんですか？

キヨ媼：はあ、習ったんでない、みんな、やったの、聞いて、ああ、そうですかってやったもんだよ。

千葉：ふーん。踊りもつく？

キヨ媼：は？

千葉：踊りもつくんですか？

キヨ媼：みんな、踊りもね、踊る人もいるかしらんけど、みんな、手をそろえてやったね、手、手、手たたいてね。

千葉：うーん。

キヨ媼：それでやったもんですよ。うん、それ聞いたからね、

千葉：うん。

キヨ媼：今、思い出したから、ああ、こういうふうにしたなあって。

千葉：ふーん。なるほど。ヤイサマは、じゃあ、その、あれこれ種類はたくさんは、もう、あまり、ない、ないですよ？ 釧路のほうって。

キヨ媼：釧路いったらね。釧路でも、今、やる人っていないんですよ。ねえ。

千葉：うん。ふーん。阿寒のほうには、ヤイサマって残ってないですか？

キヨ媼：あ、や、やる人っていないでしょう。今、

千葉：あんまりね。

キヨ媼：ヤイサマ、やる人いないよ。ただ、【0:48:00】 ♪ホーレエーホーレンドー、ホーレエー、こうってね、【0:48:05】 ♪ホーレエーホレンナーホーレエーホレンナーっていくぐらいだから、ねえ。

千葉：こ、これはなん□□□□□□

キヨ媼：うん、だから、わしみた、【0:48:14】 ♪ホーレエーホレンナー、ホーレエーホレンナーっていかないもん。【0:48:21】 ♪ホーレエーホレンナーホーレエーホレンナーこれで、いつもいってるもの、私、み、見てるとね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん、そういうことです。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、それぞれ、それぞれ、みんな違うからね。

千葉：うーん。その、ウウウって震わせるのは、あの、自分の節でいいわけ、

キヨ媼：そうですよ、自分の、あの、あれでやるのさ。でたらめ、【0:48:47】 ♪ホーレエーホレンナーっていうより、【0:48:52】 ♪ホーレエーホレンナーって、ここへいけば、やっぱり、聞きやすいでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：どっちでもね、して、どっちかったらね。

千葉：うん。

キヨ媼：極端にやるより、やっぱり、【0:49:02】 ♪ホーレエーホレンナー、ホーレエーホレンナーって、こういけば、そのようにしていくべき。極端にいうより、こうやって、あの、そのあいだに、節入れたら聞きやすいでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：で、私は、もう、自分で、や、あの、こうだな、ああだなって□ったけど、クシ、あの、阿寒湖の踊り、見ましたかい？

千葉：うん、見ました。見ました。

キヨ媪：いつ見ました？ 今年見た、来年、去年、

千葉：去年、去年見ましたね。

キヨ媪：ふーん。

千葉：去年とその前にも見てるけど。

キヨ媪：あ、昔の人のやり方と、今の人の、あの一、やり方、違うからね、うん。

千葉：踊りも、

キヨ媪：ん？

千葉：踊りもですか？ ウポポだけでなく、踊りも、

キヨ媪：ウポポも、そのね、合わせて踊るっていうの、もうすこ、もう少し活発にさ、

千葉：うん。

キヨ媪：そして、あの、お客さん喜んでもらうような踊り、しれば、お客さんも喜んだわ。

【0:50:00】

千葉：うん。

キヨ媪：よころ、喜んで、ただ、あんた、わしらのほうだ、やる、ほったらね、まあ、あすこ、阿寒湖だら、ゆう、あの、それこそ、1日6回もやるっていうんだから。

千葉：うん。

キヨ媪：したら、そう、その、その、わしらの、あんなこと、し、♪ホーレエーホレンナーってこうやって、や、やらないもの。[うま追いだらまね]、はい、はい、こうやって、こごまって、

千葉：うん。

キヨ媪：こ、こうやって歌に合わせてやるけど、やっぱ、違う、見たら。

千葉：うん、ふーん。

キヨ媪：もう少し、こういうふうにやればいいなと思う、見るときあるね。

千葉：うん。

キヨ媪：違うよ、やっぱり、踊りもね。

千葉：うん。

キヨ媪：いいんでしょ、それでいいよって言って踊らせてるんだから、いいんでしょ。

千葉：まあね、そうですね。

キヨ媪：ねえ。

千葉：うん。

キヨ媪：観光の、みんなは、もうね、[あえろーか] (不明) みんな、お金のあれでやってるから、

千葉：うん。

キヨ媪：そんなに昔のことね、こうふうにしろ、ああいうふうにしろって、

千葉：うん。でも、

キヨ媪：歌でも踊りでもさ、

千葉：ねえ、そうですね。

キヨ媪：うん。

千葉：歌、でも、やっぱり、ほら、その、

キヨ媼：まあ、

千葉：で、

キヨ媼：座布団しきってないでしょ、ねえ。敷いてるかい？

千葉：ええ。え、

キヨ媼：座布団はな、こっちは敷いて、そっち敷いてない〔てね〕、なんでも引っ張って敷きな、いっぱいあるのに。

千葉：すみません。

キヨ媼：だから、私も、ほうぼうの踊り、見ましたけどね、まあ、なん、なんちゅうかね、お茶いた、あげますか？

千葉：ああ、そうですね。

キヨ媼：入れたのをね、新しくね、はいはい。

千葉：はい、ああ、いいですよ、出がらしでいいですよ。

キヨ媼：どうぞ。

千葉：ドキドキしちゃうから。

キヨ媼：あっちなね。少ししか入れて。

千葉：うん。

キヨ媼：私、あの、今度、白老に頼まれましたの。

千葉：ん、ああ、ああ、聞きました。

キヨ媼：聞きました？

千葉：なんか、な、何月ですか。8月、

キヨ媼：8月にね。

千葉：8月の何日？

キヨ媼：8月の4日、^{よっか}4日、^{いつか}5日、^{むゆか}6日^{なのか}だったか、7日^{なのか}だったか、までか？

千葉：白老でやるんですか？

キヨ媼：え？

千葉：白老でやる、

キヨ媼：白老でないの。内地のほう行くの。青森のほうさ、行ってやる。

千葉：ああ。

キヨ媼：舞台に立つの。

千葉：へえ。3日間やるんですか。

キヨ媼：うん。3日間ね。1日1回だけでね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：これで私は最後だと思っていきたいと思うの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：行ってね、遠いところ行ってさ、舞台に立って、もう年だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：年だから、もう、よそ行けないからさ、

千葉：うん。

キヨ媼：これで最後、頼まれてるから、

千葉：うん。

キヨ媼：行かんきゃなんないなって頑張って、

千葉：こっちからは1人で行くんですか。

キヨ媼：ええ、ここは1人さ。

千葉：ふーん。知ってる人、大勢いるんですか？ 日高、日高じゃなくて、あの、白老の。

キヨ媼：白老、たいしたものは踊りが、踊る人、たくさんいる。そのあいだに、私入って歌、歌うわけさ。〔歌とおとってもらう〕、踊るのに。

千葉：ふーん、ふーん。

キヨ媼：だから、私はね、

千葉：うん。

キヨ媼：誰か、こう、あの、相棒欲しいったの、歌う人ね、

千葉：ああ、ああ。したら？

キヨ媼：1人だけ、舞台でね、やれないから、

千葉：うん。

キヨ媼：もしやね、1日、1回だっというから舞台。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、やってやれないことない、声出さなくても、

千葉：うん。

キヨ媼：怖くもないけど、声出さないの。だから、あの、誰かに、相棒見つけろっというけど、それまでになんとかなるでしょう。まあ、白老の人、私頼んでくれっというんだって。

千葉：ふーん。

キヨ媼：白老の人、踊り子10人行くんだっというから、

千葉：うん。

キヨ媼：それ、ついていくの、私。

千葉：相棒はこっちからいってもいいんでしょ？

キヨ媼：え？

千葉：相棒は、娘さんでも誰でも、

キヨ媼：うん、まあ、歌う人ね。

千葉：うん、やっぱり、だって、歌は自分と、なるべく同じじゃないと、困るでしょ。

キヨ媼：うん、そうね。

千葉：ねえ。やりにくいでもんね。ふーん、そうか。

キヨ媼：まだまだだ、じ、あの、時期があるから、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、そのうちなんとかなるでしょう。そのうちいったらまあ、頼むっていつてきたけどさ、

千葉：うん。

キヨ媼：わし、返事しなかったの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：だから、そのうちにね、返事して。

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：しかも1回ぐらいなら、まさか倒れることないべ。

千葉：うん。けどねえ、まあ、大事にして。

キヨ媼：うん。

千葉：□□□□

キヨ媼：飛行機だっていうからね、飛行機で行くから。

千葉：うん。そうか。うん。よく昔の人は、その、ウポポのときに、アアアアアって声震わせるの、

【0:55:00】

千葉：震わせることって、あれ、なんか言い方あるんですか？

キヨ媼：そうですね、

千葉：□□、もっと声、その、節、曲げろだとか、なんとか、そういう、

キヨ媼：それね、極端に歌えないわけさ、[アイヌの歌]、で、あの、和人の歌だってそうでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：いろいろ、安来節だってあるべし、

千葉：うん。

キヨ媼：違う、いろんなう、歌うとき、こういうふうにして、こう入れるとか、なかでこう入れると
かってあるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：ヨサレオドリだか、あんなんだかとかって、[まだいいわ]、そこで、それと同じさ。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうふうにして、こういうふうにしてやるもんだとか、ああいうふうにしてやるもんだ
とかって。でたらめに、あの、ほれ、まあ、わたらの時代だったら、まだ厳しかったからね。

千葉：うん。

キヨ媼：今と違う。あの、ただ、あ、【0:55:46】♪ウターリブンバーレワー、リムセーレアン、極端
にやれないことになって、そこで、こんど節入れるの。そういうふうにしてやんなきゃ、まあ、聞き
違いとかやり違いとかっていうわけさ。

千葉：うん、そうですね、踊りも、踊りづらいですもんね。

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：で、やったけど、今だらね、なんでも。

千葉：うん。だけど、あれでしょう。その、本当にサルルンカムイとか、ああいうやつは、節入れなかったら、ウポポにならないでしょ。

キヨ媼：そうですよ。

千葉：ねえ。

キヨ媼：それでも、あの、けっこうね、それに合わせてやってるから、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、あの、けっこうなことだけど、わしらだったら、それとやれないもの。

千葉：うん。

キヨ媼：知らない人はそれ通っていくからね。聞く人も見るもね。

千葉：うん。

キヨ媼：で、知っている人は何だって、ここで、こうやって節入れたらいい、いいのになつと、聞く人も、おも、分かっている人らは思うけどね。

千葉：うーん。

キヨ媼：知らない人ら、まあ、内地の方とか知らない人ら、ああ、そういうもんかっけ見るぐらいでね、聞くぐらい。

千葉：うん。ふーん。いやあ、

キヨ媼：サルルンカムイと、それから、フンドリとどっちが聞きやすい、

千葉：まあ、聞きやすいっていうか、僕はサルルンカムイはね、大好きなんですよ。

キヨ媼：だから、どっちかっけいったらね、サルルンカムイは聞きやすいさ。

千葉：うん。

キヨ媼：フンドーリーったら、トリっていくでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：アイヌ語なら **cikap** っていうからね、**cikap** でいかないで、フンドリっていうべき。わしはサルルンカムイっていくべき、トリっていわないで、サルルンカムイ、サルルンったら、^{よし}葦のなかにいる鳥っていう意味。

千葉：うん。

キヨ媼：カムイっていくなわけ。鶴はカムイだからね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だからね、やっぱり、そういうふうにいけば聞きやすいけど、フンドリっていえば聞きづらいんだわ、知っている人が聞けばね。

千葉：うん、うん。サルルンカムイもね、歌えるようになれば、なれたらいいですけどね。

キヨ媼：うん。

千葉：難しいですもんね。

キヨ媼：そんなに難しくね。

千葉：うん。

キヨ媼：あんたは、じよ、上手だ。やってごらん。

千葉：え？【0:58:06】♪sarurun kamuy ha ho ha ho hoy ho, hopuni eto ha ho a ho hoyho, eneokay
ha ho a ho hoy ho

キヨ媼：hrrrrrr (巻き舌の音)

千葉：なんか、やっぱり、ねえ、フチみたいにいかないですもんね。

キヨ媼：上手だねえ。

千葉：いや、なんだかね、節が、よく分からないんですもんね。

キヨ媼：それだけでもね、聞きやすいんだよ。

千葉：ああ。

キヨ媼：ホ、ホー、あの、その、【0:59:01】♪サールールンカムイイイ、アアアアコウオオオオオ、
アアアイエコウオウアアアアンン、ホオオイコオオウウウウ、って、これ、こ、これで、こう、繰り返してね、いけば聞きやすいんだけどね、極端に行く場合、やっぱり、あの、聞きづらいんだわ、

千葉：うん。

キヨ媼：知っている人だとかね、あの、分かっている人はね。

千葉：うん。

キヨ媼：だからそれぐらいにしてね、いけばいいけど。極端にみんな言っているでしょ？

千葉：うん。

キヨ媼：フンドリだっけね。

千葉：うん。ねえ、♪フ、フンドーリイ っってやってますもんね。♪フンドオリイイ、フンチイカフ °、
アアアアホオウオオオ、アアアア、ホオウオオオオア、ホーイホアウオオオオ、

キヨ媼：で□そうそういち□□そうそう (笑)、上手だ、上手だ。あ、あの阿寒湖行って [おび] すれ
ばいい。(笑)

まあ、それでいってみる。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:59:59】

♪a ho a ho hoy ho っって、こういかないの。ただ、そういうふうにして極端に言っているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：あれだべ、あの、なんていうか、こうね、言いやすいんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：ずーっとそれでいけばね。

千葉：うん。フチが、そういうウポボを覚えたときってというのは、最初っから、もう、そうやって喉
をこうやって、

キヨ媼：そうなの、最初っから、こういうふうにやられていわれて、よし、そういうふうにはやらない、
やってやらないことない。

千葉：だんだん、だんだん、そういうふうには□□□□□じゃなくて、

キヨ媼：そうだ、だんだん、そこでそうやって、慣れていくわけさ。

千葉：なんか、そういうのってコツってないんですかね、その、喉をこうやるとか。

キヨ媼：やっぱり、喉のあれでもって、

千葉：この、上下にこうやってやる感じなんですか。

キヨ媼：うん、そう、そうだ、そういうふうに行くのさ。

千葉：裏声、裏声みたいなの、入れるんですよね。

キヨ媼：なんだかー、んー、そういうふうに、(笑) うら、裏声とか、

千葉：ああ、そうだね、

キヨ媼：そと声とか、知らんな (笑)

千葉：そりゃそうだな。いやあ、そうなんですよ。□□だん。やっぱり、だってこう、一緒にやると、全然、その、もっと、こういう感じですよんね。♪ウウウウって。

キヨ媼：うん。

千葉：おばさんがやってるの。

キヨ媼：そうしていえばね、聞きやすいのね。

千葉：うん。

キヨ媼：ほいで、踊る人もね、これでいけばねえ、踊ってもねえ、あの、み、みやすいんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：極端にやると、極端に行くからね。どうしてもね。

千葉：うん。

キヨ媼：や、知らない人は〔こんなもんだと〕おもってね、いるでしょう。わしらのほうの、じー□□はそうでないもん。

千葉：うん。

キヨ媼：こういうふうにしてやんなさい、ああしてやんなさい、やんなさいって。

千葉：うん。そうですね。あ、あとは、あれですね。今度、また秋ぐらいに来て、

キヨ媼：そうだ、これでね、まだ、この次、あの、冬になったらゆっくり来てください。

千葉：ええ、ええ。

キヨ媼：ねえ。いろいろなね、あの、あ、あれもありますから。テープもあるしさ。かけてみて、このウポポはこうだとか、ああだとかってね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、聞くに、かけるから、今なら、ほれね、忙しい時期だからさ、

千葉：そうですね。

キヨ媼：わしも落ち着いてられないのね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：これ、何月ぐらいまで忙しいんですか。9月、

キヨ媼：9月いっぱい、

千葉：9月いっぱい、

キヨ媼：10月の中ごろ、わし、閉めるから。

千葉：ああ、そう、

キヨ媼：10月。

千葉：うん。

キヨ媼：11月、ちょうどいい。

千葉：うん。

キヨ媼：しっかり閉まってしまうからね。

千葉：うん。そうか、そうか。じゃあ、9月か10月ぐらいに来ようかなと思っていたけど、ちょっと遅めに来たほうがいいですね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：遅めに来たほうがええ。もう、まきたいてるから、寒くないから、うちは。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：そうですね、そうか、そうか、分かりました。

キヨ媼：まあ、元気で、私が元気なとき、元気になっているだろうから、頑張っていますから、

千葉：はい。

キヨ媼：まだまだ弱ってられないからね。

千葉：そうですね。

キヨ媼：はい。

千葉：あと、50年は、

キヨ媼：え？5、あの、来てくれる人いうのも10年頑張ってくださいっていうんだ。10年頑張ってくださいっていうのも、わし、5年も頑張るかと思って、頑張れるかと思って考えているんですよって、いや、10年頑張らなきゃ、あなた、もし弱ったら引っ張ってやるって、いうんだ。弱ってから引っ張られても、起きれないべさって、笑ってた。そんな、ばか、冗談言ってね。

千葉：うん。まあ、そうですね、ちょうどいいぐらいに忙しいからいいですもんね。

キヨ媼：はい？

千葉：ちょうどいいぐらいに忙しいから、

キヨ媼：そう、そうそう。

千葉：ね。

キヨ媼：うん。

千葉：あんまり暇だと本当に。□□ないし。うん、ありがとうございました。

キヨ媼：どうも、どんなことして入りましたかな。切ってください。もう。(終了)

【1:04:08】

以上 Kiyo930520 日川キヨ媼宅にて収録

6 : 1993年9月27日 (ファイル名 : Kiy930927) 1°14' 17"

(冒頭部、ファイル不良でノイズあり)

キヨ媼:何を、な、何を映してるんだの? 何を、ウポポなんて、みんな、ほとんど、歌ってきたもの、
なんのウポポやんの?

千葉:うん。今日は簡単、簡単な。

キヨ媼:簡単っていうものかい。簡単っていうもの。お湯沸いた、今、お茶飲んで□ら、いいぞ。

千葉:うん。

キヨ媼:□□□□□。いま薬飲んで、□□□。たくさんウポポ入ってるべ、そこさ。□□□□

千葉:前、録^とったやつね。

キヨ媼:うん。何々入ってた? そこ。

千葉:え、いや、今日、書いたやつ、ちょっと持ってきてないけど、

キヨ媼:ああ、そうかい。

千葉:うん。でも、ずいぶん、いろいろやりましたね。こないだ、あの、なんですか、静内行ったら、
なん□□、札幌の人がたとか、いろいろ来ていて、

キヨ媼:札幌、

千葉:うん。こっちの人はあんまり行かないんですね。

キヨ媼:うん。

千葉:向こうは、

キヨ媼:静内ね。

千葉:うん。

キヨ媼:行かないよ、わしも、じいさん、な、あの、亡くなってから、ずっと行ったことないもの。
うん。

千葉:うん。

キヨ媼:うん。

千葉:日川エカシっていうのは、日高のどのへんなんですか?

キヨ媼:あの、日川のかい? 平取□□うだもの、あの、あれ、平取っていう、何、お、オサツナイ¹⁵、
平取っていうとこだ。

千葉:萱野さんとは、じゃ、ちょっと、

キヨ媼:え?

千葉:二風谷とは、ちょっと違うのかな。

キヨ媼:違う、違う。あっちの方は。離れてるの。

千葉:ふーん。そうか。キヨフチはあっちに住んでいたことあるんですか?

¹⁵ 付近を流れる川はオサツナイ沢川だが、現在地名は長知内。^{おさちない}

キヨ媪：え、

千葉：キ、キヨフチはあつちに住んでいたことあるんですか？

キヨ媪：私か、

千葉：うん。

キヨ媪：行ったことない。

千葉：行ったことない？

キヨ媪：うん。(笑)

千葉：遊びに行ったぐらいだ。

キヨ媪：遊びに、ちょっと行った、ねえ。

千葉：うん。

キヨ媪：お盆とか、なんかねえ、

千葉：うん。

キヨ媪：あの、墓参り行くとかさ、

千葉：ああ。

キヨ媪：そういうことをする、じいさんの実家だから、

千葉：うん、うん。

キヨ媪：親がおるときね、全部ね、

千葉：うん。

キヨ媪：あの、お参りに行った、いるけど、行ったけど、もう、じいちゃん終わってから、行ってない。

千葉：うん。

キヨ媪：みんな、あのね、じいちゃん終わってから、全部石碑建ててね、

千葉：うん。

キヨ媪：親やきょうだいの、あの、骨、みんな、こっちに移したの。

千葉：ふーん。

キヨ媪：じいさんと一緒に。

千葉うん。

キヨ媪：だから、向こう、ほとんど行く用事ない。

千葉：うん。あ、お婆さんは、釧路、釧路は、あれ、どこなの、春採？

キヨ媪：はい。春採。

千葉：春採で生まれて、

キヨ媪：春採、春採たって、今、い、昔、春採っていうけど、釧路、春採で分かるべさな。昔。

千葉：うん、うん、うん、そうだね。ふーん。じゃあ、春採、あ、釧路に次がここ、

キヨ媪：ん、

千葉：ここなんですか、屈斜路、

キヨ媪：そう。阿寒湖。

千葉：阿寒湖。

キヨ媼：うん、阿寒湖に暮らしてね。

千葉：それ、お嫁に行つて。

キヨ媼：ああ、阿寒湖にいつてさ、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度、流れて、向こうさ流れないでここまで流れてきた。ねえ、ここに来たのね。

千葉：それ、もう結婚してからの話でしょ？

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：独りぼっちだったら、釧路にもいたし。

千葉：うーん。釧路離れたのつていうのはいつぐらい？

キヨ媼：昔だら、釧路の市内でね、わし、あの、生まれは釧路だけど、あの、親はね、^{てしべつ}徹別つていう
とこにいたもんで、

千葉：うん。

キヨ媼：そこでね、農家やってね、

千葉：うん。

キヨ媼：そこで暮らしたけど。

千葉：じゃあ、子どもころはずつと徹別、

キヨ媼：そうだ。

千葉：ふーん。いくつぐらいまで。

キヨ媼：そうだね。私、18まで、19、あ、嫁に行くまでいたな、そこで。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。農夫やってたから。

千葉：そうか、そうか。あ、これ、止めてもいいですか？

キヨ媼：はい、止めてください。火焚かなくても寒くないかい？

千葉：大丈夫です。向こう、

キヨ媼：座布団敷きな、敷いてるかい？ あんた。そつから引つ張つて敷きなさい、その椅子、冷たい
からね。たくさんあるんだよ、そこに。

千葉：はい。立派な座布団がいつも。

キヨ媼：今、お茶は、

千葉：うん。

キヨ媼：飲んでからやん [ないと]。

【0:05:00】

千葉：もう、何回も来て、何回も教わつてはいるけど、全然、歌えるようにはならんもんね。

キヨ媼：(笑) なしなんな□□、あれだけ、習つたらたくさんでしょう、歌つたら。

千葉：うーん。難しいもんね。

キヨ媼：うん。だって、習ったって、あんた、ねえ、どうもなんないべさ。

千葉：うん。まあね、男のやるもんでもないからね。

キヨ媼：うん。□□たい、それで、歌ってくんでないんだから。

千葉：男はやっぱり、ウポポって全然やんなかったんですかね？

キヨ媼：何、

千葉：お、おぼ、男、

キヨ媼：男、男やったよ、みんなと同じくらい、

千葉：ウポポ？

キヨ媼：うん、やったよ、なんでも。

千葉：一緒に歌って？

キヨ媼：うん、一緒に歌って。

千葉：へーえ。

キヨ媼：わしら子どもの時分ね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、わしらのうち、オンネチったらね、(オンネチセの意味か?)

千葉：うん。

キヨ媼：あの、早いとこ言えばね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの一、一番大きいうちさ。

千葉：うん。

キヨ媼：大きいうちでて、まあ、1年に1回、2回、春と秋はお祭りやるの、

千葉：うん。

キヨ媼：アイヌの祭りね。

千葉：うん。

キヨ媼：そしてやるときに、みんな、どぶろくこしらえてね、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、みんな、各部落、部落の人、みんな、来てね、

千葉：うん。

キヨ媼：一緒に飲むんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：飲んだり、食べたりしとる、あの、みんなウポポやってさ、

千葉：うん。

キヨ媼：で、喜んでもらって、ほいでね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、やったもんですよ。私のうちは、一番大きかったから。

千葉：うん。

キヨ媪：私の父親っていう人、なんでもやった人だからね。

千葉：うん。熱くないんですか、これ。

キヨ媪：え？

千葉：熱くないんですか、それ。

キヨ媪：熱くないです。

千葉：ふーん。

キヨ媪：なんでもやった人だからね、お酒飲まなかった。私の父親。

千葉：ああ、ああ。シタカラ、さん？（千葉は93年2月2日に引き続き勘違いをしている）

キヨ媪：お酒も飲まない、もう、どぶろくでしょう、昔はね。

千葉：うん、うん。

キヨ媪：どぶろくこさえて、カムイノミやるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媪：そうしてもね、あの、飲まない人だったから、本当にカむいノミやっても、ちょっと口つけるまねするだけ。

千葉：ふーん。

キヨ媪：絶対ね、あの、カッポカが飲まない人だったの。

千葉：ふーん。

キヨ媪：だからね、私は、お酒のみの、あ、味わっていうものを全然分からなかった。ねえ。

千葉：うーん。

キヨ媪：酒の酔っ払ったとかね。

千葉：うん。

キヨ媪：ほいで、みんな集まると、やっぱり、酔うだけ酒飲むでしょう？

千葉：うん。

キヨ媪：あー、父親飲まなかったからね、いやー、そういうもんだねえ、だろうねって、あの、飲んだらあんななるんだねと思ったもんだけどね。

千葉：うん。

キヨ媪：うん。

千葉：おばさんも昔はよく飲んだんでしょう？

キヨ媪：もう、昔は焼酎ばかり飲んだ。酒飲め、そっち、なんだ入っているんだよ、飲んだよ。飲まなくなって、もう何年たつけどね。

千葉：うん。

キヨ媪：あーあ。だけどね、父親飲まないのにね、

千葉：うん。

キヨ媪：ひとつつも飲まない人だったからね、

千葉：うん。

キヨ媪：申し訳ありません、自分がね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、えー、親の飲まないものを自分飲んで、いいことになりません、申し訳ありません、のむの、のま、飲みませんって、それから飲まなかった。今、ビールもなんも飲めないよ。

千葉：うん。

キヨ媼：飲んだら、一升ぐらい飲むけどね、焼酎でもね。

千葉：一升、

キヨ媼：飲まない。ぼつ、つまらないからね。昔は飲んだよ、飲んだって、そんなに、そんなに、訳分かんないことにならないけど。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、飲むとき、私、もうね、血圧低いから飲みなさいって言われるね。タバコのまないで酒飲みなさいって言われるの。

千葉：うん。

キヨ媼：先生にね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、あの、酒でもいいし、焼酎でも、なんでも自分の口に合ったもの、飲んでくださいっていわれるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：飲めないんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：全然飲めない、今では。

千葉：うん。

キヨ媼：つまなくてね、あの、あの、もう、そんなん飲んで、あんた、やっぱり、口につけて飲めないことないけど、飲んだりなんかしてるとね、いいことないからね。

千葉：うーん。

キヨ媼：間違いも起きるし、あの、だから、そんなの、の、飲まないたって生きてられるんだよ、もう、そんなもの、飲まなくてもいいっていうような頭だから、飲まない。

千葉：うん。うーん。

キヨ媼：やっぱりね、飲むくせがあったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり1杯飲むと、2杯、3杯ってなるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：訳分かんなくなる、お祭りとかなんか行ったらね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、それより自分がね、

【0:10:00】

キヨ媼：飲まないったら、誰も注まないしね。

千葉：うん。

キヨ媼：飲むっていったら、なんぼでも注^つむんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：そんなのをね、飲んでたらね、お酒飲みの人は、いいことばかりいわれないんだしね、

千葉：うん。

キヨ媼：なかにね、悪いこともいわれるし、く、あの、間違い起きるから、

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。一番飲まないの、幸せです。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、キヨシも飲まないよ。

千葉：へーえ、全然、飲まない、

キヨ媼：飲まない、

千葉：ふーん。

キヨ媼：飲んでも、なんぼか飲んでね、絶対大勢の中入っ [てこない]

千葉：ふーん。

キヨ媼：□□。はい、どうぞ、お茶飲んで。そこにつまみ出していますから、はい。お茶飲んでも酔っ払わないからね。

千葉：酔っ払うかしらん。

キヨ媼：必ず集まったら飲むことになるもんね。

千葉：なんかね。

キヨ媼：うん。

千葉：また強い人、お、多いから。

キヨ媼：そうです、強いっていうことは、毎日飲んでるから強いっていうことになる。

千葉：うん。

キヨ媼：飲まないで飲めば、あの、おかしくなるっていうことだね。

千葉：うんうんうん。昔、その、そういう、何ですか、酒つくったりってことは、しょっちゅうやってたんですか？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱりね、お酒つくる麴（こうじ）こしらえるべき。

千葉：それ、別に、なんにもなくてもお酒つくるわけ、

キヨ媼：そう。

千葉：あの、別に、例えば、なんかの、

キヨ媼：お祭りとか、なんかのときはお酒つくる。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、麴^{こうじ}、自分で麴こしらえるの。

千葉：熊送りっていうのは、もう、そんなにやんなかったでしょう？

キヨ媼：熊送りあったよ、昔は。

千葉：何回も、

キヨ媼：私の父親、狩人だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：狩人だったからね、1年に、やっぱりね、1頭か2頭とるの、大きいクマね。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：そんなときにね、みんな、集まって、あの、踊ったり歌ったりして、その熊を送った。

千葉：ふーん。それとか、まあ、何ですか、あの、イチャルパとか、

キヨ媼：そうそう。

千葉：シンヌラッパっていうんですか。

キヨ媼：その、イチャラバっていうのは、その熊送りがやらないんですよ。クマはクマのとったとき、それだけ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ウポポやるけど、その、イチャラバだとか、そんなのやらないんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：イチャラバやるっていうのは、あの、秋のカムイノミとか、

千葉：うん。

キヨ媼：春のカムイノミとか、は、必ずイチャラバやる。

千葉：うん。春と秋っていうのは、それは、何、あの、何ですか、キノコと、山に入ったり、

キヨ媼：いや、そのね、

千葉：うん。

キヨ媼：春、秋っていえばね、まあ、

千葉：うん。

キヨ媼：春になったでしょう。4月だと、5月なら5月、あの、4月、3月からね、4月ごろ、今度ね、もう、暖あつたかくなりましてね、暖あつたかなくなったからっていつて、この、イチャラバやるわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：仏の供養やって、カムイノミやる。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：ねえ。ほいで、秋、10月、10月かね、11月、またカムイノミやるわけ。ね。

千葉：うん、それは、何の、何のカムイノミ、

キヨ媼：何のカムイノミってね、もう、あんた、え、早いところいえば、何事もなく、あー、夏、働かしてもらいましたと。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、お祝いだ、早いところいえばね。

千葉：あれ、冬山に入るとき、ああいうのとか、そういうのとは違う、

キヨ媼：山さ、行くときはどうか知らんけど、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、大勢なってね、やるんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：あと、そのあいだにも、なんにもなくて酒つくったり、し、するってこともあるんですか？

キヨ媼：そう。いや、それ、前、でたらめでたらめって、まあ、個人、やらないよ、でたらめに。

千葉：うん。

キヨ媼：酒なんてこしらえて、飲むんだ。やっぱり、その、親戚、来てね、

千葉：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、今月なら今月の何日にやるったとき、酒こしらえるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：酒だか、どぶろくだか、こしらえるけどね、あの、いや、でたらめに、いっつも、いっつもこしらえて飲まないわ。

千葉：うん。

キヨ媼：私の父親って飲まなかったから、そんなのね、なんもこしらえん。よその人、飲んだか知らんけど、わしらは、

千葉：したら、あの、ウポポするときってね、

キヨ媼：ええ。

千葉：あの、なんかないとウポポってしないでしょ？

キヨ媼：そうだよ。結局ね、クマとったとかさ、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度、春先の、ま、あの、カムイノミやるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：そのとき集まったとき、みんな、ウポポやる。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：いや、例えば、その、どっかから、それこそ、じゃあ、日高からこっちに知っている人が遊びにきて、おばさんが遊びに来て、

キヨ媼：ああ。

千葉：それで、まあ、久しぶりだから、ウポポでもやろうかってやるようなことは、

キヨ媼：いやあ、そういうところは、やるんでないかい？

千葉：うん。

キヨ媼：わし、よく分からんけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、カムイノミやるときとかね、クマをとったときはウポポやったけどね。

千葉：うん。じゃあ、あまり普段は、

キヨ媼：え、

千葉：普段はやらないんだね。

キヨ媼：普段は

【0:15:00】

キヨ媼：やらないよ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：普段は、分からん、したからね、私の父親っていう人、飲まない人だったし、

千葉：うん。

キヨ媼：だから、酒飲みの [あじわい] も分からないし、まあ、酔っ払った人、どんなもんだか、集まったとき飲んで、ああ、おっかないなと思って、子ども時分は思ったけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：分からん。

千葉：うん。

キヨ媼：ち、父親も母親も飲まない人だったから。

千葉：うん。

キヨ媼：お酒っていうもの、本当に、恐ろしいからね。間違い起きる、ものだから。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、あの、集まったときなんか、みんな、飲むでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：嫌だねえ。あの、飲んででもいいから、規律正しく飲めばいいけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、あんなの、間違いも起きるしさ、飲んで、

千葉：うん。けんかしたりするしね。

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ゴタゴタ、大勢になるとゴタゴタになるしさ。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、

千葉：うん。

キヨ媼：今度は、あつま、たくさん集まったかい？

千葉：どこ？

キヨ媼：根室。

千葉：根室は、ん、いや、僕も初めて行ったから。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。去年、おとしはどうだったか知らないですけどね。でも、まあ、100人近くいたんでないだろうかね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。50人っていうことはないですよ。もっといたと思う。うん。内地の人多かったですけどね。

キヨ媼：そうでしょう、若いもんとかね。

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、あ、ああいうふうにしてね、

千葉：うん。

キヨ媼：結局、まあ、ほうぼうからみんなね、なんちゅうのかね、みんな、こう、集まってさ、

千葉：うん。

キヨ媼：ああいうところにみんな、お参りするっていうこと、アイヌばかりでな、みんな、和人の人多いんだもんね。

千葉：うん。

キヨ媼：お参りすればね。

千葉：そうそうそう。

キヨ媼：つまんでください。だから、なにか、ウポポか、入れるんですか。ウポポなんて、わし、分からなくなったの、もう。もうろくだ〔けし〕て〔笑〕

千葉：分かんなくなっていないわ。

キヨ媼：うん？

千葉：最近はだつて、もう、あつちこつちで歌うでしょう。ねえ。うん、いや、ウポポを、ウポポを聞くのもあれですけどね、あの、まあ、まあ、あの、何聞いたらいいかね。あの、昔、子守歌を歌うときって、シンタって使いました？ こういう、

キヨ媼：チ、チニタ？

千葉：シンタって、ほら、こど、赤ん坊を寝かす、こういう板があつて、

キヨ媼：うん。

千葉：赤ん坊、こうやって、上に寝かせて、

キヨ媼：うん。

千葉：こう、なんていうの、ひもでつるしてあつて、こうやって、揺らすような。

キヨ媼：うちにもあるでしょう、あれ。チセにあつたべさ。

千葉：ああ、あの、僕も、そういうとことか、ほら、博物館ではね、

キヨ媼：うん。

千葉：見ることもあるけど、

キヨ媼：うん。

千葉：昔、ほん、ああいうの使ってた、ですか、お婆さん、

キヨ媼：私の時代は使ってなかったねえ。

千葉：使っていない、うーん。

キヨ媼：あんなとこに寝せて使っていないですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、こしらえがあったってということだけでね、昔ね。

千葉：うん。

キヨ媼：だ、あの、こうやって揺すぶってさ、

千葉：うん。

キヨ媼：そうすれば、こう、あの、早い、つるしてて寝せて、縛っというてね、

千葉：うん。

キヨ媼：落ちないようにして、揺すぶってたなら、そのうちに赤ん坊寝たとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：そういうことはあったけどさ。あの、歩きぐ口わしそんなに、わしの時代、[あん] なの使わないもの。

千葉：まあ、おんぶしたほうが早いもんね。

キヨ媼：うん、おぶった、おぶった、ほとんど、どうやって育てたか分からねえ、おら。

千葉：うん。

キヨ媼：分からないべや。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：そうか。昔、その、子どものころ、畑行っていたときっていうのは、畑に子どもつれて来る人なんていなかったですか？

キヨ媼：もう、遊んで、うちに、ほとんどね、

千葉：うん。

キヨ媼：な、荷縄で縛られているもの。

千葉：赤ん坊？

キヨ媼：赤ん坊って、もう、はって歩くでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：こう、はって歩くと危ないから、どこでも、眠ってるとき、もう、縛ってね、まあ、ここで寝せるべさ、

千葉：うん。

キヨ媼：たら、ここさ縛っておくもんな、荷縄で。

千葉：ああ、足を、足っていうか、

キヨ媼：いや、せな、ここ、ここ縛るのさ。どこまでも行かないように。

千葉：ああ、服着せて、

キヨ媼：うんだ。

千葉：服にひもつけて、

キヨ媼：おお、ひもつけて、荷縄で縛っておくんだ。

千葉：へえ。ふーん。

キヨ媼：服だってなに、なんだおかしな着物着せて、そしてね、あの、赤ん坊〔だるといくに〕這うとき危ないでしょ。

千葉：うーん。

キヨ媼：目さめたらどこでも行くから。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、こういうところに縛っておいてね。

千葉：うーん。

キヨ媼：遠くいかないようにして縛っておくの。そういうんだけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：わしは縛られたこともあったか、ないか、分からんけどね。

千葉：うん。それは覚えてないわね。

キヨ媼：分からないべや。

千葉：うん。覚えていたら怖いね。それは。ふーん、そうか。昔、その、女の人がお産するときね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、なんですか、声出すと楽になるからって言って、あの、例えば、まあ、痛いからだろうけど、ハイー、ハイーとか、

【0:20:00】

キヨ媼：ハイー、ハイー、ハハー、ヤホイでない、ほんとに。

千葉：ってね、言うといいって話、聞いたことあるんだけど、そういうのってあったんですか？本当に。

キヨ媼：ああ、私のお産するときはね、

千葉：うん。

キヨ媼：その、ハイハイなんて言わないけどねえ、ただね、あの、まあ、今月なら、この、今月の、何日にお産するっていうこと分かるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、今度ね、あの、休ましておかないの、まきとりさせるの、まき、とりにいくんだ。ほいで、まきとってくる。大^おっきな腹してな。そいで、あの、遊ばせておかないのよ。ハイハイってどころでない、あんた、〔まき引きずって歩く〕□□、ねえ。私なんかね、あれ、あの、大きな腹してさ、もう、今月〔産もう〕と思ってったら、2月生まれ、子ども、2人できたけど、みんな、2人ながら2月生まれだったからね、

千葉：うん。

キヨ媼：だから、もうね、堅^{かたゆき}雪でしょ、2月なら、雪の上ね。昔なら、あんた、雪が多かったからね。

千葉：うん。

キヨ媼：2月から堅雪ね。そうして、あの、まき、そうやってさ、雪の上、ぬかり、ぬかり、もう、

まきしょったり、まきとって、しょってきたりなんかしてね。そうしなかったら、お産軽くないんだって。まきとりさした。

千葉：ハイ、ハイがおかしくて。

キヨ媪：どうだい、そうやったよ。

千葉：まき、とってくるって仕事ででしょう？

キヨ媪：え？

千葉：仕事で、重いもの

キヨ媪：そうだ、まきとってしょってければさ、山さ行って。

千葉：そうすると、どうなるんですか？

キヨ媪：そうやってうちさ来るべさ、たくもの。

千葉：うん。

キヨ媪：そうやらしたよ。

千葉：やったほうがいいの？

キヨ媪：うん、やったほうがいいの、力仕事。

千葉：どうして、ああ。

キヨ媪：したら、お産が軽い、になって。

千葉：ああ、そうなんだ。ふーん。

キヨ媪：うん。そう。軽くなったか、なんだか知らんけどさ、

千葉：うん。

キヨ媪：わしもまきしょいさせられたよ。

千葉：うん。

キヨ媪：まきとりしたり、まき、遊ばしておかないもの。

千葉：うん。

キヨ媪：そうすると軽くできるんだってね。うん。

千葉：そ、それで、

キヨ媪：力仕事やっくと。

千葉：その、本当に、生まれるときって、人が集まって、

キヨ媪：いや、産まれるときに人なんか集めないよ。

千葉：集まんない。

キヨ媪：集めない、集めない。そうしたらね、一人対一人、あの、まあ、早いところいえば、産婆さんだね。

千葉：うん。

キヨ媪：産婆さんで。

千葉：うん。

キヨ媪：今もいるけど、昔だって、アイヌだって、なんだって、あんた、産婆さんいたんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：産婆さんっていえば、結局、経験者ね、その、お産させる人、ちゃんといたからね。

千葉：うん。

キヨ媼：軽くして、あの、も、も、もし、もう子どもできなかつたらどういうふうにするとかって、そういう研究した人いたんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、お産するときに、ひとときり今度、その人、一人、来るわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：男なんか全然入れない、

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ、

千葉：うん。うん。

キヨ媼：あの、部屋に入れてね、部屋に置いて、そいでお産させる。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：1人で、じゃあ、手伝いの人は1人で、

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：自分1人で生んで、ひと、ちゃんと、あの、とりあげる人、1人だけ。

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：ついて。

千葉：そのときは、まさかウポポ歌ったりはしないでしょう。

キヨ媼：そんなことしないでや。

千葉：ねえ。

キヨ媼：うん、しないよ。

千葉：うん。うん。かけ声もなんにもかけないで、普通に、普通にやるんですね。

キヨ媼：そう、そうだよ。そいで、お産したけどね、私はね。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：だけど、そんなウポポやるとか歌えとかったら、腹痛いのに、歌うどころでないべや。(笑)

千葉：そりゃ、そうだね。

キヨ媼：そうだよ、そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：手一杯腹やんでから、子どもできるんだからねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：お産するっていうことはね。あんたたち、これからか、子どもできるったら、奥さんが腹やんでできなかったって、今だら病院行ってできるけども、

千葉：うん。

キヨ媼：昔なんか、そんなとこ、できなかったからね、

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、あんた、もう、あの、いっそ自分の力と運だからね。

千葉：ふーん。そうか、そうか。

キヨ媼：今なんか、お産するったら、病院さ行って楽にするけど、今、昔なんか、そんな、あんた、病院さ行ってできたとか、

千葉：うん。

キヨ媼：さあ、どの、い、あの、病院、先生呼んだとかって、ああ、その、お産、えー、産婆さん呼んだとかなんていうのはね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、手の覚えている人、1人いればいいんだからね、

千葉：うん。

キヨ媼：その人がお産するんだから。

千葉：うん。そうか。

キヨ媼：そういうもんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん、そういうのあった。

千葉：で、ウポポですけどね、あの、昔、昔でも今でもそうだけど、ウポポする人、ほら、いろんな人がウポポするわけでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：それで、声の高い人も低い人もいるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：それで、例えば、今だったら、ほら、キヨフチが先頭になってやるから、ね、自分の声の高さで歌えばいいけど、昔だったら、誰か、ほら、もっと年寄りの人が先歌って、

キヨ媼：うん。

千葉：自分は合わせて歌ったりするでしょ？

キヨ媼：そうそう。

千葉：それで、高く歌い出したら、自分が、やっぱり、高く、それに合わせて歌う感じ。

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：まずね、ここで、まあ、先に先頭、1人は必ず先に声出すでしょう。そうしたら、あと、

【0:25:00】

キヨ媼：1人だけ先に、1人か2人、声出したら、あとみんな、10人なら10人声出すと。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：だ、そこに、声小さい者も声いい人もいるか、悪いか分からんけど、まずそういうふうにしていくんだよ。

千葉：うん、うん。やっぱり、それで、自分の、ほら、歌ったら、やあ、ずいぶん声、例えば、低い声の人が歌い出したらね、

キヨ媼：うん。

千葉：ずいぶん低い声だなんて思いながら歌うわけでしょう。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：やっぱり節変わってきますよね。

キヨ媼：うん。

千葉：普通。やっぱり、同じに歌えるんだろうか。低いまま。

キヨ媼：みんな、てんでんだよ、声だって、節だって。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。文句だけ同じくやって、やっているけどね。

千葉：うん。じゃあ、節は、じゃあ、例えば、あの、♪ウターロブンバレワってあるでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：ああいうのは、あの、歌い出しさえ合わせて、言葉は同じだったら、節は変わっても、

キヨ媼：そうだ、そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：そこで言葉同じだから、

千葉：うん。

キヨ媼：言葉同じくやって、声いい人もいれば、

千葉：うん。

キヨ媼：小さい人もいれば、ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：節回し、あの、いい人もいれば、なかに悪い人もいると。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：そうやってみんな、やるさ。

千葉：歌の、

キヨ媼：みんな同じ声でないんだからね。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、ウタリオブンバレって言ったら、あれ、きま、決まった節はあるんでしょ？一応。

キヨ媼：みんな、てんでんだよ。

千葉：てんでん？

キヨ媼：うん。節がてんでんだもの。

千葉：うん。

キヨ媼：文句は同じださ。したけど、

千葉：うん。

キヨ媼：その人の、その人の、あの、ふ、声でもって、

千葉：うん。

キヨ媼：ええく回す人もいれば、トッチンペーンと、あの、バラバラにやる人もいれば、

千葉：うん。

キヨ媼：その人の、まあ、その人によって、声がね。

千葉：うん。

キヨ媼：文句は同じだけど、声とか節回しとか違うべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：みんな、一人一人。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。だから、ここに、こう、10人なら10人ねまらして、あんた、や、ひとつ、やっごらん、あんた一人やっごらんって、一人ずつ歌って、みんな、節が違うし、

千葉：うん。

キヨ媼：声が違うしね。

千葉：でも、やっぱり、最初は誰かのまねするわけでしょう。

キヨ媼：そうさ。

千葉：うん。

キヨ媼：まねしてもね、結局、ま、まねしても、早いところいえば、あの、上手な人のまねしてくださってやるべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：したって、その人がうまくできればいいけど、

千葉：うん。

キヨ媼：できない場合あるでしょう。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：たら、そのようにしてオッピラボンってやっご。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、黙って聞いていると、みんな、そうでしょう。阿寒湖あたりの、あのウボが聞いてごらん。

千葉：うん。

キヨ媼：黙って聞いているとね、

千葉：うん。

キヨ媼：あ、ここでこうやればいいのになと思っても、もう、あんた、そこきらして、ただ、あんた、あの、文句で、あの、いってしまうでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：それと同じ。みんな、そう、全然違う。鶴の舞の歌だってそうでしょう。みんな、違うんでしょう。

千葉：うん。うん、うん。

キヨ媼：ここでこうやればいいなと思っても、そうしないで、あの、文句だけ、ジンジン、ジンジン
ところ、いくべさ。

千葉：うん。ふーん。ここでこうやればってのは、声曲げたりすること、

キヨ媼：こういうふうにすれば、あの、早いところいえば、ふ、あの、鶴の舞のウポポね。

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、オッピラバーンというときもあるさ。【0:28:25】フンド、あの、♪フンドーリー、フ
ンチーカ、アーホホ、ホホホホーって

千葉：うん。

キヨ媼：こういうべさ。ホー、でも、わしら違うべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：♪フンド、あの、ふ、節回し、節が、こう曲げていくべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：それと違うんだ。みんな、違うんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：黙って聞いてごらん、あれ、あの、鶴の舞、鶴も、ウポポ、みんな聞いてみなさい、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、阿寒湖のやつ、全然違うんです。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。例えば、

キヨ媼：文句は同じだけど、

千葉：うん。

キヨ媼：節回しも違うし、

千葉：うん。

キヨ媼：声も違うっていうことになる。

千葉：うん。

キヨ媼：同じ声なんか出す人いないよ、うん。

千葉：うん。【0:29:06】♪フンドーリー、フーチーカッ °、アーアア、ホーウオオオってやるでしょ
う？

キヨ媼：うん。

千葉：♪アア、フン、フンドリは、でも、みんな同じやるでしょう。

キヨ媼：したから、フンドリはみんなやっても、節回し違うっての、うん。

千葉：違うけども、

キヨ媼：文句はみんな同じだけど、

千葉：うん。うん。

キヨ媼：みんな、節回し違うって、

千葉：うん。

キヨ媼：うん。オッピラボンと、こういって、いくでしょ、

千葉：うん、うん、オッピラボンって何ですか。

キヨ媼：うん、節回ししないで、回さないで、【0:29:37】 ♪フンドーリーフンチーカーアーホーオオ、
アアーホーっていくでしょ、みんな。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：【0:29:43】 ♪a ho a ho って、こういくの本当なの。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:29:49】 ♪a ho a ho とこういくでしょう。【0:29:52】 ♪アアー、黙って聞いてごらん、し
たら、【0:29:55】 ♪a ho a ho

【0:30:00】

キヨ媼：ってこういくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：文句はみんな同じだけど、節回しが違うっていうの。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：みんな違うよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ウポポやっている人で、ひとりずつ聞いてごらん。

千葉：うん。まあね、そうだね。

キヨ媼：あ、この人。んー。その人、その人の〔テキ〕（不明）でもって違うっていうの。

千葉：うん。そうか、そうか。

キヨ媼：あんたみたいに上手な人□□□。

千葉：うん。上手じゃないよ。

キヨ媼：（笑）

千葉：ふーん。まあね、でも、今だったら、だって、そう歌う人いないから、みんな、ヒカワさんのおばさんのまねするしかないわけだからね。

キヨ媼：まねだから、しないもの。面倒くさいっていえば、やらないもの。

千葉：例えば、その、

キヨ媼：やれない、やらないんだか、なんで、あんなにやらない、したから、あの、鶴の舞のウポポ
だって、なんにも聞いてこない、一人一人違うでしょう。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：どこいっても、なんのウポポでも、一人一人違うでしょう。

千葉：まあね、そう。

キヨ媼：文句は同じだけど、節回しが違うとか、声が違うとか。

千葉：例えば、その【0:31:01】♪ウターレ、ウターレブンバアレワアア、リムセエレヤン、アアアヘエエ、エンヨオってあるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：【0:31:10】♪ウタアレブンバアレワアアって、それが普通かになって思うけど、【0:31:16】♪ウ、ウターレブンでなくて、【0:31:17】♪ウターレブンバアレワ（基となるメロディーを変えている）、でもいいんですか？

キヨ媼：うんだ。それが、そういうふうにして少し、あの、声で格好つけて、長くいくの。

千葉：うん。

キヨ媼：オッピラボンってしないで、

千葉：うん。それは、なに、一番、基の節っていうのはないんですか、それは。

キヨ媼：基も、あともないべや。

千葉：おぼさんが歌ったら、一番普通なら、どういうやつですか。

キヨ媼：普通、普通、今、言ったべさ。

千葉：いや分からないよ。

キヨ媼：【0:31:44】♪ウタアレブンバアレワアア、リムセエレヤン、アアアヘエエ、エンヨオオところういくべさ。

千葉：うん。【0:31:53】♪ウタアレブンバアレワアア、リムセエレヤン、アアアヘエエ、エンヨオオ、

キヨ媼：うんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:32:01】♪ウタアレブンバアレワアア、リムセエレヤン、アアアヘエエ、エンヨオオってこういくべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、要するに、【0:32:12】♪utarebunbarewa rimsereyan a heyyo ってこういくでしょう、極端にいくもの、みんなね。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：でも、そこに節回ししないで、極端にいくっていうこと、みんなね。

千葉：うん。

キヨ媼：釧路あたりなんか、あんた、釧路行ったことあるかい、

千葉：釧路はあるけど、今、だって歌う人いないでしょう。釧路は。

キヨ媼：釧路かい、

千葉：うん。

キヨ媼：釧路の、あの、イチャラバのときとか、そういうとき、

千葉：うん。

キヨ媼：みんな、歌うけど、黙って聞いてると、みんなそうだよ。♪

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：【0:32:38】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a heyyo ってこういくね。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:32:44】 ♪a he enyo って、こう本当はいくの。

千葉：うん。

キヨ媼：こ、これが節回ししていくの、本当。極端にいくわけさ、いうわけだね。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：そうやって、そう、みんな、それで、今度とるわけね。

千葉：うん。

キヨ媼：なん、みんな違うよ。黙って聞いてごらん。

千葉：うん。

キヨ媼：なんのウポポでも。

千葉：【0:33:08】 ♪ウ、ウ、ウターレ、ウー、ウー、ウターレブン、それ高い声で歌ったらどうなります、♪utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

キヨ媼：うんだ、そうやってウポポやればいいっしょ、

千葉：うん。おばさん歌って。

キヨ媼：(高音の歌い出し) 【0:33:26】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a he enyo ってこういくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:33:35】 ♪a he enyo って、ここでも、

千葉：ずっと高い声で歌えます？

キヨ媼：ああ、や、うーん。

千葉：【0:33:42】 ♪ウ、ウターレブン、(笑)

キヨ媼：(笑) それ一番だ。

千葉：♪ウターオ、だって、僕のほうが男だから、声低いでしょう。

キヨ媼：そうだよ。ねえ。

千葉：それぐらいでやったらどう、

キヨ媼：そうだ。

千葉：【0:33:52】 ♪utarebunbarewa rimsere yan a he enyo

キヨ媼：そうだ、それでいうな、みんな、それだけの声で、

千葉：うん。じゃあ、おばさん、やって。

キヨ媼：昔、なんか、そんな、こんなの、なんかない、なんマイクとかないんだからな。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：そうだった、みんな、あんた、声でやったんだから。

千葉：うん。

キヨ媼：あんまりウポポやったら、隣近所のばばも頭くるって1人で。

千葉：やって、やって、おばさん、やって。♪ウターレブンぐらいの高さで。

キヨ媼：やっごらん。【0:34:26】 ♪utarebunbarewa rimsereyan a he enyo （高いキーで）ってこう、

千葉：うん。

キヨ媼：それで、【0:34:35】 ♪utarebunbarewa rimsereyan a he enyo （高いキーで）、こういくんだ。

千葉：うん。うん。低いほうは、そうしたら。

キヨ媼：【0:34:47】 ウタレブンバレワって、【0:34:50】 ♪utarebunbarewa rimsereyan a he enyo （少し低めのキーで） 同じさ。たい、高いと低いと同じ。文句は同じだべや。

千葉：うん。同じ。でも、ほら、やっぱり、歌が、ほら、始まりが低いとね、あの、途中で高くするでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、ほら、高いと苦しいから、【0:35:13】 ♪utarebunbarewa っていったら、もう上げないじゃないですか、普通は。

キヨ媼：うん。

千葉：【0:35:18】 ♪utarebunbarewa って、ない、

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：だけど、低いとね、

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、【0:35:22】ウ、♪utarebunbarewa って低いと、ウタ、ウ、ん、【0:35:29】 ♪utarebunbarewa rimsereyan とか、

キヨ媼：うん。

千葉：上に上げること多くなりますよね。

キヨ媼：そう。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、まず大勢になったらさ、

千葉：うん。

キヨ媼：声かける人1人なら1人やれば、あと、みんなで歌うべさ。

千葉：うん。うん、うん、うん。

キヨ媼：うん。

千葉：じゃあ、それはもう、本当に、その場その場でどうでも、どうでもいいってことですな。

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：どうでもいい、文句さ同じだったらいいっちゃうことぐらいで。

千葉：文句、文句が同じで、

キヨ媼：そうだよ。

千葉：あの、うん。節も、こう曲げていれば、

キヨ媼：そうよ。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：曲げるもの曲げない、オッピラボンでやる人もいるし、文句だけ入れればいいっていうような人もいるべな。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：それでいいんだもん。

千葉：うん。いいんですか、それで。

キヨ媼：それでいいんだから、みんな、やっているべさ。

千葉：いや、僕はいいけど。ふーん。そうか、そうか。

キヨ媼：なかなか大変だよ、この歌もね。

千葉：うん。ねえ。その、その歌って、あの、今は、その、【0:36:36】ウ、♪utarebunbarewa って、声曲げるのが、タンタンタンタンタンっていうふうに今上げているでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：【0:36:46】♪ウター|レブン|バーレ|ワー、速いけども3つずつ、

キヨ媼：うん、うん、うん、うん。

千葉：こう、【0:36:51】1、2、3、1、2、3、♪ウター|レブン|バーレ|ワアア|リムセー|レヤン|・アア|アヘエ|エエン|ヨオオ。あの、

キヨ媼：【0:37:01】♪アアア|アヘエ|エエン|ヨオオ|オっていうべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:37:05】♪utarebunbarewa rimsereyan a he enyo って、こうやっていくべさ。

千葉：うん。これ、あの、よその、この歌、ほら、あっちこっちにあるでしょ？

キヨ媼：うん。

千葉：この utari hobunbare って。帯広あたりで聞くとね、4つずつなんですよ。

キヨ媼：ああ、そうですか。

千葉：うん。細かいけど。

キヨ媼：わしは3つずついく、黙って聞いているといくでしょう。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：帯広の、帯広の人も、みんな声いいからね。

千葉：うん。今はでも、やる人、いなくなっちゃいましたけどね。

キヨ媼：ああ、そうかい。行ったことあるかい、帯広さ。

千葉：うん。前に何回か行って。したら、向こうは、なんだ、ウ、ウタ、ウ、

キヨ媼：ウタ、ウタ、

千葉：うん。

キヨ媼：笑ってたらもう世話ないな。

千葉：【0:37:54】♪ウター|レブン| でなくてね、【0:37:56】♪ウター|レ、♪ウタリ|オープン|バーレ|ワーアア、

キヨ媼：【0:37:59】 ♪ウターレブンバーレ？

千葉：うん。【0:38:01】 ♪ウターリ|オープン|バーアレ|ワーアア|リムセー|レーヤン|・アア|アア
へエ|エエエン|ヨオ っていう、

キヨ媼：【0:38:09】 ♪ウターレホンバレってか、

千葉：うん。

キヨ媼：【0:38:12】 ♪ウターレブンバーレって、ひとつにいくべさ、わしらだんな。

千葉：うん。

キヨ媼：それでなく、【0:38:17】 ♪utari, utaribun, utaribu, utaribun, robunbare っていう
のかい？

千葉：うん。

キヨ媼：ああ、そうかい。

千葉：うん。

キヨ媼：ああ、そうかい。

千葉：あの、あれと同じような感じですか。あの、鶴の舞、

キヨ媼：うん。

千葉：フンド、フンドリ、

キヨ媼：うん。

千葉：フンドリは同じでしょう。

キヨ媼：うんだ。

千葉：♪フンドーリイイイ、フンチーカフ °、アーアアホオウオオオオ、アーア、

キヨ媼：上手だな。(笑)

千葉：(笑) っていうでしょう。

キヨ媼：うんだ。

千葉：それと同じような歌い方する。

キヨ媼：そうだね、うん。

千葉：それ、あれ、なん、なんででしょうね？

キヨ媼：うん。

千葉：別にきまりじゃないんでしょうね。

キヨ媼：決まりないんだね、あれ。

千葉：うん。でも、その、ウタリ、ウタレブンバレワを、その、こっちでそうやって歌うことってな
いでしょ？

キヨ媼：うん、ないな、したら、お祭りとかカムイノミやるときだか、みんなしてやるべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：チセでな。

千葉：うん。

キヨ媼：わしらも、10月にやんだ、10月か11月。

千葉：うん。

キヨ媼：今月、今年は11月やるんだ、カムイノミ、うちで。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。カムイノミやって、みんなでウポポやって。

千葉：うん。ここで？

キヨ媼：ええ。

千葉：うん。

キヨ媼：ここでやるの、チセでさ。

千葉：うん。

キヨ媼：そして、一日〔過ごす〕んだ。

千葉：うーん。そうか。

キヨ媼：飲む人、飲む、食う人、食ってね。

千葉：うん。

キヨ媼：ちゃんと、用意してさ、

千葉：うん。

キヨ媼：食べてもらって、歌、歌ってもらうの。

千葉：うん。

キヨ媼：あんたも、そんなとき来て歌ってください。ウタリブンバレ□。

千葉：うん。ウタレブンバレね。11月のいつごろ、まだ日にち決まってないでしょ？

キヨ媼：決まってない。11月なる、11月にしようっていったけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：去年も11月のね、5日だか6日にいやったんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：寒くて、寒くて、

【0:40:00】

キヨ媼：大変なんだわ。11月たらね。

千葉：ああ、うん。

キヨ媼：そやけど、今年も11月にしようっていいうんだ、〔シゴジュウ〕（不明）でね。

千葉：うん。10月だといいのになあ、

キヨ媼：うん。

千葉：僕は。

キヨ媼：□□んだ。11月だもの。

千葉：うん。あれ、11月は東京にも来るって言いましたよね？

キヨ媼：そう。

千葉：あれは？い、いつ、

キヨ媼：え？

千葉：あれはいつごろなんですか？

キヨ媼：何、と、東京？

千葉：東京だかどっかに行くって行ってたでしょう？

キヨ媼：私は、じゅが、あのね、えっと、

千葉：山形行って、そのあと、

キヨ媼：6日、来月の7日か、6日か、7日の日に出かけるのか？

千葉：あれは山形でしょう？

キヨ媼：え？

千葉：山形でしょう。

キヨ媼：山形。

千葉：なんか、手紙が来て、なんか東京だか、なんか行くって言っていませんでした、きのう。

キヨ媼：うん、東京、来てるよ。行く。そこ、それ見てみれ、その手紙、そこにある。そこに書いてるから、

千葉：これ？

キヨ媼：こっちの手紙、こっちこっち、

千葉：これ？

キヨ媼：うん、それ、読んでごらん。

千葉：これ、見てもいいんですか？

キヨ媼：ええ、見てみて。それさ、入ってるはずだぞ。

千葉：11月公演、あ、またいろんな国の人とやるんですね。

キヨ媼：そうなの、これ。

千葉：11月14日日曜日。1時半から2時半。三省堂、へえ。

キヨ媼：それ、東京でしょう。

千葉：うん。うん。うん。そうですね。あ、^{てしかが}弟子屈、みんなで行くんだ。

キヨ媼：^{てしかが}弟子屈に行くんだ。したらまだ決まんないく行く人まだ、決まってないけど。

千葉：ふーん。ちょうど仕事してるかもしれないな。

キヨ媼：それ11月でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：それ終わってからにするっていうわけさ、

千葉：うん。

キヨ媼：カムイノミ、チセで。

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：本当はその前にやってほしいんだけどね、やっぱり、都合上だからね、しょうがない。

千葉：うん。10月だったらいいのになあ。ふーん。

キヨ媼：それ、し、に、あの、東京でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：東京の、なんたつけ、何、

千葉：うん。三省堂ホール？

キヨ媼：はん、三省堂とかソバシンドウだか知らんで。

千葉：その前に、前にやればいいのにね。

キヨ媼：え？

千葉：その前にやればいいのにね。

キヨ媼：うん。

千葉：チセで。

キヨ媼：うん、カムイノミやればね。

千葉：うん。

キヨ媼：わし、その前にやる、あまり寒くないうちにやればいいなと思う。まりも祭り、結局、終わってすぐね、やればね、いいんだ。

千葉：すぐでなくても、だって、まりも祭りは、だって、

キヨ媼：まりも祭りのと、ちょうど、わしも出かけていないべき。

千葉：ねえ。そこから、だって、まりも祭り、^{このか}9日か、10日か、そんなもんでしょ？

キヨ媼：うん。わし、よ、7日、よ、7日、8日に、一応、えーっとね、10日、8日、9日、2日〔出る〕んだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、山、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、今、や、あの、今、10月に行くところね。

千葉：うん。

キヨ媼：ちょうどね、帰ってくるのが、十何日、11日か^に2日に帰ってくる。

千葉：うーん。そっか、そっか。何の話してたんだ？うーん。

キヨ媼：近いでしょう、東京、この、

千葉：うん。

キヨ媼：これ、行くところ。

千葉：これは、うちはすぐです。

キヨ媼：え？

千葉：すぐ近く。

キヨ媼：近い、

千葉：うん。

キヨ媼：東京の、

千葉：近いけど、ちょうどね、僕、仕事してるんですよ、そのころ。

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：うん。仕事しながらだから。

キヨ媼：あんたは、あんた、仕事しないで、あの、フンドリでもやればいい。(笑)

千葉：僕、フンドリやっても、だって、仕事、誰もくれないもん。(笑)

キヨ媼：(笑) 食べらせてくれないしな。

千葉：うん。本当、本当。

キヨ媼：大変だもんね。本当。

千葉：うん。ウタレブンバレっていうのは、あれ、踊りついていないですよ？

キヨ媼：うん、みんな、ただ手たたきだけというようなもん。

千葉：ねえ、うん、そうか。ああ、じゃあ、

キヨ媼：そうしたら、あんた、こういう商売持って、どのぐらい働くの、1カ月。

千葉：ああ、働くときは、あれですよ、もう、3カ月、1日も休み無しで働くんです。

キヨ媼：うん、そして、どれぐらいになるの？

千葉：どれぐらいになるんだかね、いろいろ、家賃とか引いて、いくらも残らないですよ。で、お金ためてこっち来たら、全然だもん、

【0:45:00】

千葉：全然残らないですよ。もう。

キヨ媼：いや、なんもなんないぞ。ねえ、ねえ、ねえ。うん。それで、落ち着いていてさ、商売やって食べれるっていうことなればいいけどね。それだけでね。

千葉：まあ、今は、でも、聞いて歩くのも、ねえ、

キヨ媼：うん。

千葉：こうやって、歩き始めちゃったら、途中でやめらんないでしょう。

キヨ媼：そう。

千葉：ねえ。途中で、や、やめたら、なんか、もったいないような気がする。

キヨ媼：そうだよ、せっかくの苦労がね。金かけて、あんた、せっかく回ってあるいてさ、

千葉：うん。

キヨ媼：途中でやめるっちゃうことは、そ、どうもなんないもんね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。だから、一生懸命、そ、それを、今度、研究して、ど、どうやるの、そうやって、今度、何、こうだ、ああだって、結局、[クサル] のばばあ、こう、歌ったとかって、それ見せるのか、どうなのよ。

千葉：見せるかどうか、分からないけど。

キヨ媼：それを研究してどうなるんだい。

千葉：うん。まだね、それ、自分でもどうしたらいいか分かんないですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：こうやってとったやつっていうのは、もし、誰かが、その、見たっていったら見せてもいいもんかな？

キヨ媼：見してもいいんでしょう、悪いことしてるもんでも、

千葉：ねえ。

キヨ媼：日川のばばあ悪いことしてる [みたいなまあ]、

千葉：うん。

キヨ媼：このばばだとかってね、

千葉：ねえ、うん。

キヨ媼：あのジサン、あの人だとかって、見せればいいんでしょう、聞かしてやればいいんでしょう。

うん。

千葉：うん。うん。そのうち、あの、今はほら、その、どこにいるか知らないけども、そういうことを覚えていってという人、きっといっぱい出てくると思うからね。

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：うん。したら、

キヨ媼：そういう人に、こんど聞かせてやるとか、

千葉：うん。うん、うん。

キヨ媼：覚えらせてやるとかってね。

千葉：ねえ、その、ちゃんと見やすくまとめといてあげたらね、いいかなとも思うけど。¹⁶

キヨ媼：うん、そう。

千葉：まあ、今ところは、もう、本当、聞くばかりでね、そういうことをやってないから、

キヨ媼：そう。

千葉：うん。そうか。それ、節曲げるっていうのは、あの、踊りだったら、ほら、そうやって、なんですか、あの、ふ、♪フンドーリーって、こう、ついていないと、拍子分らないから踊りにくいっていうのもあるでしょう。

キヨ媼：そうだね、だから、そのとおりに歌えば、【0:47:07】 ♪フンドリフンチカフ °、アーホーアーホーっていったら、そのように踊ればいいでしょう。

千葉：うん。そのように踊る、

キヨ媼：ねえ。そうやって、あの、その、その人の、たいてい、そうやって踊っているから、

千葉：うん。

キヨ媼：わしらみたいな節も、あの、[まねて] (まげて、か?) ないんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：オッピラボンと、♪フンドーリー、フンチカフ °、アーホー、アーホー、釧路の人も、そうやって、黙って聞いてれば、

千葉：うん。

キヨ媼：♪アーホー、アーホーってこういく、やってるよ。

千葉：うん。

¹⁶ このあたりの会話で語られた目的をようやく実現する第一歩がまさに本稿となる。その実現は予想以上に簡単ではなかったが、この時点で想定された対象者には、長い時間が経過したことをお詫びしたい気持ちであるし、引き続き音源の整理を急ぎたいと考えている。

キヨ媼：全然、あの、もう極端にいつてるからね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、結局、その人の、その人の、じーっと、その人1人に歌わせてやるんならいいんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：♪アーフンドーリーフンチカ、アーホー、アーホーって、それでいいけど、この、わしみたいにさあ、こっちに歌ったら、こっちでやったら合わないんだ、踊りに。早いところいけばね。

千葉：うん。

キヨ媼：速いとき、私たら、ゆっくりして節回しいくけど、こっちは、アーホー、アーホーっていくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、踊る人もね、交代交代声を出しても合わないっていうことになる。

千葉：ああ、どうだね。

キヨ媼：踊る人、ゆるくないんだわ。

千葉：やっぱり、節つけてると、

キヨ媼：そうだ。

千葉：どうしても遅くなるもんね。いろいろやるんだから。

キヨ媼：うん、そう、うんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、そういうことに、今度、[てこつむんだわ] (不明)

千葉：うん。

キヨ媼：したら1人対1人、歌えわせなきゃ駄目なの。

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：まあ、そっちの人ら、そっちの人。♪アーホー、アーホーって、それで、と、通せばいいな。

千葉：うん。

キヨ媼：じゃあ、結局、おらと、♪a ho a ho (節つけて歌っている) って、こう、いくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：そのように、こんど合わせて踊らなきゃなんないし、こっちはこっちで、ここへ歌ってら、そのように、あの、だから、か、こっちとこっちの歌だ、そっちの歌、面倒くさいんだ、踊る人。

千葉：うん。

キヨ媼：大変なの。

千葉：うん。やっぱり、

キヨ媼：はい。

千葉：昔だったら、それみんな、そうやって節つけてたでしょう？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：それは、やっぱり節つけないと、ウポポにならな、

キヨ媼：踊りにならないんだわ、むか、

千葉：うん。

キヨ媼：それ、シャモのだったら、あの、なに、それこそ、わしら、あの、歌、シャモの歌と同じさ、結局ね。

千葉：うん。

キヨ媼：歌、節つけてやるやつみた、オッピラボンと歌うやつ。

千葉：うん。

キヨ媼：いろいろあるからね。

千葉：うん。

キヨ媼：それと同じなんだからね、なるべくなら、その、そうやって、歌わせる、歌えばいいけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：それが、やっぱり、やれる人とやれない人あるから、

千葉：うん。

キヨ媼：そのようにして歌うべさ。

千葉：うん。なるほどね。そうか。あの、前、クットモレットやってたでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：あれ、あれは拍子つけて歌うっていうことはないんですか。

キヨ媼：調子つけて、

千葉：ちょ、拍子、拍子。だから、なんだっけ、

【0:50:00】

千葉：あの、あれは難しくて、ちょっとできないけどね、あの、なんか、【0:50:10】♪アーアーオーイー

キヨ媼：アオイ、(笑)

千葉：【0:50:15】♪テエーエーエーン、アーウウウオーオアーオオーとか、なんか、そういう歌を、節みたいなのつけて歌ってましたよね。

キヨ媼：うん。

千葉：あれは、こうやって、拍子とることは、

キヨ媼：そうだ。手で調子とってやるのさ。

千葉：調子とってやる？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：オッピラ、帯広にやる人いなかったかい、なにか、こう、

千葉：いな、いないの。

キヨ媼：うん。

千葉：あの、昔ね、あつたんだって、こういう、

キヨ媼：うん。

千葉：だけど、今はもう、やる人いない。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。それ、拍子とって、一回歌ってみてもらえます、こうやって。

キヨ媼：おら、どうやって、歌った、そこに、そこに、わし歌ったやつあるのか？そこに。

千葉：テープはないけど、書いたけど、だって、あれ、書けないでしょう、すごくだって難しい。【0:51:03】

♪アーオーシー、アー、シーシー、アーオー、オーエエーンシー、アーオーウウウーアーウエー
～（以下、歌詞略）～【0:51:25】、とか、なんかそんなような、

キヨ媼：アーン、か、おれ、[そんなと] 歌ったか？

千葉：違う？ まあ、まねできないんだわ、うまく。

キヨ媼：いんやいや、歌ったのか？ それ、私が。

千葉：うん。うん。カットモレッテって、前やってたでしょ。

キヨ媼：うん、うん。そのカットモレッテって、前やったけど、忘れたな、おら、もう。

千葉：うん。テープ持ってきていないからな、今。

キヨ媼：【0:53:11】 ♪ウウーアーエーエー、エーエエーエエエエエーイエーイエーイイイ、アアア
アアアウイイイイエーイイってやったんだべさ、

千葉：うん。そうそうそうそう。

キヨ媼：ねえ。こうやって、こういうふうにして調子とって、こうやるべさ、こう。

千葉：うん。前歌ったときは、その、拍子とれるような歌でなかったですよ、その、本当に、こう、

ゆったり、こう、【0:52:13】 ♪アーウオーオオーエイエーエーエー、

キヨ媼：ああ、したらそういうふうにしていけばいいのか、□□□□

千葉：え？

キヨ媼：そうやってやればいいんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、いろんな、その、節があるんだからね、カットモレッテの節、節でもあるんだわ、
オッピラボンとやるやつと、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、こう、あの、なんというのか、優しい、ゆっくりやるやつとねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：お、あの、昔の、年寄りたちやったの聞いたの、それやったんだべさ、うん。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。や、あ、これは、もう、拍子は、じゃあ、全然とらないでやるもんなんですかね？

キヨ媼：うん、うん、やっぱり、みんな、[そうしてやって] やって、やって、やるべさ、こうやって、
やるか、[たまって] こうやってやる、やらないべさ。やっぱり調子とってやるべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:53:01】♪ [ハアアアーオイオイエーエーイイイ、アーイエエエーイエイイイ、イン
アーイエーイエーイイイ、アイイイイイイイイイウン、ハアー、イエエエイエエエ
エエエアウエエエイハアーエエエイエエエウウウオハフオオオオエエエイエエエアイエエ
エエアウエエエイ] 17って、【0:53:32】(手で拍子を取りながら歌ったいる様子、節3つずつ歌って
聞こえる)

キヨ媼：こう、みんな、こう、調子つけてやる、ただ、ただ、オオオオってやんないわ。

千葉：うん。

キヨ媼：おれ、そうやったかい、先に、分からないよ、自分のやったこと。(笑) こうやってやったべ
さ。【0:53:45】♪ [ハンエーエエエイエイロー、アーイエエエエイエエエイエエエイホオーン
ンアイエエエイエエエイエエエイエイ、アアアーンイエエエイエエエエロハーロイエエエイ
エエエイエエエイエエエエーチョーイチョイ、ハアーン、イエエエイエエエエロハアーイエ
エエーエーロハーイエエエーロハーンハウオオオオオオン]、【0:54:23】これ、これはね、この、こ
の、シノッチャっていって、シノッチャみたいにしてやんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：このクットモレットではね、踊りがつくの。

千葉：うん。

キヨ媼：これね。

千葉：うん。

キヨ媼：あ、先に、わしは、ただ、クットモレットってだけやったんだべさ。

千葉：うんうんうん。

キヨ媼：これは踊りつくの。ねえ。

千葉：それ、あの、踊りっていうのはどんな踊り？

キヨ媼：踊り、こうやって、こうやったり、こうやる、【0:54:46】♪ [フンハアアアーヘーローハア
ーアアアイエエエイエエエエロハアアアン、エエエイエイエイエーイエーエオ、ハウホーエイ
ーエーエエエイ、エイエーエイハンアーオ
エエエイ、イエエエエイ、

【0:55:00】

♪イエエエエイエー] そうやって、こうね、

千葉：うん。

キヨ媼：体に調子つけて、こう、声出すもんだ、これね。

千葉：うん。

キヨ媼：と、あん、男の人ら、あの、うーんと、シノッチャ、タッパラ (タフ °カラ) ってやったべ
さ、聞いたべさ、あれ、

千葉：うん。うん。

17 作業簡略化のため、以降の [] つきの歌詞は、未整理でラフな聞き起こしを含むものとする。

キヨ媼：あんた、聞いた、どこに聞いた、タツバラ、

千葉：うん。テープでしかないけども。

キヨ媼：ああ。タツバラ、タツ、タツバラだか、タツバラだかってやったべさ、

千葉：うん。

キヨ媼：阿寒湖の人やった、聞かなかったか、あんた。

千葉：^{いまきち}今吉さんの、

キヨ媼：うん。あれ聞いたべさ、

千葉：うん。

キヨ媼：こうやって。あれと同じぐらいだ、早いところいえば。あれは、男のやつで、

千葉：うん。

キヨ媼：女は、やっぱり違うんだよね。

千葉：うん。それ、クットモレットって、

キヨ媼：うん。ねえ。

千葉：シノッチャっていうんですか？

キヨ媼：そうだ、シノッチャみたいなの、シノッチャと、シノッチャだね、要するにね。

千葉：うん。クットモレットっていうのは？

キヨ媼：クットモレットっていうのは、ただ、レットレットと心で、ばっかり、【0:55:54】♪ [ハア
ーオオオーイーエイーエエーイーイイ、エイエー、ハイエーエイエー] 【0:56:05】、や、こういうふうにしてやったべさ、わし。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：今のやつ、違うのさ、節のほう。ちょっと、ね。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：それと、また違うの。

千葉：クットモレットは、じゃあ、踊りはつかない？

キヨ媼：つかない。

千葉：つかない。

キヨ媼：ただ、ただ、こういうふうにして、あの、早いところいえば、これはね、あの、神、あの、火の神さんだね、

千葉：うん。うん。

キヨ媼：その一番年よりをね、今日はありがとうございました、のお祝いの心で、あの、ク、その、クットモレットやって、喜ばせる、神さんに聞かせるっていう意味で、年寄り、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：年寄りの人やって、聞いたの。

千葉：うん。す、座って歌う、

キヨ媼：立ってよ。

千葉：いや、だから、さっきのこういうのは、あれ、クットモレットっていうの、

キヨ媼：うんだ、うんだ、そうやってやるんだ、こうやって、

千葉：うん。

キヨ媼：こうやってやる、こういうふうにして、やったりね、

千葉：うん。ある、歩いてくの？それで、

キヨ媼：そうだ。こういうふうにして、ずっと、こうね、炉でしょ？ここ。

千葉：炉の回りを歩く、

キヨ媼：こうやって、今度、ただ、こうやるんだ、こうやってやらないから、やっぱり、こんぐらい、

千葉：うん。

キヨ媼：手たたかなくても、こ、これで、い、調子とっていくんだ。

千葉：うん。1人でやるんですか？

キヨ媼：ひとりでや、1人の人だけきいたもんだもの。

千葉：うーん。

キヨ媼：1人の人、そんなだと、そんなにできないんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：これ、この、クットモレットっていうもの、でたために [やる]、ってやれないんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：その、年寄りの [ふきがえで] (不明) それやったの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あんた、お茶、飲まない？飲む？お湯は？

千葉：うん。ふーん。不思議な、不思議な、

キヨ媼：つまみな、それ。

千葉：はい。

キヨ媼：まだ、あんた、あとな、何日来るの。歌うのか、おら、もう。

千葉：え (笑)、うん。いや、面白いなあ、でも、それ。面白いていいたら怒られちゃうけど。

キヨ媼：面白いていえば、面白くないよりいいだべや。

千葉：(笑) そりゃそうだな。そうか。それ、踊るときって、足は、こうやって普通に歩くだけなんですか？

キヨ媼：ただ、歩くだけだわ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そのフチがやったもんな。

千葉：ああ、じゃあ、足も一応、拍子、[拍子も] こうやって。

キヨ媼：うん、[調子もいまもならない]。

千葉：ふーん。拍子でもないのか。

キヨ媼：ああ。ぬるくなったべな、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：お茶。

千葉：それは何なんですか？

キヨ媼：これはウポポだべや。

千葉：ウポポ？

キヨ媼：うん、その、クットモレットってのウポポだべや。

千葉：ふーん。でも、クット、

キヨ媼：うん。誰でもかれでもやらないんだ、こんなの。

千葉：それは、さっきの、

キヨ媼：そうだ、

千葉：続き、

キヨ媼：おお。

千葉：だんだん、そういうふうになっていくっていうこと？

キヨ媼：そうだ、そういうふう、だんだん、だんだん、こう、やっていくのさ、こう。

千葉：ふーん。

キヨ媼：この、そういう節でもって、ずっと、いくの。

千葉：1人だけでやるんでしょ？

キヨ媼：うん。

千葉：見と、見て、

キヨ媼：声の出る人が、1人やったあと、みんなで、声出せば、そのようにして、いろいろ、こう踊るべさ、みんな、こう、それを盆踊りみたいな、コーラコーラと□。(笑)

千葉：ふーん。そうか、周りの人は、ただ、こうやって黙って聞いているんですか、黙って。

キヨ媼：そうだ、みんな、見ているべさ、10人だら、5人も6人も踊るべや、男の人、

千葉：[こうやっ]て、

キヨ媼：そうよ、

千葉：□□って？

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：いろんな踊りやるんだ、このなかに、いろいろ手たたいたり、そっち抜けやったり、あっち抜けやったりして、歌に合わせてやるんだ、こう。

千葉：うん。声を合わせて、踊っている人が歌う？

キヨ媼：お、いや、おど、歌う人を歌わして、

千葉：うん。

キヨ媼：結局、1人、知っている人いたら、そのようにして、みんなして、踊って、

千葉：うん。

キヨ媼：そうやって。こんどは、これ、こんどは、こういうふうに行くべさ、【1:01:46】♪ [ハンエーエエエエロ、ハア、エエエエイエイローアウオウシン、ハイエーイエーイイイエエイ] 【1:01:54】、それで、1人、先頭んなれば、みんな、その人[ん、と、]こうやって踊るべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：こうやってな、こうやって。まあ、最初、こっちだと、あっちだと、こっちだと、なって、こうやって、こう、そ、それから、何番で手たたくとかって、そうやっていくの、みんな、大勢でやるの。

千葉：うーん。

キヨ媼：こんなの、やらないの、節、阿寒湖もやらない、屈斜路もやらないの、わし、1人知ってるの。

千葉：うん。

キヨ媼：昔の年寄りやったの、聞いたことある。

千葉：うん。あ、それ、名前、前聞きましたよね。

キヨ媼：聞いたかい、うん、

千葉：誰だったっけな。誰だっけな。阿寒町のおばさんですよ。

キヨ媼：阿寒町？

千葉：違いました？

キヨ媼：うん、うん。あの、あ、歌った人かい。

千葉：うん。

キヨ媼：歌ったんな、阿寒湖のんな、え、年寄りな。

千葉：な、なんていう人ですか？

キヨ媼：名前ですか？

千葉：はあ。

キヨ媼：アキベカヨ。

千葉：アキベカヨさん。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：昔の先生だ、歌の□□□□□□□□。

千葉：アキベカヨさんが、じゃあ、1人で歌って、その、踊りは、みんなで踊ったの？

キヨ媼：そうなの。

千葉：ふーん。炉の周りを、

キヨ媼：はいはいはい。

千葉：へえ。

キヨ媼：アキベカヨさん、いってしまったもん。

千葉：うん。うん。ふーん。そうか、そうか。あの、最初にやった、その、クットモレットだけのやつと、【1:03:22】♪アアーエーローってやつと、

キヨ媼：違う、違う、もう、節が違うべや。

千葉：節が、節が違うけど、もう、どっちもクットモレット、

キヨ媼：うん。そうだよ、同じぐらいにしていくんだ。

千葉：最初のクットモレットって、踊りは、

キヨ媼：ない。

千葉：ないの？

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：今のやつは踊りついてんだ□□。

千葉：ふーん。あ、じゃあ、いろいろあるんですね。

キヨ媼：あるよ。

千葉：あの、ウポポの、ウポポだけのやつと、

キヨ媼：しり、

千葉：踊りのやつと、ウポポ、

キヨ媼：もう、そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：これでね、それ専門にやるったら、たいしたもんですよ。

千葉：ふーん、へえ、そうか、そうか。

キヨ媼：もう、自分が、これで、あの、食っていくとか、これでやっていくっていうようなだったら、いろいろ歌って、みんなに、教えてやって踊るけど、それでまでやっていかれないからね、なんも言わんけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：たくさん、ある、あるんだわ、いろいろ昔の踊り、歌でもね、

千葉：うん。

キヨ媼：あるんだよ。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：ねえ、だけど、もうやらないと忘れるところもあったし、あるしね。

千葉：うん。

キヨ媼：忘れてしまうしね。

千葉：うん。うん。今は、その、クットモレットのことを知っている人いないですもんね。

キヨ媼：やらない、

千葉：全然。うん。

キヨ媼：やらん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：今度は何踊りで行くかな？ 屈斜路湖。

千葉：うん。いつ？

キヨ媼：屈斜路湖で、

千葉：ああ、これ、

キヨ媼：うん。

千葉：何でいくんでしょうね、弓の舞だか、^{つるぎ}剣の舞っていうのは、1個書かかれてたよ。

キヨ媼：うん？ 書いているでしょ、そこに。

千葉：うん。

キヨ媼：それね、剣の舞やるんだ、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：剣の、男2人ついてくから、あとの女は何やるか分からん。

千葉：アイヌ民族の楽器、ムックリの演奏。

キヨ媼：はい。

千葉：それから、剣の舞、ウポポほかって書いてある。

キヨ媼：ああ、そうだ。

【1:05:00】

千葉：何や [んのかな]

キヨ媼：ムックリやれっていうんだべ、私に。

千葉：うん。

キヨ媼：おらはできないっていうの。

千葉：もう、最近、ムックリやんないんですか？

キヨ媼：やりますよ。やらないのよ。

千葉：うん。

キヨ媼：したって、あんた、あれ、あの、向こう行っただでしょう、青森行ったとき、向こうの人とやったべさ、¹⁸

千葉：うんうん。

キヨ媼：あれ。

千葉：ああ。

キヨ媼：なんたつけ。あの人らでやるっていうからね。

千葉：うん。

¹⁸ キヨ媼は1993年8月8日、青森県森田村で開催された野外コンサートに参加した。ご息女の日川キク子さんを同道したが、参加主体は白老のアイヌ民族博物館の人々である。ここで「向こうの人」と言っているのは青森の人ではなく、白老の人々の意味である。8月7日リハーサル、8日本番のスケジュールで、両日とも千葉も同行し、個人的に舞台裏から記録は録るなどしていたものの、舞台での様子は全く知らないでいた。しかしその様子がYouTubeで配信されていることを、たまたま2017年10月27日に知り、夜景の中で歌うキヨ媼の歌と、その映像の美しさにとっても感動した。この時の演唱は、節を回すキヨ媼の歌と、節をつけずに現代的なスタイルでストレートなメロディーをうたうバックコーラス隊との対比がとても面白く、音楽学的な意味でも興味深かったが、キヨ媼本人の思いが今にち改めて再確認でき感慨深い。キヨ媼は、細かい部分を意に介さずに、どのようなコラボレーションにも対応しているように思えたが、実際は歌い方の違いにかなり辟易していたようである。

(YouTube 配信 ; 2018年3月7日閲覧 : 「Elder Hikawa, Kiyoko sings Ainu songs '93.dv」

<https://www.youtube.com/watch?v=L4ipciQ7Oii>)

キヨ媼：や、やってもらったべさ。ムックリね。

千葉：うん。

キヨ媼：白老、白老の人ね。やった。

千葉：うん。

キヨ媼：ウポポは全然合わないでしょ？

千葉：んー。

キヨ媼：したら、なん、全然ウポポあっても、向こうの人のウポポと、わし、わしらのウポポと違うもの。

千葉：うん。

キヨ媼：したから、合わないからね、

千葉：うん。ええ、前、

キヨ媼：継ぎはぎだもの。

千葉：うん。

キヨ媼：したから、それよりね、継ぎはぎできないったけど、継ぎはぎでもやってくれたけど、その、emusterke のとき、emusterke のウ [ポ]、見たか？ emusterke、

千葉：うん。

キヨ媼：男がやったの。

千葉：うん。

キヨ媼：あれだって、全然違うべ？

千葉：うん。

キヨ媼：そうやって、なんでかなあ、全然、もう、ごちゃごちゃするから分からない、わしらの、あの、歌と違うんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：でね、あれ、あの、わしらの合わなくてね、あの、合わなくても、自分の気持ちで歌うって、歌ってくれっていうけどね、や

っぱり、こっちで声出して、こっちで声出したら、やっぱり合わないでしょ。節がね。

千葉：うーん。

キヨ媼：文句が合わないでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：文句も節も合わないんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、ヤイサマでいったべさ、あれ。

千葉：うん。うん、うん。

キヨ媼：ヤイサマ、あれ、見たか、あれ、ヤイサマで。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、任せるから、なんかでやってくださいって、なんか1つ、1人でやってください

っていうから、できてたべさ。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：ヤイサマだけね。

千葉：うん。

キヨ媼：ありがとう、みんな、ありがとうございますって、

千葉：うん。うん。

キヨ媼：今日はありがとうございますって。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、神さん、ありがとうございますって、今日は、本当にありがとうございます、アイヌ語でやったべさ。それだけだべ、やったの。

千葉：うん。うん、うん。そうだね。

キヨ媼：全然ね、して1人で、なんでもやればいけど、向こうで半分声出して、こっちで半分声出すっていうこと、分からん、あの、合わないんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：踊る人もね、てこずるな、これね。

千葉：うん。そうだね。前、その、ムックリ吹いてもらったとき、ウポポのやつやったでしょ？

キヨ媼：ん、

千葉：なんか、ほら、ムックリやってて、

キヨ媼：うん。

千葉：クマ、クマのなんだか、^{きかのぼ}坂上ってく、足音の音とか、

キヨ媼：うん、うん、うん、うん。

千葉：やったときに、

キヨ媼：うんだ。

千葉：あの、ウポポを1つ、ムックリで、こう、やってくれたの覚えています、そのとき、

キヨ媼：うん。

千葉：そのとき、あれは、なんか、その、ウポポっていうのやり方はあるんですか。ウポポをムックリでやる、

キヨ媼：そー、やっぱり、こ、こういうふうにして、ひとつ、このウポポはこういうふうになっていたから、こういうふうにしていれるかなっていうのを、意味でやったべさ、あれ。

千葉：うん。

キヨ媼：やるんだもん。

千葉：うん。節をそのまま、その、ムックリでやるのと、ちょっと違うわけですか。

キヨ媼：そうだ、やっぱり違うさあ。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、吹いてやるやつと、声出すやつと、なんぼか^{ちが}違、あの、これがこういうふうにするから、こういうふうにするかなと思ってやると、また、途中からある〔せつと〕（不明）とまた違うから

ね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ムックリでね。

千葉：ムックリで、あの、ほら、音の高さ、少し、変わって聞こえるでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：あれでウポポやっているわけでもない、ないんですか？

キヨ媼：はやし入れているだけ、中さ、はやし入れたらね、

千葉：うん。

キヨ媼：いい具合にね、その、こっちはこっちそのウポポはこうだったなって、ひと口、ふた口、こ
う、あの、息でもって調子とってるだけだ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：はやしっていうのは、

キヨ媼：はやしっていく [ばあいく] (不明)、

千葉：チョイチョイとか、そういうやつ？

キヨ媼：【1:08:57】 ♪ホーイホイっていうべき、ホイホイって、アイヌの人ら、ウポポ [やる]、

千葉：うん。

キヨ媼：【1:09:01】 (手を叩きながら) ♪ホーイホッとやると、フッカフッカ [やるじゃない] それと
同じ。

千葉：ん、

キヨ媼：【1:09:07】 ♪ホーイホイって入れるべき、みんな、踊る、

千葉：うん。うん、うん。

キヨ媼：♪ホッ、ホーイホイっていったら、たいてい踊る人ね

千葉：うん。

キヨ媼：歌う人は間あいだに、あの、はやし入れると、あれと同じく、あの吹いているべき。

千葉：ああ。

キヨ媼：ムックリね。

千葉：これを、

キヨ媼：フッカフッカ、フッカフッカ、フー、□□、(笑)

千葉：フッカフッカ、フッカフッカ、♪ホーイホイって、

キヨ媼：うん、うんだ、うんだ。

千葉：ってやるわけだね。

キヨ媼：うん、ああだな。

千葉：うん。うん。そっか。じゃあ、あんまり長くなると、お店のほうだね、

キヨ媼：うん、お店も困りません。

千葉：と、時計、だ、駄目だ、止まっているもん、これ。

キヨ媼：あんたがねえ、10月だとかねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：10月だとかさあ、あん言っ、暇のあるとき、もう10月閉めてから、ゆっくり来なさい、11月ごろっていても、ずいぶん早くなっていったんだけど。なあ。

千葉：11月、僕が仕事なんです。

キヨ媼：うん、がねえ。冬は仕事なんだ。

千葉：そう。いや、冬でなくて、11月、12月がね、もう、びったり仕事なの。

キヨ媼：ああ、そうかい。

【1:10:00】

千葉：だから、本当は10月の終わりぐらいに来ようと思ったんだけどね、

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：うん。どうしても、ほら、その、別の用事で、こっちに早く来ちゃって、

キヨ媼：ああ、そう。あっちのウポボ聞き、こっちの、ああ、あそこ行った、札幌行った、

千葉：お祭りが、ほら、あったでしょう。

キヨ媼：え、

千葉：札幌行って、

キヨ媼：札幌、

千葉：静内行ってね。

キヨ媼：ええ、静内。

千葉：根室行って。

キヨ媼：根室な。

千葉：うん。で、

キヨ媼：静内面白かったかい、

千葉：静内はね、去年のほうがなんか、人が集まったみたい。

キヨ媼：うん。

千葉：去年行きましたっけ？

キヨ媼：うん、い、ああ、そうかい。わし、行ったことない、静内。

千葉：ああ、そう。

キヨ媼：しばらく行ったことない。

千葉：なんか、今年は、あれみたい、あの、みんな忙しいでしょう、

キヨ媼：うん。

千葉：その、今年は、どういうわけか、国際先住民年で、

キヨ媼：そうだ、もう、あんた、そっち行く、こっち行くって忙しいでしょう、ねえ。

千葉：うん。みんな内地行ったりしてるから、

キヨ媼：うん。

千葉：かえって集まり悪いみたいですよ。

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：うん。

キヨ媼：[そしたくち] 今日のうち帰るの？ そうやって。

千葉：うん。そうですね。今日か。もう、別に用事ないからね、今日は。

キヨ媼：うん。

千葉：ゆっくりしててもいいんですけどね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：大変だね、本当に。こう、回って歩くのもね。

千葉：うん。

キヨ媼：本当に。

千葉：□□。車で来てるから、うん。車で来てるから、あんまり、ほら、11月までは居れないですもんね。

キヨ媼：そうですね、うん。

千葉：居たいですけどね。

キヨ媼：ああ、つまんで、何か。そしてお茶飲んで。

千葉：うん。

キヨ媼：お茶もぬるくなったな。

千葉：ああ、いや、大丈夫、大丈夫。

キヨ媼：冷やっこいやつ駄目でしょう？

千葉：ん？ 温かいですよ。

キヨ媼：冷やっこい、冷やっこいのもあるよ、なんだか。

千葉：いい、いい、いいです。いいです。

キヨ媼：いらない？ お茶のほうがいい、

千葉：とうきびチョコ、これおいしいんですよ、とうきびチョコ。

キヨ媼：うまいか□□らんわ。

千葉：おばさん、こういうの食べられるんですか？

キヨ媼：なんでも食べるの。

千葉：歯は？

キヨ媼：え？

千葉：歯は？ 歯。

キヨ媼：歯。

千葉：かたいもの大丈夫？

キヨ媼：みんな、総入れ歯。総入れ歯してもカリカリ食べる、骨でも。

千葉：ふーん。 (終了)

【1:12:52】

以上 Kiyō 930927 日川キヨ媼宅にて収録

7: 1993 年 11 月 14 日 (ファイル名: 新宿三省堂 H_931114) 1° 5' 29"

日川キヨ媼は弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会の歌い手として、ご息女の日川キク子さん (以下敬称を略す) と共に、新宿三省堂ホールのイベントに参加した。進行役の司会のもと、冒頭に 15 分パフォーマンスを行ない、間に 15 分、札幌の石井由治氏のパフォーマンスを挟んだ後、後半の 30 分を歌やムックリを演じて終了している。保存会のメンバー踊りと掛け声、司会を担当し、歌は担当していない。イベントにはオーストラリアからアボリジニの人々も参加していたようである。

概要として、タイトル (仮称を含む) と内容を簡略に記す。

保存会パフォーマンス前半:

- 【0:00:17】 司会開始。
- 【0:02:23】 ♪ 演目 1 「utarebunbarewa (utareobunbarewa)」 日川キヨ、日川キク子の交互唱
- 【0:03:51】 ♪ 演目 2 「豊年踊り sicocoy coyna」 キヨ媼の歌い出しからほどなくキクも参加して 1 番は 2 人のユニゾン、2 番以降はキク、キヨの交互唱。
- 【0:05:52】 ♪ 演目 3 「saruki us nay」 キヨ、キクの交互唱
- 【0:08:58】 ♪ 演目 4 「鶴の舞 hundori huncikap」 キヨ、キクの交互唱
- 【0:12:17】 ♪ 演目 5 「弓の舞 ku rimse (iya koko nita roppon cikap) キヨ、キクの交互唱
～ 【0:14:01】 歌終了。

石井由治氏の単独パフォーマンス

- 【0:15:54】 打撃音の開始から 15 分ほど、石井由治氏の単独パフォーマンス。

保存会パフォーマンス後半:

- 【0:32:07】 女性のナレーション、剣の舞の紹介から後半開始。
- 【0:32:41】 ♪ 演目 6 「剣の舞 (hei o a hei o ho ~ an ho hoy ~ he ha ha hei huhuhu ~ auho ha auho)」 キヨ、キクのユニゾン
- 【0:37:51】 ♪ 演目 7 「色男の舞 (a okkay kay ci sa~ a sore, nimba nimba nimba)」
キヨ、キク ユニゾン
- 【0:41:38】 ♪ 演目 8 「色男の舞 (a okkay kay ci sa~ a sore, nimba nimba nimba)」
演目 7 と同じ内容。アボリジニのマイク氏がゲスト参加で色男を演じたもの。
キヨ、キク ユニゾン
- 【0:47:07】 ♪ 演目 9-1 「Mukkuri 演奏」 キヨ
- 【0:48:46】 ♪ 演目 9-2 「Mukkuri 演奏」 キク

【0:53:00】 保存会からアボリジニの人々に舞台上でマタンプシ（鉢巻）を贈呈

【0:56:14】 ♪ 演目 10_「踊り比べ ((a) essa o hoy a hoyya o hoy)」 キヨ独唱
～ 【1:01:10】 ha ee yassa ～ 【1:02:06】 yayraykere の一言で 【1:02:07】 歌終了。

【1:05:29】

以上 新宿三省堂H_931114 新宿三省堂ホールにて収録

8 : 1994年5月18日 (ファイル名 : Kiy940518) 1°36' 16"

千葉：うん、じゃあ、そうですね

キヨ媼：新たに、初めからね

千葉：うん、ちょうど、ほら、時計の音、入っちゃったでしょう。

キヨ媼：はい。それを、ま、巻き戻しましたか、はい。

千葉：はい。巻き戻しました。

キヨ媼：はい。【0:00:29】 ♪huttare coy ara hunna huy (フィーに近い、 ara は are とも歌う)

～ (以下、歌詞略) ～ 【0:01:41】 hukku coy ara hukku ～ (以下、歌詞略) ～ 【0:03:53】

千葉：朝っぱらからきついんじゃないですか？

キヨ媼：ん、

千葉：朝っぱらからこわくないかい？

キヨ媼：うん。

千葉：いつも同じだとつままないから。□□□□。

キヨ媼：それから何やんの？

千葉：ん？で、その、

キヨ媼：鶴ん

千葉：フッターレチオイってね、

キヨ媼：うん。

千葉：やる、何ですか、あの、どれが1回って決まって、全部1回ずつなの。フッターレーチュー、

キヨ媼：ara hukku、一番先にね、hukko coy ara hukku、huttare coy っていくでしょう？ それから、また、hukko coy ara hukku って一番あとから歌うでしょ。

千葉：うん。

キヨ媼：はい、歌いましょう。

千葉：フッターレーチューイ、アーラーフンナーファイっていうので、

キヨ媼：はい。

千葉：あの、1つの区切りでしょ？

キヨ媼：うん、そうそうそうそう。それ、

千葉：あ、それ□□

キヨ媼：それから、これになったら、今度、♪hukko coy ara hukkun, hukku cuy ってやんの。

千葉：その、何ですか？フッターレーチューイ、アーラーフンナーファイっていうのは、1回目も2回目もずっと同じ？同じ？

キヨ媼：同じ。

千葉：同じでいいの？

キヨ媼：同じくって、それから、

【0:05:00】

キヨ媼：こういうふうにして、髪が、こういうふうにして、振ったときに、

千葉：うん。

キヨ媼：フ、フッコーチョイ、アラフでない、フ、フッコーチョイアラフッコーこうやるの。

千葉：節も、あの、1回目も2回目も全然変えないでやるでしょう？

キヨ媼：ああ、そう。

千葉：上げたり、下げたり。

キヨ媼：もう、はい、はい。あとは何やりますか。何々入れてます？（笑）

千葉：えー。昔、あの、阿寒で、あの、何ですか、歌を歌っていたっていう、こう、記録っていうんですか、それがあまして、あるんですよ。

キヨ媼：昔はね。

千葉：ね、阿寒でこういう歌を歌っていたっていう、そういうの、

キヨ媼：そうだ。たくさんあるってね、やっぱり決まってるんですよ、歌もね。たくさんあるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：踊りにやるときに、お客さんに見せるときには、この歌だとか、

千葉：うん。

キヨ媼：熊祭りのときは、この歌だとか、

千葉：うん。

キヨ媼：それで決まってるの、やっているの。

千葉：^{あきべ}秋辺カヨさんっていうのは、

キヨ媼：ああ？

千葉：^{あきべ}秋辺カヨさんっていうのは、フチの親戚？

キヨ媼：はい。

千葉：親戚ですか。おばさんか、なんか？

キヨ媼：うん、親戚になります。

千葉：親戚になりますか。

キヨ媼：はい。

千葉：うん。

キヨ媼：その人の歌、あ、あの、入ってますか？ どっかに。

千葉：うん、どっか入っているみたい。僕、まだ、ちゃんと、こう聞いていないけれども、

キヨ媼：はあ、はあ。

千葉：うん。

キヨ媼：あの人が一番だったからね、

千葉：うん。

キヨ媼：北海道一だったから。

千葉：うん、うん、うん、そうみたいですね。とってもいい歌だった、

キヨ媼：私の姉だったから、

千葉：姉なんですか。

キヨ媼：いどこ、いどこ姉。

千葉：ふーん。^{したからおとさく}舌辛音作さん、は、

キヨ媼：きょうだい、弟。あの、カヨさんの弟。

千葉：カヨさんの弟。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。あれ、シタカラさんって、

キヨ媼：シタカワラさんって、シタカワラさんは、なんにも、あんた、あの、娘〔こそ〕歌ったりなんか、あの、母親っていう人いたけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：その人も歌ったけどね。早くに亡くなったけどね。

千葉：前、あの、フチの、なに、旦那さんだったってこと、言わなかったでしたっけ？

キヨ媼：私の旦那か、

千葉：うん。

キヨ媼：その、あれ、シタカワラがかい？

千葉：うん。

キヨ媼：シタカワラでないの。あ、ああ、アキベカヨの、カヨの弟、私の旦那だったの。

千葉：それが、シタカラさんじゃなくて？

キヨ媼：シタカワラでない。アキベ、アキベ。

千葉：ああ、ああ、ああ、そう。

キヨ媼：アキベさん。アキベだよ。うん。

千葉：ふーん。いや、前ほら、前なんかのときに、シタカラオトサクさんって、フチが、なんか、名前を言っていたような気がしたからね。

キヨ媼：(笑) シタカラオトサク。

千葉：うん、うん、うん、うん。ああ、そうか。アキベカヨさんの弟さんだ。あれ、シモガワラ、

キヨ媼：シ、シ、

千葉：キサさん？

キヨ媼：ん？

千葉：シモ、

キヨ媼：シモカワラ、シモカワラっていう人、誰、シモカワラ、何？

千葉：シタ、シタカワラかな。

キヨ媼：シタカワラだべさ。

千葉：シタカワラ、

キヨ媼：シタカワラ、あの、サクコっていうのでねえか。名前、女でしょう？

千葉：シタ、シタガワラ？ シタガワラキサって書いてあるけど、

キヨ媪：キサ、キタ、

千葉：キサ。

キヨ媪：そうだ、女でしょ？

千葉：女、女だけど、あれだよ、

キヨ媪：うん。

千葉：もう、アキベカヨさんよりも20ぐらい上の人だよ。

キヨ媪：おお、そうだ、上だ。

千葉：うん。

キヨ媪：うん。ばあさんね。

千葉：ああ、じゃあ、シタガワラじゃなくて、シタカラかな、やっぱり、

キヨ媪：うんだ。

千葉：シタカラ？

キヨ媪：シタガワラだ。シタカラ、シタカワラ。

千葉：シタカワラキサ。

キヨ媪：うん。

千葉：ふーん。この人は？知っている人？

キヨ媪：知ってるよ。わたらの親戚になるおばあさんだったけどね。

千葉：ふーん。やっぱり、みんな、親戚。

キヨ媪：うん。みんな、親戚だ。

千葉：ヤマモトリセさんっていう人は、

キヨ媪：ヤマモトリセっていう人なんか、知らない、あの人、帯広の出身。

千葉：ああ、そうだよね。

キヨ媪：あの人、歌も、お、踊りもやらない人でしょ。

千葉：うーん。

キヨ媪：リセなんかいう、人、人、やったことないべさ。

千葉：ああ。なんか、ムックリ上手だったって。

キヨ媪：ええ、ムック上手だったって [いってね]。

千葉：ふーん。

キヨ媪：死んだべ、去年。

千葉：あ、まだ、ずっといたんですか。

キヨ媪：死んだよ、こないだ、

千葉：ああ。

キヨ媪：わしよりたくさん、若い人だもの。

千葉：うーん。

キヨ媪：去年死んだんだ□□。

千葉：あ、そうなんだ。

キヨ媪：うん。

千葉：なんか、ずっと病気してたって聞いた□□

キヨ媪：弱かったね。

千葉：ふーん。

キヨ媪：ああ、そうなんだ。ふーん。そうか。

千葉：日食のときの、なんか、おまじないの歌って聞いたことあります？チュ□□

キヨ媪：ありますね。

千葉：cup kamuy ho っていうような歌だと思う [んだけど]、

キヨ媪：cup kamuy ho、わしの子ども時分、聞いたのはね、♪cup kamuy ho、erayna ho、

【0:10:00】

キヨ媪：yay nu ka ho って言ったのに、ヤイヌカったら、あ、み、あの、見ているから、あの、頑張んなさいっていう意味だべさ。ね、ヤイヌカホって。

千葉：ふーん。nukar？

キヨ媪：うん。【0:10:00】♪cup kamuy ho、え、な、あの、エライナホっていったな。

千葉：うん。

キヨ媪：♪e rayna ho yay nuka ho っていうよ。私が子ども時分だつと□なんも分からなかった□□。

千葉：うーん。

キヨ媪：そう、そういうのやって。

千葉：そうか。地震のときなんていうのは聞いたことあります？

キヨ媪：地震？

千葉：うん。コウテッケク スネナって、コウテッケ クスネナかな。

キヨ媪：地震のかい、

千葉：うん。

キヨ媪：私のほうは地震のときにはね、あの、なんにもね、

千葉：うん。

キヨ媪：わし、子ども時分に、そんな聞いたこともないけど、わしらのほん、聞いたこ、ただね、okokokse ってやるんだ。

千葉：オココ？

キヨ媪：オココッセ。

千葉：あ、オココクセ、うんうん。

キヨ媪：うん、【0:10:59】♪オホホホホホホー、kamuy utar nukar an na 一オホホホホホホー ってやるんだ。

千葉：うん。

キヨ媪：うん。そうしたら、神さん、お願いしますって。

千葉：うん。

キヨ媼：今ね、

千葉：うん。

キヨ媼：こういう、あの、こと、地震になってるから、神さん、見ててくださいって、何事もなく地震、静かになるようにって、okokokse やったもんだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：地震のときと、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、^{かみなりな}雷鳴るとき。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それ、だ、それだけだ、わし、子ども時分に聞いただけね。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：私らなんか、あれだもん、何かつてもさあ、困ったことだとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：かな、あの、喜びのときとかっていうのは、必ず okokokse やるんだ。

千葉：うーん。

キヨ媼：これは、女も男、女まあ、年とった人な。

千葉：うん。

キヨ媼：男ばかり、こう、ほとんどやることであっても、女の年のとった人、ようよう、つらいことあったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：あーって okokokse やって、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、あの、あ、何事もないようにって、言ったもんだけどね。

千葉：うん。女の、若い女の人は？

キヨ媼：若いものも、年寄りも、おな、若いもの、やらないべさ、そんなの。

千葉：女の人は、女の人もやるんですか？ とし、とし、

キヨ媼：そうだよ、私、やるよ。

千葉：オホホホホって？

キヨ媼：そう、やるよ。私は、必ずね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、飛行機乗るときも、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、何事もなく、札幌ったら、札幌、東京だら、どこまで、何事もなくお願いします、カンドコロカムイったら、天の神様お願いしますって、心がけてて、今度、今、飛行機をね、^あ上がるでしよう？上がったら、okokokse やるの。オホホホホホホー、

千葉：ひこ、飛行機のなかで？

キヨ媼：ka, kamuy utar、あ、コタ、あの、カンドコロカ、カンドったら、上の、あの、てん、天の神様、お願いしますって、わしの、乗れば必ず言うの。言って、

千葉：飛行機のなかで？

キヨ媼：飛行機で言うのさ。

千葉：オホホホホーってやる、

キヨ媼：まあ、そうやらないでって、

千葉：みんな、びっくりでしょう。

キヨ媼：心で、

千葉：心のなかで、

キヨ媼：ええ。心でやんの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：わ、あいみて、わし、女も男も、そんなのことする人いないべ？

千葉：うん。

キヨ媼：私だけだ。

千葉：うん。

キヨ媼：自分の気持ちでね、よろしく、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、天の神様頼みますって。ねえ。

千葉：うん。

キヨ媼：そう言って乗りました。(笑)したら、何事もなく、今まで、ねええ、

千葉：そうだね。

キヨ媼：過ごしてきました。

千葉：ふーん。え、じゃあ、その、昔の、年とった女の人がやるってのは、あの、心のなかでなくて、ほんとにやるの？

キヨ媼：やるよ。

千葉：本当に声出して、

キヨ媼：うん。

千葉：オホホホー、

キヨ媼：本当に、年、年とった人、うん。若い人がやんなきゃ年のとった人やる。

千葉：ふーん。□あ、やったかもしれないね、□っとね。

キヨ媼：うんだよ。

千葉：うん。ふーん。なるほど。cupkawa kamuy ran っていうのは、前歌いましたよね？

キヨ媼：そうだ。【0:14:06】♪cupkawa kamuy ran iwa tessam oran iwa tessam konkani maynu cinu っていう、

千葉：atuyso kata っていうのは？

キヨ媼：atuyso kata もやったが、atuyso kata っていえば、あの、atuyso ったら、この海の上でし

よう？

千葉：うん。

キヨ媼：〔馬〕（不明）でも海の上、【0:14:28】♪カーター、アン、アトウイソーカーター、あの、♪エカイヤーオー、カイヤーオー、カイクミランクエっていえば、まあ、その、船、かいて、丸木舟をかいて、あー、いるっていう意味だべさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それで、やってみて。

千葉：カイ、カイクマランケっていうときもある？

キヨ媼：うん。【0:14:51】♪アトウイソーカーター、エーカイヤーオー、カイヤーオー、カイクマランケっていつて、

【0:15:00】

♪アトウイソーカーター、エーカイヤーオー、カイヤーオー、カイクマランケって。なんでも□□□□□□

千葉：うん。トキナハムって何だか分かるだろうか。

キヨ媼：トキナハンカムイっていうべさ。トキナハンった、トキノハン、トゥ、【0:15:25】♪トキノハン、つたら、ム、私もよく分かんないけど、その、山にね

千葉：うん。

キヨ媼：結局、あの、おい、おがってるもんだんなね。

千葉：うん。

キヨ媼：ハンね。【0:15:37】♪トキノハン、カームイ、コーレムシサーンケっていつて、終わったけど、トキノハンつたら、結局、早いところいえば、食べるにいい、あの、草なんだね、青草なんだね。それを、あの、その下には必ず、その、近所には、神、神さんいるっていうことなの。

千葉：あ、キナか、ト、トキナ、

キヨ媼：そうだ。

千葉：ああ、ああ、ああ、そうか、そうか、□□□、

キヨ媼：そうだ。【0:16:07】♪トキノハン、つ、その、トキノハンっていつたら、その、生える、その、草。

千葉：ト、ト一つつたら、じゃあ、湖かい？

キヨ媼：い、トキノハン、

千葉：うん。

キヨ媼：トゥキ、【0:16:17】♪トキノハン、トキノハンっていうの、その、草あったんだと、食べる草。

千葉：うん、うん、うーん。

キヨ媼：この、今ならポクサっていうべさ、わしらな、

千葉：ポクサ、

キヨ媼：きた、うん。

千葉：あ、pukusa？ これ？

キヨ媼：うん、プクサな。トキノハンっていう、その、あの、青ものあったわけ、青いやつな。

千葉：うん。い、今でいうと、な、何のことだか、分かんない？

キヨ媼：わ、分かる、あの、そんな草あんだ。

千葉：今でもある？

キヨ媼：う、あるある、うん。

千葉：うん。

キヨ媼：その、その、そこにね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、そこの、山で、

千葉：うん。

キヨ媼：そのトキノハンっていうものを、たくさんおがってると、

千葉：うん。

キヨ媼：そういう、食べもので、食べるにいいもんだ、

千葉：うん。

キヨ媼：ね、人間も食うに、クマも食うと。

千葉：うん。

キヨ媼：そこに神さんは、トキノハンの神さんたら、いち、いるわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：結局ね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：そういうもの、あの、コロ、あれ、フキも。コロボックルっていつてるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：だから、トキノハン、カン、ト、トキノハンっていう草の、ど、たくさんあるところに、神さん、い、いるっていう、その意味でウポポやったらしい、やっていたんだよね。

千葉：そのトキノハンってどんな草？

キヨ媼：トキノハンったらね、なんていうのかな、ポクサにも似てるしな、こう、葉っぱおいたりね。

千葉：うん、いつごろ生える草？

キヨ媼：これから生えてくる。

千葉：これから生えてくる。なんか、ほかの呼び方ってないんですか？

キヨ媼：ないよ。わしら、トキノハンだけだ。

千葉：トキノハン。ふーん。誰でも知ってる？ トキノハムつつたら。□□□□□□

キヨ媼：若い人は知らないわ、年寄りだろうね。

千葉：若い人たちは、じゃあ、食べない、

キヨ媼：若い人でも、年寄りでも、年寄りとったやつ〔あれば〕、食べるべ。

千葉：ああ。そうか。ふーん。なるほど。え、それ、どんな、どんなウポポだって？

キヨ媼: 【0:18:06】 ♪トキノーハーンカームイーコーレムシサーンケーって、あの、トキ、シヨ、こ
ういうふうにしてやった、♪トキノーハーンカームイーコーレムシサーンケー、トキノーハーンカ
ームイーコーレムシサーンケー、トキノーハーンカームイーコーレムシサーンケーって、そうやってや
ったけ、やったけどね。

千葉: うん。なるほど。これは、

キヨ媼: サンケ、

千葉: 踊る、踊るわけ、踊るのかな。

キヨ媼: 踊り、みんな、これ、大勢でみんな手たたいて、こうやって大勢で、【0:18:50】 ♪トキノー
ハーンカームイーコーレムシサーンケー、トキノーハーンカームイーコーレムシサーンケー、ホーイ
ホイって、みんな大勢で、手たたいて、こうかわったり、こうやったりして踊ったもんだもの、昔ね。

千葉: うん。なるほど。

キヨ媼: 分からん。

千葉: こっちのほうじゃあ、ウコウクするウポポってのはなかったんですか。

キヨ媼: ウンコウ、あるべさ、ある、みんな。ウコウ [ク] ってやれば。何か、かにかやってる、あ
の、あるわやな、その、

千葉: なんか、音頭がいたら、同じことを繰り返して言うのが多いですよ。

キヨ媼: そうだ、そうだ。こうやって、よ、あのね、

千葉: 代わり番こにね。

キヨ媼: うん。かわ、かわる、か、番こ、番こでな。

千葉: うん。

キヨ媼: 早くいけば、あの、atuy、

千葉: なんか、ほら、よく、

キヨ媼: 違う、

千葉: うん、

キヨ媼: 何たっけな。いろいろな、たくさん、[いっ] ぱいあんだけど、やったことないと忘れるも
んどもね、これね。

千葉: うーん。

キヨ媼: それで、それで、今は、こ、この、

【0:20:00】

こうやって声出したら、まだ、隣の人、こういうふうにしていくって、そういうウポポも、やっぱり、
ぐ、たくさんあったんだけどね。

千葉: うん。

キヨ媼: もう、やったことないから、忘れてしまって。頭も悪くなったから。

千葉: まあ、ねえ。あの、なんか、そのテープ見つけたら、持って、持ってきますよ。ね、そしたら、
思い出すかもしれないもんね。昔のそういうの。

キヨ媼: [モププ] (不明、もウポポ、か?) な、あったと□□□□。

千葉：フンナカオっていうのは知ってる？ フンナカオ、くまお、熊送るのときの。

キヨ媼：あお、知ってるよ。それやったら。

千葉：タンチキサニアマテピオっていうの、

キヨ媼：え？

千葉：タンチキサニアマテピオ。シタカラさんが歌ってたって。

キヨ媼：ハン、ハンチキカムイ、

千葉：タン、タンチキサニ、

キヨ媼：(笑)

千葉：なんだか分かんないね。んー。なんか書いてあんだけどね、いろいろ書いてあんだけど僕節が分からないから。

キヨ媼：[な] んだか。

千葉：うん。

キヨ媼：うまく、く、その、な、な、なんでも、こう、なんか、長く、ふし、し、し、節つけてやればいいんだ。

千葉：うーん。

キヨ媼：【0:21:17】 ♪アウンナカ オオオオ オアウイ イイイン、フンナカ オオオア アアンア ペウレエ レーカー ウウ ア ウンナカ オオオオ オオオアウウウ ウウウンナ ウンナカ オオオア アアアン ペウレー レーカー ウウ、こう、こういうウポポがある、これ、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ペウレー レーカーったら、

千葉：うん。

キヨ媼：書いてるでしょう。

千葉：うん、いや、そ、そこまで書いてないんだわ、これ。フンナカオーしか書いてない。ペウレつつたらあれだね？

キヨ媼：【0:21:51】 ♪ペウ、ペウレエエーカーったら、クマの、こ、ペウレ、小さいクマを声出してるっていう意味になるでしょ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：レエーカーっていうんだよね。

千葉：うん。ハンレイレイホーハー、

キヨ媼：ん？

千葉：ハンレイレイ、ホーハー、

キヨ媼：【0:22:12】 ♪ハンデーレエエ、ハンドゥーレエエホーワハーツホー っちゅうやつでしょう？

千葉：ハントリ？

キヨ媼：【0:22:20】 ♪ハントゥーレエエホーワハホー、ハンドゥーレエエホーワハホー、ハンドゥーレエエコーワハッコー、ハンドゥーレエエコーワハホーって。シア、ハンドゥーレエエホーワハホーって。

千葉：うん。□□□□。

キヨ媼：それ、誰やった [やつだ] ？

千葉：ハントーレーワ。これは、わ、分かんないな、2人って書いてあるだけだ。

キヨ媼：え？

千葉：誰かが2人でやった、だから、アキベさんかシタカラさんか、シタガワラさんか、ヤマモトさんか、2人でやってるっていうんだから、誰だろう、アキベさんと、

キヨ媼：【0:23:07】 ♪フン□□□ イエーホー□□、たくさんあったんだけどね、ウポポもね。もう、あの、やらないの。やらないから、もう、たまに思い出すけどねえ、ああ、こんなのあったんだなあ、あんなのあった、思い出すけどね。

千葉：これ、【0:23:31】 タンコタンシルクルクシペカニコンタハイメノコカイペーフルカイペーコジヤヌコジヤヌコイレッタコイカイナって知ってる？

キヨ媼：それ、うんと、やっぱり、あったんだな、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、【0:23:46】 ♪タンコーターンシルクルクシペーカニコンダ、メノコカイペーフルカイペー、ハイ、コジヤヌー、コジヤヌー、コイレッタコイカイナって、そういうウポポもあったけどね。【0:24:02】 ♪タンコーターンシルクルクシペーカニコンダ、メノコカイペーフルカイペー、ハイ、コジヤヌー、コジヤヌー、コイレッタコイカイナって、んーまり□□ー

千葉：なんか民謡みたいだね、ちょっとね。

キヨ媼：え？

千葉：ちょっと民謡みたいだね。ね。

キヨ媼：そうなの、それ。昔、それで聞いたことあるよ。したけど、今の人はこんなのやらないけどね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そんなの踊れたってないべ、ただ、こうやってやるぐらいでもってね、あの、手拍子でもって歌うぐらいと思って、昔聞いたことあるから、歌うぐらいのもんで、これに対して、こういう踊りだっということはないでしょう。ただ、手拍子だけ、【0:24:45】 ♪タンコーターンシルクルクシペーカニコンダー、メノコカイペーフルカイペー、ハイ、コジヤヌー、コジヤヌー、コイレッタコイカイナ、ハイハイってこういって。

【0:25:00】

千葉：ふーん。

キヨ媼：それ、聞いたやつ。

千葉：なんか、はやり、はやり歌だね。

キヨ媼：そうなんだね。

千葉：うん。ふーん。うんー。なんか、昔は、たくさんあったみたいだけど、なんか、かけ声が多いみたいで分かんないね、節。

キヨ媼：分からない、分からない、たくさんあるでしょ、そこで。

千葉：うん。

キヨ媼：うーん。

千葉：フンチャーフーン、フレンデンてのは？

キヨ媼：え？

千葉：フンチャフレンデン、フンチャーファイヨーって書いてある。

キヨ媼：【0:25:29】♪フンダーワーホレンネー、フンチャーアーハホイ、っていうんだか？ 【0:25:37】

♪チャーアアーホレンネーエ、フンチャーアアーハッホイヨ、フンチャーアアアホレンネエエ、フンチャーアアアハホイヨーって。

千葉：うーん。これは別に、い、言葉の意味はない、

キヨ媼：言葉、【0:25:55】♪フンチャーアアホレンネーエフンチャーアアーハッホイ、これ、意味はねえ、分からないな、私。

千葉：どんなときやるんですか？ これ。

キヨ媼：これ、みんな、集まって飲んだり、カムイノミやったりするときにやるんだよ、これ。

千葉：みんな、こう、輪になって。

キヨ媼：うん。みんな輪になって。いろいろね。

千葉：こうやってたたきながら。

キヨ媼：うえ、この、要するに、この、はやしみたいなものだね、これね。【0:26:20】♪チャーアアアホレンネーエフンチャーアアアハッホイヨ、チャーアアンナホレンネエエエフンチャーアアアハホイヨーって、

千葉：うん。

キヨ媼：大勢でみんな、こうやって、こうやって、みんな手たたいて、や、やったの聞いたことありますけど。

千葉：ふーん。

キヨ媼：私はやったことないんですけどね。

千葉：ああ、そうなんですか。

キヨ媼：聞いたことはあるけど。

千葉：ああ。

キヨ媼：はい。

千葉：へえ。

キヨ媼：でも、今のはやりの歌、みんなね、

千葉：うん。

キヨ媼：やるウポポばかり、みんな、やるからね、昔のウポポってやる人いないからね。

千葉：うーん。

キヨ媼：っと、あの、たいてい、みんな、同じこと、同じこと、1つことを歌って、集まったらね、歌うぐらいと思って。

千葉：ふーん。なるほど。たくさんあるけどなあ、あの、

キヨ媼：なんか、まだあった？

千葉：ん？

キヨ媼：いろいろあるでしょう？

千葉：うん。いろいろあるけど、その、そういう、そういうような、ほら、かけ声みたいの多いでしょう。

キヨ媼：□□

千葉：ホイヤーホホイセセンナラーとか書いてある。

キヨ媼：【0:27:32】 ♪ホイヤーホーホーイー、ホーホンナーラー、ホイヤーホーホーイーホーホンナーラーって、なんだべさー、そう、そういうウポポもあったべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:27:46】 ♪ホイヤーホーホーイーホーホンナー、かけ声だべさ、これ。

千葉：うーん。

キヨ媼：【0:27:53】 ♪ホイヤーホーホーイー、ホーホンナーラー、ホイヤーホーホーイーホーホンナーラーって。

千葉：うーん。ヘレカンホーっていうのは知ってます？ へ、

キヨ媼：ああ、や、

千葉：ヘレカンホー、ヘレカンホー、ヘレカンホー、ヘッチョイアウホーイ、

キヨ媼：【0:28:17】 ♪ [へーレカーンホーオオオ、へーレカーンホーオオオイ、へーレカンホーホ、へーちょい、アウホッ、へーレカーンホーオオオ、へーレカンホ、ホ、へーレカンホーオオオ、へーちょい、アウホッて、こ、これも、これは踊りあんだね、こういうね。 ♪へーレカーンホーオオオ、へーレカーンホーオオオン、へーレカンホーホ、へーちょい、アウホー、へーレカーンホーオオオ、へーレカンホーホイ、へーレカンホーオ、へーちょい、アウホー、ウン、へーレカーンホーオオオ、へーレカーンホーオオオ、へーレカンホーホ、へーちょい、アウホー] って。

千葉：ふーん。これ、なんか、屈斜路かどっかでやっていました？

キヨ媼：あ、

千葉：屈斜路かどっかでやってたかな。

キヨ媼：屈斜路、

千葉：うん。この、このあたりの保存会でやってた、

キヨ媼：ヘレカンホーかい？ ヘレカンホーやっていないな、こっちも。

千葉：やってない、どっかで聞いた、聞いたような気がする。

キヨ媼：ヘレカンホーね、阿寒湖でまりも祭りのときやった。

千葉：阿寒湖、ああ、そう、ああ、そうですか。

キヨ媼：私、いるときにね。

千葉：うーん。

キヨ媼：私、歌って、みんなの踊った、踊る、

千葉：なんか、あれですよ。

キヨ媼：大勢で。

千葉：スチョイじゃないけど、なんか、あんなような踊りですよ。

キヨ媼：そうだぞ、あんな踊りみたいなもんだんだ。

千葉：ねえ。なんか、何なんですか。

キヨ媼：うん。うん。

千葉：種まきじゃないけど、

キヨ媼：うーん。種まきじゃないけど、そのはやしの歌って、いろいろあんだとか、これは、その、いろいろ、

【0:30:00】

こういうふうにしてやった、うん、まあ、いろいろ、意味があったんでないかい。

千葉：うん、あれは、踊りには、なんか、意味ってあるんですか？

キヨ媼：踊りは、こういう、歌に合わせて、この踊り、あの踊りってあるよ。

千葉：なんか、ほら、その、

キヨ媼：早いところいえば、豊年踊りの踊りは、こういう歌でしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：で、ヘレカンホーはこうだっていえばね、

千葉：うん。ヘレカンホーっていったら、何の踊りなんだろうね。

キヨ媼：[ヘレ、ハウ、ぜばね]、あの、あの、ああ、私、ちらっと聞き、子ども時分聞いたけど、あの、[早いところいえば]、ふ、船、

千葉：うん。

キヨ媼：船かいてね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、あれしたときの、踊りだっというけどな。

千葉：フエ？

キヨ媼：うん。

千葉：あれかね。

キヨ媼：あの、丸木舟の、あ？

千葉：ペ、ペカンペかなんかのやつかな。

キヨ媼：え？

千葉：ペカンペをとるとか、そういうこと？

キヨ媼：うん、そういうとこ、こうやって結局、かい、かくと、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度、あ、かいてるところ、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、あの、カッコと、

千葉：うん。

キヨ媼：で、こ、こうやっていけ、いけば、こうやっていけば、結局、あの、今風にいえば、こういくとか、ああいったとかっていう意味でないんでかい。そしてやっていたけどな。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：昔の人な。

千葉：うーん。なるほど。

キヨ媼：うん。(笑)

千葉：あのねえ、

キヨ媼：お湯、やるか？

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ、お茶いれてやる。

千葉：うん。

キヨ媼：ぬるくなったね、

千葉：うん。そう、ちょっと入っている

キヨ媼：もしくは熱くするか。

千葉：ん、いや、いいよ、いいよ。

キヨ媼：ぬ、ぬるいか。

千葉：うん。

キヨ媼：いいか、少し。

千葉：うん。したからで

キヨ媼：たくさんあるけどもう分からないね。

千葉：前ね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、クットモレット、おし、教わったでしょう？

キヨ媼：んー。

千葉：それd、

キヨ媼：どうしたか、どした。

千葉：あのね、そのときにね、

キヨ媼：はい。

千葉：2回ずつやるって言ってたんだ。

キヨ媼：え？

千葉：2回ずつやるって言ってたの。

キヨ媼：ああ。

千葉：で、意味がね、分かんないですよ、僕、それ。

キヨ媼：うん。

千葉：どうやんのか。

キヨ媼：分からない、

千葉：うん。それで、あの、これはね、そん、そんなときの録音なんだけどね。

キヨ媼：ええ。

千葉：あの、僕が、その、おばさんにね、クットモレットを、ちょっとゆっくりやってくれって言ったんですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：分からないから。

キヨ媼：うん。

千葉：速いと分からないからつつつてね。

キヨ媼：うん。

千葉：それでやったときのね、テープ。

キヨ媼：□□□□、□□□

千葉：ちょ、ちょっと、ちょっと、かけてみますね。

キヨ媼：え？

千葉：ちょっとかけてみるね。

キヨ媼：うん、かけてごらん。

千葉：うん。

【0:32:37～ 録音テープの再生開始】

千葉：すごくゆっくりってできますかね。すごくゆっくり。アアアアじゃなくて、ア、ア、ア、アってできますか。

キヨ媼：や、やって、そう、やれるさ、

千葉：できますか、それ。

キヨ媼：♪ [アーアアエーイイイイイエエエエアーアアアアアーアアウアアアアイエエエエエヤア、アウンアアアアアエエエエアーアウン、なんでもこうね、2つ、2つ繰り返してやんの。こう、2回、2回、繰り返してね、♪アーウウアアアーウーイエエエエアウ、アウウウウ、アーアアアイエエエエエーヨ、アーウアイエエエエアーアウ] って、こう、なんでも2つ、2つ、くり、繰り返して、こうやる

【0:33:32 録音テープの再生終了】

キヨ媼：(自分のコメントをさえぎるように) ああ、そうですか。

千葉：2回、2回って言ってるでしょう？

キヨ媼：え？

千葉：2回、2回つつつて言っているでしょう？

キヨ媼：うんだ、うんだ。いろんなこと言ったんだな、したら、悪いこと言えねえなあ。(笑)

千葉：真面目に聞いてんだからね。

キヨ媼：♪ [アーアアエーイイエエー]、あーあ、郵便来たな。

千葉：新聞、とってこようか。

キヨ媼：入ってこない。そこさ入れておくんだ。

千葉：ん？ ああ。

キヨ媼：こないべさ。

千葉：もらってこようか

キヨ媼：はあー、あああ。

千葉：これ、2回ってなんのこと言ってんですか？

キヨ媼：はあ？

千葉：2回、2回ってのは。

キヨ媼：なんでも繰り返して2回やるっていうんだべさ。

千葉：何、何を2回繰り返すの？

キヨ媼：繰り返してやる、この、声が2回ずつやってるっていうんだべや。♪アーウウウアーアエーエエエアーウウウアーイイイアーウって、こう、繰り返して2回やっているっていう、いうんだべや。

千葉：どれが1回、

キヨ媼：え？

千葉：どれが1回なの。

キヨ媼：どれでも同じことを、同じこと、2回ずつやるっていうんだべや。

千葉：うーん。

キヨ媼：♪ウウウ、アーアウウウ。待ってや。

千葉：お茶飲んでからね。

キヨ媼：お茶ね。なんかしゃっこくなったらどうんならん。なかなか、今、やる人って、もう、いないからな。

【0:35:00】

キヨ媼：おらも、分かんなくなったで。

千葉：うん。

キヨ媼：お、忘れちゃったな。そんなの聞いて、あんた、どうするんですか。

千葉：どうすんでしょうね。

キヨ媼：ば、ばあちゃん死ぬ前にやったこと、ちょっと、

千葉：いいでしょう、でも。□□□ばあちゃんの□□□□□□□□

キヨ媼：あ、ばあちゃん死んだ、はあ、もう、や、やることない、はい。はい。ええ。

千葉：あ、はい。

キヨ媼：ばあちゃん死んだ、もう、行くところない。ばあちゃんとかさ、行くことない。誰もいない。だけど、さびしいもんだね、これ、死んでしまったらな、なんもならない。

千葉：うーん。

キヨ媼：なあ。あと何かあるか？

千葉：いやあ、その、どれが1回なんだかね、その、

キヨ媼：え？

千葉：【0:36:23】♪アーアアアオーっていうのが、1回？ 【0:36:26】♪アーオオ オーオオアエーエーエー、

キヨ媼：そう、1回、1回だべや。

千葉：どれが1回？

キヨ媼：繰り返す。え？

千葉：♪アーオオオーっていうのが1回？

キヨ媼：うん。

千葉：もっと先までいく、

キヨ媼：そうだ。なんでも先に声出したやつ1回だべや。2回、3回っていったら、3回だべ。

千葉：♪アー、こ、くるくる、何、節を、こう、

キヨ媼：そうさ。

千葉：こう、□□曲げるのが1回？

キヨ媼：♪アーアアアオオオ アーアイエエエエ アーウンンン ナアオエエエエーアーウンンン、

千葉：(笑) どれ、どれが1回なの。

キヨ媼：えい、えい、

千葉：それ、困ったなあ。

キヨ媼：困ったな、おらも困るだ。そったなもの聞いてどうすんだい。

千葉：え？

キヨ媼：なにすんだ [そったなもの]。あの、サルルンカムイのね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、鶴の舞のやつやって、ここで、わし、やってたんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：それがねえ、なかなか、みんな、覚えて、お、やる気、い□、できないんだわ。

千葉：うーん。

キヨ媼：もう、私、1人で声出すってより、2人いれば2人で声出すべ、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、あの、だ、あの、できないんだわ、初め、みんなね、

千葉：うんー。

キヨ媼：うんだ。さ、あんた、やってごらん、サルルンカムイ、ちよい、

千葉：いや、難しいもん、あれ。

キヨ媼：□□や、それがねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、今度ね、あの、あれだ、福島、福井、福井さ、行くんだわ、

千葉：うん。

キヨ媼：8月に。

千葉：うん。

キヨ媼：そんなときには踊り、全部や、やるんだ、向こうで。

千葉：うん。

キヨ媼：3日間っていうものな。

千葉：あれ、踊りは、だって、こうやって、あの、やる、踊り？ おんなじ？ なんか、こんな、こんな、袖持って、

キヨ媼：うん、それ、いろいろあるべや。

千葉：あれ、フンドリと同じ、□□□□

キヨ媼：そうだ、いろいろある、まず、鶴の舞とか、

千葉：うん。

キヨ媼：剣の舞とか、弓の舞とか、それから今度、あの、豊年踊りだとか、それからサルキウシナイってあるべさ？

千葉：いや、その、サルルンカムイの踊りをね、

キヨ媼：うん。

千葉：フンドリと同じ、

キヨ媼：みんな、同じさ、こ、こうやって、

千葉：でも、サルルンカムイのほうが、ちょっと遅いでしょう、テンポが。

キヨ媼：うん。

千葉：あの、拍子が、お、速さが遅いでしょう。

キヨ媼：遅い、

千葉：ゆっくりでない、だって、

キヨ媼：そうだ。私のは、【0:38:57】♪ [サルルンカムイー、アーエーエエエエン、アーアホーイイイイアホーイホー] っていくべさ。ね。それ、終わったら、♪ [ホーブーニーエートーオオ、ハアーエーエエエエ、アアアエホー、アアアンホーイエホーエエエエエ、エーネーオーカーイイイ、アアアアーエエエエアアアー、ケエエエンア、コーオオイコーオオ] っていくべさ。これ、しまい、ホーブーニーエートっていくべさ。それか、ホブニでない、エネオカイって、一番しまいにいくべさ。そうしたら、この場所、教えてやれば、今度、2番、今度3番に歌ってみて、まあ、どうもならん。

千葉：でも、あの、もし、ほら、同じ踊りでもね、その、サルルンカムイだったら、♪サルルンカムイーって、ゆっくりでしょう。

キヨ媼：おお。

【0:40:00】

千葉：だけど、フンドリだったら、もっと速いでしょう。

キヨ媼：うん、□□いね、

千葉：♪フンドーリーイって、ちょっと遅い、もうちょっと速いでしょう。

キヨ媼：うん、したからね、これはね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、歌に合わせていくんだから、遅くいつているっていうことになんの。

千葉：うん、踊りは、じゃあ、どっちでも、ね。

キヨ媼：ああ、そうだ。

千葉：ゆっくりでもいいよね。

キヨ媼：だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：今ね、阿寒湖の人ら、フンドリっていつてるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、私は、ここで自分がサルルンカムイって行くから、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、覚えてくれっていうのさ。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。1人か2人、やっぱり、1人で、こえて、出すにいいけど、やっぱり、みんな、覚えてもらわなかったら困るでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：1人でも2人でもね。おら、いつ、やめるっていうか、死ぬんだか、分からん年なんだから、覚えてくれっていうてやらせればね、サルルンカムイって、は、いくべき。ホブニエトって2番目いくの。ホブニエトったら、あんた、知ってる？

千葉：飛んで、飛んで、

キヨ媼：うん、今、と、飛ぶね、前、前だ、でしょう、

千葉：うん。

キヨ媼：ね、で、いくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：一番ケツね、エネオカイったら、こ、この、これ、こんなものっていう意味だわね。日本の言葉でね。こんなもの飛べるか、飛べないかって、ケツにいうわけよ。それが、今度な、サルルンカムイって行くべき。したら、ホブニエトっていえったらね、エネオカイって、こういくわけ。3番さ、いってしまうの。

千葉：間違えやすいですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：それは。

キヨ媼：いやいや、おおさわ□□□□いの。

千葉：そうか。

キヨ媼：大変だよ、これね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、聞きやすっていうのは、フンドリっていつて、聞きやすいから、サルルンカムイって、いいか、どっち、この2つのうち、どっち聞きやすい？

千葉：聞きやすっていうこともないけど、サルルンカムイって、おばさん以外の歌で聞いたことな

いから、それ、やっぱり、みんなで覚えてたらいいいね。ここだけの歌、

キヨ媼：サルルンカムイっていったら、結局ね、あの、葦、葦原あしはらでほとんど鳥はいるでしょう？ だから葦原あしはらの鳥っていう早く言うところ言えね。ホブニエトっていうべさ。ホブニエトったら、今、飛ぶ前になっていう意味でしょう？ 一番後で、エネオカイっていったら、おまえみたいなやつ、飛べ、あの、どうなるかっていう意味でしょう。それで3番目でしょう。3番でまた繰り返して、サルルンカムイっていくでしょう？

千葉：うん。言葉は、ほら、まあ、覚えれば覚えるけど、あの、ほら、声の高い低いがあれば、分かりにくいですよ。【0:42:35】♪ [サルルンカムイー、ハアーアア、ホーオオオオオ]、あれ、なんだ？ ♪ [ハアーアアア、ホーオオオオオオ]、

キヨ媼：上手です。

千葉：♪ [ホーイホーオオオ、ホーブーニーエートー、ハアーアア]、あの、それ、フンドリと同じになっちゃってもいいんですけど。

キヨ媼：そうだよ。それでいけばいいんですよ、しか、

千葉：うん。【0:42:57】♪ホーブーニーエートーオオ、ハアーアア、ホーオオオオオ、ホーオオオオオオ、同じ、同じですか。

キヨ媼：うんだ、うんだ、それでいい。

千葉：♪ホーイホーオオオ、エーネーオーカーイーイイ、ハアーアアホーオオオオアーアアホーオオオオオアホーイホーオオオオ、

キヨ媼：うん、そうして、そうやって繰り返していくんだ。

千葉：はい。

キヨ媼：踊り、あの、終わるまでな。

千葉：うん。

キヨ媼：そう。

千葉：だから、♪サルルンカム、エーネーオカイ、ん、ホブニエト、♪エーネーオーカーイーイイって歌うけど、ほら、あの、お婆さん、時々、ほら、高く出るでしょう。♪エーネーオーカーイーイイって、なんか、高くなったり低くなったり、ほら、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：自由にできるじゃないですか。

キヨ媼：うん。

千葉：あれがね、できないですよ。

キヨ媼：やってやれないことやれり。なかなかね、もう、とつても、アイヌ、シャモの歌より、アイヌの歌のほ [うに]、あの、な、なんちゅうのかね、その、言えないっていうんだよ。うん。

千葉：あれは、あの、何ですか、その、声をね、こう、オオオオって震わせるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：あれ、震わせることはクットモレットとはいわないんですよ？

キヨ媼：違うよ。

千葉：あれは、

キヨ媼：同じクトモレットは、そっちの声、これは、あの、サルルンカムイの声、

千葉：うん。

キヨ媼：したって、同じ声出してるんでないべさ。こっちはな。

千葉：うん。

キヨ媼：鶴の、あの、声、歌とそれからクトモレットと、また違うべさ、節が。ね。同じもんでないんだよ。はい、そうです。

千葉：で、その、何ですか、その、オオオオって、こう、オオオって、こう、ね、喉をなんかやるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：ウウウウウって。あの、やる、やら、やるのをつけないで、なん、なんつんだろうな、

キヨ媼：あのね、

千葉：うん。

キヨ媼：いや、その節つけないでな、やるったら、

【0:45:00】

格好つかないんだわ。

千葉：つかないね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。それで、あの、

キヨ媼：したらね、黙って聞いているでしょう、みんなね。この、鶴の舞の、で、【0:45:08】♪ [フンドーリーフンチーカフ °、アーア、ホーオオオ、アーア、ホーオオオ、フンドーリーフンチーカフ °、アーア、ホーオオオ、アーア、ホーオオオ] ってこうい、いくでしょ。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり聞きづらいんだわ。そこで節つけないと。【0:45:25】♪ [アーアアアーホオオオオウ、アーアアアーホオオオオウ] ってこういけば聞きやすいけど、まるって [ハンジコウ] (不明、端っこ？半じこう?)、あの、途中半端でやめるような、こう、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：あ、なんていうのか、い、ええ、それでなく、そこで節つければ、黙って聞いていると、みな、違うべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：ここで1人、交代入れて歌うべさ。全然違うもの。

千葉：うん。

キヨ媼：で、阿寒湖行っても、やっぱりそうだよ。黙って聞いてれば違う、人いちいちね。ここで、こういうふうにして節つけなければいいなと思っても、やっぱり、

千葉：うん。

キヨ媼：つけないで、まあ、切っていくわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:46:03】♪ [アーアア、コーオウオ、アーアア、コーオウ] って、こう、極端に行くでしょ？ わしらだ (ったら)、【0:46:10】♪ [アーアアアコーオウウウエ、アーアアアコーオウウイエ] って、こういくの。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。そうすれば、踊りも、あの、あ、合わせていくべき。【0:46:21】♪ [アーアア、ホーウオ、アーアア、ホー] ったら、極端に、う、う、やらない、お、踊り子もやらんけりゃならんでしょ。だ、節つければ、そのように格好つけて踊ると。

千葉：その、ね、♪アアアア、ホオオオオで、なんかやるのがね、

キヨ媼：はい。

千葉：その、♪アーア、コって、ほら、ちょっと、たか、上がったり、下がったりするでしょう。

キヨ媼：そうそうそうそう。

千葉：それが、その、なんていうんでしょう。全部、こういうふうな、あの、なんていうんだろう、声が震えて上がったり下がったりっていうのがね、

キヨ媼：そうそうそうそう、そうやっていくの。

千葉：どれぐらい高いのかね、ちょっと、ぱっと分かんないんですよ。

キヨ媼：ええ。

千葉：だから、それ、

キヨ媼：なんでもいいからやってみれば、ああ、ああ、ああ、いやあ、

千葉：自分のあれでいいんだろうか、そういうのは、自分のやりやすいような、

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：その、節だけ、文句だけ間違わないで、

千葉：うん。

キヨ媼：【0:47:07】♪ホーブーニーエートオオって、これはホブニエトでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：それさえ、わか、あの、分かっているれば、それからずっとって、♪エーネーオーカーイーって一番後^{あと}でいえば、それでいいでしょ。

千葉：うん。ただ、ほら、例えば、

キヨ媼：サルルンカムイって先に言って。

千葉：うん。♪ホーブーニーエートオオってやるでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：だけど、それを、♪ホーブーニーよりも、エトのほうが高い、

キヨ媼：うん。

千葉：高いでしょう、

キヨ媼：うん。

千葉：声はね。

キヨ媼：うん。

千葉：だけど、それが、どれぐらい高ければいいのかねえ、よく分かんない、

キヨ媼：これね、

千葉：うん。

キヨ媼：できるだけ高いほうをいうの。

千葉：例えば、

キヨ媼：その人の、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ええ、その人その人の声なんだからね、俺は高くする、おまえは低くするって、低い人もいる、高い人も、

千葉：ああ。

キヨ媼：なんでも、文句さ、あの、当たり前の文句だったら、それでいけばいいんですよ。

千葉：なるべく高い声出したほうがいい、

キヨ媼：うん、うん、なるべくなら大きく、

千葉：ああ、ああ。

キヨ媼：節回しして、やればいいの。

千葉：だから、♪ホーブーニーエートーオオでもいいけども、♪ホーブーニーエートーオオでもいい、いいんですか。

キヨ媼：そうだ。

千葉：ちょっとでも、ほら、

キヨ媼：そうだ。

千葉：メロディー変わってくるでしょう、メ、あの、節がなくなって、

キヨ媼：まずね、ホブニっていえば、

千葉：うん。

キヨ媼：それで通る、通るんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：それで、まあ、節つけていって、それから、いっていつてから、今度エネオカイっていけばしまいになる。

千葉：うーん。

キヨ媼：一番さき、サ、サルルンカムイっていくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、それ、そういうふうについて。

千葉：うん。だから、要するに、大切なのは、その、声をちゃんと、オオオって、

キヨ媼：そう、そう、それが、

千葉：節つけて、

キヨ媼：できなかつたら、

千葉：うん。

キヨ媼：踊りもうまく、

千葉：うん。

キヨ媼：見えないし、

千葉：うん。

キヨ媼：声もうまく聞こえないし、

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。ただ、アーアア、ホーウオ、アーアア、ホーウオ、ホーイホイっていったって、極端にいったら、なんにも、あんた、あの、み、意味もないしさ、

千葉：うん。

キヨ媼：で、面白く聞こえないし。なるべくなら、これ、こ、あの、節をつけていくようにして、やればね、いいよ。あああ、いい、そこ止めて、あい□□□□□

千葉：□□□□

キヨ媼：熱いそこにそこにあるべさ、□□□。まだ気がついてない、はいはい。あ、ここ、

千葉：置いとく、

キヨ媼：はい。ここに立てとけて、はい。あんた、□□飲んだの□□。お茶ばかり飲んで、飲ましてすいませんね。

千葉：いえ、いえ。

キヨ媼：コーヒーもないから。

千葉：コーヒー、だって、飲まないほうがいいって言ったでしょう。

キヨ媼：え、

千葉：おなか、おかしいから、コーヒー駄目だって言ったじゃん。

キヨ媼：なんもないんだ。まあ、それから、

千葉：難しいな、この歌は、しかし、♪サールルン、

キヨ媼：私なんかね、

千葉：うん。

キヨ媼：初めに教えてもらったのに、ときなんか、本当に寝ないーで、もう、1週間ぐらい稽古したからね。

千葉：毎日、こ、これ、誰が歌っていた歌なんですか？

キヨ媼：これはね、

千葉：うん。

キヨ媼：^{おとさくあに}音作兄き、オトサクって、お、言ってたでしょ？

千葉：うん。

キヨ媼：オトサクって、アキベオトサク、あの、いや、

【0:50:00】

千葉：シタカワラ、

キヨ媼：シタカラ、オトサクっていたべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：あの人も、あの、ほら、阿寒湖の酋長だったから。

千葉：ん？

キヨ媼：酋長さん。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：うん、うん、うん。そ、それ、

千葉：へえ。あ、じゃあ、男の人が歌ってたんだ。

キヨ媼：それがね、

千葉：うん。

キヨ媼：歌ってんでないの。こうしてやるべくもんだと教えたわけ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：文句がこれでいいんだって。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：フンドリっていうのは駄目なんだって。

千葉：うん。

キヨ媼：サルルンカムイっていけば聞きやすいし、

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。で、こういうふうにしてやりなさいって、おれにいわれて、おれが一生懸命研究したわけ。

千葉：うん。で、フチの前には誰か歌ってたんですか？

キヨ媼：歌ってるけど、みんな、フンドリ、フンドリって歌ってるべ。

千葉：あ、じゃあ、サルルンカムイとは歌っていない、

キヨ媼：サルルンカムイっていうのは、おれ、1人で歌ったの。

千葉：ああ、そうなんだ。

キヨ媼：オトサク兄貴、オトサクさんとおれと、

千葉：うん。

キヨ媼：サルルンカムイってつけ、あの、つけたんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：そのウポポをね、やったから、誰かがしてるから。したからね、

千葉：うん。

キヨ媼：こういうふうにしてやってくださいって言われたの。

千葉：うん。

キヨ媼：したかんね、みんな、その、やれないんだわ、やっぱり。

千葉：うん。シタカラ、シタカラさんは、その、なんか、どっかで、そういうのを聞いていたんです

ね? きっと。

キヨ媼: その人は、親の先祖からの、聞いて、

千葉: だから、シタカラさんの先祖は、そういうふうには、

キヨ媼: 父親、あの、阿寒かのアイヌの、えー、あの、酋長さんの息子であって、も、その、昔の、それ、自分の親がね、

千葉: うん。

キヨ媼: 結局、あ、あの、アイヌで、なんでも覚えた人だから、お、男の歌でも女の歌でもね。

千葉: うん。

キヨ媼: だから、そこで、その、あの、母親も父親も亡くなったけど、

千葉: うん。

キヨ媼: まあ、あの、は、母親の歌を歌って、こういうふうにして皆さんでね、

千葉: うん。

キヨ媼: いいの、お、あの、お手洗い行くから。

千葉: ああ、ああ、ああ。

キヨ媼: お客さんもみえないものね。(間) □□□□。きのうだってね、^{みくみ}3組か^{よっくみ}4組しか入らないの、お客さん。

千葉: ああ。

キヨ媼: 全然、このごろ駄目。

千葉: なんででしょうね。

キヨ媼: お客さんもいないし

千葉: 季節が悪いの?

キヨ媼: お客さん来ないんだべさ。

千葉: うーん。なんかね、きのう、泊まっていたところの宿にね、

キヨ媼: うん。

千葉: やっぱり、なんだか、行商で歩いている人も泊まってたんですけどね、

キヨ媼: うん。

千葉: やっぱり、そんなこと言ってましたよ。

キヨ媼: ああ、そう。

千葉: もう、全然ね、あの、日本中、みんな、金がなくなっちゃったみたいだって。

キヨ媼: ああ。

千葉: だから、誰も、なんか、企業でもね、^{おつ}大きな、ほら、会社でも、

キヨ媼: うん。

千葉: 昔だったら、ほら、この人たち、いったい、どれだけ金があるんだろうと思って、

キヨ媼: うん。

千葉: いろいろ買ってもらっていたのがね、

キヨ媼: うん。

千葉：もう、全然売れないんだって。

キヨ媼：売れない、売れない、全然。大きいもの、全然動かないんだもの。

千葉：うん。

キヨ媼：ちっちゃいものばかりだ。だからね、金^{かねあたい}値ないの、500円、1,000円しか、のものばかり出るの。大変だよ。私、もう嫌になってきたとこだもん。

千葉：うん、まあ。

キヨ媼：それだからって、チセ閉めるわけにいかないでしょう？

千葉：今、一番悪いんだろうけどね。

キヨ媼：うんだ。まあ月になればなん□□ね。

千葉：うん。で、ほら、そんなに、あの、ほら、企業はお金ないかもしれないけど、そんなに変わらない人もいるんだからね。

キヨ媼：そうだね。

千葉：だけど、ほら、気持ちが、もう、テレビでもラジオでも、ほら、新聞でも、日本は不況だ、不況だ、不況だっていつているから、みんな、なんか、そんな気になるんだね。

キヨ媼：ああ、ああ。

千葉：っていう人もいると思うけどね。

キヨ媼：そうだね。

千葉：うん。うーん。

キヨ媼：もういいの、お茶。

千葉：ん？ あ、うん、飲んだ、大丈夫。

キヨ媼：お茶ばかり飲んで、うんと腹□□□

千葉：ね、その、さっき、ほら、言っていた、2回、2回繰り返して練習するって、サルルンカムイもそうなの。に、

キヨ媼：そうだよ。

千葉：2回、2回っていうのは？

キヨ媼：そう、繰り返していくべき、じーんじんじんじん

千葉：サルルンカムイっていうのを、もう一回、サルルンカムイってやる、

キヨ媼：そうだ。

千葉：そうやって2回やる、

キヨ媼：ほ、それで、1回、1回、1回、1回って繰り返して行って、また、今度、ま、終わって、ケツへ終わったら、また、もともとに返るべき。

千葉：うん。

キヨ媼：そして、何回もやるべき。

千葉：じゃあ、サルルンカムイは、別に2回、2回繰り返すんじゃなくて、何回も、何回も繰り返すのね？

キヨ媼：そうそうそうそうそうそう。おわ、踊りの、おわ、終わるうち、やらなきゃならないんだ。

うん。

千葉：うーん。ああ、ほら、練習するときのね、

キヨ媼：練習するときも、そう。

千葉：うん。

キヨ媼：で、ここでね、あの、終わりましたよって言って、まあ、おわ、終わるまで、

【0:55:00】

キヨ媼：歌ってなきゃないんだ。終わるときには、踊る人は、みんな、こうやってこうやって、もう、あの、やって、た、さ、4人なら4人、立ち□□になるでしょ？ あ、これで終わったっていう印で、もう、ぴたっとやらねえと、駄目なんだ。

千葉：フチが、その、子どものころ、ウポポを教わることっての、たまにあつたでしょ？ その、誰か年寄りかなんか、面倒見のいい人。

キヨ媼：わしなんか、若いときなんか、歌なんか、あの、アイヌの歌とか、そんなの教えてくださいとかって言ったこともないし、ただ、聞いて、今度、覚えたもんだの。

千葉：一緒に歌ってもらって覚えたとか、そういうことなの。

キヨ媼：そうなの。みんなの歌を聞いて、この歌はこういうふうにしていくんだとか、

千葉：あ、みんなが歌っているとき、一緒に歌っちゃうわけね。

キヨ媼：そうそうそうそう。

千葉：うん。

キヨ媼：それが黙って聞いていて、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、忘れないで、頭に入れて、それでやったもんだから。

千葉：うん、うん。どっか、ほら、面倒見のいい、おばあさんとか来て、一緒に2人で、こう、歌ってくれるとかそういうことはなかった？

キヨ媼：一緒に、うた、歌う人ってなかったな、うん。だって、自分は自分、声が、自分の声でやらなきゃなんないっていう頭だからねえ。だから、

千葉：近過ぎるんでないか。

キヨ媼：うん、いえ、こんな格好でな—□□□□□

千葉：□□□□□□アップ□□□□□□、

キヨ媼：それから、何かやりますか？ 終わりました？

千葉：え？ つー、うーん、いや、どうもね、そのへんが、難しいですよ。

キヨ媼：ん？

千葉：その、節の、上がり下がり、

キヨ媼：節、その、文句が同じ文句をして、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、節を、こういうふうにしていかなきゃならないって、それが、なかなかね、

千葉：うん。

キヨ媼：できないんだって。

千葉：そうだね。

キヨ媼：やってやれないことはないですよ。みんな、同じ人間だから。

千葉：うん。

キヨ媼：したけど、やれないっていったら、そのきり、そのままいくべさ。

千葉：例えば、うん。うん。

キヨ媼：なんの歌でもそうでしょう。

千葉：例えばね、この、あの、これ、マッターレラってあるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：これ。♪マッターレラ、

【0:57:05～ 録音テープの再生開始】

キヨ媼：♪ [マッターレエラーアアーチャーオシマー、アウラーニシーカンドーオオコーレキン]

【0:57:16 録音テープの再生終了】

千葉：これ、これだったら、あの、♪マッターレラーって、

キヨ媼：そうそうそう。

千葉：上がって下がるでしょ。

キヨ媼：そうそうそう。

千葉：んで、♪アーチャーオシマーって下がるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：で、♪ウーラーネースイ、

キヨ媼：カン、

千葉：♪カンドーコーレキンってあるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：これは、あの、高い低いっていうのは、ほら、あの、

キヨ媼：そう、と、自分で、まあ、これだけのな、

千葉：うん。

キヨ媼：一番先に、これ、これだけのこうして、2番目こう、3番目こうって、こうやっていくわけ。

千葉：で、それ、あの、途中で、ほら、あの、

キヨ媼：声出なくなったらどうするってか。

千葉：いやいやいや、

キヨ媼：あの、

千葉：だんだん、ほら、声出るようになるでしょう、

キヨ媼：そう。

千葉：普通、最初よりもね。

キヨ媼：うん。

千葉：したら、上げてっていいもんなんだろうか。

キヨ媼：そうだ、上げてもいいの。上げるだけの、声、

千葉：うん。

キヨ媼：大きい、ば、文句間違えなくして、

千葉：うん。

キヨ媼：上げて、うんと、お、声出していけばいい、

千葉：うん。例えば、最初のほう、

キヨ媼：あたり、あたり前だ。

千葉：調子悪いときは、ほら、誰だってね、

キヨ媼：そうだ。声出ないんだから、うん。

千葉：あの、低い、低い声で、♪マッターレラーってやるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：♪アーバーチャーオシマー、んで、う、うん、ウラネスイ、

キヨ媼：ウラネスイカンド、

千葉：♪ウラーネースイ、カンドーコーレキン、

キヨ媼：カンドコレキン、

千葉：調子よくなってきたら、♪マッターレラーアア、なんだ、

キヨ媼：アバチャオシマ、

千葉：♪ア、アーバーチャーオシマーア、

キヨ媼：♪ウラーニスイ、カンドーコーレキン、

千葉：♪ウラーニスイ、カンドーコーレキン、それって、

キヨ媼：そうだ、さっき、

千葉：高くしてってもいいわけだね。

キヨ媼：はい、はい、繰り返してね。

千葉：うーん。

キヨ媼：声大きい、大きければ大きいほどいいんだ、聞きやすいしね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、それでいいんだも。うん。

千葉：うーん、うん、そうかそうか。なんか、その、ほら、一番基になるのは、どういう、どういう節なのかなっていうのがね、ちょっと、分かりにくいんですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。素人ですからね。

キヨ媼：うん、あんな、もう、なんでもいいから文句さ、間違えなくいけばいいんでしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：【0:59:05】♪ [マッターレラーアア アーバーチャーオシマー、ハウラーアアニシーカンドーコーレキン] って、こういけばいいんだよ。

千葉：うん。あ、じゃ、ちょっと一緒にやる、

キヨ媼：うん。

千葉：【0:59:19】 ♪マッター、

キヨ媼：♪レラー、アーバーチャーオシマー、ウーラーニシーカンドーコーレキンー、

千葉：♪レラー、アーバーチャーオシマー、ウーラーニシーカンドーコーレキンー、

キヨ媼：ってこういく。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：【0:59:32】 ♪ [マッターレラーアアアーバーチャーオシマー、ウーラーニシーカンドーコーレキンー、マッターレラーアアアーバーチャーオシマー、ウーラーニシーカンドーコーレキンーンン)、

千葉：【0:59:32】 ♪ [マッターレラーアアアーバーチャーオシマー、ウーラーニシーカンドーコーレキンー、マッターレラーアアアーバーチャーオシマー、ウーラーニシーカンドーコーレキンーンン)、

キヨ媼：ってこうする。

千葉：うん。それ、どう、やっぱり、難しいなあ。

【1:00:00】

キヨ媼：な—な—な—、そうかなあ。

千葉：うん。♪マッターレラー、うん。例えば、その、それをね、その、一番最初の、ほら、覚えらんないから、

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、ね、シャモが来て、まあ僕もシャモだけど、こう来てね、全然覚えらんないから、その、節回せないからね、普通、

キヨ媼：節、節回せなかったら、自分で、自分、文句だけ間違いなくいけばいいんでしょう。

千葉：うん。で、いや、教えてくれっていったらね、例えば、その、ほら、た、な、シャモの歌みたいに♪カーラーズー、なぜ鳴くのとかな、そういう感じでね、

キヨ媼：そうだ、それでいいんだ。

千葉：歌、そしたら、

キヨ媼：まあ、文句さえ忘れないば

千葉：♪マッターレラーってというような歌い方もできる？

キヨ媼：うん、うんだ、うんだ、できるよ。

千葉：できるけど、やっぱ、違うんだよね。

キヨ媼：あ、違うんだ、うん。

千葉：そういう、基のかたちっていうのはあるんだろうか。ちょっと難しい言い方だけど。

キヨ媼：うん、な、もう、たいてい、こ、これでいくわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、極端、【1:00:58】 ♪マッターレラ、アバジャオシマ、ウーラーニシ、カンドーコーレキン (まったく節をつけずに歌っている) って極端に、い、いかないんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：で、できない人は、やっぱり、そうやっていくかも知らんけど、わしらは、そこ、節をつけていくわけ。

千葉：うーん。

キヨ媼：文句のあいだは節つけてかなきゃなんない。

千葉：ああ、そうか。じゃあ、その、こう節は、こう、上がったりがったりっていうのは決まっ
いて、

キヨ媼：ああ、決まっていない、なんでも、

千葉：決まっていない、うん。

キヨ媼：声出るときは、上、大きくして、同じ文句でいけばいい、

千葉：あーあ、そうか、そうか。

キヨ媼：繰り返してね。はい。

千葉：うん、うん。なるほどね。

キヨ媼：はい。

千葉：なるほどねっていうけど、そう、簡単にできないですよ。うん。

キヨ媼：(笑) そうね。

千葉：そうか、そうか。ウタレ、ウタレオープンバレも、じゃあ、結局、そうなんだね。【1:01:45】♪

ウタアレブ、ウタアレブンバレエワアア リムセー レヤン ン アア アヘエ エエンヨオオ、

キヨ媼：うんだ、そうそうそう。

千葉：だいたい、じゃあ、こんな感じで、

キヨ媼：そうだ、そうだ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：みんな、みんな、違うもの。

千葉：うん。

キヨ媼：ここに、あんた10人いたら、10人なんか、もう違うよ。

千葉：うん、□□、

キヨ媼：私の節と、なん、やる人、めったにないからね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、黙って聞いていけば、みんな、違うべき。

千葉：うん。あの、ほら、阿寒で歌っている節はね、

キヨ媼：うん。

千葉：その、【1:02:15】♪ウタリオブン バーレワ ってやるでしょ？

キヨ媼：そうだ。

千葉：【1:02:19】♪リムセー レーヤン、アー ーへー ーエン ヨーオ ってやるでしょう。

キヨ媼：それでいくんだ、^{きよく}極、

千葉：うん。

キヨ媼：□□□□【1:02:25】♪ウタア レブン バアアレ ワアアア リムセエ レーヤン、アア アヘ
エ エエン ヨオ って、こ、ここで、あの、繰り返していくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：(少しテンポをあげて)【1:02:36】♪ウタア レブン バアレ ワアア リムセエ レヤア アン、
アア アヘエ エエン ヨオオ っていくべさ。みんな、

千葉：うん。

キヨ媼：(節をつけずに)【1:02:45】♪ウターレブンバーレワー、リムセーレーヤン、アーヘーイーヨー
って、こういく、いっているでしょう？

千葉：うん。で、阿寒の、ほら、歌い方のね、やり方って、あの、♪ウターレーブンバーアレワー
アア、リムセーレーヤン、アーヘーエンヨオってね、

キヨ媼：うん。

千葉：ちゃんと、ほら、節の高さが決まってて、

キヨ媼：そうそう。

千葉：で、慣れてくると、

キヨ媼：うん。

千葉：♪ウータ、ウタリ オオブン バーアレ ワアア、リムセー レーヤン、ハア アアエエ エエ
エン ヨオって、こう、こうやって節つけていくでしょう。

キヨ媼：いけばいい、

千葉：ねえ。

キヨ媼：い、い、なかなか、それいかないで、

千葉：うん。

キヨ媼：極端に、みんな、こういっているから。

千葉：うん。それ、あの、おぼさんの歌は、もう、ほら、最初っから、節がこうやってついているか
ら、

キヨ媼：そうそうそうそう。

千葉：【1:03:27】♪ウタア レ、ん？♪ウタア レブン バレエ ワアア リムセエ レヤ、まねできねえ
や。(笑)

キヨ媼：(笑) ホーイホイ、上手だねえ。

千葉：いや、そ、それをね、その、

キヨ媼：うん。

千葉：ほら、さ、初心者のために、

キヨ媼：うん。

千葉：簡単に、節を、ほら、ちょっと、簡単にして歌うっていうことで、できるんですか？

キヨ媼：そー

千葉：【1:03:47】♪ウター レブン バーレ ワアア リムセエ レヤン、とか

キヨ媼：文句さえ、

千葉：うん。

キヨ媼：間違えなかったら、極端にいくに、いけばいいんでしょう。

千葉：うーん。

キヨ媼：【1:03:55】♪ウター レブン バーレ ワーアー、リムセー レーヤン、アーヘーイーヨーって、もうたいていの、黙って聞いていると、そうやっていくよ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。おらはそうでないの。【1:04:06】♪ウタア レブン バアレ ワアア、リムセエ レヤア アン、アアアヘエ エエン ヨオオって、こういくの、いくんでしょう。

千葉：うん。もう、最初っから節がついているんですね？

キヨ媼：そうそうそうそうそう。したら、みんな、極端、(節がつかない例のはずだが、そこそこ付いている)【1:04:20】♪ウタア レブン バアレ ワアア、リムセエ レヤン ン、アアアヘエイヨオーって、いくでしょう。おれは、また違うんだもの。ただ、黙って聞いていると、それぞれ、それぞれ、やっぱり違うんだ。

千葉：うーん。

キヨ媼：極端にいく人もいるし、やっぱり、そこで節つけてやる人もいるし、

千葉：うん。もう、子どものころ、最初っから、歌覚えたときから、その、節をこうやってつけているんだもんね。

キヨ媼：そうだ。この人の、^{しき}式だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、あんたならあんた歌うでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、あんたの歌、上手でしょう、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、ばあちゃんは、あんなの歌のまねしましょう、

千葉：うん、うん、うん、うん。

キヨ媼：って、そういうふうにして、黙ってきいていて、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：やるわけ。

【1:05:00】

千葉：うーん。

キヨ媼：うん、そういうことですよ。はい。だから、あんたの歌、上手だからねえ、一生懸命まねするの、これから。だから、

千葉：ばあちゃんの歌、ねえ、好きだから、まねしようと思っても、なかなかうまくできない。サルルンカムイは、とにかく難しいですね、あれは。そう、

キヨ媼：なんでもいいからね、あの、あ、面倒くさいことしないで、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：極端に、文句さえ言えればいいんだ。

千葉：うん、うん。♪ホーピーニーエートオオ、ハアア、あの、最後の、♪ハアアーホーオオオオオ
ってというのがね、

キヨ媼：うん。

千葉：上げていいか下げていいか、分かんないですよ。

キヨ媼：【1:05:36】♪アアアア ホオオオオオオン、アアアアホオオンア アアアンア ホオオイホオ、
なんでもね、上げな、下げないで、上げること、上げることやれば一番いいんだ。聞きやすいから。

千葉：上げること、上げること？

キヨ媼：うん、あの、

千葉：だけど、ほら、どんどん上がってったら歌にならない。

キヨ媼：そうだ、上げればいいんだ、なんでもいいから。

千葉：♪ホオプウ ニイエエ トオオオ アアアア

キヨ媼：(笑) [なんだ、それとね]、こうやってな、(笑)

千葉：(笑) したらもう、どっか、どっかいつちゃう、(笑)

キヨ媼：それ、それ、一番いいんだ。

千葉：うーん。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：なるほどね。そうか。まあ、やっぱり、あれだね、こう、録音したりしたの聞いて繰り返しや
って覚えるしかない、ないですね。

キヨ媼：そうだね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：まあ、そ、そこに書いていた文句のようにさ、文句さえ間違いなかったら、なんでもそれで
いくから。

千葉：はい。

キヨ媼：そしてね、お子さんでもできて、

千葉：うん。

キヨ媼：2人も3人になったら、踊らせると。(笑) それで、歌うんだと。

千葉：ねえ。

キヨ媼：だって、

千葉：連れてくるか、みんな、子どもを、

キヨ媼：うんだ。

千葉：踊らせに。

キヨ媼：いやあ、こ、2人、やっぱり3人ぐらいでなきゃ駄目だね。

千葉：ねえ。

キヨ媼：誰か来てるね。

(犬を連れて来た客との雑談で3分ほど中断)

キヨ媼：♪ ヘクリサラリか

千葉：あれは、じゃあ、昔から覚えていたんじゃないのか。

キヨ媼：あれ、わたしの、あの、時代、やったよ。

【1:10:00】

キヨ媼：あの、ヘクリサラリ。

千葉：昔？

キヨ媼：うん。わしの子ども時代、見たもの、あれ。

千葉：どこで？ 釧路で？

キヨ媼：釧路で。釧路の人やって、

千葉：ふーん。あれ、アキベカヨさんってどこの人？ 白糖？

キヨ媼：阿寒湖。

千葉：阿寒、阿寒湖、

キヨ媼：阿寒湖畔、もう、した□□、死んだべ、死んでだいぶになるべ。

千葉：うん、うん。アキベカヨさんからも、だいぶウポポ、

キヨ媼：ああああ、アキベ、北海道一だったもん、あの人。

千葉：うん。アキベカヨさんから、ずいぶん、いろんなウポポを聞いて覚えたりしたんですか？

キヨ媼：うん、うん、覚えた。

千葉：アキベカヨさんが一番得意だったの、何だろう。

キヨ媼：もう、なんでもやった、あの方は。

千葉：なんでもやるの、

キヨ媼：これ、できないっていうものなかったね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。アキベカヨさんのウポポのなかで一番好きなやつって何？ お婆さんが。キヨフチが一番好きなの、

キヨ媼：ウポ、ウポポか。

千葉：うん。

キヨ媼：なんでもやったけどね、この人ね。

千葉：うん。

キヨ媼：本当、ウポポだら、なんでもやった。

千葉：うーん。

キヨ媼：^{あつた}温かいとこいれてやるっか？

千葉：うん。

キヨ媼：うん。ごじゅ□□ (笑)、お湯ばかり飲ましてな。

千葉：いえ、いいよ、いいよ、足していいよ。

キヨ媼：いや、本当に、具合、あのね、わ、腹壊したとき、なんだか、にやあにやあするときは、

千葉：うん。

キヨ媼：コーヒーだか、なんか飲めないもんね。

千葉：うん。

キヨ媼：ええ。

千葉：にゃあにゃあする？

キヨ媼：どうですか？ あとは。

千葉：ん？

キヨ媼：ヘクリサラリ？

千葉：うん。

キヨ媼：おぼんの投げ合いの踊り、♪ロホンナ ローホンナ 棒持って、

千葉：うん。ロホンナロホンって、前やってもらったことがありますよね、確か。

キヨ媼：ほうか？ やってもらったことある？

千葉：と思うんだけど。♪ローホンナローホンっていうんでしょ？ あれも節決まっているんだろうか。

キヨ媼：決まってない。

千葉：決まってない、

キヨ媼：決まってないから、その人、そ、その人の、あの、うーん、節でやってるべき。文句だと、文句は同じだけど、その節が、あんた、極端にいう人もいれば、

千葉：あれは、あんまり、こうやってつけないでしょう。♪ローホオンナってやんない、やんないですよ。

キヨ媼：や、そ、それ、ほん、ほん、ほん、ほんもんだけど、

千葉：うん。

キヨ媼：それほんとだけど、その、やれないわけさ。

千葉：ああ。

キヨ媼：うん。

千葉：本当だったら、どうやってやるんですか？

キヨ媼：え、

千葉：あれは。

キヨ媼：したから、もう年寄りたちは、みんな、節つけて歌うべや。で、今の若いもんたちは節もつけないで、極端に歌うべや。

千葉：うん。

キヨ媼：同じよ。

千葉：うん。節つけてやったら、どんな感じになるんですか。

キヨ媼：え、

千葉：どんな感じ、ロホンナロホン、

キヨ媼：はい、^{あつた}温かいの飲んで、ロホンナロホン。

千葉：うん。

キヨ媼：【1:13:15】♪アア、ローホーンナロホーン、ナア、ローホーンナロホーン、ローホーンナロホーン、ハア、ローホーンナロホーン、ローホーンナロホーン、ナア、ロ、ロホーンナロホーンっただら棒だ。

千葉？：棒ですよ。

キヨ媼：うん、棒だね。

千葉：なんとか チッチイテッカ

キヨ媼：【1:13:39】エポソノシケーチッチイタッカーチターリチタリでしょ。(チッチイタのチは、チとツの中間の音)

千葉：うん。

キヨ媼：それから、あの、これは、ヘクリサラリだべ。

千葉：[つつついた、うん]、

キヨ媼：【1:13:46】♪ hekuri sarari ha ha huy a huy ~ (以下、歌詞略) ~ hekuri sarari osora osora ~ hekuri sarai hura osora ~ hekuri sarari oyhoke ahuy 【0:14:59】、ってこう、

【1:15:00】

千葉：何？ 一番最後に言ったのは、オイホキアーホイ？

キヨ媼：あ、ヘクリサラリ、え、オソラオソラったら、やっとなげれってことだ。

千葉：うん。そ、最後は？

キヨ媼：ん？

千葉：オ、ホイ、なんか、オイロキとかなんとか言った、

キヨ媼：何たか？

千葉：一番最後になんか言いませんでした？ ひとこと。

キヨ媼：え、エボサラ、(笑) エボサラキシでないべや。

千葉：違う。

キヨ媼：(笑)

千葉：ふーん。まあ、いいか。あれ、トキナカムイってこっちにものってました。

キヨ媼：うん。トキナ、

千葉：これね、

キヨ媼：うん。

千葉：【1:15:31】トキナーカムイコロエムシサンケ、ハネケンクエトソルイケンクエトソって書いてある。

キヨ媼：ふーん。みんな、違うんだな、それな。

千葉：うん。□□、違う、これも、阿寒で、昔、やっとなげれって書いてあるから。【1:15:45】

♪トキ、トキナ、トキナーカムイ、カー、カムイ、ん？ トキナー、トキ、トキナーカムイコロエム、エムシーサンケー、

キヨ媼：【1:16:07】♪トキナ ハーシー カー ムイイ コー リムセ サン ケー、トキノ ハーシ カア ア ムイ、コー レムシセ サン ケーっていったべや。

千葉：うん。

キヨ媼：それだべ。

千葉：これは、アア、ハ、ハネケン クエトン ルイケン クエトン って書いてある、これは何だ？ 待って、ハネケン クエトン ルイケン クエトン って。聞いたことある？

キヨ媼：へ、へクリサラリ、あの、ロホンナロホンのあとですか？

千葉：いやいや、トキナカムイの一番最後に、

キヨ媼：ん、【1:16:38】♪トキノ ハーン カー ムイ、コー レムセ サーン ケー っていくでしょ。

千葉：うん、ふーん。なるほど。ねえ、あの、一番最初にやった、フッタレチヨイ、もう一回、あれ、やってもらえますか？ フッタレチヨイは、子どものころは、聞いたことある？

キヨ媼：あい、やった人いたね。

千葉：阿寒、阿寒に来てからじゃなくて？

キヨ媼：はい。阿寒でもいい、釧路でやるの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：フッタレチヨイでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：こうやって、あの、あの、

千葉：あの踊りも、昔からああいう踊りだったんですか？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：これ、松の木、こう、ゆれ、揺れたとか、髪の毛でもって、こう、やったでしょ。

千葉：あれ、踊り比べみたいなものでしょう？

キヨ媼：そうだね。早いとこいえばね。

千葉：うん、うん、勝ち負け決める？

キヨ媼：うん。

千葉：うん。あの踊りも、釧路でも、どこでも同じ？

キヨ媼：みんな、や、同じだね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：今、おどり、あの、あれか、ウポ、やれっていうのは、あれか、あの、ウポポ、何のウポポやれたんねえか。

千葉：フッタレチュイ。

キヨ媼：え？

千葉：フッタレチュイ□□。

キヨ媼：フッタレチュウね。【1:17:47】♪huttare coy ara hunna huy ~ (以下、歌詞略) ~ 【1:18:29】

hukku coy ara hukko ~ (以下、歌詞略) ~ 【1:19:46】、

千葉：うん、うん、うん。じゃあ、最後にですね、

キヨ媼：ん？

千葉：最後にですね、ムックリはきついですか？

キヨ媼：ムックリですか。

千葉：うん。

キヨ媼：ムックリね、はい。

【1:20:00】

キヨ媼：ムックリ、なくしてね。

千葉：なくした？

キヨ媼：ある、ある。

千葉：ちょっと横から、

キヨ媼：ん？

千葉：横から撮るから。

キヨ媼：そう。

千葉：うん。途中から。

（【1:21:05】このあたりから糸を引く音。【1:21:10】弁を鳴らす音。）

キヨ媼：【1:21:16】♪（ムックリ演奏 1分57秒）～【1:23:13】

千葉：調子いいですねえ。

キヨ媼：【1:23:18】♪（ムックリ演奏 55秒）～【1:24:13】はい。

千葉：それ、あの、吸ったり吐いたりっていうのは、どう、どうしているんですか？例えば、♪ブンブーンブンブーンって鳴るときに、はい、吐いて、吐いて、

キヨ媼：あのね、息でもってきよめるの。

千葉：うん。

キヨ媼：結局ね、まず、あの、大きくすれば、息をね、この、ここで、息でもっていろん^ねな音が出るの。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。これ、ひっぱ、引っ張ってね。

千葉：吸ったり吐いたりするんでしょう。

キヨ媼：ええ、そうだ。【1:24:45】♪（ムックリ演奏 1秒）（咳）

千葉：むせる、

キヨ媼：【1:24:49】♪（ムックリ演奏 12秒）

【1:25:00】

キヨ媼：あの、

千葉：それが、だ、あの、3つずつやっているんですか、それ、だんだん、

キヨ媼：うん、それね、

千葉：うん。

キヨ媼：いろいろ、その、あの、息の仕方、いろいろ出るんだ。

千葉：僕も、おばさんみたいに、

キヨ媼：お、やる、ほれほれ、これこれ、

千葉：ん、音の、音のするムックリない、

キヨ媼：あ、それか、

千葉：うん。

キヨ媼：どれ、どんなムックリ持ってる、

千葉：いや、もう、全然、いい、いいムックリないんだわ。

キヨ媼：それか、

千葉：【1:25:25】♪（ムックリ演奏）

キヨ媼：それだ。はい。

千葉：♪（ムックリ演奏 8秒）

キヨ媼：あ？

千葉：3つずつやるんですか？

キヨ媼：え？

千葉：【1:25:40】♪（ムックリ演奏 5秒）

キヨ媼：舌できよめる。息で。【1:25:46】♪（ムックリ演奏 42秒）はい。

千葉：それは、吸ってるんですか、吐いてるんですか。

キヨ媼：吐いてるの。吸ったり吐いたり、吸ったり吐いたり、きょう【1:26:33~1:26:34 音声途切れ】

のね、息のね、息と、は、あの、へら、舌のね、表面の、

千葉：うん。それ、順番は、吐いたり吸ったりの、

キヨ媼：あ、順番か、なんでも、こうやって、このね、息の仕方でもって、いろいろ出るんだからね。

千葉：うん。

キヨ媼：はい。【1:26:55】♪（ムックリ演奏 5秒）ここでね、このね、あの、舌でもってきよめる、めるの。息としか、舌で。

千葉：きよ、きよめ、

キヨ媼：うん、きよめるの、

千葉：きよめる、

キヨ媼：うん、きよめるったら、こういうふう息をするでしょう？

千葉：うーん。

キヨ媼：うん。こうやってね。【1:27:13】♪（ムックリ演奏 12秒）まずね、

千葉：うん。

キヨ媼：息の仕方でもって、いろいろ出るんだから、大きくするも、黄色い声するも、息の仕方。

千葉：同じ音の高さ（音の高さを揃えるべきと一瞬考えたが、後で聞き直した際の区別を考えてやめたものと記憶する）

キヨ媼：うん。なるほど、やっごらんさい。

千葉：うん。【1:27:40】♪（ムックリ演奏 7秒）

キヨ媼：そう、そう、【1:27:48】♪（ムックリ演奏 10秒）これ、引っ張り方と、この息の仕方、

音が出るの。

千葉：ちょっと、

キヨ媼：き、

千葉：あの、分かりやすいために、

キヨ媼：うん。

千葉：息、ん？

キヨ媼：こうやってね、

千葉：□□□□□□。

キヨ媼：(笑) こうね、こうして息をね、は、吐く、こうしてね、息の、息の仕方、こういうふうにして、引っ張り方と息の仕方。こう、こう、こう、口のなかできよめるの、息を。

千葉：うん。

キヨ媼：そして音が出るの。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。

千葉：ちょっと、あの、

キヨ媼：こう、こう。

千葉：うん。いろいろ舌でやって、

キヨ媼：はい、はい。こう、はい。そして、その、舌の、し、仕方、これが速いかったら、これ、こ、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：その、音でもって速くやったり、

千葉：うん。

キヨ媼：遅くやったりする。

千葉：それで、息を、す、吸ったり吐いたりする [んですよ？]、

キヨ媼：し、そうそう、吸ったり吐いたり。

千葉：ちょっと、分かりやすくするためにね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、吸うときに、ってこうやって、

キヨ媼：そうそう、そう、こう、

千葉：吐くときにこうやって、ちょっと極端に、

キヨ媼：【1:28:53】♪ (ムックリ演奏 7秒) これでいくの。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。

千葉：2回続けて、吐いたり吸ったりすることもあるわけ？

キヨ媼：うん、そうそうそうそうそう、やってごらん。

千葉：それ、どういう、順、順序でもいいの？

キヨ媼：そうだ。や、

千葉：【1:29:08】♪（ムックリ演奏 22秒）

キヨ媼：ああ、上手ですね。はい。はい、上手です、はい。

千葉：頭がぼーっとしてきます。

キヨ媼：うん、そういうふうに行くの。とっても上手にいました。

千葉：これ、順番は、こう、吐いたり吸ったり。

キヨ媼：うん、吐いたり吸ったりしてるべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたらね、今度、あの、うんっとやる、ただ、【1:29:44】♪（ムックリ演奏 4秒）ぶつけ、ぶつけてったら、息ばかり、ボンボン、ボンボン出すの、いや、これ、こう、【1:29:53】♪（ムックリ演奏 4秒）こうやっていくの。

千葉：それ、そっちのほうがいいの？

キヨ媼：うん。

【1:30:00】

千葉：よくないの。やりやすい、

キヨ媼：こうやって、フウ（吐）、スー（吸）、フウ（吐）、スー（吸）、こういくの。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：あの、途中で、ほら、あの、なんか、拍子の変わるやつあるじゃない、

キヨ媼：うん、そうそうそう。

千葉：タンタンタンタン（♪♪♪）と、

キヨ媼：そうそうそう。

千葉：【1:30:12】♪（ムックリ演奏 3秒）

キヨ媼：そうそう。

千葉：ってやりますよね。

キヨ媼：うん。

千葉：フチ。そのときは、吸って吐いてっていうのは？

キヨ媼：そうだ、それでいくのさ、今みたいに、こうやって、ヒューフウ（吸）【1:30:21】♪（ムックリ演奏 13秒）実は、このね、舌をね、今度ね、あの、引っ込んで、あの、黄色い声出すわけ。

千葉：黄色い声、

キヨ媼：今みたいに、こういうふうにし、こんな、【1:30:44】♪（ムックリ演奏 3秒）こうやっていくべさ。

千葉：ああ、コンコンって響くような音ね。

キヨ媼：うんうん、そうそうそうそう。うん。

千葉：【1:30:49】♪（ムックリ演奏 12秒）

キヨ媼：そうそう、そうそう。それから、今度、[たするで]（不明）【1:31:03】♪（ムックリ演奏 11

秒) ってやったら、こ、これ、息を大きくして、大きく出して、大きく、ひ、あの、引っ込めて、

千葉：うん。

キヨ媼：出して引っ込めて出す。そしたら、こう、太い声出す。

千葉：大きく出して、[ひっこめる?]

キヨ媼：うん。大きく出して、大きく引っ込める、息を。

千葉：うん、うん。【1:31:32】♪ (ムックリ演奏 8秒)

キヨ媼：そう、そう。

千葉：っていうこと？

キヨ媼：そうそうそう、上手になりました、はい。【1:31:44】♪ (ムックリ演奏 9秒) こうやっていくんだ。上手になるまで、そのとおりにやってください。はい、[ありがとう]。

千葉：頭、ぼーっとしますね。

キヨ媼：え、ぼーかい？

千葉：頭、ぼーっと、

キヨ媼：わし、歌よりね、これのほうが楽なんだよ。

千葉：ああ、そうなんですか。

キヨ媼：息を吸ったり吐いたりするから。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：はい。

千葉：これ、あの、クマの声だとか、いろいろやるでしょう？

キヨ媼：うん、そう。

千葉：うん。雨だれだとか。

キヨ媼：そうだ、あだ、雨だれは、キツチャンキツチャンって鳴るべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：クマはこうやって、【1:32:18】♪ (ムックリ演奏 14秒) 雨だれ【1:32:33】♪ (ムックリ演奏 6秒) っていくべさ。

千葉：雨だれは息を止めているんだね。

キヨ媼：そうだそう。

千葉：うん。

キヨ媼：止めて。

千葉：ふーん。

キヨ媼：ピチャン、ピチャンと。

千葉：クマは、吐いたりする？

キヨ媼：え？

千葉：クマは吐い、[ぜろ□□] (不明)

キヨ媼：[吹くさ]、プップ、プップと吹くの。

千葉：全部、吹くの？

キヨ媼：うん、吹くの。

千葉：あいだに吸うんだね？

キヨ媼：おう、おう、おう、お、そう。

千葉：クマの声、よく知らないから、できないよね。やり方としては、じゃあ、全部吹いて、

キヨ媼：うん、はい。

千葉：【1:32:56】♪（ムックリ演奏 3秒）全然できねえや。

キヨ媼：そう、そうだ。

千葉：【1:33:00】♪（ムックリ演奏 4秒）全然できない。（笑）

キヨ媼：もう少し、もう少し、

千葉：全然できねえや。

キヨ媼：はっ、はくってやんなかったら、（この「はっ、はく」は「ハッ、ハッ」と書けば分かりやすいが、2つとも強い呼気の意味と思われる）

千葉：【1:33:07】♪（ムックリ演奏 7秒）

キヨ媼：そうそうそうそう。そうそうそう。そうそう、そう。【1:33:13】♪（ムックリ演奏 9秒）これでいくんだ。

千葉：あ、吐いたり吸ったりは□□□□。

キヨ媼：そうそうそうそうそうそう、はい、よくできました。

千葉：なるほど。

キヨ媼：はい、よく、

千葉：クマは、親グマ、子グマっていう区別はあるんですか？

キヨ媼：そう、みんな、あの、クマ、同じ声だ。うん。

千葉：うん。

キヨ媼：はい。

千葉：まあ、これぐらいにしときますか、（しばし雑談）

（終了）

【1:36:16】

9 : 1994年9月25日 (ファイル名 : Kiy940925) 1°38' 23"

キヨ媼 : うん。(笑)

千葉 : うん。息子さんですか、なんて、ずっと一緒にいたもんだから

キヨ媼 : もう、あの、ほれ、面倒見てくれてるからね、やっぱり、孫か息子に見えるんでねえか。

千葉 : まあ、そうだね。

キヨ媼 : なかなか、これ、なんの商売も大変だね。やったの、これで [いっちゅう] こともないし。

千葉 : ん? 火入れる、

キヨ媼 : いや、まき、入れるの。

千葉 : ああ、ああ。

キヨ媼 : 細^{こま}いやつね、うん、もう、[くじ]、いっぱいあるからさ、入れとかなないと、もった、あの、何と何やるべ、

千葉 : こんな朝から声出ます?

キヨ媼 : え?

千葉 : 朝から声出る?

キヨ媼 : 朝からでも、昼からでも、なんでも、できないば、声出ないば、もの言えないべ。(笑) しばらくね、あの、あの、声も出してないからね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : うん。歌なんか、歌も忘れちゃうんだわ。

千葉 : うん。

キヨ媼 : うん。

千葉 : ねえ、あの、okokokse ってあるじゃない?

キヨ媼 : うん

千葉 : ホホホホっていうやつ、

キヨ媼 : うん。

千葉 : あれ、男の人も女の人もやるって言った?

キヨ媼 : そうですよ。オ、オ、

千葉 : え、ぺ、ペウタンケってのは、ないんだよね?

キヨ媼 : ペウタンケとオココクセと同じだべや。

千葉 : 同^{おんな}じ?

キヨ媼 : 同じ。

千葉 : あれは、ホーイっていうのは?

キヨ媼 : うんだ、みんな、ウホホホーっていうべさ。

千葉 : よく、ほら、女の人が、ホーイとかいうのがあるでしょう。

キヨ媼 : うんだ、うんだ、みんな、同じだ。

千葉：あれも、

キヨ媼：ちょっと、

千葉：女の人もホホホホーイって言うんだ、

キヨ媼：そうだよ。

千葉：ああ、そうか。

キヨ媼：私はね、あの、飛行機に乗るときは必ずね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：あの、飛行機が動くでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：ほいで、こう、あの、^{のぼ}上るとき、オココクセかけるの、オココクセってね、

千葉：うん。

キヨ媼：カンドコロカムイったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：上の天の神様、よろしく願いますって乗るの。

千葉：うん。

キヨ媼：そしたら、間違いないからね。

千葉：うん。

キヨ媼：こうやって乗るんだ。

千葉：ふーん、そうか。あの、タフ °カラとか、ああいうときに、

キヨ媼：タツカラは男ばかりだ。

千葉：タフ °カラのとき、後ろから追いかけて女の人になんかやんない？

キヨ媼：うんだ。

千葉：【0:03:33】 ♪アウ、アーチャーとか、

キヨ媼：♪アウホーアウホーはね、やっぱり、なんちゅうのかさ、男さ、応援してやってるわけさ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ね、応援するっていう意味だべさ。

千葉：たら、あれもそっか、あの、い、^{つるぎ} 剣、^{けん} 剣の舞のときに、

キヨ媼：そうだ、後ろさ、つくべさ。

千葉：いや、ほら、あのときに、【0:03:53】 ♪アウホーホイ、アウホーオって、

キヨ媼：うんだ、うんだ、あれだ。

千葉：あれ、そうかな、したら。

キヨ媼：うんだ。その付きものの歌さ、早いところいえばな。うん。

千葉：うん。あれ、あの、あ、アウホーっていうのも、あれもオココクセっていうの？

キヨ媼：あれはオココクセでない。アウホーっちゅうやつは、もちろん、あの、^{はやし} 囃子だべさ。

千葉：^{はやし} 囃子か。

キヨ媼：オココクセっていうのは、早いところいえば、はや、あの、^{はやし} 囃子みたいなもんさ。オココク

せってばね、はやし、はやし、こう、あの、いっつもいっつもやるものでないからね。

千葉：うん、うん、うん。なんか、あったときに、

キヨ媼：いいことあっても、悪いことあっても、

千葉：うん。

キヨ媼：ね、入れる、あの、オココクセやるっていうこと。

千葉：なんか、ちょっと、テストでなんか歌ってみるか。

【0:05:00】

キヨ媼：(笑)

千葉：マッタレラは？

キヨ媼：ん？

千葉：マッタレラを、ちょっと一回、

キヨ媼：マッタ？

千葉：うん。♪マッターレラってやつ。

キヨ媼：あんた、[どこに聞いて歩いて]。

千葉：え？^{ひかわ}日川さん、歌ったでしょ、こないだ。

キヨ媼：(笑)【0:05:14】♪matta rera abaca osma uranis kando korekin ～(以下、歌詞略)～【0:07:25】

千葉：うーん。それ、節のことをね、え、ちょっと、聞きたいんですけども、その、うーん、マッタレラはむ、難しいかな。例え、サルルンカムイだったらね、

キヨ媼：ん？

千葉：サルルンカムイだったら、【0:07:44】♪sarurun kamuy a ho ha ho hoy ho, ho あ、eneokay、

キヨ媼：ホブニエト。

千葉：あ、ホブニエトが先、

キヨ媼：先、2番。

千葉：【0:08:00】♪hopuni eto a ho a ho hoy ho、

キヨ媼：で、そうやっていく。

千葉：【0:08:11】♪ene okay ha ho ha ho hoy ho ってやりますよね。

キヨ媼：うん。

千葉：あの、節がね、

キヨ媼：うん。

千葉：その、【0:08:27】♪サールールンカムイーってというのは、まあ、まあ、いいですよ。

キヨ媼：うん。

千葉：サル、ちょっと上がるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：音の高さが、

キヨ媼：うん。

千葉：低いの中から、【0:08:35】♪サールールンカムイーってあが、上がるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：で、声、

キヨ媼：【0:08:39】♪アーアア、ホオオオ オオって、こう、また、下さ、こう、下げるでしょう。

千葉：アアア、

キヨ媼：2回、【0:08:11】♪アーアア、ホオオオって、こう、2回いくでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：それから、ホブニエトってまたいくし、

千葉：その、【0:08:50】♪アーアア、ホーっていうときにね、

キヨ媼：うん。

千葉：ただ、ほら、アーア、ホって言わないでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：その、シャモの歌みたいに、♪アーア、ホーって言わないでしょう。

キヨ媼：【0:08:59】♪アアアア、ホオオアアアオ、ってこういくべき。こう、節がね。そうやって、その、踊りと歌と合わせていかなきゃない。

千葉：あの、聞いてるとね、その、♪アーア、ホっていうときに、♪アアア、あの、こう、節を、ほら、つけるからね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪アアアってつけるから、

キヨ媼：うん。

千葉：高い低い、よく分かんないんだけど、♪アアアアホオって、下がる？

キヨ媼：うん。

千葉：【0:09:21】♪ホウウ、アーアア、ホウウウ、

キヨ媼：そうそう。そうやって、こう、あの、ジンジン、ジンジン、節を回していくわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。

千葉：あの、

キヨ媼：でたらめに、あんた、文句ばかり、言っていたって、あの、歌なんないでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：だから、その、節をつけて、その、その、節でもって、踊りが、こう、あの、歌と踊りと、

千葉：うん。

キヨ媼：えー、一緒にこう、踊るわけだ。

千葉：ふーん。あの、今まで、ほら、何回も、サルルンカムイ教えていただいてね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、聞いてるとね、ほら、

【0:10:00】

千葉：テープも録音して、うちで何回も聞いているでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：そうするとね、その、聞こえるのはね、その、♪アアア、ホーっていうときに、ホーオ、ホーオオオって、下がるように聞こえるんだ。

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：♪アアア、ホオオオオ、ホーイ、ホオオオって、いうふうだね、

キヨ媼：うんだ、うん。

千葉：あ、それは、さ、さげ、下げて歌うもんなの？

キヨ媼：そうなの。節なんだよ、これね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：そいで、あれ、あの、和人の歌も同じでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：なに歌っても、節を、じょんから節、あ、でいうた、あの、いろんな歌でも、みんな、この節つけてやるでしょう。あれと同じだ、理屈が。ね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：なんでも歌、い、ぬ、日本の歌も、歌によって、それに合わせて踊るでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：だからそれと同じさ

千葉：うん。そうか、じゃあ、その、割と、その、ホオっていうときは、【0:11:00】♪ホウ、アアア、ホウウウウ、ホウウウウってやるんだね。

キヨ媼：うん、そうそうそう。そうやって、

千葉：あの、それで、

キヨ媼：歌って、そのようにして、あの、踊りも合わせていくわけ。うん。

千葉：その、オーオオーって伸ばすときにね、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、【0:11:13】♪アアア、ホオオオオオオオ、オーイ、ホオオオオ、全部同じでなしにね、

キヨ媼：うん、そうそうそう。

千葉：時々、【0:11:20】♪ホオオオンン、ホオオオオオオー、とか、

キヨ媼：そうそうそう、やっていくでしょう。

千葉：【0:11:24】♪オオオウ、オオオウ、オオオウ、オオオウ、オオウ

キヨ媼：はい。ああ、あんた、

千葉：上げたり、下げたり、

キヨ媼：うんだ、うんだ、そうやってやるの。

千葉：する、する、するんですか？ やっぱり。

キヨ媼：はい。私はね、

千葉：うん。

キヨ媼：この、サルルンカムイっていうのはね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ここでもずっとやってるの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：みんな、あの、フンドーリっていつてるでしょう。阿寒湖でもね。

千葉：うん。

キヨ媼：♪フンドーリーフンチーカフ °、アーホッって踊ってるでしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：フンドリって鳥は鳥だけど、

千葉：うん。

キヨ媼：私の、私は、今度、サルルンカムイっていえば、葦よしの神さんっていくわけ。

千葉：うーん。

キヨ媼：ほとんど、あの、鶴よしは葦よしにいます。

千葉：うん。

キヨ媼：ね、だから、サルルンカムイって歌う、

千葉：うん。

キヨ媼：自分で歌った歌、自分でつけてね。

千葉：うん。

キヨ媼：サルルンカムイは。よその人ら、みんな、そう歌ってないんでしょう、サルルンカムイとかって。

千葉：うん。

キヨ媼：フンドーリーフンチーカフ °って、

千葉：うん。

キヨ媼：うん。だけど、私はフンドリって、みんな、どこへ行っても、フンドーリー、フンドーリーって歌っているから、わしはサルルンカムイっていきますからって、ここで、今度、あの、サルルンカムイと歌ったわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ずっと歌うようにしたの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そうしたらね、私の相棒の人がね、初め、だからね、フンドリのほう言いやすっていうわけ。

千葉：うーん。

キヨ媼：ね。だけど、その、サルルンカムイは、言え、言えないってな、

千葉：うん。

キヨ媼：そういうんだ。だけどね、これはね、歌なんだから言えないとか、できないとか、やれないとかって言わないで、やれる気だら、なんでもやれるんだからね。

千葉：うん、うん。そうか、そうか。

キヨ媼：だからね、わしらは、本当にわし、いうのは、和人の歌なら、舞台1つに1つ歌えばいいでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：私はそうでないの。なんぼでも歌わんきゃなんないでしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ね。大変なんですよ。これ。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、わしね、た、は、あの、まあ、歌って悪いこともないけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、大変なんだ、これ、ね、ね。

千葉：うん。その、節の上げ下げっていうのはね、その、【0:13:34】♪アアア、ホオオオオオオって
いうのが、♪アアア、ホオオウウウオア、ホホオアって、ちょっと下げたりするときに、こうやって、
♪アア、こうやってっていうのは、

キヨ媼：うん。(笑)

千葉：僕も一緒に映ろうかな、たまには。

キヨ媼：入っとるの？ だな。

千葉：あとで、だって、自分が何説明しているのか、分かんない [もんね]、だって。

キヨ媼：うん、自分の話ばかり入ってんでないか？ [あ、薬、のんで□□]。(間) 私は、学校さも
上がらない。

千葉：うん。

キヨ媼：どうしてっていえばね、私3つのとき、小児麻痺でもって、あ、あの、動けなかった。

千葉：うん。

キヨ媼：11、12まで歩けなかった体だから、学校も行かんかったの。

千葉：うん。

キヨ媼：字も分からないの。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、みんなみたいに、あの、学校行って、字、分かるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、分からないでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：したから、字ばかり、読んでやるんでない、自分でね、

千葉：うん。

キヨ媼：こうしてやんなさいっていった、どうに [みやの]。

千葉：うん。

キヨ媼：昔の人は、学校も上がらない、字分からないでしょう？

千葉：うん。

【0:15:00】

キヨ媼：分からなくても、口で教えてもらって、なんでも覚えたもんだからね、そのようにしてやって、自分でどうやろうとかね。

千葉：うん。そのほうが本当なんですよ。

キヨ媼：うん。そうですよ。

千葉：ほんとね、うん。

キヨ媼：はい。そう。

千葉：さ、さっき、の、飲んだでしょう。

キヨ媼：かけてたの？

千葉：え？

キヨ媼：だからね、字も分かんないからね、みんなに笑われるの。字も分かんないからってばかにされっけどね、しょうがないもんね。

千葉：笑いやしないでしょう。ウポポだって、これだけできるんだから。ね。

キヨ媼：だ、私はね、親に、ゆ、ゆ、言ったことは、こ、あの、これ、あの、字おぼえてればね、

千葉：うん。

キヨ媼：字にかけて、一は何ていう、二は何ていうって、そうして教えてもらってね、

千葉：うん。

キヨ媼：書いて覚えるんだけど、字も分かんないからっていったら、昔の人、なぜ、字も分かんなくても、なんにも、その、歌を歌ったもんだって、

千葉：うん。

キヨ媼：1回、2回、聞いたら、ちゃんと、もう、頭に入れてやるもんだって言われたことある、言われたからね。

千葉：うん。昔の人のほうがね、頭いいんだ。

キヨ媼：ん、

千葉：ほんとはね。

キヨ媼：うん。

千葉：ほんとは頭いいんだと思うよ。

キヨ媼：だからね、今の人、

千葉：だって、1回聞いたら、忘れないもんね。

キヨ媼：今の人なんか、何かあったら、こうやって、こうやって、字、

千葉：書いても忘れるよ。

キヨ媼：やってるでしょう。

千葉：何遍書いても忘れる。

キヨ媼：私、私なんか、全然、もう、字分かんないからね、

千葉：うん。

キヨ媼：みんな、この人、全部、10人、十何人いても、みんな、字おぼえてるから、何かあったら、

ここに紙置いてやるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媪：わしは、字分かんないから、ただ、こうやって歌うだけでね。

千葉：うん。サルルンカムイだけは覚えましたもんね。少しね。

キヨ媪：ああ、そうですか。

千葉：少し、半分ね。

キヨ媪：はい。

千葉：いただきます。だからね、その、あ、その、あ、その、【0:16:53】♪アアア、ホウンンンンオオオ ホオオオオオオオオオオ、オオオオオオオって、ずっと同じ高さでね、

キヨ媪：うん、そうそう。

千葉：節をつけていくのと、♪オオオオ オオオオ オオオウオ オ、って、下げるときあるでしょ？

キヨ媪：そう。

千葉：うん。

キヨ媪：だからね、

千葉：あれは、きま、決まっているわけじゃないんでしょ？ そのときの、その、そのときそのときの、

キヨ媪：要するに、た、決まっはいるよ、決まっているんだけど、

千葉：うん。

キヨ媪：その日によっ、自分の、心の、

千葉：うん。

キヨ媪：あの、声もね、あれだから、あ、こ、こういうふうにしてやる、ああいうふうにしてやるって、

千葉：うん。

キヨ媪：そのようにして、いかんけりゃなんないわけ。なるべくなら、こう、とまんつかないようにして歌わなきゃならないんだからね。うん。(とまづかない=止まる+つまづかない、の言い方と思われる)

千葉：うーん。そうか、そうか。【0:17:43】♪アアア、ホオオオ、その、アア、♪アアアア ホウウウってのは、ホウって、下げるのは、下げなくてもいいの？ 真っすぐでもいいの？

キヨ媪：真っすぐでもいい、下げてもいいし。

千葉：♪アアア、ホオオオ、(ホとオに音高差をつけずに歌っている)

キヨ媪：ただ、節さえ間違えねばいいんだ。

千葉：うん。

キヨ媪：うん。

千葉：節ってのは、言葉のこと？

キヨ媪：そう、言葉。

千葉：うん。

キヨ媪：うん。

千葉: でも、真っすぐじゃあ、いけないでしょ? (節回しなしで) ♪アアアホー、ホーイホーじゃ、いけないんでしょう?

キヨ媼: うんだ。

千葉: うん。

キヨ媼: あ、極端じゃ、駄目。

千葉: うん、極端、

キヨ媼: 極端だったら、誰でもやれるの。

千葉: うん。

キヨ媼: 極端で、でなく、そ、そこへ、今度、節つけて、ずっといかなきゃならないの。

千葉: うん。

キヨ媼: (節なしで) 【0:18:17】 ♪アアア、ホー、アアアホーって、だら誰でもやれるでしょう?

千葉: うん。

キヨ媼: ♪ホーイホー、ホーイホー、

千葉: うん。

キヨ媼: もう、黙って聞いているとね、阿寒湖行っても聞いてみなさい。みんな、違うんだから、歌。

千葉: うん。

キヨ媼: あんたも、聞いているでしょう?

千葉: うん。

キヨ媼: うん。同じ歌でも、全然、節が違うでしょ。

千葉: うん、うん。あの、あそこは、♪a-ã a っ、そこにつけるでしょう、♪a-ã a hoo ooo、hoo° y hoo っ、♪hoo° y hoo っ、そこに、♪o°y っ、こう、つけますよね。

キヨ媼: そう。

千葉: これ、なんか、

キヨ媼: 節がね、

千葉: 節を、うん。

キヨ媼: えっといくわけさ。

千葉: そ、それは、決まりって、決まりなんだろうか。一応、フチが、こうやってやろうって決めてやっていることなの?

キヨ媼: そうさね。したら、そういうふうにして、いか、あの、節だって、

千葉: うん。

キヨ媼: 文句だって、そうやっていかなきゃなんないことなったら、やるでしょう?

千葉: うん、うん。

キヨ媼: うん。

千葉: 例えばね、その、僕が、フチに教わったサルルンカムイ、歌うでしょう?

キヨ媼: うん。

千葉: 歌うときに、ど、誰でもいいや、その、キヨコさんでもいいし、

キヨ媼：うん。

千葉：誰か教わって歌うとするでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：歌ったときに、その、♪アアアア ホウ ってやんなかったらいけないってことはないんでしょ？

キヨ媼：まずね、黙って聞いているとね、

千葉：うん。

キヨ媼：なんでも文句さえ入れてしまえば、

千葉：うん。

キヨ媼：節なん、あの、なんでも曲げなくてもいいっていうぐらいでもって、極端にやっているもの。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：向こうはね、で、私は、そうでないの。じんじょうに、節はこういうふうにしていって、文句がこういうふうな、あれだから、こうやっていくって。

千葉：うん。

キヨ媼：やるわけ。

千葉：うん。そっか。

キヨ媼：うん。

千葉：やっぱり、やったほうがいいっていう [なんだね?]

キヨ媼：そうだよ。

千葉：ねえ。ほん、本当はやる、

【0:20:00】

キヨ媼：ほんとはやる (笑)

千葉：え？ ふーん、そっか。まあ、じゃあ、なんでも、その、フチがやっているように、やればいいんだね。

キヨ媼：そうだ。

千葉：だけど、その、フチのやり方も、ん、幾通りか、やり方、あるでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：その、あの、こう、ずっとね、いろんなの聞いているとね、その、【0:20:25】♪aaaa houu u oooo って、こう、真つすぐ行くときもあれば、♪aaaa houuu uuuu hoo、(下線部を低く変化させている)

キヨ媼：♪hoooi hoooa aa、っていくべき。

千葉：♪ホオオウアアアア、

キヨ媼：うん。

千葉：言葉も、ほら、ウっていったらい、アっていったり、

キヨ媼：ちょ、そーそうそうそう、そうやっていくんだ。うん。

千葉：それは、なんていうんだろうな。何種類かの、やりとり、やり方あるよね？

キヨ媼：そうだ。でたらめに、♪ハー、やっぱり、ここでは、こういうふうには、

千葉：うん。

キヨ媼：ここでは、こういうふうには文句っていくのさ。

千葉：うん。

キヨ媼：そうやっていかんけ、踊りに合わないんだもの。

千葉：うん。

キヨ媼：極端に、♪アーホー、アーホーっていったってねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：それで、あんた、踊りもね、面白くないわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：それから、なんでも、こう、節つけていけば、そのようにして踊りだって、あの、格好つけて踊るっていうこと。

千葉：うん。

キヨ媼：ね、はい。

千葉：うん。あ、とか、そういう、アー、アア、ア、アーとかオーとか、そういう言葉とか、あの、♪アアアア ホオオオ ンンオウオ オオオイって、下げたり上げたりするのも、結局、その、そのとき、そのときの、なんていうんだろう、自分の体の調子もあるし、踊り見てて、思うこともあるし、それで、ちょっとずつは違って、いくもんなんだ [すかね]。

キヨ媼：いくものときもあるよ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：私、なんぼあれでもね、

千葉：うん。

キヨ媼：もう、ここんとこ、どこそこ行かんきゃなんないったら、踊り、みんな、稽古するでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：毎、毎晩ね。

千葉：うん。

キヨ媼：あ、ったら、2時間だらか、2時間、3時間だら3時間、稽古するでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、そこで、毎晩行って、自分、1人で声出すでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：まず、そこの、踊りが、や、やるもやらないも、見てれば、あんた、全然、踊りがなっていないで、歌も、歌に合わせないで、

千葉：うん。

キヨ媼：やっているやつもいるし、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、踊りに、歌に合わせて踊っている人もいるし、そんときの、もう、腹立ってくること

ね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。なぜ、1回や2回やったんでない、何回もやっているんだから、こんなことかと思っ
たら、気もやけるときあるけどさ、

千葉：うーん。

キヨ媼：やっぱり、その人、その人のね、心でやっているから。心だって大変だ。うーん。

千葉：うん。

キヨ媼：歌もなっていない、踊りもなっていないの、うーん、全然。

千葉：うん。

キヨ媼：あんまり、ねえ、スラスラっていえば憎まれるしね。

千葉：うん。まあね。

キヨ媼：ほんと。したから、^{だま}黙、あの、言うとおりにするけどね。

千葉：うん。

キヨ媼：大変ですよ、これ。うん。

千葉：ふーん。あの、ウタリ、ウタリオブンバレだったらね。

キヨ媼：うん。

千葉：えー、なんだ、【0:22:59】♪ウター、ウタア ロブン バアレ ワアア リムセエ レヤア ン アア
ア、低いね、これ。♪ウタア ロブン バアレ ワアア リムセエ レヤア ン アア アヘエ エエン ヨオ
ー っていくで [しよ?]、

キヨ媼：うんだ、それでいいの。

千葉：ね。

キヨ媼：うん、それで、それで

千葉：ね、だいたいね。

キヨ媼：うんだ、

千葉：だいたい。

キヨ媼：それでいいのさ。

千葉：いくけども、

キヨ媼：うん。

千葉：あの、フチの、ほら、歌聞いていると、上がるときもあるし、上げないときも、いろいろ、

キヨ媼：そうさあ。

千葉：ねえ。

キヨ媼：うん。

千葉：いろんなやり方するでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：それで、

キヨ媼：アツペアツペでなく、お、あの、その、節でもってね、

千葉：うん。

キヨ媼：文句は、同じ文句入れても、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、やっぱり、節でもって、いろいろ聞くべき。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうふうにしていくの。

千葉：例えば、その、さい、初めは、ほら、やっぱり、声出ないからね。

キヨ媼：うん。

千葉：【0:23:47】♪ウター ロブン バアレ ワアア ってやってるけども、

キヨ媼：うん。

千葉：う、声が出るようになっていくと、(高めの音域で)【0:23:53】♪ウター ロブン バアレ ワアア って、上げるでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：高さをね。

キヨ媼：そう。

千葉：そ、それは、もう、自由にやって、自由になって、好きにやっていいもん [なんですか?]

キヨ媼：そうなの。

千葉：うん。

キヨ媼：それはね、声に任せていくわけさ。

千葉：うん、任せて、

キヨ媼：ね、

千葉：うん。

キヨ媼：声に任せて、あの、やっていかんきゃねえ、いちいち、小さい声ばかり、大きい声ばかり、できないわけよね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、声に任せて、いくわけ。

千葉：うん、うん。や、やっちゃいけないことってのもあるんですか？

キヨ媼：やっていけないもの、アッペに、あんた、やら、やったら、うまくいかないべき。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、なるべくなら、当たり前、い、言っていかんかったら、踊りも、満足にならん。

千葉：うん。そうか。

キヨ媼：[だよー]ほんと、まあーあ、いろいろです。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：まあ、したからねえ、もう、いろいろ、もう、考えらしてもらってるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：本当に、これ、もう、もう、

【0:25:00】

キヨ媼：しばらく、歌ったこともないから忘れるよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ、□□□□ま、忘れちゃうの。

千葉：うん。

キヨ媼：たくさん歌っても忘れるっっちゃうこと。

千葉：うーん。

キヨ媼：みんなみたいに、こうやって書いていってな、

千葉：うん。

キヨ媼：これ歌った、はい、歌ったって、みんな、こう、広げてやれば、おらなんか、そったな、あの、字、分かんないから、その字、なんだか、わけ分か、なんだ。うん。

千葉：見てないよ、でも、広げても。

キヨ媼：え、

千葉：広げてるけど、見てないよ。

キヨ媼：(笑)

千葉：うん。これはね、その、録音したのを、こう、書いてるんだ。

キヨ媼：うん。

千葉：で、あとで、ほら、テープで探すときにね、便利だから。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：でも、だいぶ、あるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：テープね。

千葉：うん。歌ったの、みんな、書いたんだけどね。持ってくるの忘れてしまったんだ。さっき、探してみたけど。

キヨ媼：なんでも、忘れた、忘れた、もう。歌も忘れた。うん、だ、もう、向こう行って、何々やるとかってさ、

千葉：うん。

キヨ媼：これやるか、あれやるかっつって、一番先に、皆さん、あの、ウタレブンバレでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：2、2番目何やっていくか、3番目何やっていくかって、順々、順々書いていてさ、

千葉：うん。

キヨ媼：それで、そのようにって、なんか、わし、忘れるからさ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、

千葉：うん、だから、書いて、もう決めてやりましょうね。

キヨ媼：うん、そうだよ。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：一番先に、何々、2番、3番、何々、その、そうやって書かなかつたら、向こういったら、まあ、一番上のほうだけ言ってくれれば、ジンジン、ジンジンいくから、そのようにして、

千葉：うん。

キヨ媼：歌うから、いくけど、

千葉：じゃあ、そのとき、そのとき、僕、言ってもいいからね。

キヨ媼：そうだ。うん。

千葉：その、うん、歌と踊りで、その、お客さんに見せてっていうだけでもないからね。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：ちゃんと説明してやるものだから。

キヨ媼：ただね、

千葉：うん。

キヨ媼：録音だけとる、とるだけでしょう？

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ほいで、何人かいるだけでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：3人いるか、4人いるかね？

千葉：誰、お客さん、

キヨ媼：見る人、うん。

千葉：ううん、たくさんいるよ、何十人もいるよ。

キヨ媼：何十人、

千葉：うん。

キヨ媼：して、ばあちゃん、1人でやるの？ ああ、こうやったら、はい。

千葉：うん、うん、いいよ、だから、

キヨ媼：うん。

千葉：まあ、いいや、その話は、あとに置いといて。それでね、だから、あの、ウタレブンバレだったらね、

キヨ媼：うん。

千葉：その、【0:27:11】 ♪ウターロブンバーレワアが、(音階上の上の音域を使ったメロディーで) 【0:27:13】 ♪ウターロブンバーレワアア ってなってもいいんでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：いいけども、例えば、【0:27:21】 ♪ア、アア アヘエ エエン ヨオオー ってところが、(メロディー一音の上下の位置関係を入れ替えて歌っている) ♪アア アヘエ エエン ヨオオ っていうふうにはならないでしょう？

キヨ媼：うんだ。黙って聞いているとね、いろ、

千葉：うん。

キヨ媼：その、【0:27:31】♪ウタア レブン バアレ ワアア リムセー レヤン ンアア アヘエ エエン ヨ
オオ っていくべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:27:40】♪アア アホオ オウン ヨオっていう人もいるしね。

千葉：うん。

キヨ媼：けつのほう、頭のほう、いろいろ節つけてやる人もいる。うん。

千葉：その言葉変えちゃいけないけど、節も変えちゃいけないの、その、♪アア アヘエ エエン ヨオ
って、

キヨ媼：うん、うん、文句 [だけは満足に] 言って、したら、節、そのぐらいいければいいんでしょ
う。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。

千葉：だけど、ほら、その、いくらなんでも、♪アーヘー（上行旋律形）っていかないで、♪アア ア
ヘエ エエン ヨオー（下行旋律形）っていったら変でしょう。

キヨ媼：（♪？）アアアア、うん、だ（から）そうって、それ、まあ、みんなみんな、違うけどな。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：めちやくちゃじゃないんだもんね。

キヨ媼：めちやくちゃでないの。

千葉：うん。

キヨ媼：（笑）まあ、それぐらいいして頑張ると。

千葉：うん。その、音を上げるときってのは、上げる音っていうのは決まっているんですか？

キヨ媼：決まってないよ。

千葉：決まってない、

キヨ媼：うん。

千葉：例えば、よく、ほら、みんなが歌っているのは、【0:28:35】♪ウターリ オープン バーレ
ー っていくでしよう？

キヨ媼：うん。

千葉：で、フチのがまあ、ちょっと拍子が違うから【0:27:40】♪ウタア ロブン バアレ ワアア っ
ていくでしよう？

千葉：その、♪ウターってのが、高くなると、【0:27:41】♪ウタアロブンバーレワ っ、もっと高く
なったりすることは、【0:27:47】ウターロブン っことはないでしよう？

キヨ媼：うん、ないない。まちまち、その人の、あの、その [ひ、ひ] まあ、そのときの声でもって
ね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：文句は同じく出るけど、その声でもって、節が曲がるときもあるけど、そういう言うにしてや、あの、やっていくわけよ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：その、そんなに、こんなに高くはなんない、これぐらい高くはなるけども、

キヨ媼：うん。

千葉：こんなに高くはなんないっていうのは、

キヨ媼：うんだ、うんだ、うんだ、うんだ。

千葉：それ、声、声が苦しくなるからっていうだけ？

キヨ媼：あんまりね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、

千葉：聞いた感じも、

キヨ媼：うんだ、うんだ。そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：わし、で、若いときと違うから、声高（く）なくなったわ、早いところいえばな。うん。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：昔だと、そういうこと、舞台上立って、アイヌの歌でも、シャモの歌でも、浪花節でもやっ
たもんだけど、

千葉：うん。

キヨ媼：今だっかね、

千葉：うん。

キヨ媼：どうしてっていえばね、乳ガンで、これ、とっちゃったべき、みんな。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、骨しかないの、ここ。

千葉：うーん。

キヨ媼：全然、声が立たなくなった。

千葉：ふーん。

キヨ媼：でも、これだけは声出すけどねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、こわく¹⁹はないけど、声が立たなくなった。

千葉：うん。

キヨ媼：大きい声できないっていうことなのね。

千葉：うーん。

¹⁹ 「こわい」は北海道弁で、肉体的にきついこと。「しんどい」「えらい」と同義。

キヨ媼：したから血圧も低いってこと。

千葉：うん。昔、あんまり、ちっちゃい声でやっちゃいけないとか、そういうことっていうのはあるんですか。

キヨ媼：そんなことない。

千葉：ちっちゃい声でもいい、

キヨ媼：うん、大きい声してやったもんだ。

千葉：うん。

【0:30:00】

キヨ媼：わ、私はね、あの、

千葉：ちっちゃい声でやると、節、回りにくいですよ。

キヨ媼：うんだ。

千葉：ぼそって言ったら、♪ウーターロブンバーレワつつたら、節つかないですもんね。

キヨ媼：そう。黙って聞いていると、違うよ、その人、その人の。

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、あの、踊り、くし、阿寒湖の□□、歌っている人らの聞いてごらん。まあ、こういうふうにしてやっているのかっていうぐらいのもんで、鶴の舞でもね、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、あの、なんでも出せるね。

千葉：うん。

キヨ媼：もう、なんていうのか、早いとこいえば、文句だけさ入れていくワイっていうぐらいにいつてるべき。

千葉：うーん。

キヨ媼：ねえ。それに合わせては踊っているって。

千葉：うーん。

キヨ媼：まりも祭りにおいで、来ないの？

千葉：まりも祭り、僕、行けないんですよ、今年。

キヨ媼：ああ、そうか。

千葉：仕事しなきゃいけないの、東京帰って。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：行って歌うの？

キヨ媼：去年行かなかったからね、まりも祭りね。

千葉：うん、

キヨ媼：私ね。

千葉：そうなの、僕も去年も行かなかったから。去年は、まあ、フチ行かなかったから、

キヨ媼：うん。

千葉：知っている人いないし、別にいいやって思ったけど、今年行って、歌うんでしょう？

キヨ媼：そう。

千葉：ね、

キヨ媼：今年に行くよ。

千葉：うん。

キヨ媼：去年1年、行ったことない、行かなかったでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：大変だね、みんな、あの、

千葉：だから、行きたいんだけどね。

キヨ媼：よ、あの、わし、ちょうど、どこ行った、あのとき、青森でない。

千葉：ねえ、なんか行っていたよね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：青森じゃない、あれか、山形だか行ったのか？ おらと、

千葉：うん。

キヨ媼：な、どっちか行ってんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：山形か、行ったの。

千葉：どっちだっけ。

キヨ媼：あんた、山形行ったか。

千葉：山形、山形、あれ、どこだっけ、あれ、青森か。

キヨ媼：青森でしょう、行ったの。

千葉：青森だったか。

キヨ媼：青森だ。うん。

千葉：ね、うん、うん。寒いとこね。

キヨ媼：うん、ああ。寒くて寒くてねえ。

千葉：風、風吹いて。

キヨ媼：ぬくいばいいと思って、薄着していったけど、寒くて青森ってのにね。

千葉：うん。そうか、今日は、聞いていることが、

キヨ媼：ん、

千葉：ややこしいこと聞いているからね。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：うん。ちょっと、サルルンカムイって、一回、歌ってもらえます？

キヨ媼：はい。

千葉：声、こわい？

キヨ媼：なんもこわくない。

千葉：うん。大きい声でなくてもいいよ、別に。

キヨ媼：【0:32:12】 ♪sarurun kamuy a ho a ho hoy ho、駄目だな、待つてよ。

千葉：うん。今日調子悪いかな。

キヨ媼：ん、

千葉：う、うたや（めて、と言おうとしたか）

キヨ媼：【0:32:31】 ♪sarurun kamuy a ho ha ho hoy ho, hopuni eto a ho a ho hoy ho, ene okay a ho a ho hoy ho, ~（以下、歌詞略）~ hrrrrr hr（巻き舌の音）【0:36:22】、

千葉：うーん。人が大勢いたら、その hrrrrr っていうの、あいだ、あいだで入れてもいいもんなんですか？

キヨ媼：そうなの、これね、

千葉：うーん、うん。

キヨ媼：踊っている、あいだ、あいだで、そのね、

千葉：うん。

キヨ媼：2回、2回、繰り返したときに、ホロロホロ入れればいいの。

千葉：うん。それ、あの、今まで、フチ、1人でしか歌ったことない、

キヨ媼：うん。

千葉：ないでしょ？

キヨ媼：うん。

千葉：それ、大勢が歌えるようだったら、どうす、どうすればいいんだろう。

キヨ媼：ん、これ、やれば、わし1人で歌うのさ。

千葉：うん。

キヨ媼：1人で歌って、あんた、ホロロセ入れ [ないと]。

千葉：うん。

キヨ媼：この、こういうときに、ホロロセ入れなさいって。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：1人でやって、

千葉：うん。

キヨ媼：わし、ずっと1人でやって。

千葉：うーん。なるほど。ホロ、ホロロセ、ホロロセっていう、

キヨ媼：うん。

千葉：ホロロセっていうんだね。

キヨ媼：うん。ホロロセね。

千葉：そうか。その、節その、なんですか、【0:37:15】 ♪sarurun kamuy ha ho って、1回目やって、2回目が、a ho hoy ho、

キヨ媼：（「2回目」に合わせて） ♪ hoy ho って、こういくべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：それでいく、あの、

千葉：ん、うん。それ、だいたい、そういうふうに、決まっているんですか。その、♪オオオオオ、
ホオオオオ、

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：たんだ、フンド、いや、♪アーホー、アーホー、ホブニエト、アーホー、アーホーったら、
踊りになんないでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、そこに節いれなかったら、踊りも合わない。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：歌の、よって、歌と踊りと合わせていくからね。

千葉：うん。

キヨ媼：歌う人、一番大事なの。

千葉：うん。

キヨ媼：はい。

千葉：なんか、ほら、踏ん張るみたいに、節、下がる時あるでしょ？

キヨ媼：うん。

千葉：【0:38:00】♪アアアア ホオオン ンンンー ホオオオって、踏ん張るみたいに下がる時あるで
しょ？

キヨ媼：うん、うん。そうやっていくんだ。うん。

千葉：ね、うん。それ、だいたい、真ん中につくんですね、それは。

キヨ媼：そうそう。

千葉：うん。決め、決めてないのか、そんな、

キヨ媼：そうだ、なんでも繰り返して、繰り返していけばいいんだ、そうやって、

千葉：自然、自然になるもん、なんか。

キヨ媼：こう、こう、こうやってな。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。ああ、面倒くさい、こうやって、ここ、ここってね。(笑)

千葉：そうだよね、もう、何十年も歌っているんだもんね。

キヨ媼：うん、うん、うん。

千葉：うん。その、【0:38:29】♪アーアホっていうところは、♪アーア ホオオオ オオ っ、ホオオオ
オオオ っっていうてもいいし、ホオオオオ、頭だけ強くやって歌ってもいいの？

キヨ媼：うん、そうだ。そうだ。

千葉：【0:38:40】♪ホウウウウ、ホウウウ っっていうてもいいし、♪ ホオオオ、

キヨ媼：うんだ。

千葉：♪ホオオオってのと、♪ホオオオ、ホオオオ オオオ、ホオ、

キヨ媼：なんでもいいからね。

千葉：うん。

キヨ媼：途中から切れないようにして、【0:38:52】♪アアアア、ホオオア アアアンア アアアア ホオオイ イイイ って、こういけばいいんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：それで、こう、みんな、踊りが合わすんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：【0:39:01】♪アーホー、アーホー っていうたら、全然、踊りもなん、格好つかないでしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、この節によって、今度、踊りも、したから、踊りしても歌覚えなかったらね、

千葉：うん、うん。

キヨ媼：自分が、心で歌いながらね、

千葉：うん。

キヨ媼：踊らなかつたら、踊りにならないっていうことになる。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：だから、踊る人も、歌覚えなさい、っていうのをやかましく。あーもう、まいった、あもう、この人らは全然だね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：そうか。その、頭の♪ホオオオって、今日はね、やっていないんですね。

キヨ媼：ん、

千葉：フチはね。まあ、今日は真つすぐ、♪アーア ホオオオ オ って、この、ホオオオ って言うてから、こう、節をつけたでしょう？

キヨ媼：うん、うん。

千葉：で、ねえ、こないだの前だか、その前ぐらいだかに言ったときはね、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：♪アーア ホウウオオオ って、その、ホウ、ホウウウ ってやってたんですよ。ホオオオ でなく。あれは、音の高さ違うんでなくて、その、つよ、強く歌っているってこと、

キヨ媼：そうだ、そうだ。

【0:40:00】

千葉：こうやって強く歌うから、♪ホウオオっていうこと、

キヨ媼：そうだ、そうだ、そういうふうに行くっていうこと、

千葉：そういうことなのかな。

キヨ媼：そうそう。

千葉：音の高さっていうのは、別に、その、考えていないでしょ？ 気にしてないんでしょう？

キヨ媼：踊るのに、やっぱり、見てるさ。踊る人さ。

千葉：いやいや、音、音。音の高さ。

キヨ媼：踊りのさ、

千葉：うん。

キヨ媼：下さ行っているか、上さ行っているかい？

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：うん、それ、やっぱり見てるよ。

千葉：いやいや、そうでなくて、

キヨ媼：うん。

千葉：節のね、

キヨ媼：いや、節のね、

千葉：節の、高い、

キヨ媼：高さかい？

千葉：うん。

キヨ媼：それね、やっぱりね、同じく、やっぱり、できないから、

千葉：うん。

キヨ媼：結局、そういうふうにしていくわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：その調子でもって。

千葉：その、♪ホウウウ ってのは、別に、これ、高さは一緒？（頭のホだけアクセント気味に高い）

キヨ媼：うん。

千葉：♪ホウウウ ってのは一緒かな。（意識として、音高は同じで、ただ節がつくと考えていた）

キヨ媼：ほ、うん。そうやってね、まあ、歌と、歌によ、歌って、声だって、同じ声ばかりでないんだからね。

千葉：うーん。

キヨ媼：そやからねえ、この、あれでやるわけさ。その、

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：その人の、そのときのね、あれでもって、

千葉：うん、うん、うん。そうか、そうか。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：分かった、

千葉：まあ、それ、

キヨ媼：な、何、それから、

千葉：うん。そういう、うん、

キヨ媼：あんたも、もう、覚えたもん良いかべ。

千葉：え、いや、覚えてないわ。

キヨ媼：それから、

千葉：うん。

キヨ媼：サ、サルルンカムイってさ、ある、あるかい？

千葉：マ、マッタレラの節はね、

キヨ媼：マッタレラやったべさ。

千葉：うん、やった、やった。

キヨ媼：【0:41:16】♪アーバーチャーオシマー、ウーラーニシー、こうやっていくわけさ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：やってたべさ。

千葉：マッタレラはね、覚えてないんだ、俺。

キヨ媼：また、いれるかね、

千葉：うん。

キヨ媼：あら、ぬるいでしょう、これ。

千葉：うん、ああ、でもいいよ、

キヨ媼：え、

千葉：味あるから。うん。【0:41:36】♪マッター、マッターレーラーアアーバーチャーオシマー、ウーラーネースーカンドーコーレキンー っ。この、節っていうのは、どうやって覚えてたらいいですかね。

キヨ媼：これはね。

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、黙っててね、聞いてるとね、年寄りたちはね、黙って聞いてると、そうやっていくから、自分もそうやって、やろうっていう気持ちになる。

千葉：うん。あの、

キヨ媼：親の歌ったの聞いて、それように、

千葉：ふ、節がね、こう、

キヨ媼：うん。

千葉：上がったたり下がったりあるでしょう？

キヨ媼：うん、うん。

千葉：【0:42:12】♪マッタアアアアレエラーってね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪ハアーバーチャー、

キヨ媼：♪オシマー、

千葉：【0:42:16】♪アーバーチャーオシマ っであるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：だけど、その、それこそシャモの歌みたいだね、

キヨ媼：うん。

千葉：【0:42:23】♪アー、アーバーチャーオシマ っ、決まっていないでしょう。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：節がずっとつくから、♪アアバアチャーオシマー²⁰

キヨ媼：うん。

千葉：あれは、その、シャモの歌みたいに、こう、真っすぐに、高さが決まるわけじゃない、ないの。

キヨ媼：そうじゃないね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：ただ、例えば、その、♪アーバーチャーっていうんだったらね、

キヨ媼：うん。

千葉：アー、3つあるでしょう。高さが。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：【0:42:47】♪アーバーチャーってあるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：♪アーバーチャー、それが、♪アーバーチャーでもいいし、(音程幅を変えて)♪アーバーチャー、

キヨ媼：♪オシマーっていう。

千葉：なんでもいいんだよね？それはね。うん、うん。

キヨ媼：うん、いいんだよ、文句は言ったらいいんだもの。

千葉：うん、ただ、

キヨ媼：んまごと□□□□

千葉：高い低いがあれば、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：いいもんなのかな。

キヨ媼：そうそうそうそうそう、はいはい、ねえ。

千葉：うん、まあ、難しいな、これは。聞いても難しいな。聞いても難しいぞ、これは。うん。こわくない？

キヨ媼：なんもこわくない。その、私の娘も歌うけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：黙って聞いてるとね、やっぱり、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、フンドリっていつているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、鶴の舞、向こうでね。

²⁰ 音が一つの音高で伸ばされずにずっと揺れているから元の高さがわかりにくいことと言っているが、今にして思えば空振りの質問である。

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、そこでね、ここで、もう少し節つけければいいのにつて、思つても、節もつけないで、また、繰り返してやるつていうこと、あれは、やっぱり聞きづらいんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：自分が慣れているから、

千葉：うん。

キヨ媼：だ、あれをね、あの、ここでこういうふうにするばいいのにつて思つても、やっぱり、

千葉：うん。

キヨ媼：それを飛ばして、繰り返して、【0:43:49】 ♪フンドーリーフンチーカつて、こういくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：あれを、あの、ああ、ここだけでも、こういうふうにしていけばいいのにつて思つてもね、それを飛ばして繰り返していくつていうこと。

千葉：うん、うん、え、例えば、どういふところ、

キヨ媼：うん、そ、

千葉：娘さん、だつて、ちゃんと歌うでしょう。きちんと、

キヨ媼：うん。歌うけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、[けじめ] (きじめ?きずみ?不明) がね、やっぱり、

千葉：うん。

キヨ媼：なつてないところが、たくさんあるんだわ。

千葉：うん。例えば、どういふところ?

キヨ媼：うん、したからね、

千葉：うん。

キヨ媼：【0:44:14】 ♪hundori huncikap a ho a ho hoy ho つて、こういくべき

千葉：うん。

キヨ媼：【0:44:27】 ♪hundori huncikap a ho a ho つて、これ、いつて、こうやつて切つていくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：それ、やっぱり、聞きづらいの。わしとしたら。²¹

千葉：あ、き、切っちゃいけないの。

キヨ媼：うん。切らないで、なるべくなら、こう、

千葉：続けて、

²¹ キヨ媼は思うところがあつて発言されているのであり、節に対する評価基準を示す非常に興味深い発言だが、具体的にどの部分を言っているのかは分からない。御息女は当時すでに若手の歌い手として大いに活躍しており、決して節の回らない人ではない(現在では最高峰の歌い手である)。媼が悪い例として真似する歌(【0:44:27】)はデフォルメが強く、かえつて言及の対象部分が不明である。

キヨ媼：うん、【0:44:41】♪ a ho a ho hoy ho って、こういけば、

千葉：うん。

キヨ媼：聞きやすいけど、

千葉：うん。

キヨ媼：黙っていると、みんな、そんと。

千葉：え、む、その、娘さんは、あ、

キヨ媼：やっぱり、みんな、そうだ。

千葉：切る、

キヨ媼：黙ってる、みんな、違う。

千葉：うん、うん。

【0:45:00】

キヨ媼：だね。

千葉：【0:45:01】♪ンアアア、ホオオオオオオオ、

キヨ媼：だから、ここでね、節がこういうふうにして入れればいいなと思うところ、

千葉：うん。

キヨ媼：それ、切って、また繰り返しやっているから、聞きづらいついていうことになるの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：難しいな。【0:45:14】♪hundori huncikap a ho a ho、あれ、サルルンカムイと一緒になっちゃうな。♪ホオオイホオオオ、

キヨ媼：みんな、そこで切って、まだ繰り返して、切って、あれでもう少し伸ばして、すれば、きき、あの、聞き入れ、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、あ、全然、これっていうとこまでいっていないもんな、みんなね。

千葉：うーん。そうか、どこが違うんだろうな。うーん、♪アーアア、ホーウオオオオ、アーアア、ホーウオが短いっていうこと、【0:45:51】♪a ho hoy ho、

キヨ媼：もう少しね、切れみ（切り目？）してさ、

千葉：うん。

キヨ媼：ここで、【0:46:04】♪hundori huncikap a ho a ho hoy ho ってこういけばよかった。【0:46:16】♪a ho a ho って、こう、切れ目、切っていくわけ。

千葉：うん。その、節を、こう回さないっていうこと、

キヨ媼：うん。

千葉：♪アアアアっていれ、入れないで、♪アーア、

キヨ媼：入れないで、切って、切っていくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：繰り返して。あれでなく、もう少し、こう、入れれば、聞きやすいし、踊りやすい、あの、

踊りも、

千葉：うん。

キヨ媼：ここでこういうふうにして、入れなきゃなんない、どこ、なんして、こうやって入れないんだべなと思うときあるもん。

千葉：うん、ふーん。そうか。難しいもんな。フチの節は難しいもん。

キヨ媼：難しいよ。うーん。

千葉：まねできないもんね。ふーん。そうか。

キヨ媼：そりゃ、みんな、日高行っても、みんな違うでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：日高の、あの、なんってったっけ。あの、今、あんた、行ったとこ。行ってきたべ。

千葉：どこ、あ、静内？

キヨ媼：ん？

千葉：静内

キヨ媼：うん。あそこ行ったときも、

千葉：うん。

キヨ媼：女の人、歌っても、やっぱり違うべ、一人で、で。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：うん。

千葉：だからね、その、札幌行ったら、そういうことをね、みんなに聞いてもらおうと思ってね。

キヨ媼：うん。

千葉：その、今の節は、ちょっと違ってきているからっていうことをね、

キヨ媼：うん。

千葉：まあ、それはいいとして、ムックリをね、ちょっと、ひとつ、

キヨ媼：それがいいですか。

千葉：うん。

キヨ媼：あら、ムックリ置いてきたな、向こうさ、家で。イヤホイ。ほんとに、ムックリ、

千葉：向こうって、何、チセ、

キヨ媼：うん。いい、いい、これでいいから。これでやるから、いい。【0:48:02】♪（ムックリ演奏 2分55秒）～【0:50:55】

千葉：続きますねえ。ねえ。

キヨ媼：長くできませんね、やっぱり。

千葉：いやいやいや。

キヨ媼：はい。

千葉：僕だって、そんなに長くやったら、い、今ごろバタって倒れてるよ。

キヨ媼：これ、【おさまずくない】。

千葉：うーん。

キヨ媼：これでね、昔、若いときならね、15分も20分もやったんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：それいくと、舞台でね、

千葉：うん。

キヨ媼：やったもんだけど、歯、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：[そういつてれど]、こん、みんな総入れ歯でしょ？

千葉：うーん。

キヨ媼：息してる□□、これが下がってくるの。

千葉：□□□□□□ね。うん。

キヨ媼：だから、長くできない。

千葉：うん。

キヨ媼：はい、ありがとうございました。

千葉：ねえ、それは、今のは、手は決まっているんですか？

キヨ媼：決まってるね。でたらめなくちゃくちゃ、くちゃくちゃって、

千葉：手は、手は、いくつ？いくつぐらいあるもんなの？

キヨ媼：あれね、3つも4つもあるんですよ。うん。

千葉：うん。あの、バンパーンパーンパーンってやつと、

キヨ媼：うん。バンパーンパーンパ、あ？ん、

千葉：ん？

キヨ媼：あのね、私ね、サビタの木のやつ持つてる。

千葉：ああ、前一回聞かせてもらったことある。

キヨ媼：うん、うん。♪ (ムックリ演奏 30秒) ~ 【0:52:27】 はい。

千葉：今のだとね、その、ほら、拍子がなんか、

キヨ媼：うん。

千葉：【0:52:33】 ♪ (ムックリ演奏 5秒) ♪♪♪♪ ♪♪♪♪ ♪♪♪♪ っていう拍子のやつあるでしょ？

キヨ媼：うん、あります、はい、はい。

千葉：ねえ。それが、あた、それが、それが、1つと、で、それが1つと、あと、普段やってる、その、何、^{おんな}同じ拍子のね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪ (ムックリ演奏 5秒) (右手は ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 息で裏拍をつくる) っていうような、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：ちょっと違うかもしれないけど、

キヨ媼：はい。それがね、

千葉：うん。

キヨ媼：なんていうのか、パンパンパンパンパンって、先にいっているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度、フッカフッカドンドン、フッカフッカドンドンっていっているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：あれも、やっぱり、音^{おん}のなかに入っているんですよ、あれね。

千葉：音^{おん}ってというのは、その、こう、

キヨ媼：そうだ。こうなっていっててでしょう？

千葉：なんか、こういう、うん、うん。

キヨ媼：うん。そういうふうにしておくってる。

千葉：うん。

キヨ媼：それから、今度、フッカフッカ、うんとかう、フッパフッパッパって、こういっているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：あれは、今度、クマの鳴き声とかいく、風の鳴き声、そのあいだに入るっていうこと、ね。

千葉：うん。あいだに入っているんだ。

キヨ媼：まあ、

千葉：でも、それ、そのね、クマの鳴き声ってというのは、どういうやつ。

キヨ媼：これ、こう、こう。【0:53:47】 ♪ (ムックリ演奏 20 秒) ~ 【0:54:07】 これ、こうやっていく。

千葉：それは、息をね、

キヨ媼：うん。

千葉：1つは、その、拍子は、ほら、ずっと同じでいいわけでしょう？

キヨ媼：うん、そうそうそう。

千葉：トントントントン、

キヨ媼：ハップハップハップっていくべき。

千葉：ハップハップハップか。

キヨ媼：うん、うん、うん。

千葉：なんか、ウエーウエーって感じでやる、(ウエーウエー、は、クマの声のつもり)

キヨ媼：メェーメェーメェーっていくんでしょう、ハップハップハップ。はい。

千葉：【0:54:22】 ♪ (ムックリ演奏 1 秒)

キヨ媼：そうそう。

千葉：息は吸うんですか、吐くの。

キヨ媼：吐いたり吸ったり、吐いたり吸ったり。

千葉：代わり番こ？

キヨ媼：うん。

千葉：代わり番こでもない？

キヨ媼：そうです、はい。

千葉：代わり番こ？

キヨ媼：はい。

千葉：いろいろ？

キヨ媼：うん。

千葉：(笑) ど、(どっちだろう、どれだろう、の独白)、

キヨ媼：そうだ、ハップハップ、フーフー、ハップハップ、フーって、そう。

千葉：【0:54:39】♪ (ムックリ演奏 5秒)

キヨ媼：そうそう、うん、そうそうそう。そうそうそう、そうそうそう。

千葉：吸う、ハップハップっていうのは、吸うんだね？

キヨ媼：そうだ。

千葉：【0:54:48】♪ (ムックリ演奏 3秒) カチカチいっちゃうな。

キヨ媼：はい、はい、上手です。

千葉：わし、いいやつ置いてきただのう、うち、チセで。お客さん、鳴らせっていうときに鳴らすべさ。

千葉：【0:54:58】♪ (ムックリ演奏3秒) これがハップハップ、

キヨ媼：うんだな。

千葉：吸ってるんだね。

キヨ媼：うん、うん、うん。

千葉：で、フッカフッカっていうのは、【0:55:06】♪ (ムックリ演奏 15秒)

キヨ媼：うんだな。あ、上手です。はい。【0:55:24】♪ (ムックリ演奏 6秒) これ駄目。これがね。

千葉：□□□？

キヨ媼：[えわり] (えぱり?)、mukkuri だ。いいの置いてきただの。【0:55:42】♪ (ムックリ演奏 13秒) ね、長いね、これ。

千葉：長いか。

キヨ媼：うん。

千葉：それ、あの、長くやんなくていいからね。

キヨ媼：うん。

千葉：ちょっとたくさん聞きたいから、

キヨ媼：うん。

千葉：1個長くやると、疲れちゃうから、

キヨ媼：うん、うん、うん、うん。【0:56:07】♪ (ムックリ演奏 2分37秒) ~ 【0:58:44】

千葉：はい。うん。ねえ、それ、あの、クマの鳴き声っていうのはね、分かりましたけど、

キヨ媼：うん。

千葉：風の音っていうのは、どんな、

キヨ媼：風の、その、あいだにね、クマの鳴き声が入った、パフパフってなっていたでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、風の声。

千葉：パフパフっていう音。

キヨ媼：うん。

千葉：あ、クマと一緒に、

キヨ媼：一緒。クマの声と、そのあと、ハップハップっていつているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：それが、風が、こう、揺れている。

千葉：うん。ちょっと休んだほうがいいですね。

キヨ媼：え、

千葉：ちょっと休んだほうがいいね。

キヨ媼：はい。

千葉：一杯お茶を。

キヨ媼：□□□□□、あれだ□、消した？

千葉：うん。風、あれ、ウェーウェーっていうのは、あれは、クマですよ。

キヨ媼：うん、メエメエ、ワンワ、メエメエ、うん。

千葉：あの、節の、あれも関係あるのかな、その響いている、あの、コン、コン、コンって音が聞こえるでしょう。

キヨ媼：うん、コンコンコンね。やっぱり、それは、その、あいだに、その、パフパフパフっていつているでしょう。そのあいだに、

千葉：うん。

キヨ媼：コンコンコンっていつているでしょう。風の声と、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：クマの鳴き声と、あいだに入っているの、これね。

千葉：うん。うん。

【1:00:00】

千葉：うん。【1:00:05】♪ (ムックリ演奏 15秒)

キヨ媼：ああ、上手だ、はい。

千葉：これは？

キヨ媼：うんだ。

千葉：これは何のやつ？

キヨ媼：今、パフパフっていったべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：したら、クマの鳴き声さ、今度ね、あ、あいだ、その、クマの、あの、風みたいなの、

千葉：風っていうのは、あれ、クマの息？

キヨ媼：息さ、結局。

千葉：あ、息の音か。

キヨ媼：うん。

千葉：風って、ひゅーっていう風じゃなくて、

キヨ媼：そうそうそうそうそう。【1:00:38】♪（ムックリ演奏 12秒） こういくべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。うん。

千葉：ちょっと待って、ちょっと待ってよ。今までね、フチがやってくれたのは、

キヨ媼：うん。

千葉：たくさんあるんだよ。

キヨ媼：うん。

千葉：えっとね、アイヌのはやしっていうのがあるのね。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：あと、アイヌの歌っていうのがある。

キヨ媼：うん。

千葉：あと、鳥の鳴き声、

キヨ媼：はい。

千葉：風の吹く音、

キヨ媼：はい。

千葉：クマの鳴き声、

キヨ媼：はい。

千葉：雨、雨だれの音、

キヨ媼：はい。か、ちょ、

千葉：それから、山登り、

キヨ媼：はい。

千葉：急いでいるときの歩き方っていうのがあるんだ。

キヨ媼：うん、うん、うん、チャカチャカチャンチャンっていうやつね。

千葉：うん。

キヨ媼：そこで、あの、あれだ。そこに1つ入っていないやつ、まだあるな。今、吹いたとこね。うん。

千葉：あ、あと、何？

キヨ媼：それだけ、入っているでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：一番先は、あの、

千葉：はやし、

キヨ媼：はやしの音でしょう。うん。たら、結局、あの、手拍子でしょう？

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。それからクマの鳴き声、だ、それから、トリの鳴き声、

千葉：うん、あと、

キヨ媼：風の声、うん。

千葉：あと、ウポポっていうやつだね、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：ウポポってというのは、な、何種類もあるんですか？

キヨ媼：【1:01:47】 ♪ホーイ、んんん（歌のようでもあるが、質問に対する否定の答えを挿入したようにも聞こえる）、♪ホーンンンンーホーイヤー ホーイヤーエエエ、ってやって、今度、は、こうやって、【1:01:54】 ♪プッカヨーオオホイッっていつてるの。【1:01:57】 ♪ホーイヤアホーイヤアエエーホーイヤアエホーイヤ、ってやつ、それ、それで、今度、これでいつているわけさ。

千葉：へえ。

キヨ媼：ウポポに入っているの。このウポポさな。

千葉：♪ウンボーウ、あ、あの、ウポポは、その、【1:02:13】 ♪ホ、ホーイヤア ホオイヨオー ホーイヤー ホオー、

キヨ媼：【1:02:18】 ♪ホーイヤア ホーオーイヤオー ホーイヤーホーイヤー アアーホーイヤアーホーイヤーっていくべさ。

千葉：あ、同じ、同じか。

キヨ媼：おお、そうだ、くり、繰り返していつていけばいい。

千葉：うん、うん。それも、要するに、はやしを入れるっていつこと？ ホーイホイッとか、

キヨ媼：うん、そうそうそうそう。

千葉：チョーイチョイとかいう、

キヨ媼：うん。

千葉：ことを、ムックリでやる？ 手拍子やる？

キヨ媼：それさ、その、はやし、またいつてるわけさね。

千葉：うん。

キヨ媼：そのムックリとね。

千葉：うん、うん。ちょっとこれ、ちょっとずつ、ちょっとずつ、やってもらえませんが、長くやると疲れるから、

キヨ媼：そ、

千葉：ちょっと休む？

キヨ媼：それ、その、

千葉：うん。

キヨ媼：一番先には、

千葉：いや、一個一個いつから、

キヨ媼：はやし、

千葉：一個一個いつから、つなげてやらないで。

キヨ媼：うん。

千葉：つなげてやると分かんないからさ、ちょっとずつでいい、

キヨ媼：うん、うん。一番先のやつ、何、何書いてる、

千葉：アイヌのはやしっていうの、

キヨ媼：はやしね。

千葉：はやしって、だから、ウポポのはやしのこと？

キヨ媼：そうだ、そうだ。はやしだ。

千葉：じゃあ、それとアイヌの歌っていうのは同じことかな？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：ね、ここは同じことだね。

キヨ媼：うん。そうさ、あんた、分からない人、なんだかプカプカ、プカプカって、で、やっぱり、吹いている人は、これが、こうであった、ああだっっていく、いってるからさ。

千葉：ねえ。

キヨ媼：うん。

千葉：ただ、聞いていると、どこが、どこがどういうウポポなんだか、分かんないもんね。

キヨ媼：分からないの。

千葉：うん。

キヨ媼：だからね、あの、自分が、誰も分かんないさ、この、これはね。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、あんた、プカプカ、プカプカっていってるなど思っても、やっぱり、そこで、あの、意味があって吹いているんだから、

千葉：うん。

キヨ媼：分からない人は、ただ、プカプカだ、プカプカだって聞いているだけで、やっぱり、意味のあって、吹いてることだからね。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：大変なんだわ、これね。

千葉：うーん。雨だれの音っていうのは、

キヨ媼：あま、

千葉：あれ、あれは聞いていて分かるもんね。

キヨ媼：雨だれな、阿寒湖さ行って聞けば、雨だれのこう、こうやってみなさい、こうやって。【1:04:12】

♪ (ムックリ演奏 13秒)、こうやっていってるべさ。

千葉：うん。それ、

キヨ媼：バン、バン、バン。

千葉：雨だれは息使わないんでしょう？

キヨ媼：うん、そう、こうやっていってるでしょう。バン、バン、バンって。

千葉：うん、バン、

キヨ媼：雨だれ。

千葉：息は、あんまり、こう、息は使わない、

キヨ媼：そうだ。いかないで、こうやっていっているよ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：この雨だれの音。

千葉：ね、それ、雨だれの音に聞こえるもんね。

キヨ媼：うん、そう。

千葉：ピチャン、ピチャンっていう音でしょう。

キヨ媼：うん、そうそうそう。

千葉：うん。

キヨ媼：これ、雨だれの音でしょう。

千葉：あと、風の音っていうのは？ 風の音。

キヨ媼：【1:04:49】 ♪ (ムックリ演奏 19秒)

【1:05:00】

キヨ媼：こうやっていっているんです。

千葉：うん、これ、息調べてるからね。

キヨ媼：うんだ、ぼーっ、ぼーっ、てね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：吹いたり、

キヨ媼：うんだ。

千葉：吸うこともあるんでしょ？ 今のは、

キヨ媼：そうそうそうそう、

千葉：吸ってもいる、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：ふーん、そうか。クマの鳴き声っていうのは、さっきのやつでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：バフ、バフ、バフっていうやつだね。

キヨ媼：バフ、バフね。

千葉：バフ、バフ。

キヨ媼：それから、雨の音、雨だれの音。

千葉：うん。クマの声で、その、ウエーウエーっていうのは、子グマ？ 親？

キヨ媼：親グマも子グマもないべさ、これ。

千葉：ないのか。

キヨ媼：うん、うん。[こんな] (あんね、か?)、【1:05:36】 ♪ (ムックリ演奏 22秒) はい。

千葉：うーん、なるほど。うーん。

キヨ媼：はい。

千葉：それと、鳥の鳴き声っていうのは、や、やんないですよ。フチは。

キヨ媼：ううん。

千葉：そういうのもあるっていただけだよ。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：やる人がいるっていう、昔。鳥ったって、カラスぐらいだね。山登りっていうのは？

キヨ媼：ん？

千葉：山登り、急いでいるときの歩き方って、昔いっていたんだけど、これ、クマのことかな。それとも、

キヨ媼：人間も走っていると音だべさ、人間の。

千葉：この、タッタッタっていう音？

キヨ媼：うん。

千葉：ガサガサっていう音かな

キヨ媼：こうやっていくんだべさ、こう、早いところいけばな、こうやって。【1:06:39】♪（ムックリ演奏 30秒）はい、こうやっていく。うん。

千葉：これは、あれなんだね、じゃあ、タンターンターンターンっていうのは、これ山登りの、

キヨ媼：うんだ、そうだ、そうだ、そうだ。そうだ、そうだ。

千葉：歩き方なんだ、

キヨ媼：バンパーンパーンパーンパンって、こういくべさ。

千葉：ああ、走っている、

キヨ媼：うん、走ってるの。

千葉：走って登れるもんかね、山。（笑）えらい丈夫な足の人だね。

キヨ媼：うんだね。あんたぐらいの若い人だ。

千葉：ふーん。まあ、でもそうだったかもしれないね。

キヨ媼：はい。そうだった。

千葉：これは、あれですね、息吸うほうが多いんですね。

キヨ媼：そう。

千葉：【1:07:34】♪パンパン、フー、パンパン、スー、フー、フー、フー、フー、（フ＝呼気、ス＝吸気として）あ、ちょっと分かんないけど、うん、吸うほうが多いんだ。なるほど、なるほど。

キヨ媼：ね、はい、分かりました。

千葉：この、この、ムックリの、ムックリのほうがきつってことある、歌と、

キヨ媼：私、歌ってね、ムックリ吹いて、歌のほう、どっちっていったらね、

千葉：ムックリのほうが楽？

キヨ媼：ムックリのほうが楽だよ。みんな、

千葉：楽っていったね。

キヨ媼：ム、あの、ムックリのほう、あの、こわいっていう人もいるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：疲れるっていう人もいるけど、わし、あの、これ、息吸ったり吐いたりするからね、

千葉：うん。

キヨ媼：疲れないんですよ、うん。

千葉：うん。

キヨ媼：ムックリのほうね。だからね、舞台に立ってもね、

千葉：うん。

キヨ媼：疲れるでしょうっていつてんだけど、そうでないの。もう、あんた、歌だって、なんぼ種類も、
1人で、1人で歌わなきゃなんないからね、

千葉：うん。

キヨ媼：大変なんだわ、これ、歌は。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。たらね、和人だったら、歌1つで、舞台終わらずでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：わしは、そうでないんだもん。

千葉：うん。

キヨ媼：今度は何の踊り、今度は何の踊り、5つぐらい歌わなきゃなんないでしょう。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：大変なんだわ。

千葉：そうか、そうか。だから、札幌でも今日やったようなね、ことやればいいかなと思ってんの。
その、サルルンカムイだとか、ウタレオブンバレとか、マツラレラぐらい歌ってね、あと、1つ、2
つ、うん、

キヨ媼：ムックリ [とか]

千葉：歌ってもいいし、

キヨ媼：うん。

千葉：あと、ほら、ムックリ、今の、その、やつをね、

キヨ媼：うん。

千葉：クマだとか、

キヨ媼：うん、うん。

千葉：その、雨の音とか、ちょっと説明しながらね。

キヨ媼：うん。

千葉：聞いている人、ほら、いつつも、舞台でやっているのもそうだけでも、ばあってやると、上手
なのは分かるけども、そういう、

キヨ媼：分からないからね。

千葉：ね、分からないでしょう。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：説明聞いたほうが、きっと、

キヨ媼：うんだ。

千葉：分かりやすいしね。

キヨ媼：うん、うん。

千葉：面白いと思うんだ。聞いている人も。だから、その、

キヨ媼：だから、私が、これやりますよっていうとき、あんた、説明してくれればいいんだ、

千葉：うん、だから、

キヨ媼：今のな、

千葉：うん。

キヨ媼：今、歌っているのは、何々の歌とかね。

千葉：うん。例えば、その、クマの、

キヨ媼：サルルンカムイとかっていうのは、

千葉：うん。

キヨ媼：葦^{よし}、鶴の歌、鶴の踊りの歌とか、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、マツタレラは、ばあちゃん、しま、言ったべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。あれは、か、あの、上から、あの、風来て、

千葉：うん。

キヨ媼：結局、あの、アバチャーオシマったら、上から風を来て、吹いて、

千葉：うん。

キヨ媼：その、アバ、あの、戸口に、

【1:10:00】

キヨ媼：風吹いているっていう意味で、

千葉：うん。

キヨ媼：繰り返して歌っているわけ。

千葉：うん。♪マッターレラーアバチャーオシマ、

キヨ媼：アバチャーオシマ、ウラニシ、ウラニシったら、風、そこへ回ってきて、また、天さ上ったって意味だ。

千葉：うん。ふーん。うん。ウラニシーカンドーコーレキシーか、

キヨ媼：うん。

千葉：そうだね。

キヨ媼：うん、したら、ムックリと、それと、あの、ウタリブンバレとか？

千葉：うん。

キヨ媼：マツタレラと、

千葉：うん。

キヨ媼：それから、サルルンカムイとか、

千葉：うん。

キヨ媼：マッタレラ、サルルンカムイ、

千葉：ウタレ、

キヨ媼：それからウタレブンバレ、

千葉：それで何分ぐらいになるだろうね。

キヨ媼：ん？

千葉：説明しながらだったら、

キヨ媼：ん？

千葉：説明しながらだったら、ずいぶん時間、

キヨ媼：かかるよ。

千葉：結構、ねえ、結構かかるね。

キヨ媼：うん、だからね、今の、結局、あんた、覚えてるんだから、わし、歌って、自分が、しゃべ、説明するんでない、あんた、説明して、今度、今、歌っているのは、これ、こういう歌ですとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：で、ムックリはこういうふうだとかって、言ってくれば、

千葉：うん。

キヨ媼：そうでなかったら、わし、続けて、言えないもの。今度、

千葉：ねえ、うん、うん。

キヨ媼：つ、疲れるっていうことになるから、

千葉：そうだね。

キヨ媼：説明してくれると。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：うん。

千葉：ね。

キヨ媼：だから、3つなら3つ、4つなら4つと、

千葉：うん。

キヨ媼：そのあと、あの、あの、あれだな、

千葉：それか、その、う、歌とかね、ウポポでもなんでも、その、ほら、ちょっと、これきついから、例えば、うん、サルルンカムイは、ちょっとやってほしいけど、マッタレラはきついから、ほかのウポポがいいとか、そういうのがあればね、別にそれでも、ちょっと変えてもいいよ。別にない、ないよね？

キヨ媼：ある、ある、たくさんよ、これでいいっていわれてたくさんあるべき。

千葉：いや、な、どっちの。

キヨ媼：やから、ヨシの、ヨシ、葦刈りにいくとかね、

千葉：サルキウシナイとか、

キヨ媼：ええ、サルキウシナイ。

千葉：いや、あの、たくさんあるのは知っているよ。

キヨ媼：あるよー。したけど、

千葉：たくさんあるのは、みんな、し、うん。

キヨ媼：と、うん、だけど、何いいかっていうと、ここだね、

千葉：そうそうそうそう。うん。

キヨ媼：【1:11:59】

♪サルキウシナイーコオオターンン、コオオトウイマアレウケーって、それも、いい、いい歌だしね。

千葉：うん。

キヨ媼：サルキウシナイったら、結局、ヨシを刈りにいって、遠いところ、今、刈りにいってという意味、意味の歌だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、これ、マッタレラ入れても、これ、入れるか、

千葉：うん。

キヨ媼：これ、抜けて、それ入れるかって、どっちか、

千葉：ああ、そうだね。

キヨ媼：この2つのうちに、どれ入れるかっていうこと。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。

千葉：そうか。

キヨ媼：あんたに、言う、言いやすいところ、や、言ってごらんよ。

千葉：サルキウシナイ、サルキウシナイだったら、僕が、ちょっと勉強しないと。

キヨ媼：マッタレラは、

千葉：マッタレラは、ちょっとだけ勉強したんだ。

キヨ媼：うん。風のね、

千葉：うん。

キヨ媼：今、天から、

千葉：♪サルキウシナイコータン、コートウイマーレウケーか。

キヨ媼：うん。

千葉：♪サルキ、ちょっと歌ってみてください。

キヨ媼：【1:12:45】♪sarki us nay kotan ko tuyma rewke ～(以下、歌詞略)～ ホーイ ホイ【1:13:18】、
ってこれでいくんだ。ね。

千葉：♪sarki us nay kotan ko tuyma rewke、

キヨ媼：そうしたら、今度、ヨシ刈りに行って遠いところの、ヨシ刈りに、今、行っているっていう意味で、

千葉：うん。

キヨ媼：言っているべさ。それでいいんでしょう。

千葉：うん。ねえ、あの、よくね、その、みんなが歌う、【1:13:35】 ♪サルキーウシナイコーターン
コー、って、今、どういうんだっけ、♪サルケーウシナイコーターン、コー、どういうんだっけ。あ
れは、あれは、なん、どういうんでしょうね。あの、

キヨ媼：じゃ。サルキウシナイって、今、言ったべさ。

千葉：いやいや、だから、節がほら、つか、ちょっとつかなくて、

キヨ媼：(節たっぷり) 【1:13:52】 ♪sarki us nay kotan ko tuyma rewke、これ、自分で、あの、
節つけてやんの、(節なし極端) 【1:14:00】 ♪sarki us nay kotan ko tuyma rewke、sarki us nay
kotan ko tuyma、これなら聞きづらいから、結局、

千葉：うん。

キヨ媼：そこで、(節たっぷり) 【1:14:09】 ♪sarki us nay kotan ko tuyma rewke っていえば、そ
れじゃ、合わせて、みんな踊っているべさ。この踊りのやつがたくさんあるんだよ、こうやったり、
こうやったりする踊り。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：だから、結局、サル、極端に言わないで、節をつけてやるっていうこと。

千葉：うん、うん。ふーん。

キヨ媼：はい。

千葉：元のふしは一緒なの、も、元の節っていうのが、もう、最初っからついているのか。

キヨ媼：そうだ。

千葉：例えば、

キヨ媼：昔の人はこういうふうにして歌っているの、私みたい。

千葉：例えばね、

キヨ媼：そう。

千葉：その、♪サルキーウシナイって歌う、コーターンっていう歌にね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪サルキウシナイコーオオタアンンコオオオ、って、ちょっと節つければ同じになる、

キヨ媼：そうだ、節つけていくのさ。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：ただ、極端にね、歌ったってね、

千葉：うん。

キヨ媼：歌、あの、歌にならないから、結局、そこで節つけていかんかったら、面白くないってこと
になって、

千葉：うん。

キヨ媼：そうやっていくのさ。

【1:15:00】

千葉：あの、ウタレオブンバレだったらね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪ウターリオ、ウターロブンっていうのが、ウターロブンって高く、高く歌うときあるでしょ？

キヨ媼：うん。

千葉：サルキウシナイってないですよ、そういうの。

キヨ媼：そう。

千葉：あれは、ど

キヨ媼：その、平らにずっと歌っていくべき。

千葉：あれは、ど、どういう違い？ どうしてなんだろう。サル、

キヨ媼：やっぱり、その歌によって、そういうふうに行くんだべや。

千葉：そっか、

キヨ媼：うん、だべ。

千葉：あんまり上がるような、

キヨ媼：うんだ。うん。

千葉：サルキがこうなっている、だ、なってるから、

キヨ媼：うんだ、うんだ、うんだ、うんうんうんうん、そうそう。

千葉：あんまり、こう、高く上がるものでもないちゅうことなのかね。

キヨ媼：うん、うんだ、うんうん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：よし、ここで、あの、マッタレラと鶴の舞と、ウタレブンバレで3つだな。

千葉：うん。

キヨ媼：それから、サルキの、ウシナイやれば4つ、

千葉：うん。

キヨ媼：うん。行くかなあ、札幌まで行って、

(中略)

千葉：そうか。ああ、それとね、その、ム、ムックリってのはね、あ、こっちにしよう。(笑) ムックリっていうのはね、

キヨ媼：うん。

千葉：さっきみたいに、その、なんだ、クマだ、クマの声とか、

キヨ媼：うん。

千葉：風の音とかね、いろいろあるけども、

キヨ媼：うん。

千葉：そういうの全然関係ないやつもある？

キヨ媼：そーう、なんでも、

千葉：ただ、

キヨ媼：あの、うーん、

千葉：ただ節だけ、

キヨ媼：なんでもパッパッパッパッパッってね、[ゆきみ] して、あの、やつもあるべし、そんなかに、はやしも入っているやつもあるべし、

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、パコパコパコパコって、ふって、ふう、や、ふき、吹いたらいいと思ってやる人もいるし、いろいろだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：最近の人は、多いでしょう。その、ただ、フカフカやる人。

キヨ媼：ああ、ああ、ああ、ああ。

千葉：で、フチも、そういうやつをやるときある？ フチのは、みんな決まってる？

キヨ媼：うんだ。もう、た、みんな、ムックリ鳴らして、一人一人違うんでしょ。

千葉：うん、でもフチのは、フチのやるやつは、もう、みんな、その、何か、

キヨ媼：そうだ、なんかに入っている、なんかに入っていると、ここはこうだって、

千葉：風、風だとか、

キヨ媼：ああだっていくと、音^ね入れる。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。わしね、金田一京助さん、元気なときね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、録音入れたの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そいで、わしのムックリ、[おわん] (不明) に、それこそ、あんた、大したもんだよ、1人でね、

千葉：うん。

キヨ媼：なんぼ種類も吹いて入れたことがあんの。

千葉：うん。

キヨ媼：そいたら、10人だら10人、ここに、こうやって女いるでしょう。そのなかに、1人ずつ吹かしてみた、みんな違うの。

千葉：うーん、うーん。

キヨ媼：そしてね、金田一京助さんはね、あ、あんたの吹き方はこうだ、こういう吹き方、

千葉：うん。

キヨ媼：□□□□ (ああい吹き方、か?) みんな違う、息の仕方。

千葉：うん。

キヨ媼：そして、あの、よくやったもんだの。

千葉：うん。

キヨ媼：ほいでね、あの、あー、70種類ぐらいあるんだと、息の仕方。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。ほいでね、黙って聞いてから録音にとって、この人の録音、この人の録音、みーんな入れてね、(この「入れて」は録音の情報を書き込んだことと想像する)

千葉：うん。

キヨ媼：ええく(良く)吹く人もいれば、な、極端に吹く人もいれば、なかで、はや、あの、うまく吹く人もいるべ、なかでね。一人一人違うんだから、息の仕方です。

千葉：うん、うん、ふーん。

キヨ媼：だから、あんたの吹き方はこうだとか、

千葉：うん。

キヨ媼：ああだとか、全部やってみ、研究したことあるの。若いとき。そのときには、わしは、まだ年若いし、歯もみんなそろってた。

千葉：うん。

キヨ媼：今だったら、歯は抜けて、だんだん長くすれば、あの、あ、歯の、緩くなるから長くできない。

千葉：うん、あれ、どうですかね、あの、ポリデント？

キヨ媼：え？

千葉：しら、知らない？ ポリデント。宣伝してるでしょう。こう、入れ歯のね、上にこう、

キヨ媼：うんだ、うんだ、

千葉：はっつけるやつ、

キヨ媼：つけるやつな。

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、やれ、やればいいのね。

千葉：うん。あれ、やったことある？

キヨ媼：ある。

千葉：だめ？

キヨ媼：うん、あるよ。

千葉：あんまりよくない？

キヨ媼：うん。あんまり、ないんし、□□□もの。

千葉：うーん。

キヨ媼：まあ、今度行ったら、なにかかにか [ふつける] (不明) さ。面倒くさい、あの、これ、入っているんでないべか。

千葉：入っているよ。

キヨ媼：嫌だなあ。²²

千葉：いいでしょう、別に。悪口言っているわけじゃないんだから。ふーん。ん、あの、フチがほら、

²² ポリデント以降の会話には削除案があったが、ご遺族と相談の結果不問とした。

最後、ずっとね、いろんな音を、こう、続けてやったときに、最後に、ほら、速くやるでしょう。

キヨ媼：ええ。

千葉：あれは何？

キヨ媼：速くやるっていうことねえ、

千葉：うん。

キヨ媼：サッサッサッサッサッサと歩くっていう意味だ、これ。

千葉：あの、山登りじゃなくて、

キヨ媼：そう。山さ行くのは、平らなところ行くと、なにしようと、

千葉：♪（ムックリ演奏 3秒）で、これぐらい速くやるでしょう。

キヨ媼：そうだ。

千葉：ポンポンポンと。

キヨ媼：こうやってやるべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：わしが□、研究したの、これね、こう、（急速調で）【1:19:35】♪（ムックリ演奏 35秒）
～【1:20:08】、こうやってやる、

千葉：これは、ほとんど、

キヨ媼：□□□□□□、[こうやって歩く]。

千葉：うん。これ、タッタッタッタってして、

キヨ媼：（笑）うんだ、うんだ、タッタッタッタだけ。

千葉：これは、あんまり息、つ、使わないんですね。

キヨ媼：そうだ、息しなくも、これでいくんだ。

千葉：そうですねえ。あれ、そうか。拍子、だから、拍子と舌と、舌使って、息使って、

キヨ媼：はい。

千葉：なんか、裏声みたいな使ったりします、音で、

キヨ媼：はい、はい、はい。

千葉：ムックリで、

キヨ媼：はい。

千葉：やる、

キヨ媼：ほーい。うん。か、あの、黄色い声やったでしょう。黄色くね。

千葉：ん、あの、♪コンコンコンコンコンコンっていう、

キヨ媼：うん、♪カンコン、カンココン、コンコンでやってるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：あれを鳥の鳴き声みたいな、やって、♪カン、コン、こうやって、黄色くやったら鳥の鳴き声みたいにして吹いてみたの。はい。

千葉：え、鳥の鳴き声、

キヨ媼：はい。

千葉：♪コンコンコンっていうの、
キヨ媼：うん。カン、
千葉：え、どういう歌、
キヨ媼：こうやってやって、ここを、うん。【1:21:29】♪（ムックリ演奏 12秒）こうやってやんだ。
千葉：これは、鳥っちゅうと何の鳥？
キヨ媼：あ、あ、鳥だよ、鳥は鳥で、ピーピーピーって、鳥いるべさ。
千葉：カラスとかヤマバトとか、いろいろ、
キヨ媼：うんうん、うんだ。【1:21:50】♪（ムックリ演奏 3秒）こうやって鳴らして、
千葉：うん、うん、うん、なるほど。
キヨ媼：はい。なるほど、だんだん、歯、下がりました。
千葉：これも、あんまり、息使わない？
キヨ媼：はい。
千葉：息使う、
キヨ媼：ようけ使わない、
千葉：あまり使わない、
キヨ媼：うん。
千葉：じゃあ、息使うのは、クマと走るときと、
キヨ媼：うんだ。うん。
千葉：まあ、いいか。もう、長くなったから、今日は、やめましょうか。ね。
キヨ媼：うん。まあ、あ、はい。
千葉：うん。
（終了）
【1:22:14】

10 : 1994年10月26日 (ファイル名 : Kiy941026) 36' 43"

千葉 : 節が違うもんね。

キヨ媼 : 節で、文句、文句が、文句だって1番、2番あるでしょう。

千葉 : 文句？ あ、節ってなに、文句？

キヨ媼 : 文句。

千葉 : 文句が違うって？

キヨ媼 : うん。節があれでも、文句がね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : あの、や、あの、歌、歌、歌っているところね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : 1はこういうふうについて、2はこういうふうについて、やっぱり、節が同じくいかないでしょう。

千葉 : うん。あ、節って文句のこと？

キヨ媼 : 文句よ、文句がさ、

千葉 : うん。

キヨ媼 : 結局、文句じゃん。ね。

千葉 : あれは、その、節が、

キヨ媼 : うん、うん。

千葉 : 例えば、なんだ、その、サル、サルルンカムイは知らないけども、あの、ウタレオブンバレの、その、♪アアアとかいうのが、そんなとこで変な節回さないとか、そういうこと、

キヨ媼 : そうだ、そう、そういうことはあるんだ。

千葉 : そういうこともある、

キヨ媼 : ただ、あんたね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : あの、極端に、あんた、【0:01:06】 ♪ウタレブンバレ、ワーリムセーホーっていう、それと、またね、

千葉 : うん。

キヨ媼 : じーっと落ち着いて、こう、やる、下げたり上げたりする、どこか、やっぱり、や、うまくやらなかったら歌にならないわけさ。

千葉 : うん。

キヨ媼 : ね。

千葉 : そういうことは、昔のフチたちが、

キヨ媼 : そうなの。

千葉 : 厳しく言ったりするんだ。

キヨ媼：言うの。したらね、

千葉：それ、何、練習してるときに言うの？

キヨ媼：そう。れ、

千葉：練習なんかあった？

キヨ媼：練習ってね、みんな、おうち集まってね、1年に1回、あの、集まってね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、早いところいえば、お祭りやるでしょう。

千葉：うん、うん、うん。

キヨ媼：で、わしらみたいな、あの、草葺きにね、そこで、みんな集まったときに、その、みんな、歌わせるわけさ、みんな、一人ずつ。

千葉：うん。

キヨ媼：年寄りたち集まって。そうしたら、そのなかでね、上手な人もいるべ。

千葉：うん。

キヨ媼：下手な人もいるべな。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。

千葉：なんか、嫌だね、これね。

キヨ媼：は？

千葉：嫌だね、これね。

キヨ媼：(笑) 嫌だね。だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：それを今度ね、

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、上の人、聞いててさ、

千葉：うん。

キヨ媼：あ、この人上手だとか、

千葉：うん。

キヨ媼：この人下手だとかって、この、結局、この、聞いた人が言うわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：言って、あの、あんた、今、歌ったの、こういうふうにご歌ってるから、あの、こういうふうな上げれとか、下げれとかって、節をね、

千葉：うん。

キヨ媼：曲げ方悪いから、下げれとか、上げれとかっていわれる。

千葉：節の曲げ方ってどういうこと、

キヨ媼：上げると、早いところいえばね、【0:02:43】♪a ho a ho hoy ho っていうの、その節が、曲げ方が、2つだら2つ、3つなら3つ、その繰り返しでやりなさいと、こういうわけさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そういうふうにいってるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：なんの歌でもそうだよ。アイヌの歌はね。

千葉：例えば、そのね、

キヨ媼：うん。

千葉：♪アーアアホって、い、さ、やるでしょう。

キヨ媼：うん。

千葉：♪アーアアホオオ、ホオオオンンってやるときに、アーアアじゃなくて、アアアアっていったら節つけ過ぎなの？

キヨ媼：うん。だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：みんな違うさ、やり方が、

千葉：みんな違う、

キヨ媼：うん。

千葉：どこまで、あれ、細かく決まっているんですかね？

キヨ媼：うん。したからね、

千葉：うん。

キヨ媼：みんなの踊りやって、みてみな、阿寒湖行ってね、

千葉：うん。

キヨ媼：歌った人聞いてごらんなさい。

千葉：うん。

キヨ媼：3人で交代交代でやって、2人、交代交代でやっても、

千葉：うん。

キヨ媼：全然節の回し方違う。

千葉：うん。

キヨ媼：なるべくなら、その、極端の節しないで、こういうふうにして節回しにしてやんなさいって、そうすれば聞き、わ、やすいつて、こういうわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。さ、黙って聞いていると、あ、ここで、慣れた人の話だよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ここで、こ、これがげ、あの、ちょっと節、あの、つけばうまくいくもんなと思うし、そこで、

千葉：うん。

キヨ媼：きっちり回れる、早いところいえばね。

千葉：うん。

キヨ媼：だ、【0:04:13】♪hundur huncikap a ho a ho hoy hoy (節なし) って極端にいつてるでしよう。

千葉：うん。

キヨ媼：それ、そこで、【0:04:24】♪a ho a ho hoy ho (節あり) って、こう、いけばいいけど、

千葉：うん。

キヨ媼：【0:04:32】♪a ho a ho hoy hoy (節なし) って極端にいつて、あ、きち、あの、聞きづらなんだわ、やっぱり、昔の人の話はね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：今の人だ、みんな、そうやって黙って聞いてると、踊り小屋さ行って聞くでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：あ、ここで、こう、あの、き、切らないで、もう少し、あの、長く節を伸ばせば、きき、あの、聞きち、聞きやすいんだけど、

千葉：うん。

キヨ媼：これ、切らないほうがいいけど、切ってやるなってきくわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：ね。だから、慣れてる人、ほれ、行けば、ちゃんとウポポやっているのを聞けば分かるわけよな。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、私がそうだ、どこ行っても、あ、歌うなと思ったら、あ、ここでこうふうにすれば、結局、うまくいくんだけど、どうして、ここで切るんだべなと思って聞くわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:05:29】♪hundur huncikap a ho a ho ってこういつてるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：【0:05:38】♪a ho a ho hoy ho ってこういけばいいけど、みんな、切っていくと。したから、聞きづらいつていうこと。

千葉：その、その、節、今の節ね。

キヨ媼：うん。

千葉：その、アアアアって震わせるのもある、あるけども、

キヨ媼：ああ。

千葉：裏声みたいのも入るでしょう？

キヨ媼：そうだ、そうだ。

千葉：♪aaa°a って、a° っていうような、ちょっと高い、ヒョツっていうようなの、

キヨ媼：そうだ。うん。

千葉：あれ、その、必ず、その、あいだ、あいだに入るでしょう？

キヨ媼：そう。

千葉：♪ a a a°a h o o o°o o o o° って入るでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：それは決まりなの？ 決まりっちゅうか、

キヨ媼：決ま、そういうふうにしていくの、本当さ。

千葉：ねえ。あの、

キヨ媼：お、うん、そいで、その、切る、切らないで、

千葉：うん。

キヨ媼：節を伸ばしていけば、そのように、踊りもやっていくと。

千葉：うん。

キヨ媼：そうすれば、みち、み、も、見る人も見るに良いし、聞く人も、あの、き、聞きづらくない、
きえ、聞いても、あの、喜んで聞くけど、あれで、

千葉：うん。

キヨ媼：あ、ここで、なして切るんだべなと思って聞くよ、ああいうときはね。

千葉：うん。

キヨ媼：慣れた人の聞くばね。

千葉：うん。

キヨ媼：今だら、あんた、

千葉：うん。

キヨ媼：和人ばかり聞いてるから、

千葉：うん。

キヨ媼：分からないから、あれだけど、ほんとに、昔の人のウボが聞いた人だったら、なんだ、あそ
こでこういうふうにするばいいのに、なんだって、いう人ばかりだ。あの、

千葉：うん。

キヨ媼：商売にやっててだよ、阿寒湖に年がら年中、

千葉：うん。

キヨ媼：商売にやってて、うちの娘だってやってるべき、少しね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：したけどね、やっぱり、声は立って、こえ、あの、よくやるけど、そこで、その、音^{おん}が、あ
の、節回しが、^{ひと}1つか2つ、足りないわけさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。こうしてやれば、本物^{ほんもん}だななんて聞くわけ。

千葉：ああ、そう、ふーん。そうだね、まあ、うん。

キヨ媼：うん、だから、切って、そう、切っていつてるんでしょう。

千葉：うん、まあね、そうだね。決まってるっていうよりも、そんなでたらめに、あれこれ、やるこ
とないんだもんね。

キヨ媼：でたらめや、早いところいえばね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、文句さ、分かればいいって思って、

千葉：うん。

キヨ媼：その、その、それでいってるわけさ、

千葉：うん。

キヨ媼：もう節も入れないでな。

千葉：うん。

キヨ媼：きっちりもし、き、切りっぱなしに切って、

千葉：うん。

キヨ媼：節、あ、文句さ入れればいいっていうけど、それで通らないんだわ、わたしの、昔の人はね。

千葉：うーん。

キヨ媼：したから、ここで、こういうふうにしてやんなさい、ああいうふうにしてやんなさいって言われたな、わたしはね。

千葉：うん。

キヨ媼：やってやれないことない、人のやってること、やってやれないことないから、こういうふうにしてやる、やったほういいなって思ってね。

千葉：うん。

キヨ媼：なんぼ寝ないで考えたか分からないよ。

千葉：な、何、寝ないで考えるって、言われるから？

キヨ媼：結局、今度、できないからさ、

千葉：ああ。

キヨ媼：できないから、できるようにするのは、どういうふうにしてやったらいいか、

千葉：うん。

キヨ媼：こういうふうにしてやったらいいかって、結局、か、あの、えー、考えるわけさ。

千葉：うちで練習してみたりするんだ、1人で。

キヨ媼：うんだ、1人でね。

千葉：やっぱり、好きだったんだね、ウポポがね。

キヨ媼：いや、し、

千葉：嫌いだったら□□□□□

キヨ媼：嫌いだった。したけど、わたしが片輪^{かたわ}²³に生まれてるから、極端だよ。

千葉：うん。

キヨ媼：片輪^{かたわ}に生まれてるから、なんにもできない、あの、歌もできない、結局、踊り、歌だけでも、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ま、人のね、

²³ 出版には不適切な差別用語だが、ご遺族とも相談の結果、本人の話としてそのままとした。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、半分でも、人のやることだけでもできればいいなと思って、自分、練習するわけさ、したわけさね。

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、

千葉：ね、アキベ、アキベカヨさんっていう人は、フチよりいくつぐらい上の人なの？

キヨ媼：アキベカヨさん、亡くなったの、あの、70ぐらい、77だか8で亡くなったべさ。

千葉：あれ、さい、いつでしたっけ？

キヨ媼：もう、亡くなって、だいぶになるべや。

千葉：フチより、じゃあ、20ぐらい上、

キヨ媼：ええ。

千葉：もっと上？

キヨ媼：なあ、と。

千葉：10か20か上なんだよね。

キヨ媼：私よりか、

千葉：うん。

キヨ媼：ええ、上、ずっと上だ、10ぐらい上だったべ。²⁴

²⁴ 秋辺カヨ、舌辛音作（サイケサニ）、両氏の生年について『アイヌ伝統音楽』には「秋部カヨ（54）、舌辛音作（52）」とある（日本放送協会1965『アイヌ伝統音楽』、p551）。この「部」は「辺」の誤りであると仮定して述べる（つまり秋辺カヨ氏であるとする）。『文献上のエカシとフチ』によれば、姉弟であるはずの秋辺、舌辛両氏とも同一の生年月日、1911（明治44）年11月22日となっているので、少なくともどちらか一方は誤りと考えられるが、この年齢はキヨ媼の6歳と約1箇月年長である（エカシとフチ編集委員会編1983『エカシとフチ 資料編 文献上のエカシとフチ』p13, 35）。ちなみに没年は舌辛音作氏が1963（昭和38）年、秋辺カヨ氏は同書出版時は存命中であった。『アイヌ伝統音楽』記載の年齢が収録日の1961昭和36年12月2日時点のものであるとし（前掲、p547）、仮に11月22日の誕生日を当てはめた場合、54歳と52歳の生年はそれぞれ1907（明治40）年と1909（明治42）年、数え年の場合に1908（明治41）年と1910（明治43）年、仮に数え年のうえ誕生日で1つ歳を取るとして数えた場合に1909（明治42）年と1911（明治44）年の生まれとなる。3つ目の仮定の場合に2つの文献の一致点が舌辛氏の生年として浮かび上がり、この時、秋辺カヨ氏はキヨ媼の9歳程度（生月日による）年長となる。また2つ目の「数え年」の場合でも、10歳程度年長となり、いずれにしても大筋で話は符合する。

この件について問題視されたのはご遺族との最終確認の段階であり、本稿の印刷直前の時期であったため『文献上のエカシとフチ』の情報元として『アイヌ伝統音楽』以外の原典を確認できなかった。後日改めて確認したい。

千葉：ずっと上、うん。したら、あれでしょう、フチが、その、寝ないで考えたところに教えてくれた人っていうのは、カヨさんよりもっと上の人でしょう？

キヨ媼：まだ上の人だ。

千葉：どんな人、

キヨ媼：私のね、

千葉：うん。

キヨ媼：私の親っていう人もやってたからね、

千葉：うん。

キヨ媼：うちは、か、狩人だった、わしの父親。

千葉：うん。

【0:10:00】

キヨ媼：ね、狩人で、毎年、あの、冬になったらクマもとってくる、なんでも山のものもとってきてね、

千葉：うん。

キヨ媼：結局、うちで、みんな、味わってウポポやるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：そしてら、いやあ、この人の歌上手だ、黙って聞いて、なんぼ、子どもながらも、聞けば上手な人いるから、ああ、あの人の歌、覚えたいとかね、この人の声がいいから、こういうふうにやりたいんだって、やっぱり、[さと] あれ、考えるわけさ、

千葉：うん。

キヨ媼：聞いててね。

千葉：そのころ、何、フチが、その、子どもころ、寝ないで考えていたころって、う、歌、どんな人、歌っていたんですか？

キヨ媼：年寄りも年寄り、大お年寄りさ。

千葉：な、名前は？ もう、わ、分かんないか、

キヨ媼：もう、名前も、んなもん、ないわ、分からなくなった、

千葉：分かんないか、たくさんいたんだ。

キヨ媼：うん、みんな、昔、

千葉：それっていうのは釧路、

キヨ媼：大昔だもの。

千葉：釧路だよ？

キヨ媼：釧路だ。わしの生まれ、釧路だから、釧路の人だった。

千葉：釧路って、春採でしょう。

キヨ媼：うん、春採だからね。

千葉：あれ、そしたら、その、あの、寝ないで考えたときのたくさんいたフチたちっていうのは、あ、で、釧路ばかりでなくて、

キヨ媼：釧路ばかりでない、あっちこっちの人らいたよ。

千葉：阿寒の人とか、

キヨ媼：うん、うん、そうだよ。

千葉：もっと、あっちこっちいたの？

キヨ媼：あっちこっちの人いたからね。年寄り。

千葉：日高の人とかは？

キヨ媼：日高まで行かんかった。

千葉：日高までは行かない。

キヨ媼：阿寒湖とかね、あの、釧路とか阿寒湖とかね、

千葉：屈斜路も？

キヨ媼：うん。

千葉：屈斜路？

キヨ媼：屈斜路の人、歌は上手な人いなかったわ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：聞いたことないもの、わし、

千葉：白糠は、

キヨ媼：白糠の人も聞いたことない。

千葉：ふーん。

キヨ媼：これっていう人聞いたことない。

千葉：じゃあ、釧路、春採と阿寒か。

キヨ媼：釧路とか阿寒湖の人、上手だったよ。

千葉：北見とかは、美幌とか、

キヨ媼：美幌の人は、ど、どうだったか分かんないわ。ああいう人の聞いたことないもん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：本当、いたんだろうけどね。

千葉：うん。そうか、そうか。いや、ほら、こないだ、あの、カヨさん、大先生だから、みんな、カヨさんに習ったっていったけど、ちょっと、やっぱり、カヨさんと歌い方、違うところあるもんね。

キヨ媼：違う、違う。

千葉：ねえ。

キヨ媼：聞いたかい？ あの、

千葉：ん？

キヨ媼：聞いたかい？ 歌ったの、

千葉：うん。

キヨ媼：何の歌歌ってた？

千葉：え、フンドリとかさ、

キヨ媼：うん。

千葉：レコードになってるでしょう。

キヨ媼：フンドリでなく、サル、あんた、フンドリやってたさな。

千葉：カヨさんね。

キヨ媼：うん。カヨさん、よ、歌、音頭取り^{おんど}やってたから、阿寒湖でな。

千葉：うん、うん。音頭取りで。うん。

キヨ媼：うん。

千葉：ちょっとあれでしょう、あの、キクエさん、ちょっと似てるでしょう、カヨさん。

キヨ媼：あの、音^{おん}が、音^{おん}がね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの人一番だったからね。

千葉：うん。

キヨ媼：声も立つしね、

千葉：うん。

キヨ媼：節回^{ふしまわ}しもよかったからね。

千葉：民謡、民謡も上手だったつつってたよね。

キヨ媼：ええ。

千葉：日本の、日本の歌も。

キヨ媼：まあ、あれだけ歌ったらね、

千葉：うん。

キヨ媼：歌、あの、上手なるんだわ。

千葉：なんでも、

キヨ媼：やる気だった、なんでも和人の歌でもね。

千葉：うん。

キヨ媼：上手なるんだ。だけど、あの、やってやらないこと、音頭取り^{おんど}やったから、あの人、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、盆踊りの音頭取りやった人。声も立つ人だからね。

千葉：盆踊り？

キヨ媼：うん。

千葉：盆踊りって何。

キヨ媼：お盆に踊るでしょう。

千葉：え、日本のかい？

キヨ媼：日本の踊り。

千葉：こんな、うちわ持ってこうやって？（笑）

キヨ媼：おお。こうやって踊る、

千葉：あれの、音頭取りもやってたの？

キヨ媼：♪ア、エイヤーコーラヤってな。

千葉：あれの音頭取りもやったんだ。

キヨ媼：あの、おん、音頭取りもやった人だから、あの人。

千葉：へえ。

キヨ媼：うん。

千葉：それ、どこでやんですか？

キヨ媼：阿寒湖にね、

千葉：阿寒湖でやる、

キヨ媼：阿寒湖の大広場でやってたの。

千葉：へえ。

キヨ媼：うん。

千葉：日本の人たち集まって、

キヨ媼：うんだ。そして、そのなかへ入って、今度、音頭取りやった。

千葉：へえ。ああ、そうなんだ。

キヨ媼：エイヤー、コラヤってな。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あの人、あの、声立つ人だったしね。

千葉：うん。

キヨ媼：や、やったしね。この、その音頭取りだけだな、あの、アイヌの歌と、その盆踊りの音頭取りだけね、

千葉：うん。

キヨ媼：上手だったね。声の立った人だったから。

千葉：ふーん、ふーん。

キヨ媼：うん、なんでもある人は、な、やってやれないことなかった、なんでもやる人だったからな。

【0:15:00】

千葉：ああ。

キヨ媼：第一、声が立つから、なんでもね、そら、やれっていったら、なんでもやれるもんね。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。和人の歌でもね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：んん、ばかくさくてなんも、歌い、歌いたくない、やっぱり、わしも、あの、お盆ったら踊りにばかりいったもんだけども、若いときにね。

千葉：ふーん。へえ、その盆踊りかい？

キヨ媼：うん、盆踊りに。

千葉：フチ、そういう歌、覚えてんの？

キヨ媼：覚えてるべさ、覚えてるからやるのよ。

千葉：どんな歌？

キヨ媼：【0:15:41】 ♪来いと言うたとて一行かりよーか、こら佐渡へよー、佐渡はまあ佐渡は四十九

里、こりゃ、やれさま波の上よー、アーエンヤコラってやってさ、

千葉：上手でないか、

キヨ媼：え？

千葉：上手でないか。

キヨ媼：(笑) 下手でもやってやるべや、そうやって歌うべさ。

千葉：ああ、ああ、いや、困ったなあ、日本人でも、だって、俺、日本の歌も歌えない、ウポポも歌えない、どうすんだろうな。困ったもんだな。

キヨ媼：と、や、歌ったよ、ずっと。盆踊りだったらね、わし、ずっとしまいまで、13日から20日分まで歌ったもんだもの、音頭取りしたもの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それこそ、あんた、繰り返し、繰り返しでやるもんだもの。

千葉：うん。

キヨ媼：舞台に立ってな、太鼓と合わせてやって。

千葉：ふーん。

キヨ媼：今だら、やる気しないって。

千葉：□□ね。

キヨ媼：それ、あの、

千葉：やっぱり、でも、あれだね、そういうの、ウポポの節のほうが難しいよね。

キヨ媼：ん？

千葉：ウポポの節。

キヨ媼：そう、それから、そうだよ。

千葉：だって、ウポポのほうが節いっぱい入っているもんね。

キヨ媼：そうだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。だからね、わし、あの、なんの歌でも歌ってみて、みたけどね、アイヌの歌のほうは、本当に難しいわ。

千葉：うん。日本の歌はあれだもんね。こう、の、【0:17:16】♪アーアアアって、伸ばしといてから、ちょっとつければ、格好つくもんね。

キヨ媼：そうだよ、格好つくんだもん。

千葉：うん。だけど、ウポポったら、

キヨ媼：アイヌの歌は違うんだからね。

千葉：ウポポったら、もう、たくさん、そういう節ついてるしね。

キヨ媼：うんだ。

千葉：うん。めちゃくちゃつけても格好つかんしね。

キヨ媼：もう、あの、あれだもう、声も立たなくなった。いや、こ、

千葉：うん。

キヨ媼：声立たないの、歌、歌ってるのに、やっぱり、声立たないっていうことは、年のせいなんだね。

千葉：うーん。

キヨ媼：こわいっていうことないけど、あの、声立たなくなったもんね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：だから、あの、なんでも安来節やすきぶしであろう、あの、追分おいわけであろう、あの、じょんから節であろう、な、なにを歌っても、こう、歌ってみるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、声が立たないわ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あの、立たなくなったっていうことは、年のせいなんだね。

千葉：うん、それは、な、ウポポでもそう？

キヨ媼：うん。ウポポでもそうさ、結局。

千葉：うん。

キヨ媼：なんでも一年一年、声立たなくなるんだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：で今度ね、毎日歌ってないから、今度ね、1時間に、あの、ぶっ通しやれば、声、声枯れちゃうの、声か嘎れちゃった。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あの、まりも祭り今年初めに出たでしょう？ しばらく、去年出なかったから、今年ね。

千葉：うん。

キヨ媼：そうしたら、ボッケ行くまでに、あの、行ったり来たりするのに、ずっと声出したべき。で、船乗っても声出したべき。

千葉：ボッケって何だっけ、あの、島だっけ。

キヨ媼：島さ行ったり。

千葉：うん。

キヨ媼：あっちこっち行くのに。そしたら、声、やっぱり、あの、声か嘎れるね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：歌ったことないから、結局、しばらくね。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、1時間って声出していると、今度、声か嘎れちゃうんだね、なんとなくね。

千葉：うん。そうだね。

キヨ媼：そうだよ、本当にね。

千葉：うん。いやあ、毎日、毎日歌ってればね、いいかもしれんけどね、

キヨ媼：そうだよ。そしてみんな商売みたいにさ、阿寒湖の商売みたいにして毎日歌えばね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、もう、あの、あれだ、慣れてしまってるから、声も嗄れないけども、嗄れてしまうんだね、声が。

千葉：そうだね。

キヨ媼：うん。

千葉：屈斜路で、あの広場で人集めて、一日、3回ぐらいやってもいいけど、人いないもんね。

キヨ媼：(笑) いない、いない。

千葉：人、

キヨ媼：去年までやったのよ、

千葉：あ、やってたの、あそこで。

キヨ媼：盆踊り。

千葉：盆踊り？

キヨ媼：ええ、も、やったの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：お盆にね。

千葉：ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：13日からね、

千葉：うん。

キヨ媼：ふつ、あんね、13日、いや、15日、ひと晩やってたの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：だけど、今度、今年からやらなくなったの。みんな、応援する人いないべさ、踊る人も、

千葉：うん。

キヨ媼：やめたけどね。

【0:20:00】

キヨ媼：したら、今度、そうなったら、ウポポやる人だって、歌う人もいなかったら、踊りもならないべや。

千葉：うーん。

キヨ媼：太鼓たたく人いたって、踊れないよね、歌うものもない。

千葉：うーん。そうか。あの、

キヨ媼：だから、なんの歌でもそうだ。

千葉：うん。

キヨ媼：和人の歌でもアイヌの歌でも、みんな同じさ。

千葉：うん。

キヨ媼：よし、この歌はこういうふうにして歌ったから、おれも歌ってみると思ってね、歌うべさ？
よし、ここで、この人はこうやってたから、こういうふうな節回し、したらいいんでないかなと思って、考えて歌う、歌うとね、まっ、歌ったことないから、この、真っすぐに、節回し行くとときもあるから、横ったまになるとときもあるから、うまくいかないんだね、やっぱり、たまの歌えばね。

千葉：うーん。

キヨ媼：もう、あの、年とったら、ばかくさく歌った□□

千葉：うん。

キヨ媼：わし、^{おいわけ}追分も歌ったしね、

千葉：うん。

キヨ媼：安来節も歌ったし、あの、舞台でね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、阿寒湖でね、2年ば、3年ばっかり舞台立ったの。

千葉：うん。

キヨ媼：今の、ま、あの、歌ってる、みんな、やっているでしょう？ アイヌ部落で。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：2年間だ、やったの。そんなときにね、そのあいだにね、^{おいわけ}追分やんなさいって言われてさ、

千葉：うん。

キヨ媼：今度追分やってみたしね。

千葉：うん。

キヨ媼：アイヌ語混じりの、や、あの、追分さ。

千葉：え？ アイヌ語祭りの？

キヨ媼：んだ、アイヌのことのね、

千葉：うん。

キヨ媼：ア、アイヌのね、

千葉：うん。

キヨ媼：あのアイヌ語の、で、その、追分やったわけ。

千葉：それ、どんなの？

キヨ媼：あ、ね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、ピリカメノコったら、きれいな美しい人でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：ニサッタ パンクル チシ コラチ っていったら、あしたのカラスの鳴くまで、その、寝てみたいっていう、その、アイヌ語の、その、追分を歌ったわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：自分で、これは、自分の、つ、つくりごとで歌ったんだよ。

千葉：□、□□、

キヨ媼：そうすれば、お客さん喜んでもらって、アイヌ語で歌っ

千葉：うん。

キヨ媼：歌ったわけ。

千葉：ふーん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：今度は、あの、ヤイサマ歌うわけ、ヤイサマね。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、そのあいだに、今度ね、追分のあいだに、今度、ヤイサマっていう、あの、アイヌ祭りのね、安来節^{まつ}ってなるんだ。

【0:25:00】

キヨ媼：安来節^{まつ}って歌ったもんだの、これね。

千葉：うん。

キヨ媼：それが、今度、文句に、今度、アイヌ語で、今度、歌って、今度、あの、司会するわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、サン、こういうふう^{まつ}に歌ってる、あ、ああいうふう^{まつ}に歌ってるって、司会してお客さんに聞かせる。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それもやった。

千葉：あ、あれ、どこまでいったんですかね。

キヨ媼：あ？

千葉：どこまでいったんですかね。

キヨ媼：な、いろいろ、何時になったん？

千葉：もう、じゅう、

キヨ媼：もう1時になる？

千葉：1時過ぎてるでしょう？

キヨ媼：何時に行くんだっけ。2時？

千葉：いや、1時半でも40分でも、

キヨ媼：1時？ 2時半？ 1時半？

千葉：1時半かな。まあ、まだ大丈夫だよ。2時、2時ぐらいに出ても、間に合うからね。

キヨ媼：いろいろ考えて歌わしてもらったよ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それで舞台に立ってね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、飛び入りにやってくださいっていわれて、お祭りの日ね。アイヌの歌ばかりでない、今度、和人の歌歌えて言われてさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：それで歌ったことがある。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あるしね。もう駄目だった□□

千葉：まあ、今はウポポだけでいいもんね。

キヨ媼：ええ。

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、それでね、まあ、喜んでもらってさ、

千葉：うん。

キヨ媼：面倒くさいね。今度、あの、白老みたいのまたおいで、自分がね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、いろいろ、その、苦労したときの歌だとかさ、

千葉：うん。

キヨ媼：それからアイヌ語でさ、喜んだときの歌とかね、

千葉：うん。

キヨ媼：いろいろ、その、うん、歌ったものもあるの。したら、そういうこともさ、

千葉：うん。

キヨ媼：やっぱり、生きてるうち歌ってみたいしね。

千葉：うん。

キヨ媼：今、そら、歌えなかったって、もう、切羽詰ま、歌えないけど。

千葉：うれしいときの歌っていうのは、何、その、ヤイサマネナみたいなもの？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：ど、どんなやつ。

キヨ媼：ヤイサマっていう歌って、【0:27:24】 iyayraykere itak [ki ana tupa]、あの、アイヌ、いや、自分がね、ありがたい、今日はありがとうございますって、そのアイヌのヤイサマ、いうわけさ。

千葉：うん。節はどんな節なの？

キヨ媼：【0:27:37】 ♪yaysamanena yaysamanena horehorena horehorena horehorena,

ku ani anak ku ani ana(k) acaka kusu habo ka kusu yuboka kusu poy sine menoko

ku nakayki 頼むでや 頼むてや yubo utari e sapo utari yubo utari sabo utari horehorena

horehorena yaysamanena hoy hoy、自分がね、苦労してね、あの、育ててもらったけど、

千葉：うん。

キヨ媼：親、親、亡くなって自分1人で苦労して、苦労したっていう男のね、

千葉：うん。

キヨ媼：皆さん、よろしく頼むっていう言葉のアイヌ語 [混じ] のヤイサマっていうの。ヤイサマっていうけど、あの、和人としたら、今度、お、あの、^{やすきぶし}安来節なんだね。【0:29:05】 ♪hoehore a horekorennna e hore hore、こうやっていくからね。安来ぶ、安来節と同じ、こういくわけ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：だから、安来節で、なって、歌ったこともあるしね、そういうこともあった。

千葉：うん。たのむでやっていうのは、それは日本語でしょう？

キヨ媼：え？

千葉：♪た一の一む一で一やって言わなかった？

キヨ媼：□□□□□□□□□□、【0:29:32】♪ku ani anak ku ani ana(k) aca ka ku sak habo ka ku sak, yubo ka kusu tanomuteya tanomoteya, mendodanamo mendodanamo horehore horekorena korekorena 【0:30:06】、ってこういっ、そうやっていった。

千葉：たのむでやっていうのと、

キヨ媼：たのむでやとかって、

千葉：面倒だなっていうのと

キヨ媼：o sinep menoko kuni a った、あ、1人で親もいない、きょうだいもいないですから、み、皆さん、よろしく頼むと。

千葉：うん。

キヨ媼：そういうふうに言ってあったんだ。

千葉：その、その、頼むと、面倒だなは日本語だよ。

キヨ媼：そうだ。

千葉：あれは、何、kusak、sak っっていつてんだ、ないって言ってるんだ。

キヨ媼：うんだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：そうだ、アイヌ語ばかりやんないと、もっと、シャモの分かるようなやつも、なかさ、

千葉：うん。

キヨ媼：入れて、歌うわけさ。

千葉：これ、節って、日高のほうの節だよ？ そうで□□、

キヨ媼：どう□□□□□ [だったあ]、日高も、こっちも同じ。

千葉：同じか。

キヨ媼：うん。ヤイサマね。

千葉：そうか。うん。

キヨ媼：日高のやつは早いんだ。【0:33:54】♪yaysamanena yaysamanena korekorena ekore、いやあ、速い速い。

千葉：(笑) あ、そっか、そっか。じゃあ、なに、その、今のヤイサマは別に踊ったりしないで、踊ってもいいの？

キヨ媼：そうさ、そんな、合わせて、みんな、やるべ、ぱっぱっぱっぱ。

千葉：ひだ、日高のでなくても？

キヨ媼：ああ、にぎやかでやる。

千葉：その、

キヨ媼：□□してる。

千葉：なに、あの、hapo ka ku sak とかいつているほうの、

キヨ媼：うんだ、おか、あの、お母さんもお父さんも、

千葉：うん。

キヨ媼：きょうだい、兄貴もいない、私です、よろしくお願ひします、

千葉：うん。そっちのヤイサマネナも、

キヨ媼：は？

千葉：そっちのヤイサマも、踊ってもいいの？

キヨ媼：そうだよ。

千葉：ふーん、そうか。

キヨ媼：それで、あの、その、合わせて踊るのさ、[さい]。

千葉：ふーん、なるほどね。日高のは本当速いもんね。

キヨ媼：速い。

千葉：うん。

キヨ媼：まあ、どうしたんだか、今年ね、鯉祭りに来たでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：札幌へ。全然、歌もやらないば、あの、たくさん日高の人ら来ても、ろくなことやらないんだな、あれ。やんないんだ。

千葉：うん。ふーん。

キヨ媼：何か□□□□歌え歌えってみんな□□、なんもやらない、ああいうときは、もう、年寄りも年寄りに、あの、ひと組になって歌、歌ってくれればいだけ、なんもやらん、ほとんどやらなかったね。

千葉：ふーん。(間) ね、ムックリに油つけるなんてことあります？

キヨ媼：はい？

千葉：ムックリに油つけ、塗っとくとか、

キヨ媼：あぶらっこ？

千葉：うん。油。

キヨ媼：ムックリの油？

千葉：ムックリ、しまうときに油つけたり、する、することってある？

キヨ媼：ああ、ああ、ああ、油ね。

千葉：うん。

キヨ媼：油つけて [やるとか] 鳴るんだね。だからね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、今も、阿寒、釧路で、あの、ムックリこしらえてる人ね、

千葉：うん。

キヨ媼：油で焼くの、タケ、

千葉：Tさんね。

キヨ媼：うん。T、た、タケがね、

千葉：うん。

キヨ媼：油で焼いて、

千葉：うん、聞いた聞いた。

キヨ媼：油さ入れてね、それこそ、こんな缶こさ、あんた、これぐらいに切って、油で焼くの、煮るんだ。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：煮て、今度干して、拭いて、

千葉：うん。

キヨ媼：今度、あの、こしらうと、鳴るのね。

千葉：うん。

キヨ媼：そうやってこしらえてるよ。

千葉：うん。

キヨ媼：Tさん、知ってるの？

千葉：うん。

キヨ媼：行ったことあるの？

千葉：あるよ。1回、つくっているところ見、見に、

キヨ媼：(笑) どこでも行ってんだね。あのおやじさん、極端な人でな。

千葉：(笑) ね。

キヨ媼：うん、な。

千葉：面白いよね。

キヨ媼：うん。

千葉：すごいガラガラ声でね。

キヨ媼：うんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。話が、そいで、面白いんだ。

キヨ媼：そうなの。

千葉：昔のね、けんかした話とかね

キヨ媼：うん。そうなの。

千葉：うん。

キヨ媼：極端な話ばかり言うんだ、あの人は。

千葉：うん。日本刀を持ってきたね、チンピラをつかまえて、どうのとかって、そういう話がね、

キヨ媼：昔、ヤクザもの、ヤクザやった人だっちゅうんだから。

千葉：うん、面白いんだ。

キヨ媼：うん。

千葉：面白いけど、ガラガラ声だからね、時々、何言っているか分からないんだ。

キヨ媼：そうだ。

千葉：うん。もう、すごい、すごい勢いで、面白い。

キヨ媼：あんた、そこさ行ったことあるの、何しに行った？

千葉：うん。ん？ いや、

キヨ媼：ムックリこさえるの見にか、

千葉：うん。

キヨ媼：ふーん。

千葉：作っているところ見せてもらいにね。

キヨ媼：わし、あそこからばっかり入れてるからね。

千葉：ふーん。速いんだよね、つくるの。もう、見てるあいだにね、どんどん、どんどん、つくって
いくんだよね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。あの、いや、Tさんは、なんか、つくるときに油で揚げるっていついたけど、昔、昔
のムックリ、あの、油塗ってしまったとか、そういうことってあるの？（しまう、は片付ける意味で
言ったつもり）

キヨ媼：昔のムックリはね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、タケなかったから、わしらの小さいとき。

千葉：うん。

キヨ媼：あの、サビタの木ばっかりこしらえて、

千葉：うん。

キヨ媼：サビタの木をね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、油で焼かない、やっぱりね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、[シシヤー]（不明）の、ほ、薄くして、あの、

【0:35:00】

キヨ媼：こういうとこへかけていたの、木、カラカラに干して。

千葉：うん、な、何を、木？

キヨ媼：木をね、

千葉：あ、木？ うん。

キヨ媼：あのね、サビタの木をね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、しっかり、あの、干す、あの、薄くして、

千葉：うん。

キヨ媼：乾かしといて、それでムックリこしらえたの。

千葉：あ、乾かしといてから、

キヨ媼：うんだ。

千葉：き、切るんだ。

キヨ媼：うん。しっかり、カラカラに。

千葉：ふーん。

キヨ媼：油で、や、や、焼いた、焼い、焼いたの聞いたことなかった。

千葉：それ、干すのは、どこ、壁にでもかけとけばいいんでしょう？

キヨ媼：そうだ、そうだ。

千葉：別に火のところにかかけたり、

キヨ媼：そうだ。それ、乾か、乾いたとこを今度ね、

千葉：火のところにかけたら、割れちゃう？

キヨ媼：割れない。みんなかけといてさ、

千葉：あの、いろいろのところ、

キヨ媼：うん。置いて、かわ、乾いたら、今度、ムックリこしらえるべ、こしらえるの、うん。

千葉：ふーん。火のないところにかかけといても、いいの？

キヨ媼：いいの、いいの。

千葉：どこでもいいんだ。

キヨ媼：なんでもいいからね、

千葉：なんでもいいから、干しといて、

キヨ媼：うん、[カレラカスボク] (不明) □□□ばいいんだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：天気の良いところね。

千葉：うん。

キヨ媼：わし、やったべさ、あの、あの、サビタのムックリ。

千葉：うん。ちょっとだけね。

キヨ媼：鳴らないもんね、

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、全然鳴らんかった。わし、頼んでこしらえてもらってた。あの、わしのいとこ兄貴いるんだわ。

(ノック音)

千葉：はい。

女性：すみません。お掃除、よろしいでしょうか。

(終了)

【0:36:43】

11 : 1995年11月18日-1 (ファイル名 : Kiyo951118) 1'30' 13"

千葉：しまった、これ短いんだな。

キヨ媼：もちろん、あの、

(しばらく物音)

千葉：うーんと。

キヨ媼：たくさんあるって、何のウポポやってたっけ、わし。

千葉：たくさんあるけどね、

キヨ媼：うん。

千葉：やってもらったのはたくさんあるけど。

キヨ媼：何々やったか、分かんない [だよ]。

千葉：えっと、□やったんだけどね。たくさんあるから、あまり長くやんなくて、いいですから。

キヨ媼：何やるの。[さきかに] (不明、先に、か?)。

千葉：ん？

キヨ媼：何々やんの。

千葉：イカムツカサンケって歌知ってる？

キヨ媼：うん、知ってるよ。まあ、でも、イカヌ、

千葉：♪イカムツカサンケーってやつ。

キヨ媼：【0:2:33】 ♪ikanuka sanke isanke i sanna ~ (以下、歌詞略) ~ ho hoy 【0:04:24】

千葉：うん。あの、たくさんあるから、

キヨ媼：うん。

千葉：あんまり長くやんなくてもいいですよ。

キヨ媼：うん、せいから、

千葉：イカムカサンケっていうのは、どこの、どこのウポポ？

キヨ媼：ここに、あ、あの、ウポポだべさ。ここでも、皆、やる、

千葉：ここって屈斜路？

キヨ媼：うん。

千葉：阿寒。

キヨ媼：屈斜路でなく阿寒湖でやったん□□か。

千葉：阿寒湖で。

キヨ媼：阿寒湖のウポポだ、これ、阿寒湖でやった。

千葉：ふーん。どこでもやるっていえば、やるんだね。

キヨ媼：え？

千葉：どこでもやるっていえば、

キヨ媼：うん、やるんだ、これ、どこでもね。

千葉：うん、ふーん。あの、【0:04:57】 ♪エッサーホーホー、あ

キヨ媼：え？

【0:05:00】

千葉：♪ホイヤ、ホーホってあるでしょう？

キヨ媼：エッサ？

千葉：♪エッサーホーホー、ホイヤーホーホー、

キヨ媼：ああ、あの、踊り比べですか？

千葉：うん。

キヨ媼：うん、やるよ。

千葉：これは、何？

キヨ媼：踊り比べ、

千葉：どんな踊りだっけ？これ。

キヨ媼：これ、あの、大勢で踊るやつだ。踊り比べって。

千葉：ふーん。

キヨ媼：みんなで、輪なってね。

千葉：ふーん。これ、これ、ちょっと、ちょっとだけ、

キヨ媼：【0:05:24】 ♪a essa ho ho a hoyya ho ho ~ (以下、歌詞略) ~ ho hoy 【0:06:39】

千葉：うん。なるほど。

キヨ媼：ああ、誰か来たなあ、

千葉：ん、

キヨ媼：誰か来たなあ。ちょっと待つてよ。ちょっと止めてて。

(0:06:54 音声切り替え)

千葉：いいよ、静かにしなくてもいいですよ、

キヨ媼：ん？

千葉：はやしぐらいつけてもいいよ。えっと、踊り比べやって、フンチャーフンレンレンっていう歌、聞いたことあります、

キヨ媼：え、

千葉：♪フンチャーア、

キヨ媼：【0:07:18】 ♪フンチャーアホレンネー、それもウポポだべさね。

千葉：うん。これ、何のウポポなの？

キヨ媼：これ、フンジャーホレンネったら、みんな、あの、集まって踊りましょうっていう意味だべさ。

千葉：うーん。

キヨ媼：やってるんだべ、これ、♪フンジャーアホレンネエ、フンジャーアアハホイヨー、

千葉：これ、どこ、どこの、どこのやつ、阿寒のやつ？

キヨ媼：これ、みんな阿寒湖。

千葉：ふーん。

キヨ媼：阿寒湖の人やってるの。

千葉：でも、あまり、見たことないですよ。これ。今、

キヨ媼：めったにやらないもの、これ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あの、熊祭りとかね、

千葉：うん。

キヨ媼：そういう大勢集まったときやるんだけどね。

千葉：輪になって、

キヨ媼：ええ、うんだ。輪になってやるんだ。

千葉：ふーん。これ、ちょっと聞かして□□

キヨ媼：うん。

千葉：久しぶりに歌うんでないの？□□

キヨ媼：え？

千葉：久しぶりに歌うんでないの？

キヨ媼：そうだね。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:08:07】♪hunca ho renne hunca ha hoyyo ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:09:12】

千葉：これ、あの、代わり番こに歌うの？

キヨ媼：うん、うん、そう、代わる、番、か、おって、みんな、輪になって踊るの。

千葉：うん。みんなと一緒に歌う？

キヨ媼：はい。

千葉：うん。エッサーハンノ、ハーオーホイヨっての知ってる？

キヨ媼：何？

千葉：♪エッサーハンノー、ハーオーホイヨーとかいうやつ。昔のウポポだっ。これ、今、やらない？

キヨ媼：es、何、ホイヤー？

千葉：es、essa、エーサーハンノー、

キヨ媼：【0:09:42】♪essa hanro haho wa hanro haho wa i yo っていうんだべさ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：わしらはそれでいくんだよ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。それ、みんな、やっぱり、これね、あの、

千葉：うん。

キヨ媼：輪になって踊るの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：エー、エッサーだないし、

【0:10:00】

キヨ媼：エエ、ウッサーでなきや、エッサーでやってるよ。わし。

千葉：エッサー、うん。

キヨ媼：うん。【0:10:04】 ♪e sa hanro ha ho wa hanro haho wa i yo ha ～（以下、歌詞略）～ hoy hoy 【0:11:00】

千葉：うん。これ、今でも、や、やることあります？

キヨ媼：これ、クマ、あの、大勢集まったとき、年寄りたちやるけど、めったにやらないよ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：阿寒湖なんかやる人いない。

千葉：うん。

キヨ媼：ここらだつてやらないもん、そんなこと。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：これも、やっぱり□□□□□□

キヨ媼：みんな、輪になって踊るんだ。

千葉：ふーん。そうか。♪ハンルーレー オーイハーオー、っていうのは？

キヨ媼：【0:11:29】 ♪ハンドゥーレーイーホーワハホー つてやつはあるべき。

千葉：うん。

キヨ媼：これだつて、みんな、輪になって踊るやつでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:11:39】 ♪n handure hawa haho a handure howa haho ～（以下、歌詞略）～ hoy hoy 【0:12:37】

千葉：これは代わり番こに歌うの？

キヨ媼：うーん、□□□□、そうだ、代わり番こ、交代交代に踊って、ま輪になって、みんな跳ねるんだ、こうやって。

千葉：うん、ハンドゥーレーイーホーワハッホーっていったら、すぐに、□□□□□□

キヨ媼：うん、そうだ、それ、終わったら、すぐ、次、また【0:12:49】 ♪ハンドゥーレーイーホーワ、みんな、こうやって次々いくんだ。

千葉：ふーん。これは、何、あの、

キヨ媼：み、

千葉：1人とみんなっていう感じ？

キヨ媼：え、そうだ、みんなで輪になって踊るんだ、これ。

千葉：歌う人は、

キヨ媼：歌う人、声の出る人歌うべき。

千葉：ふた、2人で？

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。

キヨ媼：2人で歌うか、みんなで、うた、本当は昔はね、みんなで声出したもんだの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：わし1人が声出しているでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：そしたら、みんなで声出して、うた、踊ったもん。

千葉：ああ、うん、うん。

キヨ媼：声出しながらね、交代交代ね。

千葉：ふーん。ふーん。なるほど。せ、セセンナラっていうの聞いたことある、♪ホーイーヤーホーホー、セセンナーラーっていうの？

キヨ媼：いろんな〔よくも書いてるもんだな〕。【1:13:43】♪hoyya ho hoy he hennara ってやつ、【1:13:49】he, honna ho hoy hehennara, hoyya ho hoy hehennara, hoyya ho hoy hehennara ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:14:45】

千葉：さ、これ、へへンナラ？

キヨ媼：ホー、交代交代やるの。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:14:51】ホ、hoyya ho hoy hohonnara っていえば、まだ、あとで、また、hehennara って、

【0:15:00】

キヨ媼：こういくの、みんな、こう、繰り返し、繰り返し、いくわけだ□□。

千葉：代わり番こに？

キヨ媼：うん、かね、ぼ、代わり番こに。

千葉：【0:15:05】♪へへンナーラーっていたらホーイーヤーってすぐに、

キヨ媼：うんだ、うんだ、そうやっていくんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：昔の本当のウポ、ここらにはやる人いないもん、こんなの。

千葉：ふーん。そうか。これ、みんな、阿寒の？

キヨ媼：ん？

千葉：阿寒のやつ？

キヨ媼：阿寒湖だ。わしらの親やったやつだから、みんな、阿寒湖、釧路のウポポだ、これね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

男性：釧路、阿寒、同じだ。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。

男性：日高行けば、また違う。

キヨ媼：それから、何、入ってる？

千葉：【0:15:39】♪エーヘー、エーヘーエ、ハン、ハントウルイッサってのがあ、♪ハンルール
ツサ、ヘーイ、ハンルツサ、ん？ルーサ

キヨ媼：(笑)

千葉：[つていうのかな]。これは？聞いたことある？

キヨ媼：それも、みんな輪になってウポポやるやつだ。【0:16:00】♪heyai hanturussa heie hantusa,
heie hanturussa heie hantusa ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:17:15】

千葉：うん。♪イヤホーホーイヨーってのは？

キヨ媼：ほんー、イヤホイ？

千葉：うん。♪イヤホーホーイヨー、

キヨ媼：[な、なに]

男性：いろいろあるもんだな。ただ、どういう意味のもんだか分かんないな。

キヨ媼：ん？うん。【0:17:38】♪heie handuru ったんだべさ。【0:17:42】♪heie haturussa heie
hantusa, heie hantu russa keie hantu sa, heie hantu russa heie ho hoy, ~ (以下、歌詞略) ~
hoy hoy 【0:18:38】これもみんな輪になって踊るやつだよ。熊祭りのときね。

千葉：今までのやつ、みんなそうなんだね。

キヨ媼：ええ、みんな、これ、大勢で踊る、

男性：そ、それは女だけ歌う。

キヨ媼：うんだ。女だけ、ね。

千葉：ふーん。

男性：うん。

千葉：代わり番こに？

キヨ媼：うん、か、かわ、代わり、

千葉：代わり番こつつうか、あの、ずっと続けて、

キヨ媼：そうだぞ。

千葉：□□□□

キヨ媼：みんなしてね、声出す人声出して、1人声出したら、みんなで声出して、輪になって踊る。

千葉：これ、ウポポずっと続けて、いろんなのやってく、

キヨ媼：そうだ、そうだ、うん。

千葉：順番は決まってないんでしょう？

キヨ媼：決まってない、決まってない。

千葉：ふーん。なるほど。

キヨ媼：もう、ないですね。また、

男性：熊祭りちちゅうのは、あの、エベレも親も同じかい？

キヨ媼：そうだ。

男性：同じ？

キヨ媼：そう。

男性：子ッコも。

キヨ媼：そうですね。

男性：うん。

キヨ媼：やるか？

男性：小さい子も、親も

千葉：うーん

キヨ媼：消してるかい？

男性：同じ、

キヨ媼：止めたほうがいいよ。うん。

千葉：まあ、入ってます。

(茶を注ぐ様子)

【0:20:00】

男性：やあ、いい天気になったね。

キヨ媼：そうだね。

男性：初めて雪降ったんだよ [今朝]。

キヨ媼：それだよ。雪、あったね、少しね。

男性：ちょ、少しね。

キヨ媼：雪降ったよ。お茶出ないな。や□□□□。そこの瓶の、あるやつも飲みなさいよ。

千葉：うん。

キヨ媼：大変だ、これ、みんな覚えるってったら。ウポポも。

男性：うん。

キヨ媼：大したもんだからね。

男性：今、覚えてる人って、い、まず、数少ないわな。ここでは覚えている人って、いないべ？ 一部ぐらいは覚えているかしらん。

キヨ媼：うん、分かんね。入れてないんでしょう？

千葉：ん？入ってるよ？

キヨ媼：あらー、悪いこと言えないね、この人、入ってると。

男性：何。あ、ああ。ああ。話、したやつね。うん。入って□□□□

千葉：♪イヤホーホイヨってやつは？

キヨ媼：【0:21:47】♪iya hoy hoyyae a iya ho hoyyo ha hoy hoy yae ha iya ho hoyyo ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:23:28】

千葉：【0:23:31】♪アールオオルオーレイっていうのあるでしょ、知ってます？

キヨ媼：ある□、みんな、みんな、ウポポだべや。

千葉：うん。♪ルオーレイ、アールオ、ルオーレイっていうのかな、聞いたことある？

キヨ媼：昔やったものは、分かっているよ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:23:54】♪a ruo ruo run a ruo ruo oi ha a ruo ruo ru a ruo ruo oy ～（以下、歌詞略）～ hoy
hoy 【0:24:53】

千葉：これは、あの、

キヨ媼：みんな、大勢で、あの、踊る、あの、ウポポだよ、
【0:25:00】

キヨ媼：これも。

千葉：ふーん。歌い方は、1人歌ったら、また、[交代]

キヨ媼：あ、みんな、交代交代、交代して踊るの。

千葉：ふーん。これは？ 【0:25:19】♪エールッルッソーカーエールッルーっての。

キヨ媼：【0:25:24】♪e rut ruy so ka a e ru ru hoy a e ru ru so ka a e ru ru hoy ～（以下、歌詞略）
～ hoy hoy 【0:26:26】

千葉：ん。これは、

キヨ媼：み、

千葉：これ交代交代で〔歌えないよね〕。

キヨ媼：みんな、交代交代、歌、あの、声出して踊るの、これ。

千葉：【::】♪エールッルッソー、

キヨ媼：みんな、あの、大勢で踊る、おど、歌だから。

千葉：うん。

キヨ媼：うん。踊りだから。

千葉：【::】♪エールッルッソーカーエールッルーったら、エールッルーっていうの？

キヨ媼：ええそうだ、交代交代ね、声出すの。はい。

千葉：そうか、そうか。ふーん。♪フンナカウオーってのは？

キヨ媼：(笑) フンナカウオ□□

千葉：♪フンナカウオー、

キヨ媼：それだって、そうでしょう、あの、みんなが交代交代、声出すやつだよ。

千葉：うん。♪pewrep rekaw っ。♪hunnaka uo pewrep rekaw

キヨ媼：[なかに] みんな書いてる。

千葉：これも昔やってました？これ

キヨ媼：これ、座ってやるウポポだもんな、これ、みんな年寄りがやってね。

千葉：あ、これは座ってやるんだ、

キヨ媼：ええ、座って、立ってもやるけど、座った、お、年寄りたち、よくやったウポポだ、これ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：【0:27:31】♪a ennaka uo ennaka uo peurepekaw, a unnaka uo a unnaka uo pewrepekaw,
～（以下、歌詞略）～ hoy hoy 【0:28:39】

千葉：うん。なるほど。♪フオーイヤアエーってのは？

キヨ媼：フイヤオー？

千葉：♪フオーイ ヤーアーエー、

キヨ媼：フイ、

千葉：♪フオーサー、

キヨ媼：フイ、【0:29:00】♪huyyao huo o、っていう、いくやつでないの？

千葉：うん、フオーイヤアエーって書いてある。♪フオーイーヤアエー。

キヨ媼：【0:29:11】♪hu o o、あ？ o、huy、

千葉：【0:29:15】♪フオーイウーオーホイ、フオーイウーオーホイ、か。

キヨ媼：あ、ウオオでねえのかい？ それ。

千葉：ウオオかい？

キヨ媼：先に、わ□□、【0:29:25】♪フオーオーイーヤーアーエー、

千葉：♪フオーオ、

キヨ媼：【0:29:29】♪アーウーオオオオ サーウウオオオイイイイっていくんだ、わしらは。

千葉：うん。で、代わり番こに「追っかけて」、

キヨ媼：うんだ、うんだ。【0:29:37】♪a u o i y a e e hauo sa ho i ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy【0:31:07】

千葉：うーん。

キヨ媼：これも、みんな、大勢で、踊るウポポだよ、これは。

千葉：うん。

キヨ媼：ええ。

千葉：♪オイヤーホーイヤッエーってのは、ホイヤアアホーイヤー、

キヨ媼：さっきやったやつと違うかい？

男性：こ、これは中国語より面倒だな。中国語なら漢字だから。

千葉：うーん。

男性：〔読みかえ〕があるんだね。ちょっと、発音が出ない。さあ、いってみよう。どうもごっつおうさん。

(中略)

千葉：【0:32:24】♪ホイヤーホーイヤエー ホーイヤアホーイヤー、ア、ホーイヤーホーイヨーっていうのかい？

キヨ媼：それもあるんだ。

千葉：ふーん。これ、昔のやつ？

キヨ媼：やるよ、まだ。大勢で踊るやつ。

千葉：今、やらないね、これ。

キヨ媼：ん？

千葉：今、やらないでしょう？

キヨ媼：やらない、やらない。これの半分もやってないわ、このウポポ。

千葉：うん。

キヨ媼：熊祭りのウポポ、みんな、やってないよ。

千葉：うん。

キヨ媼：ただ、あの、よ、余興のやっているだけだもん。阿寒湖だってね、

千葉：うん。

キヨ媼：そうでしょう。【0:33:09】 ♪hoyya hoyyae hoyya hoyya a hoyya hoyya hoy hoy, hoyya hoyyae hoyya hoyya a hoyya hoyya hoy hoy, ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:34:57】

千葉：うん。

【0:35:00】

千葉：これも、やっぱり輪踊り、

キヨ媼：みんな、輪になって踊るやつだ。

千葉：ふーん。これは、どうやって、あの、全部歌ったら交代に、交代、

キヨ媼：そうだ、そう、交代、交代、みんな交代だ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。大勢でやるやつ、みんな、交代で。今はね、あの、阿寒湖にやる人は、みんな、交代交代、1人か2人やるけど、わしら、熊祭りったら、10人だら10人、みんな交代してやるもんだもん。うん。

千葉：ふーん。♪ヘレカンホオーオ、ヘーレカンホっていうのは？ これ、これ、屈斜路でもやってたっけか。

キヨ媼：え？

千葉：【0:35:35】 ♪ヘレカンホオーオ ヘレカンホー、ヘレカンホイ、ヘーイチュッアウホー、とかいう、

キヨ媼：んだ、それもあるよ、これ、

千葉：これ、これも昔からやってたの？

キヨ媼：【0:35:48】 ♪ヘリカン ホオオオ、ペレカン ホー、ハ、ヘレカン ンンンホア、ヘーチョイアウホイ っているいろ、こうやって、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、歌に合わせてやる、やる踊りだ。これね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：うん。【0:36:04】 ♪herekan hoy herekanho a herekanho ha hecoy auhoy, herekanho herekanho a herekanho ha hecoy auhoy, herekanho herekanho ha herekanho a hecoy auho, ~ (以下、歌詞略) ~ hoy 【0:36:57】

千葉：これって、な、なにも持たないんですよね、これ。

キヨ媼：そうだ、ただ、みんな、こうやって、こうやってやったり、こうやったりさ。

千葉：これ、何、遊び？ 遊びの歌？

キヨ媼：そうだ、みんなの、こう、あの、これね、あの、昔の人、いろいろ言ってたけどね、このへ

レカンホーったら、今度、あの、なんちゅうのか、その、漁師の人ね、

千葉：うん。

キヨ媼：結局、あの、こう、あの、もう、權かいて歩くでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：丸木舟ね、

千葉：うん。

キヨ媼：昔の人ね。

千葉：うん。

キヨ媼：それの、あれをとってやったもんだって、こう、あの、それに [あたわって] (不明、合わせて、あてがって、の意味か) 踊ったもんだの、こうやって、体、こうやっていったり、こうやったりね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：こうやって踊ったもんだの。そ、漁師の歌なんだと、これね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：魚とりの漁師の歌なんだってね、

千葉：うん。

キヨ媼：舟のかいてるとこだとか、それから、あの、こう、あの、いろいろやったもんだよ、これね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：これ、へレカンホってね。一番先に、こうやってやる、

千葉：うん。

キヨ媼：2番こう、3番、こうやってやるとか、

千葉：みんな、決めて、

キヨ媼：ええ、そうやってやったもんですよ。

千葉：うん。

キヨ媼：今じゃ、やる人いないでしょ。

千葉：あ、これ、阿寒でやってた□、

キヨ媼：ん？

千葉：阿寒？

キヨ媼：阿寒でやって、に、阿寒だよ、これは、阿寒の [踊り] だ。

千葉：うん。ふーん。で、あの、ウポポっていうか、なんか知らないけど、前歌ってた、♪タンコー タンーシリクルクシペカニコンダっていうのがあったでしょう？

キヨ媼：うん。

千葉：♪メノコーカイペー□□カイペーコジャーヌーコジャーヌーコイレー

キヨ媼：これは、どういうふうにしてやったもんだべね。昔ね、やった人いたけどな。

千葉：これ、これもウポポなの？ やっぱり。

キヨ媼：ウポポさ。それは、とったん、メノコノカイペフルカイペ、【0:38:34】♪タンコタン シル

クルクシペ カニコンダ メノコノカイベ フルカイベ ハイ コジャヌ コジャヌ コイレッタ
コイカイナ ハイ ハイ ~ (以下、歌詞略) ~ 【0:39:37】 って、こう。

千葉：ふーん。なんか、これ、ちょっと日本の歌みたいな感じるね。

キヨ媼：そうなの、そう、これね、

千葉：うん。

キヨ媼：どうして、こう、本当、メノコノカイベって言って、あの、コジャヌーコジャヌーったら [ーんたん]、それ、その、メノコノ、あの、結局、アイヌ語で、カイペーフルカイペーったら、たくさんいて、フル、あの、

【0:40:00】

キヨ媼：いるっっていうふうな意味だべさ。メノコノのやつね。

千葉：ふーん。

キヨ媼：【0:40:03】 ♪コジャヌーコジャヌーコイレッタコイカイナっっていくべさ。

千葉：それ、どういう意味なんだろうね。

キヨ媼：ね。そして、その、あー、はー、早いとこ言えばその、んー、アイヌだっつけたもんだべさ、タン、あ、あの、メノコノカイベってね。

千葉：うん。

キヨ媼：それを、今度とって、その、やったものでしょう？ それを、昔は聞いたことあるけど。

千葉：うん。コジャヌーコジャヌーってのは何だろうね。

キヨ媼：【0:40:28】 ♪コジャヌーコジャヌー、コ、コジャヌーコジャヌー、コイレッタコイカイナっ
て、♪コジャヌーコジャヌー、コ、コジャヌーコジャヌーったら、いっっていう意味だべさ。コジャ
ヌ [早いうちに要するに] ね。♪コジャヌーコジャヌーコイレッタコイカイナってこういくんだから
ね。

千葉：うん。

キヨ媼：それを、どう [にだか] □□□□ [すればよ]

千葉：何、いい、いっってどういうこと？

キヨ媼：ね

千葉：いい、いっって何？

キヨ媼：(笑) [は] て (不明、手?) があんたにはいいっっていうんだべさ。【0:41:00】 ♪コジャヌー
コジャヌーコイレッタコイカイナって、

千葉：うん。

キヨ媼：なんて歌ったんか知らんわ、わしじゃあ、よく分からんけど、

千葉：□□ね、面白いね。

キヨ媼：た□ (笑)

千葉：これは、あれでしょう？ ただ、1人で歌う、

キヨ媼：そうだ、それね、結局ね、

千葉：交代交代、

キヨ媼：1人だら1人、2人だら2人で、あの、みんな、あの、大勢集まったら歌うんだべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：タンコタンシルクルクシペカニコンメノコとかって、そして、その、いろんな、いろんな、余興だべさ、早いところいえば、ねえ。

千葉：ふーん

キヨ媼：もうない

千葉：これは？

キヨ媼：も、まだある、

千葉：【0:41:47】 ♪トキナーカームイーコロ、エムシサーンケー

キヨ媼：え？

千葉：【0:41:52】 ♪ハネケンクエトシルイケンクエトンって、

キヨ媼：^{なに}何のかい？

千葉：♪トキナー カームイ、ん？

キヨ媼：【0:42:02】 ♪tokino ham kamuy koremusi sanke っていうんだべさ。トキノハンだべさ。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：ね。トキノハンって入っているべさ。

千葉：トキノハンって何。

キヨ媼：トキノハンって、その、くす、草あるんだわ。

千葉：うん。

キヨ媼：早いところいえば、アイヌたちとって食べたやつ、トキノハンって、山にな。

千葉：あ、前、歌ってもらったことあるかな。

キヨ媼：え？

千葉：これ、前、歌ってもらったことあるね、それね。

キヨ媼：あ、あるべさ。歌ったの、それ、あるべ。

千葉：うん。ハネケンクエトン、ルイ、ルイケンクエトンってのは付かない？

キヨ媼：え？

千葉：そういうのは付かない？ ハネケンクエトシルイケンクエトンっての。

キヨ媼：カニコン？ クーテン？

千葉：ふーん。つかないの、これは、カムイ、

キヨ媼：♪カニクワ、カ、

千葉：♪トキナーハーンカームイ、

キヨ媼：【0:42:44】 ♪tokino ham kamuy koremusi sanke ～（以下、歌詞略）～（最後3回のみ）

tokino ham kamuy ko tuyma rewke ～ hoy hoy 【0:09:12】

千葉：それ、あれでないの？ サルキーウシナ、サルキーウシナイコータンコートウイマーレウケじゃないの？

キヨ媼：違うの。

千葉：それと違う？

キヨ媼：トキノハンカムイったらね、あの、この草のおがってるとこ、遠いとこっていう意味で歌ったもんだね、これ、ね。

千葉：ko tuyma rewke ったら、サルキウシナイの、あれでないの？ サルキウシナイ、

キヨ媼：いや、これね、これ、2つにやるんだわ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：ko tuyma rewke と、

千葉：うん。

キヨ媼：sarki us nay kotan、

【0:45:00】

キヨ媼：ko tuyma rewke sarki us nay、まあ、2つ、こう、繰り返して、やら、やってたよ、年寄りたちは。

千葉：ふーん。そうか、そうか。これは、何、歌だけ。

キヨ媼：みんな、歌って踊るんだ、これで。

千葉：踊りもつくの？

キヨ媼：うん、もう、踊りもつくよ。

千葉：踊りっていうのは、輪になって？

キヨ媼：ん？ 輪になって踊る。

千葉：なんか決めて踊る、

キヨ媼：そうだ、

千葉：踊り？

キヨ媼：うん、踊る。

千葉：ふーん。さっきのコジャヌ、コジャヌ、つても踊る？

キヨ媼：【0:45:29】♪tan kotan sir(i)kur kuspe kani konda、ちが、違う、さっき歌ったべさ、これ。

千葉：これは踊りはつかないの？

キヨ媼：それ、踊りつかないわ。

千葉：うん。

キヨ媼：みんな、あの、おお、あの、余興でや、やるんだ、やる人は、や、や、やるしな、やらない人はやらないや。

千葉：うん。

キヨ媼：やるよ。ま、踊ってやったの見たこともないし、聞いたこともない。にえ。その歌は聞いているけどね。

千葉：うん。そうか。あれは、♪アートウイソーカタっていうのは、

キヨ媼：アートウイソーカタっていえば、これも、意味あるでしょう。アートウイソーったら、海の上でしょう、川の上。【0:46:08】♪atuyso kata e kayyao kayya o kaykuma ranke hoy ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:47:48】それ、やってたべさ、前に、やってなかったかい？ 初めかい？

千葉：これはね、やったかもしれない、ちょっと書いてなかったからね。

キヨ媼：そうかい、うん。

千葉：やったような気がするんだけど。

キヨ媼：うん。

千葉：♪アーラホイヤーオーホイヤーオーホイヤーオーホイヤーっていうのは、

キヨ媼：それもや、あれ、みんな、あの、踊り、大勢で〔踊るとる〕やつでしょう。

千葉：ふーん。

キヨ媼：【0:48:19】♪ara huyya hoyya a o hoyya e hoyya, ara huyya hoyya a o hoyya e hoyya, ~ (以下、歌詞略) ~ hoy hoy 【0:49:49】って。

千葉：ん。ヨ、♪ヨーロロハッホーホイヤーっていうのは、言葉□□□□

キヨ媼：♪ヨーロロハッ、ああ、これも、

千葉：2種類。

キヨ媼：わし、前にやったべさ。

【0:50:00】

キヨ媼：オロハッホ。

千葉：♪アーラハオヨーロロハッホーホイヤーっていうかい？

キヨ媼：うんだ。【0:50:05】♪ホーロロ ハッホー ホーレン ネーエ ホーロロ ハッホー ーホーラーア、いろいろ、このくし、節つけてやったんだべさ。

千葉：ふーん。ふーん。

キヨ媼：まだあるか？ まだ、まだあるの？

千葉：ちょっと休みます？

キヨ媼：あの、瓶に入ったの飲む？

千葉：うん。

キヨ媼：飲みなさい、1本ちょうだい。わしは、そっちから出すのあるけど、あの人にやっちゃった。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：飲みなさい、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：サイダーのか□。(サイダーを開ける音) 大したものでしょう、また、あれも。どれぐらいある？

千葉：いやあ、そんなに、

キヨ媼：もう、全然ね。止めてるかい？これ。

千葉：入ってるよ。

キヨ媼：あれまー。嫌だなあ。(笑) iku やりながらやってると思えばいい。

千葉：たくさんあるもんだもんね。

キヨ媼：うん、大したものでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ。言われなかったら分かんない、忘れてしまってね。

千葉：うん。

キヨ媼：やっこの前から、しばらく、何十年もやったことないからね、わか、忘れるんだわ。(間)
あとはどんなの？ ある？

千葉：あの、

キヨ媼：阿寒湖のやつもあるでしょう。

千葉：うん。釧路のやつっていうのは、あんまり歌わないですか？ 【0:52:07】 ♪フンベアーンアン、
とか、タビソー

キヨ媼：ああ、白糠だ、アンコロフンペヤ (ankor(h)unpe ya) とか、わし、分かんないもん。この
ウポポ、白糠のだ。

千葉：【0:52:19】 ♪オノノノノノとかいうやつは？

キヨ媼：え？

千葉：オノ、オノノノっていうやつ、

キヨ媼：オノノ？

千葉：うん。なんだっけな。

キヨ媼：(笑) □□□□□□

千葉：オノノ

キヨ媼：オノノ、オノノったら、結局、クマを今ね、あの、殺して、そして、あの、窓から入れたと
きの、オノノ、オノノっていえば、あの、ありがとう、ありがとうっていう意味だべさ。

千葉：中の人が言うの？

キヨ媼：ん？

千葉：中の人が言うの？ cise の中

キヨ媼：そう言うのさ

千葉：ふーん。

キヨ媼：だからオノノ、オノノノって言って、ありがとう、ありがとう、っていう意味だべさ。オ
ノノったら、よかったっていう意味。

千葉：受け、受けとる人がいうの？

キヨ媼：そうだ、そうだ。みんなね、女の、男の人、女の人、歌って、男の人、okokokse やって入
れるべさ、クマ。その意味だ。

千葉：どういう節？

キヨ媼：え？

千葉：どういう節？ それ。

キヨ媼：okokokse ったら、オホホホっていうでしょう？

千葉：いやいや、オノノノノってやつは、

キヨ媼：【0:53:14】 ♪オーノノノ、オーノノ、オーノノノ、オーノノ、って、ただ、言う、言うだけ
だ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。

千葉：もうちょっとやって。

キヨ媼：【0:53:23】 ♪オーノノー、オーノノー、オーノノーオー、オーノノー、オーノノー、オーノノー、オーノノー、オーノノー、って、それでいくんだ。

千葉：みんなで、

キヨ媼：うん、繰り返して、それで。

千葉：うーん。ふーん。ちょっと、タイム？

キヨ媼：入りました？

千葉：え、きのう、あの、言ってた、何でしたっけ、キクエさんが、ほら、歌うと上がったたり下がったりって言われるって言ってたじゃない。

キヨ媼：うん。

千葉：あれ、

キヨ媼：結局、あの、私みたいにね、結局、みんなの歌と違うでしょ？

千葉：うん。

キヨ媼：それで、あの、あれ、【0:54:44】 ♪hundori huncikap a ho って、やっぱり、黙ってみんなで聞くとね、あの、キクエの歌とそちの歌が違うわけ。

千葉：うん。

キヨ媼：【0:54:58】 ♪a ho a ho っていく、いく人、相棒いるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：だ、キクエは、【0:55:07】 ♪a ho a ho a (節をつけて、さらにメロディーを上下させて歌っている) ってこういくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：や、片一方、^{かたいっぽう}【0:55:15】 ♪アアアホー、アアアホー (節がなく、メロディーも節に連れた上下動がないため単調に歌っている) って、それでい、いくでしょう？

千葉：上がったたり下がったりっていうのは、その、何、♪ウウウウってやる、こと？

キヨ媼：そう、それがね、わしら、私だったら、【0:55:26】 ♪アアアア ホオオンア アンアアって、こういくべき。だけど、あう、相棒の人は、【0:55:31】 ♪アアアホー、アアアホー、ホーイホーイってこれでいくべき。

千葉：あの、【0:55:37】 ♪アアアア ホオオオ オオオって、あが、ここで上がるってこと？ (下線低音域、傍点は広音域)

キヨ媼：うん。したら、あの、極端にいくでしょう。相棒はね。そやけど、私らは、【0:55:45】 ♪アアアア ホオオンア アアア って、こう、こう、繰り返していくの。相棒は、【0:55:50】 ♪アアアホー、アアアホー、ホーイホーイってこう、極端にいくわけさ。

千葉：うん。うん。

キヨ媼：だから、それが言うの。そのね、結局、その、片一方、こ、こういうふうにしてんだから、

片一方のように、やる、いってくれって言ったんだっていうんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：ね、ゆ、

千葉：この、節のことを言ってるんじゃないくて、

キヨ媼：え？

千葉：アアアアって、ふ、節をつけることをいっているんじゃないくて、でしょ？

キヨ媼：そうだ。したからね、結局、【0:56:13】♪ア—ア ホオオオオオオって、こういくべき。

千葉：うん。

キヨ媼：だから、【0:56:17】♪ア—アホー、ア—アホーって相棒がいうから、相棒のように、♪ア—アホー、ア—アホーって極端にいってくれっていう意味なのさ。ね。

千葉：ふ—ん。

キヨ媼：そういう意味なの。

千葉：ふ—ん。

キヨ媼：だから合わないっていうのは、片一方はそういうふうにして言うから、

千葉：うん。

キヨ媼：片一方は極端にいくし、

千葉：うん。

キヨ媼：だから、極端にいったほう、いいやすいから、そういうふうにしてくれっていう話なんだ。

うん、そういう話。私ら、あの、教えてもらったのは、あの、みんなの聞いてい、習ったのは、【0:57:01】♪アアアア、ホーオオン、こうしていくわけさ、ね。わしは、フンドリっていかない、あの、いわないの、サルルンカムイっていくわけ、わしらは。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：ね。私は教えてもらったの、サルルンカムイっていうの、サルルンカムイってね。

千葉：うん。

キヨ媼：だ、まあ、阿寒湖の人らはね、フンドリっていくでしょう。だから、教えてもらったのは、サルルンカムイって言ってください、サルルンカムイったら、ほん、本当のことだから、サルルンカムイって言ってくださいったけど、みんな、昔から、その、フンドリと、極端にいっているでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：フンドリったら鳥っていったね、

千葉：うん。

キヨ媼：だから、鳥っていわないで、サルルンカムイったら、さ、あの、ヨシのなかの鳥っていう意味でしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：それが本当だから、そういうふうにいけて、いわ、あの、いわれてい、その、歌、歌ったの。

千葉：うん。

キヨ媼：だけどね、みんなは、これ、あの、その、フンドリって言って、い、か、いう、いって、だから、その、言^いいづら^いって^いうわけよ。サルルンカムイってね。

千葉：うん、うん。サルルンカムイってのは、それ、シタ、あの、シタカラオトサクさん、がそういうふう^にに〔伝え〕

キヨ媼：うんだ、うんだ、そうだ。

千葉：ほかにも言っていた人いる？ いるんですか？

キヨ媼：ん、いない、いない、今。

千葉：ふーん。

キヨ媼：サルルンカムイっていう人、いないべさ、今。

千葉：うん。あれ、テシベ、テシベアヤ²⁵さんっていったら、

キヨ媼：アヤコ？ アヤ？

千葉：アヤコ？

キヨ媼：アヤ？

千葉：テシベアヤっていうの？

キヨ媼：うん、昔の人？

千葉：うん。

キヨ媼：うん。その人のウポポか、あったかい？

千葉：いやいや、ないんだけどさ、

キヨ媼：え？

千葉：ないんだけど。

キヨ媼：(笑) そ、本当の年寄りでしょ？

千葉：いくつぐらいの人？

キヨ媼：え？

千葉：おばあちゃんより、いくつぐらい上の人、

キヨ媼：まあだ、もう、わしより10も上の人だ。

千葉：うーん。

キヨ媼：昔、昔の人だ。

千葉：どこ、それは、阿寒にいたんですか？ 阿寒。

キヨ媼：阿寒でないの、あの、コタンっていうとこにいた。あの、コタンっていうべ、阿寒町のコタン。

千葉：ふーん。

キヨ媼：あそこ^にいて亡くなった人だべ。

千葉：いつ、いつごろまでいた人？

²⁵ テシベアヤという名^{てしべ}の人は実在せず、徹辺フヨの誤りであると、ご遺族との綿密な検討の末に結論された。テシベアヤの名は1995年11月18日の会話にも現れるが、いずれもいずれも千葉が発している（【1:05:00】の少し前）。千葉はどこかで聞き違えたか、勘違いをしたと思われる。

キヨ媼：それは、もう、私の、あんた、あの、子ども時分に、で、亡くなった人だもの。若いときから、亡くなってた、い、もう、忘れた、何年も前だから、忘れてしまって、分からんけど。その人はウポポ上手な人でね。

千葉：ふーん。クットモレットもやっていた人？

キヨ媼：え？

千葉：クットモレットもやっていた人？

キヨ媼：そうだ、[こすこの] 人のクットモレットだべさ、あの人しかやらないもん。

千葉：うん。おばあちゃんの、前いていたのは、この人の、

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：ふーん。クットモレットって、あの、歌の練習では使うことなかったんですか？

キヨ媼：ならない、やらないの。

千葉：練習じゃない、

キヨ媼：うん。

千葉：うーん。

キヨ媼：自分でね、

千葉：うん。

【1:00:00】

キヨ媼：まあ、あの、余興さ、自分でね、自分の思ったこと、まあ、1人で^ゆ言ってね、

千葉：うん。

キヨ媼：えー、喜ばしたもんですよ。昔ね。

千葉：うん。喜ばしたって？

キヨ媼：喜んでもらったんでしょ、こういうふうにするもんだとか、喜んでもらって神さんのね、

千葉：うん。

キヨ媼：早いところいえば、その、あの一、私らは、先祖は、火の神さん、うちの^{がみ}神さんっていう、一番大事なことであってね、火の神さんに、そのね、喜びの、あの、歌だって言ったもんだの、そのね、クットモレン、レットってね。お祭りのときは必ずやったの、その、おばあちゃんがね。

キヨ媼：ふーん。

千葉：ひと、1人でやったの？

キヨ媼：ん、

千葉：1人でやったんですか？

キヨ媼：1人で。

千葉：ふーん。それ、いつやるの？ その、あれでしょ、イオマンテ、の、[くお]

キヨ媼：イオマンテでないの、いち、あのね、要するに一年に一回は必ずカムイノミやるでしょ？ うちでも同じくね。

千葉：うん、うん。

キヨ媼：そんときにね、大勢集まるでしょう？

千葉：うん。

キヨ媼：1人で、その、自分でね、あの、んん、クットモレット、シノッチャやって、そして、喜ばしたんだ、うん。昔はこういう、炉だったからね、炉を切って、火燃やしてたでしょ？ それから、今度、こう、あの、声出して、こうやって跳ねるんだ、こうやってね。こうやってね、あの、あの、ありがとうございます意味でしょう。早いところいえばね。今日はありがとうございます、言って、こう、あの、跳ねる [ながら]、こうやってね。

千葉：うん。

キヨ媼：自分の思ったことを、その、声出して、やったの聞いたことあるの、私の、若いときね、小さいときだもの、子ども [んりょうもない]。それをやった。

千葉：ふーん。

キヨ媼：だから、そんなのね、やる人たちいないしね、き、聞いてもやる人いないから、私、子どものとき、聞いたから、それやっただけで、ね。やる人いないよ、たくさんいても。

千葉：うーん、うーん。阿寒町にコタンっていうのがあったんだ、したら。

キヨ媼：阿寒町ね。うん。

千葉：その人は誰かの親戚、ですか？

キヨ媼：そ、そうだね、みんな親戚になるんでないかい？

千葉：ふーん。

キヨ媼：阿寒湖にいるアイヌの人ら、ほとんど親戚になるんでないかい？

千葉：ふーん。

キヨ媼：死んでしまったから、親戚だっていわないけどね。

千葉：うん。テシベさんっていう人、あまり聞いたことないね。

キヨ媼：テシベか。

千葉：うん。

キヨ媼：テシベ、テシベフヨ²⁶って聞いたことある？

千葉：いや、ない。この辺の人？

キヨ媼：うん、まあ、美幌の人だ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：徹別の人だけど、今、美幌にいるけど、もう来年でもう100なるの。

千葉：そうなの。

キヨ媼：そのばあさん、私のおばさんになるの。

千葉：へえ。

キヨ媼：この人はウポポも上手だったよ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：うん。なにかあったときは、必ず私の応援してウポポやった人だもん。

²⁶ 当初千葉は「フユ」と認識していたが、ご遺族からのご指摘により「フヨ」であると知った。

千葉：ふーん。

キヨ媼：だけど、今も阿寒湖、あの、釧路、あの、釧路だと、美幌にいるけどね、

千葉：うん。

キヨ媼：あの、今、目見えなくなってさ、来年で100なるの。

千葉：元気なんですか？

キヨ媼：元気なの。気持ちしっかりしてるけど、目見えない。

千葉：へえ。

キヨ媼：それでね、私、あの、4月にいって会ってきたの。

千葉：うん。

キヨ媼：3月、4月ね。今年の4月にね。

千葉：うん。

キヨ媼：ほいたらね、もう、元気でさ、

千葉：うん。

キヨ媼：今度来るときに、2人でウポポやるべしなんて笑ったりして、元気だよ。だけど、その、めったにあわせないのも、そうして、あの、もう気持ちはしっかりしてるけど、今度ね、体自由にならないの。

千葉：ふーん。

キヨ媼：ほいで、寝てばっかりいるから。

千葉：ふーん。

キヨ媼：で、娘と一緒にいるの。

千葉：ふーん。この人、テシベアヤさんの、

キヨ媼：え？

千葉：テシベアヤさんの何にあたる人？

キヨ媼：テ、テシベアヤ、

千葉：うん。

キヨ媼：みんな親戚になるんだね、遠い親戚になるんでねえか？ うん。

千葉：ふーん。ふーん。じゃあキヨフチのウポポってというのは、こういう人たちのウポポを、も、少し聞いて、勉、勉強っていうか、聞いたりしたんだね。

キヨ媼：うん。

千葉：うん。

キヨ媼：年寄りね。

千葉：うん。一番よく聞いたウポポって誰のウポポ？

キヨ媼：え、

千葉：一番よく聞いたウポポって誰のウポポ？

キヨ媼：よく聞いたっていうのは、

【1:05:00】

キヨ媼：あの、あれさ、今のおばさんも歌うけどね、アキベ、カヨとかアキベオトサクとか、
千葉：うん。
キヨ媼：この人のウポポばかりで、結局習ったの、あの、覚えたもんだよ。
千葉：ふーん。その、その前にもいろんな人から、聞いているでしょう？
キヨ媼：ああ、聞いている、聞いている、もう、年寄り亡くなっていないわ。
千葉：うん。年寄りの名前って覚えてる？
キヨ媼：分かんねえや、もう、ほとんど。
千葉：どこの人？ 阿寒の人？
キヨ媼：阿寒のい、も、いたけどね、あの、阿寒町にいたのはその人らね。もう死んでいないもん。
千葉：ふーん。そっか。誰も録音もなにもとってないんだろうね。
キヨ媼：なんもとらん、とらん、だら昔も、今みたいになんでもあるときならな、
千葉：うん。
キヨ媼：□□、すぐとっておけばよかったけど、そんなのないんだもの。だから、私の母親の写真だ
って、あの、ウポポやったけど、そんなの、なんもとってないもんね。
千葉：うん。そのテシベさんっていう人は、おばあちゃんがいくつぐらいのときまで生きていたの？
キヨ媼：あの、その人、私16か、そこらまで生きていたんでねえか。
千葉：ふーん。
キヨ媼：14か15か16ぐらいでねえか。
千葉：うん。
キヨ媼：まだまだ [むーちゃいきん] (不明) ときの、小さいときの話ね。
千葉：ふーん。じゃ、そのころまでは、ウポポ聞いたりしてたんだね。
キヨ媼：うん、うん、そう。
千葉：あれ、おばあちゃん、釧路にいたことあるでしょ？ 最初
キヨ媼：私、釧路、釧路の生まれだけど、釧路の生まれでも、徹別ってとこに育てられてさ。
千葉：釧路で？
キヨ媼：うん。
千葉：あ、じゃあ、釧路からテシベっていう人 [がいた]。
キヨ媼：うん。そして、それから阿寒湖へ来て。
千葉：ふーん。ふーん。そのテシベさんっていうのは、その、アヤ、アヤさんのいるテシベ、
キヨ媼：みんな親戚になるの、うん。テシベフヨって書いといて、そこに。テシベフヨって。
千葉：あ、その、フユさんに育てられたの？
キヨ媼：育てた、おばさんになるんだな、私らとしたらね。うん。母親の親戚なるから、わしの。
千葉：ふーん。あれ、でも母親ってテシベじゃなかったよね。
キヨ媼：そう、嫁に行ってる。
千葉：ああ、そうか、そうか。
キヨ媼：嫁に行ったからねえ、シタカラっていうところに行ったから、シタカラってついてる、わし

の母親が。(これ以降の会話は、千葉がテシベ、シタカラなど、地名と姓²⁷を混同し、特にテシベをし
ばしば地名と誤認していることから、複雑な勘違いが生じ、噛み合っていない)

千葉：だから、もともとはテシベだったんだ。

キヨ媼：うんだ、テシベ。

千葉：ふーん。あれ、テシベ、テシベにも嫁に来たんだね。

キヨ媼：うん、テシベさね、嫁になって、

千葉：うん。

キヨ媼：そして、

千葉：テシベの前は？

キヨ媼：え？

千葉：テシベの前は？

キヨ媼：シタカラ。シタカラっていうところにいたから、シタカラってつけたんだと。

千葉：あれ、シタカラが後でないの。

キヨ媼：シタカラコイ、私の母親、シタカラコイっていう。

千葉：その前はテシベコイ？²⁸

キヨ媼：それから、き、あの、嫁になってシタカラコイになったべき。

千葉：その前はテシベコイだったんでしょう？

キヨ媼：うんだ。だから、そ、

千葉：テシベの前は、

キヨ媼：テシベの前、シタカラ、テシベの、あの、あの、テシベから、あの、あれでしょう、アキベ、
あの、シ、シタカラっていうところにきたわけじゃ。

千葉：うん。テシベの前はいなかった、

キヨ媼：なかった、それ。

千葉：だって、テシベのときは、もう、おばあちゃんいたんでしょう？

キヨ媼：そうそう。テシベ。

千葉：ふーん、ああ、そうかそうか。

キヨ媼：昔の人だから、ごちゃごちゃだからね、

千葉：うん。

キヨ媼：そっちの身内、こっちの、み、身内ってね、あって。

千葉：釧路はいくつぐらいまでいたんですか？

キヨ媼：私か、

千葉：うん。

²⁷ 徹^{てしべ}辺(姓)は徹^{てしべつ}別(地名)から、秋^{あきべ}辺(姓)は飽^{あくべつ}別(地名)からつけられた。^{したから}舌辛は姓も地名も
存在する(下河原という姓もあるが関連性の詳細は不明)。

²⁸ 念のためご遺族に確認したが、これは実在しない名前だとのこと見解であった。

キヨ媼：私は釧路にいたとき、生まれてすぐだから、赤ん坊のときだけど、あの、徹別さ、来てわかって5つか6つのとき、

【1:10:00】

キヨ媼：徹別来たんでないか。6つか7つのときか。

千葉：うん。

キヨ媼：そいで、まあ、どうやらこうやら一人前になってから阿寒湖さ来たんだから。

千葉：あ、そのテシベっていうのは、もう最初から阿寒だ。

キヨ媼：うんだ、阿寒湖だ。

千葉：阿寒町だ、阿寒町ね。

キヨ媼：うん。

千葉：ふーん。そうか、そうか。じゃあ、釧路と、釧路といっても、釧路のウポポは全然、あれだね、聞いてないね。

キヨ媼：まだね、うん、うん。

千葉：うん。

キヨ媼：同じだ、釧路と阿寒湖と。

千葉：うん。

キヨ媼：ウポポは。

千葉：そっか、そっか。シタガワラキサさんっていう人は、

キヨ媼：何ていう人？

千葉：シタカワラキサさん。

キヨ媼：シタカワラ、あの人は、シタカワラだから、あの人も、あの、阿寒湖の人でねえか？ 阿寒湖の人だ。ね、娘いるべさ、阿寒湖に。

千葉：ふーん。

キヨ媼：コトリサワって。

千葉：あ、あの人そうなんだ。

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：このばばも歌の上手な人でね。

千葉：うん。アキベカヨさんとちょっと歌似てるよね。

キヨ媼：え？

千葉：アキベカヨさんと。

キヨ媼：うん、似てる、似てる。みんな、親戚になるでしょ。きっと。私に、よく分かん。

千葉：山本リセさんっていったら、どこの人？

キヨ媼：ヤマモトリセったら、もう、死んだべさ。あの人も、あの人、帯広の人だもん。帯広の人だよ。

千葉：ふーん。

キヨ媪：もう死んだべさ。去年、おとし死んだべさ。

千葉：あ、そんな最近まで生きてたんだ。

キヨ媪：うんだ。

千葉：あ、そうか、そうか、そこも、どっか、この辺にいたっていう人？

キヨ媪：こっちだ。死んだあの人、おとしだ、死んだの、去年、おとし。

千葉：うん。アキベカヨさんっていうのは、もともと阿寒の人？

キヨ媪：そう。親元から阿寒だからね。

千葉：シタカワラキサってのも、阿寒

キヨ媪：阿寒湖。

千葉：昔っから、阿寒？

キヨ媪：阿寒だね。

千葉：ふーん。そうか。昔のね、録音がちょっとあるんです。

【01:13:08】(録音テープの再生開始)

千葉：これって、シタカラさんの声。

キヨ媪：え？ これ、どこの人だね。

千葉：これ、シタカラオトサクさんだよな？

(女性が二人でウポポを交互唱するようす)

千葉：これ、声分かります？

キヨ媪：え？

千葉：声分かる？

キヨ媪：分かる。

千葉：これアキベカヨさんとシタカワラキサさん、

キヨ媪：これか？

千葉：うん。

キヨ媪：分からないわ。

【01:14:51 録音テープの再生終了】

千葉：これね、名前ね、

キヨ媪：うん。

千葉：名前が、アキベカヨ、シタカワラキサ、あ、シタガワ、シタカワラキサ、

キヨ媪：うん。

【1:15:00】

千葉：シタカラオトサク、それと、ヤマモトリセって書いてある。

キヨ媪：ああ、そうかい。

千葉：うん。

キヨ媪：その、リ、

千葉：だから、歌ってんの、アキベカヨさんとシタガワラキサさん、

キヨ媪：そうなんだね、その人がね。うん。

千葉：うん。

【01:15:12】(録音テープの再生開始)

千葉：これ、シタカラさん、

(更科源蔵さんの声)

(数人でうたっている様子、音作氏が okokokse をしている)

キヨ媪：これ、アキベ、あの、カヨさんでしょう

千葉：うん。

キヨ媪：カヨさんにはかなわないよ。

千葉：うん。

キヨ媪：うん。

(hundori huncikap を歌っている)

千葉：これ、誰？

キヨ媪：カヨさんだ。

千葉：これは。

キヨ媪：これ、カヨさんだべさ。

千葉：じゃあ、さっきのがシタガワラキサさん？

キヨ媪：うん。

千葉：これ、

キヨ媪：これ、シタガワラだ。これで本当だからね。歌い、踊りね、合わせるの。やっぱり、違うでしょう。シタカワラと。

千葉：うん。カヨさんのほうが合っているの。

キヨ媪：ああ。

千葉：あれ？

【01:17:28 録音テープの再生終了】

千葉：シタカワラさんっていうのは、

キヨ媪：あれ、あの、ほれ、コトリノおっ母^{かあ}の、

千葉：うん。

キヨ媪：母親だ、これ。

千葉：ふーん。いや、やっぱり、ウポポは上手だったんでしょう。

キヨ媪：うん。

千葉：シタカワラさんのほうが、年、ずいぶん上、

キヨ媪：上、上。

千葉：うん。

キヨ媪：カヨさんより上。

千葉：ふーん。したら、キサさんのほうが昔の歌い方ってということないの？

キヨ媼：うん、やっぱり、それぞれで違うもんね。うん、同じ、年寄りでもさ、なんぼ年をとっても、やっぱり、その人の、あの、あれでもって、声のね、出し方で違うもの。だから、これ、あの、カヨさんが、あの、あの、フンドリの歌あるでしょう。こう、あの、クリコシ、クリコシ（くり返しひっくり返し、とも聞こえる）って言ってね。

千葉：うん。

キヨ媼：あれ、本当なのさね。それに合わせて、お、踊るんだから。

千葉：うん。

【01:18:30～ 録音テープの再生開始】

（フンドリ、最初はカヨさんか）

（最初、後唱、そしてまた最初の人に戻ったところで次の発言）

キヨ媼：違うでしょう、ほらね。声が、あの、節が違うでしょ。やっぱり、切ってるでしょ、♪アアアアホオオオーって、切ってるね。

【01:19:10 録音テープの再生終了】

千葉：どこ、どこ、切るって言って。

キヨ媼：声の出方の、ち、切ってやってるでしょう。

千葉：うん。

キヨ媼：ばばの声と、2人、なかで全然違うでしょう、節回しが、そこで。

千葉：うん、うんうん、うん。カヨさんのほうがはっきりしてる。

【01:19:24～】（録音テープの再生開始）

（後唱者の歌になったところで発言）

キヨ媼：これね、【01:19:37】♪アーホーっていくべき、【01:19:39】♪アアアアホオオアアアアっていかないべき。

（更科の声で「はいどうもありがとうございました」）

キヨ媼：全然違うでしょう？ 節回しが。

【01:19:50】 録音テープの再生終了

キヨ媼：フッタレチョイ。

【1:20:00】

千葉：オトサクさんがちょっとだけ、サルルンカムイ歌ってる。

【01:20:03～ 録音テープの再生開始】

（フンドリ、後唱者の歌に対して）

キヨ媼：ほらね、このばばの声と。

（後に、音作さんがひとりでフンドリの終わり部分から、続けて sarorun kamuy を歌い出す）

千葉：これオトサクさん、だよな。

【01:21:12 録音テープの再生終了】

キヨ媼：え？ そうだ。

千葉：これ、オトサ、オトサクさんでしょ？ これ。

キヨ媼：そうだ。それに、わし習ったんだもん。これ。

千葉：うん。

キヨ媼：これ、本当だって。

千葉：うん。これ、酔っ払ってるわけじゃないんだろうね？

キヨ媼：酔っ払ってるんだ、これ、声がさだ□□おち [ついてない] (のように聞こえるが不明瞭)

千葉：ねえ、酔っ払ってる感じだよ。

キヨ媼：うんだ、うんだ。

千葉：ふーん。

キヨ媼：声がいい、立つ人なんだけど、

千葉：うん。

キヨ媼：酔っ払ってるから、おかしくなってるんだ、これ。うん。あの人に、あの人に、わし習ったんだからね。フンドリっていうことないんだって。

千葉：うん。

キヨ媼：サルルンカムイって行くの本当だって。

千葉：うん。

キヨ媼：だけど、みんな面倒くさい、面倒くさいって、フンドリ、フンドリっていつてるでしょう。

千葉：そうか。うん。だから。サルルンカムイで見つけたの、これぐらいだね。

キヨ媼：ええ。

千葉：うん。オトサクさんが歌っているのね。

キヨ媼：そうだ。

千葉：ちゃんと歌ってんのはないから。

キヨ媼：私、ここに、みんな、サルルンカムイで歌っているよ。

千葉：うん。

キヨ媼：踊らせるもの、

千葉：うん。

キヨ媼：なにかあったら、ここにね。

千葉：うん。

キヨ媼：阿寒湖じゃあ、そんなこと、でき、あの人ら、商売でやっているから、こうだ、ああだって言えないから黙ってるけど、こっちだったら、みんな、サルルンカムイっていくんだ、わし。

千葉：うん。

キヨ媼：それで踊ってもらうんだ。

千葉：うん。

キヨ媼：フンドリっていかないもの。こんなのあれば懐かしいね。

千葉：うん。

キヨ媼：ねえ、死んだ人の声もね。おらも死んだら、あのぼつこの声だって言ってくれる人もいるんだろ、ね。

千葉：うん、いるよ、たくさんね。

キヨ媼：あのばあさんが死んだ、まあ、死ぬ前に〔こえらんたことらって〕。(不明、こえ、のぶぶんは、こういうの、か?)

千葉：ふーん。パスクルオツカイポイーネとかって、そういうの聞いたことある?

キヨ媼：パスクルオツカイポ?

千葉：うん。

キヨ媼：知らない、そんなのわし知らん。

千葉：♪オワセワイーサム、とかいう

キヨ媼：イーサム?

千葉：うん。

キヨ媼：パスクルイーサムってか、

千葉：うん。

キヨ媼：【1:22:57】パスクルイーサム、パスクルオカイタベタ、パスクルイーサム ったら、カラスいないって意味だべさ。パスクルオカイ たらいるって意味だべさ。

千葉：うん。

キヨ媼：それが、そのウポポにあるの?

千葉：うん。ウポポつつうのかね、これ。

キヨ媼：え?

千葉：ウポポつつうのか、なんだか。

キヨ媼：そう、そうやってんの?

千葉：うん。

キヨ媼：待ちなさい、私も、お手洗い行ってくる。

千葉：うんうん。

キヨ媼：あんまり iku やるからね。

千葉：そうだね。

キヨ媼：□□だね。

千葉：うん。

キヨ媼：その、オトサクさんがとかさ。

千葉：オトサクさんの酔っ払っていない声が聞きたいもんだね。

キヨ媼：はい?

千葉：酔っ払っていない声聞きたいもんだ。

キヨ媼：うん。

千葉：これ、なんか聞いているとね、ずっと酔っ払っているみたいなんだよね。

キヨ媼：うんだ。

千葉：で、カヨさん、

キヨ媼：あの人、酔っ払わらなかつたら言い〔なせだ〕。あの人も早死にしたもね。

千葉：うん。オトサクさんっていうのは、カヨさんの弟？

キヨ媼：弟。だから、声も良かったね、みんな。

千葉：うん。

キヨ媼：^{かんぬし}神主だったから、この人の父親、神主だったから。

千葉：ふーん。

キヨ媼：阿寒一の神主だったからね。

千葉：何ていう人？

キヨ媼：あの、オトキチ、あ、あの、アキベ、ん、んだ、アキベオトキチだな。

千葉：うん。なんで、シタカラになったの？

キヨ媼：え？

千葉：なんでシタカラになったの？

キヨ媼：なんでシタカラったら、シタカラってとこ、嫁、あの、もらわれたんだと。

千葉：ふーん。

キヨ媼：この人。だから、シタカラオトサクになった。

千葉：あ、養子になったんだ。

キヨ媼：うん。昔なんか、そんなんだったからね、あっちゃこっちゃなってる。

【1:25:00】

千葉：そうか。

【1:25:14】（録音テープの再生開始）

（音作さん、paskur okkaypo ine）

キヨ媼：よく、誰うつしたんだろう、これね、とったんだろうね。

（しばらくテープを聞く）

キヨ媼：（笑）大勢なんか、なんか、な、集まったときなんだね、これね。

【1:26:58 録音テープの再生終了】

千葉：うん。あ、さらし、^{さらしなげんぞう}更科源蔵さんは知ってる？

キヨ媼：知ってるよ。

千葉：これ、更科さんの声でしょう？

キヨ媼：ああ、そうかしらない。知らんわ、知ってるだって、話したこともないもの。

千葉：ああ、ああ、ああ、ああ。

キヨ媼：うん。昔の人と、わしら、つき合いしたこともない。

千葉：ふーん。

キヨ媼：更科先生、とったんだべか、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：それ、よく、よく持っていたね、これね。

千葉：うん。ちょっとね、借りてきたの。

キヨ媼：ふーん。

千葉：うん。

キヨ媼：あの人、アイヌの研究、よくしたからね。

千葉：うん。NHK でとったんだと思うよ。

キヨ媼：ん？

千葉：NHK でとったんだと思うよ。

キヨ媼：うん、そうなんだよね。阿寒湖にとったんだべや、これ。

千葉：うん。

キヨ媼：なんか、お祭りかなんかのときにか、なんか集まったときのやったんでないのかい？

千葉：うん。

キヨ媼：きっと。その、ウポポ、入っている人の、ツルの舞のウポポだとか、

千葉：うん。【1:28:07】 トーロロカッコっての、聞いたある、

キヨ媼：トーロロ、ホーロロカッコだべさ。ホロロだトロロだか。

千葉：トーロロじゃない、ホーロロか。

キヨ媼：♪ホーロロカッコーオオホーダー、なんだか、私、分からないよ、このウポポ。うん。

千葉：鳥の声なんだろうね、これ。

キヨ媼：ん？ホーロロカッコーとか、オロロカッコとか、やっぱり、なにかかかかか、じ、つけて、歌ったもん、ウポポやったもんだべさ。

千葉：うん。うーん。

キヨ媼：はい。あと、じ、まだまだあるの？

千葉：いや、うーん。

キヨ媼：あ、おしま、おわ、終わりました？

千葉：うん。

キヨ媼：ご苦労さま。

千葉：また、また、この次に。

キヨ媼：まだあるか、いっぱい。今度、ゆっくり、また。

千葉：ヤイサマネナっていうのは、あれでしょ？ たくさんあるわけでないでしょう。前、歌ってくれた、

キヨ媼：ヤイサマっていうものはねえ、もう、つくりごとでさ、余興だから、

千葉：うん。

キヨ媼：なんでもね、この、自分の苦労したときでも、喜んだときの、

千葉：うん。

キヨ媼：やじを、今度入れるわけさ。

千葉：うん。

キヨ媼：ほん、ま、じ、あの、私が喜んでいるとか、まあ、飲んだとか食ったとか、それから苦労したとかって。それ、みんな、アイヌ語入れてやったもんだべさ、ヤイサマに、自分の、ヤイサマって、わ、自分のことだね、自分でやったもんでしょ。私、よく分からんけど。

【1:30:00】

千葉：うん。そっか。まあ、ありがとうございました。うん。

キヨ媪：どうもご苦労さまでした。

千葉：今日はこれぐらいにしましょう。(終了)

【1:30:13】

以上 Kiyo951118 日川キヨ媪宅にて収録

12 : 1995年11月18日-2 (ファイル名 : Kiyo951118-2(2min)) 2' 06"

【0:00:00】(録音テープの再生/過去のキヨ媪の歌、千葉による録音)

♪a howa howa ho sore, saranpeni ni niskoturi a saranpenisi ha howa howa ho ~ (以下、歌詞略)
~

【0:00:25】(録音テープの再生終了)

キヨ媪: これ、やったのか、前に、

千葉: ん?

キヨ媪: 前にやったやつか? □□。

千葉: そうそうそう。前にやったやつ。

キヨ媪: □□これ。

千葉: ねえ、これ、【0:00:32】 ♪ウーターローブンバーレワ っていうときに、♪ウタア ロブン バア
レワアア ってやるでしょう?

キヨ媪: うん。

千葉: ♪リムセエ レヤン、あれ、節の高さってのは、

キヨ媪: 高さも [なとこ] もないべや。

千葉: な、

キヨ媪: その、あの、

千葉: そんなとき、そんなときで、

キヨ媪: そのとき、そのときで、声、だ、出せばいいんだ、それなりにな。

千葉: ほら、今の人だったら、【0:00:32】 ♪ウーターロブンバーレワ って、こう、高さ、高さ、□
□□□、

キヨ媪: うんだ、極端にこういくけどね。

千葉: うん。

キヨ媪: [わらわ] 【0:00:59】 ♪ウター レブン バーレ ワア リムセー レヤン (節は若干ついて
いるがほぼ単一の音高を中心にした歌いかたで) って、こういくんだ。だけど、極端にいけば、そう
やっていくの。

千葉: うん。

キヨ媪: て、いう話だ。

千葉: うん。

キヨ媪: 話だな。□□□てきたな。

千葉: んー。難しいね、そのへんね。

キヨ媪: はい?

千葉: 難しい。

キヨ媪: はい、つきまして、ありがとうございました。あ、今度、[キョウトへ] □□□□□□のと
ってね。

千葉：うん。

キヨ媼：とって送ってちょうだい。

千葉：うん、送る、送る。

キヨ媼：ね。今年のうち、来年でもいい。

千葉：うん。

キヨ媼：おれ、死なないうちに。死んだら、聞く、聞けないから。

千葉：うん。

キヨ媼：死んでも、や、やっぱり、聞くとええんでないか。

千葉：うん。

キヨ媼：魂、聞けるで。下手だなあ。もう少し、あの、〔達者でしか出たくない〕、てな。困ったものだ。ごめんなさい、これ、□□ですか。

千葉：うん。

キヨ媼：寒くないかい。□□か。(終了)

【0:02:06】

以上 Kiy951118-2 日川キヨ媼宅にて収録

謝辞

本稿の公開を快く受諾して下さったうえ、媼に対する細かな疑問点についてご教示くださった、日川清、日川靖子、日川キク子、平澤隆二、各氏に深く感謝します。安田千夏氏にはアイヌ語に関して貴重なコメントをいただきました。安田益穂氏には書式に関するアドバイスをいただきました。記して感謝いたします。

2018年3月 千葉伸彦

日川キヨ^{イサ}媼の音楽伝承
(歌とムックリと心と)

発行・印刷・著 千葉伸彦

2018年10月27日

本資料は公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2017年度 研究助成を受けて作成した。

日川キヨ^{マチ}媼の音楽伝承
(歌とムックリと心と)

語り・実演：日川キヨ

聞き手：千葉伸彦

著者 千葉伸彦

印刷 2018年10月27日